令和７年度

# 業務年報

Annual Report 2025

Fukushima Agricultural Technology Centre

福島県農業総合センター

# 目　次


## Ⅰ　農業総合センターの概要

1　機能と沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ　1
2　所在地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ　3
3　組織及び事務の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅰ　4

## Ⅱ　技術開発・企画調整

1　試験研究課題一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　1
2　共同研究、受託研究、研究協定一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　8
3　試験研究の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　9
　A　東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化による農林水産業の再生を支援するための試験研究の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　9
　B　農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　19
　C　県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　23
　D　地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　32
　E　安全・安心な県産農林水産物の安全供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　39
4　試験設計・試験成績検討会の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　47
5　試験研究成果の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　47
6　品種登録・職務発明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　53
7　技術開発に伴う表彰・学位取得・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　54
8　有識者懇談会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　54
9　技術・研究に関する職員研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　54
10　試験研究推進会議の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　56
11　所内ゼミ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　56
12　初任者研修・新規採用職員研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　57
13　その他研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅱ　57

## Ⅲ　地域農業支援

1　技術移転・技術支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　1
　（1）技術移転セミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　1
　（2）成果発表会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　3
　（3）技術支援(鳥獣害防止対策)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　3
2　指導・啓発活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　4
　（1）研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　4
　（2）技術指導資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　12
　（3）技術相談対応件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　13
3　主要農作物種子生産実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ⅲ　13

４　オリジナル品種（園芸作物等）種苗生産実績・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　15
５　オリジナル品種の親株等の供給実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　15
６　家畜管理及び生産実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　16
（１）畜産研究所本所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　16
ア　家畜繋養実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　16
イ　各家畜繋養状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　17
ウ　各種生産実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　18
（２）沼尻分場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅲ　21

**Ⅳ　先進的農業者育成・支援**

１　農業短期大学校の業務実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　1
（１）概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　1
（２）農業経営部の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　1
ア　学生の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　1
イ　専修教育の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　2
ウ　進路指導の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　4
エ　学生募集の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　5
オ　学生数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　5
カ　教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　6
キ　非常勤講師一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　11
ク　教育行事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　11
ケ　各種表彰者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　12
コ　卒業生の進路状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　13
（３）研修部の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　13
ア　研修実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　13
イ　研修実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅳ　13
２　福島県農業総合センター農業短期大学校運営会議の開催・・・・・・・・・・・　Ⅳ　17

**Ⅴ　食の安全・環境と共生する農業支援**

１　安全農業推進部の業務実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　1
（１）指導・有機認証課の業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　1
ア　農薬に関する業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　1
イ　農作物の野生鳥獣被害とりまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　2
ウ　肥料に関する業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　2
エ　飼料に関する業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　3
オ　有機認証に関する業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　4
（２）発生予察課の業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　5
ア　病害虫発生予察事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　5
イ　病害虫診断同定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　5
ウ　侵入調査事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　5
エ　ベトナム向け輸出なし検疫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　7
オ　主要病害虫の発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ⅴ　7

（3）分析課の業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 13
ア　農林水産物を対象とした緊急時環境放射線モニタリングの実施・・・・ Ⅴ 13
イ　その他検査の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 14
ウ　放射性物質測定技能試験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 14
2　有機農業推進室の業務実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 15
（1）有機農業技術実証の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 15
（2）有機農業者組織への活動支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 16
（3）栽培技術研修会等の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 16
（4）有機農業相談会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 17
（5）理解促進・販路拡大に向けた取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 17
（6）広報誌「オーガニック通信」の発行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 17
（7）農業総合センター農業短期大学校での有機農業の講義・研修の実施・・・・ Ⅴ 17
（8）有機農業推進担当者等連携会議の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ 18

**Ⅵ　県民との交流・情報発信**

1　交流事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
（1）第18回農業総合センターまつり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
（2）農的楽しみセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
（3）子どもアグリ科学教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
（4）イモ掘り体験学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
（5）第16回田んぼの学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
（6）農業総合センター農業短期大学校の取組・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 1
2　視察見学者の受入状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 3
3　施設の利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 4
4　研究成果の発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 5
（1）学会等研究発表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 5
（2）シンポジウム等講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 9
（3）学会誌等投稿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 10
（4）雑誌等投稿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 12
5　刊行物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 13
6　主要作物の生育情報の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 14
7　インターネットによる情報提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 14
8　マスメディアによる報道・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 14
9　福島県インターンシップの受入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ 20

**Ⅶ　職員・財産**

1　職員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅶ 1
2　施設・ほ場の面積及び飼養家畜数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅶ 1

**Ⅷ　資料**

1　開発品種一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅷ 1

# Ⅰ　農業総合センターの概要

## 1　機能と沿革

（１）機能

福島県農業総合センターは、農業関係の試験研究機関、病害虫防除所、肥飼料検査所及び農業短期大学校を再編統合し、5つの機能(ア 技術開発・企画調整機能、イ 地域農業支援機能、ウ 先進的農業者育成・支援機能、エ 食の安全・環境と共生する農業支援機能、オ 県民との交流・情報発信機能)を兼ね備えた本県農業振興の新たな拠点として平成18年4月郡山市日和田町に開所した。

ア　技術開発・企画調整機能

共通研究部門(経営・作業技術・生物工学・生産環境)、専門研究部門(水田畑作・園芸・果樹・畜産)、地域研究部門(会津・浜)が緊密に連携し、統合集中化のメリットを最大限に発揮することにより、実用性の高い技術の迅速かつ効率的な開発に取り組む。

イ　地域農業支援機能

地域農業を支援するため、既存の技術のみでは解決が困難な地域の課題に対し、現地の普及指導員、農業者、農業団体及び市町村等と共同して解決に当たる。

ウ　先進的農業者育成・支援機能

先進的な技術や最新の知見を営農条件に合った形に組み立て、実用的な新技術として生産現場に適応させることにより、複雑化・高度化する生産現場の課題解決の迅速化を図る。

農業教育面では、農業短期大学校と研究部門が一体的に地域を先導する農業後継者の育成に当たる。

エ　食の安全・環境と共生する農業支援機能

農業の振興には、環境に配慮し、消費者のニーズを重視して農産物を生産していくことが重要であるため、農業生産面からの環境保全や農薬等生産資材の適正使用の推進、農産物の安全性の確保に積極的に取り組む。また、県内における有機農業の普及拡大を強力に支援する。

オ　県民との交流・情報発信機能

センター整備の基本理念の一つである「開かれた試験研究機関」を具現化し、県民の様々な期待に応えられる交流・学習拠点としての役割を果たすため、県民の憩いの場、子供たちの農業体験や食農教育、高齢者の生涯学習等の機会を提供する。

（２）　沿革

| 年　度 | | 事　　項 |
|---|---|---|
| 和暦 | 西暦 | |
| 明治29年 | 1896年 | 安積郡小原田村(現 郡山市小原田)に農事試験場(後の農業試験場)を設置 |
| 34年 | 1901年 | 福島町(現 福島市)に肥料検査室(後の肥飼料検査所)を設置 |
| 35年 | 1902年 | 安達郡高川村(現 郡山市熱海町)に種馬飼育場(後の畜産試験場)を設置 |
| 43年 | 1910年 | 郡山町虎丸町(現 郡山市虎丸)に移転 |
| 大正 3年 | 1914年 | 伊達郡梁川町(現伊達市)に原蚕種製造所(後の蚕業試験場)を設置 |
| 7年 | 1918年 | 河沼郡若宮村(現 河沼郡会津坂下町)に農事試験場特別試験地(後の農業試験場会津支場) を設置 |
| 12年 | 1923年 | 石城郡神谷村(現いわき市)に石城分場(後の農業試験場いわき支場) を設置 |
| 14年 | 1925年 | 田村郡片曽根村(現田村市)にたばこ試験場を設置 |
| 昭和10年 | 1935年 | 信夫郡平野村(現 福島市飯坂町)に農事試験場信達分場(後の果樹試験場)を設置<br>西白河郡矢吹町に県立修練農場(後の農業短期大学校)を設置<br>※改称、統廃合により昭和63年(1988年)現在名称<br>相馬郡八幡村(現 相馬市成田)に農事試験場相馬水稲試験地(後の農業試験場相馬支場)を設置<br>耶麻郡猪苗代町(現 猪苗代町)に猪苗代試験地(後の農業試験場冷害試験地)を設置 |
| 11年 | 1936年 | 郡山市に種鶏場(後の養鶏試験場)を設置<br>※昭和40年(1965年) 改称、郡山市富田町に移転 |
| 17年 | 1942年 | 種馬飼育場を信夫郡荒井村（現 福島市）に移転（後の畜産試験場） |
| 23年 | 1948年 | 安積郡富田村(現 郡山市富田町)に農事試験場を移転※昭和36年(1961年) 改称 |
| 27年 | 1952年 | 県内16か所に病害虫防除所を設置 |
| 33年 | 1958年 | 県特用作物原種農場をこんにゃく試験地として改称移管 |
| 42年 | 1967年 | 県農業短期大学校を設立 |

| 年　　度 | | 事　　項 |
|---|---|---|
| 和暦 | 西暦 | |
| 49 年 | 1974 年 | 会津農業センターの設立 |
| 54 年 | 1979 年 | 会津支場を会津農業センター庁舎に移転<br>農業経営大学校を設置 |
| 55 年 | 1980 年 | 園芸試験場を果樹試験場に改組 |
| 63 年 | 1988 年 | 農業短期大学校、農業経営大学校及び会津農業センター(長期研修課程)を統合し、県立農業短期大学校を開校(矢吹町) |
| 平成 8 年 | 1996 年 | 農業試験場創設 100 周年 |
| 14 年 | 2002 年 | 梁川支場を開場し、蚕業試験場を廃止 |
| 18 年 | 2006 年 | 農業総合センター発足<br>試験研究機関（農業試験場（本場・4 支場･2 試験地）、果樹試験場、たばこ試験場、畜産試験場（本場・1 支場）、養鶏試験場）、農業短期大学校、病害虫防除所、肥飼料検査所を再編統合<br>梁川支場を廃止 |
| 23 年 | 2011 年 | センター本部安全農業推進部に分析課を設置 |
| 25 年 | 2013 年 | 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター福島研究拠点内(福島市)に福島市駐在を設置 |
| 27 年 | 2015 年 | 福島市駐在を廃止し、南相馬市に浜地域農業再生研究センターを設置<br>畜産研究所養鶏分場(郡山市)を廃止 |
| 28 年 | 2016 年 | 畜産研究所(福島市)に養鶏科を設置 |
| 29 年 | 2017 年 | 農業短期大学校を農業経営部 5 学科に再編し、研究科を廃止 |
| 令和 6 年 | 2024 年 | 農業短期大学校に学生寮、一般宿泊棟、屋外作業準備棟及びアグリ探求棟を新設。 |
| 7 年 | 2025 年 | 農業短期大学校の食堂を改修、スマート農業トレーニングフィールドを新設。 |

## ２　所在地

（１）福島県農業総合センター　本部
〒963-0531　郡山市日和田町高倉字下中道116 番地
TEL 024-958-1700　　FAX 024-958-1726

（２）果樹研究所
〒960-0231　福島市飯坂町平野字檀の東 1 番地
TEL 024-542-4191　　FAX 024-542-4749

（３）畜産研究所
〒960-2156　福島市荒井字地蔵原甲 18 番地
TEL 024-593-1096　　FAX 024-593-4977

（４）畜産研究所 沼尻分場
〒969-2752　耶麻郡猪苗代町大字蚕養字日影山乙 3696 番地
TEL 0242-64-3321　　FAX 0242-64-2844

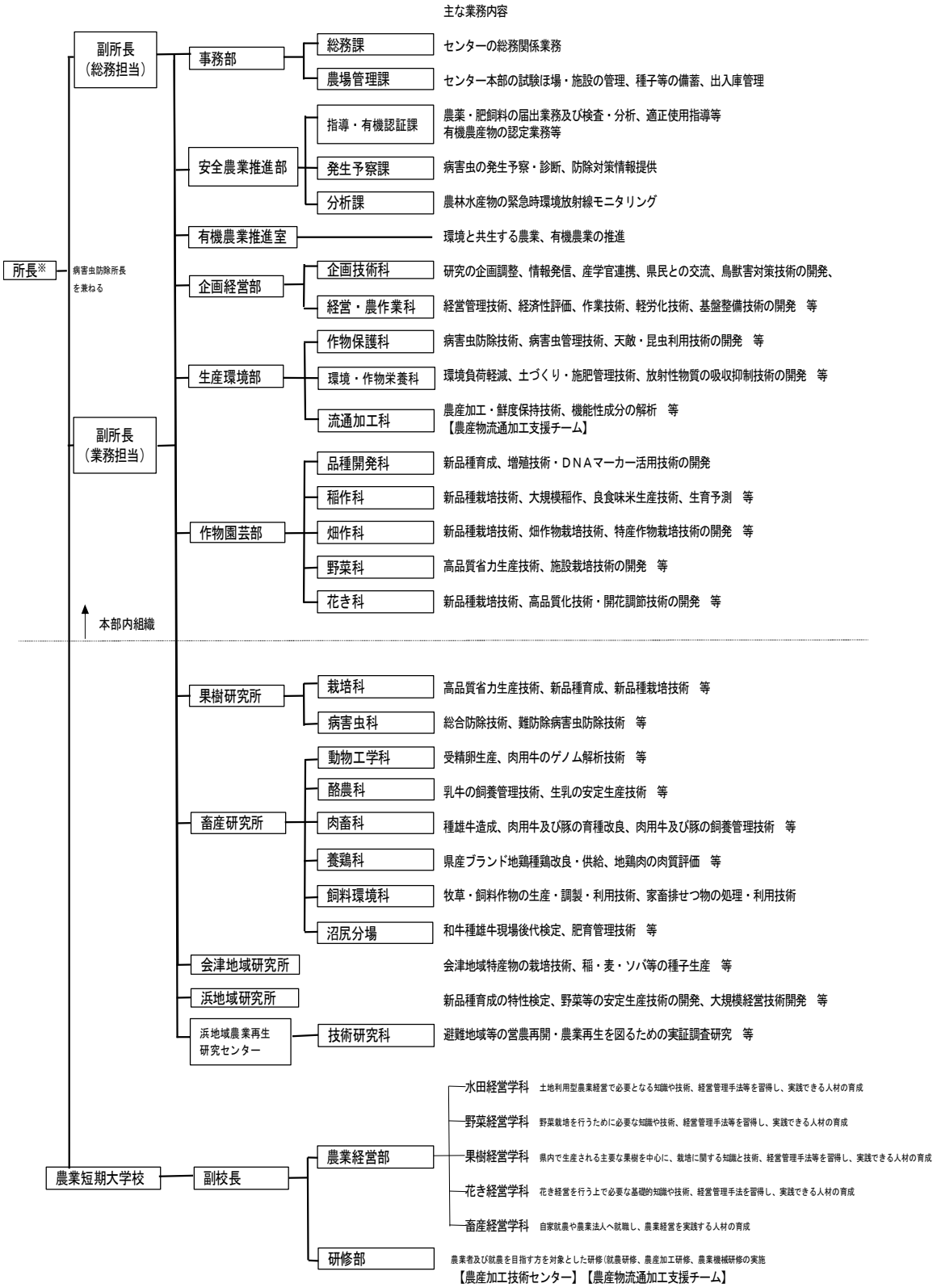
（５）会津地域研究所
〒969-6506　河沼郡会津坂下町大字見明字南原 881 番地
TEL 0242-82-4411　　FAX 0242-82-4416

（６）浜地域研究所
〒979-2542　相馬市成田字五郎右ェ門橋 100 番地
TEL 0244-35-2633　　FAX 0244-35-0319

（７）浜地域農業再生研究センター
〒975-0036　南相馬市原町区萱浜字巣掛場45 番 169
TEL 0244-26-9562　　FAX 0244-26-9563

（８）農業短期大学校
〒969-0292　西白河郡矢吹町一本木446 番地 1
TEL 0248-42-4111　　FAX 0248-44-4553

## 3　組織及び事務の概要


主な業務内容
所長※
病害虫防除所長を兼ねる
副所長（総務担当）
事務部
総務課
センターの総務関係業務
農場管理課
センター本部の試験ほ場・施設の管理、種子等の備蓄、出入庫管理
安全農業推進部
指導・有機認証課
農薬・肥飼料の届出業務及び検査・分析、適正使用指導等
有機農産物の認定業務等
発生予察課
病害虫の発生予察・診断、防除対策情報提供
分析課
農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング
有機農業推進室
環境と共生する農業、有機農業の推進
企画経営部
企画技術科
研究の企画調整、情報発信、産学官連携、県民との交流、鳥獣害対策技術の開発、
経営・農作業科
経営管理技術、経済性評価、作業技術、軽労化技術、基盤整備技術の開発　等
副所長（業務担当）
生産環境部
作物保護科
病害虫防除技術、病害虫管理技術、天敵・昆虫利用技術の開発　等
環境・作物栄養科
環境負荷軽減、土づくり・施肥管理技術、放射性物質の吸収抑制技術の開発　等
流通加工科
農産加工・鮮度保持技術、機能性成分の解析　等
【農産物流通加工支援チーム】
作物園芸部
品種開発科
新品種育成、増殖技術・ＤＮＡマーカー活用技術の開発
稲作科
新品種栽培技術、大規模稲作、良食味米生産技術、生育予測　等
畑作科
新品種栽培技術、畑作物栽培技術、特産作物栽培技術の開発　等
野菜科
高品質省力生産技術、施設栽培技術の開発　等
花き科
新品種栽培技術、高品質化技術・開花調節技術の開発　等
本部内組織
果樹研究所
栽培科
高品質省力生産技術、新品種育成、新品種栽培技術　等
病害虫科
総合防除技術、難防除病害虫防除技術　等
畜産研究所
動物工学科
受精卵生産、肉用牛のゲノム解析技術　等
酪農科
乳牛の飼養管理技術、生乳の安定生産技術　等
肉畜科
種雄牛造成、肉用牛及び豚の育種改良、肉用牛及び豚の飼養管理技術　等
養鶏科
県産ブランド地鶏種鶏改良・供給、地鶏肉の肉質評価　等
飼料環境科
牧草・飼料作物の生産・調製・利用技術、家畜排せつ物の処理・利用技術
沼尻分場
和牛種雄牛現場後代検定、肥育管理技術　等
会津地域研究所
会津地域特産物の栽培技術、稲・麦・ソバ等の種子生産　等
浜地域研究所
新品種育成の特性検定、野菜等の安定生産技術の開発、大規模経営技術開発　等
浜地域農業再生研究センター
技術研究科
避難地域等の営農再開・農業再生を図るための実証調査研究　等
農業短期大学校
副校長
農業経営部
水田経営学科
土地利用型農業経営で必要となる知識や技術、経営管理手法等を習得し、実践できる人材の育成
野菜経営学科
野菜栽培を行うために必要な知識や技術、経営管理手法等を習得し、実践できる人材の育成
果樹経営学科
県内で生産される主要な果樹を中心に、栽培に関する知識と技術、経営管理手法等を習得し、実践できる人材の育成
花き経営学科
花き経営を行う上で必要な基礎的知識や技術、経営管理手法を習得し、実践できる人材の育成
畜産経営学科
自家就農や農業法人へ就職し、農業経営を実践する人材の育成
研修部
農業者及び就農を目指す方を対象とした研修(就農研修、農産加工研修、農業機械研修の実施
【農産加工技術センター】【農産物流通加工支援チーム】

# Ⅱ　技術開発・企画調整

## 1　試験研究課題一覧

大課題 9、中課題 37、小課題 137 に取り組んだ。

| 課題番号 | 試験課題　（大課題・中課題・小課題） | 始期 | 終期 | 担当部所 | 予算区分 |
|---|---|---|---|---|---|
| A　東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化による農林水産業の再生を支援するための試験研究の推進 | | | | | |
| A1 | 農業における総合的な放射性物質対策の研究開発 | | | | |
| A1-1 | 放射性物質の分布状況の把握 | | | | |
| A1-1-1 | 土壌の経年調査 | 2021 | 2025 | 生産環境部<br>果樹研究所<br>畜産研究所<br>浜地域農業再生研究センター | 外部資金※1 |
| A1-1-2 | 農地における放射性セシウム濃度深度分布の把握 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 繰入金 |
| A1-1-3 | 郡山市における大気浮遊塵及び降下物中の放射性セシウム濃度調査 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 繰入金 |
| A1-1-4 | 果樹における放射性物質濃度の経年変化の把握 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 繰入金 |
| A1-2 | 放射性物質の吸収抑制技術等の確立 | | | | |
| A1-2-2 | 基準値超過等要因解析 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 繰入金 |
| A1-2-3 | 県内農地土壌の交換性塩基含量の実態解明 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 繰入金 |
| A1-2-8 | 水稲の生産性と安全性の評価ならびに放射性物質移行抑制の実証 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 繰入金 |
| A1-2-9 | 畑作物の放射性セシウム吸収に対する土壌の影響解明 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 繰入金 |
| A1-2-10 | カキ・ユズにおける放射性物質の吸収抑制技術等の確立 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 繰入金 |
| A1-2-11 | 避難指示区域等における農作物中放射性セシウム吸収抑制技術の開発 | 2021 | 2025 | 浜地域農業再生研究センター | 繰入金 |
| A1-2-12 | 放射性セシウム濃度低減のための野菜栽培と調理加工 | 2021 | 2025 | 浜地域農業再生研究センター | 繰入金 |
| A1-2-13 | 再浮遊物質を含む大気中の放射性セシウムの動態と農地・農作物への影響の解明 | 2021 | 2025 | 浜地域農業再生研究センター | 外部資金※1 |
| A1-3 | 特定復興再生拠点区域等の円滑な営農再開に向けた技術実証 | | | | |
| A1-3-1 | 計測ロボットを活用した放射性物質等分布実態の把握 | 2021 | 2025 | 浜地域農業再生研究センター | 外部資金※2 |
| A1-3-2 | 営農再開を阻害する加害動物の行動特性や動物種把握による獣害防止策の提案 | 2021 | 2025 | 浜地域農業再生研究センター | 外部資金※2 |
| A1-3-3 | 通い農業支援システム等を活用した栽培状況の可視化と評価 | 2021 | 2025 | 浜地域農業再生研究センター | 外部資金※2 |
| A1-3-4 | 緑肥作物等の利用による地力回復技術の開発と蜜源利用 | 2021 | 2025 | 浜地域農業再生研究センター | 外部資金※2 |
| A1-3-5 | 効率的雑草管理技術の開発と実証 | 2021 | 2025 | 浜地域農業再生研究センター | 外部資金※2 |
| A1-3-6 | 特定復興再生拠点等における農作物栽培の生産性と安全性の評価 | 2021 | 2025 | 浜地域農業再生研究センター | 外部資金※2 |
| A1-3-7 | 放射性物質移行抑制技術の実証・開発と畑作物の安全性の評価 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 外部資金※2 |
| A1-3-8 | 草地における放射性セシウム吸収抑制技術の開発・実証と未除染牧草地利用可否基準の策定 | 2021 | 2025 | 畜産研究所<br>浜地域農業再生研究センター | 外部資金※2 |
| A1-3-10 | 生産現場における最適な放射性セシウム移行リスクの評価手法および圃場特性に合わせた移行低減技術の提案 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 外部資金※2 |
| A2 | 避難地域等の営農再開を支える技術の実証 | | | | |

| 課題番号 | 試験課題　（大課題・中課題・小課題） | 始期 | 終期 | 担当部所 | 予算区分 |
|---|---|---|---|---|---|
| A2-1 | 避難地域の営農再開を支援する研究 | | | | |
| A2-1-1 | 避難地域等における営農再開のための支援研究 | 2021 | 2025 | 浜地域農業再生研究センター | 繰入金 |
| A2-2 | 広域エリアを対象とした大規模水田営農における生産基盤技術の確立 | | | | |
| A2-2-1 | 広域エリアにおける水田輪作栽培管理技術の開発・実証 | 2021 | 2025 | 作物園芸部<br>浜地域研究所 | 外部資金※2 |
| A2-2-2 | 営農再開に対応した大規模水田輪作体系の実証 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 外部資金※2 |
| A2-2-3 | 広域エリアにおける ICT を用いた省力的圃場管理技術 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 外部資金※2 |
| A2-2-4 | 飼料用トウモロコシの安定多収、加工・調製技術の開発と実証 | 2021 | 2025 | 畜産研究所 | 外部資金※2 |
| A2-2-5 | 経営管理システムを活用した経営データ分析・活用手法 | 2021 | 2025 | 企画経営部 | 外部資金※2 |
| A2-3 | 先端技術を活用した施設野菜・畑作物の省力高収益栽培・出荷技術の確立 | | | | |
| A2-3-1 | 施設果菜類の雇用労力とロボットを作業主体とした大規模経営技術の開発・実証 | 2021 | 2025 | 企画経営部<br>作物園芸部<br>浜地域研究所 | 外部資金※2 |
| A2-3-3 | 露地野菜栽培における難防除雑草優占化機構の解明と難防除雑草対策技術の確立 | 2021 | 2025 | 作物園芸部<br>浜地域農業再生研究センター | 外部資金※2 |
| A2-4 | 避難地域の営農再開を促進する先端プロ技術の社会実装 | | | | |
| A2-4-1 | 花きの計画的安定生産技術の実証 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 外部資金※2 |
| A2-4-2 | 早期成園化が可能な樹形によるナシ、ブドウ、モモの省力・高品質生産技術の実証 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 外部資金※2 |
| A2-4-3 | 肉用牛の AI 超音波肉質診断技術の実証 | 2021 | 2025 | 畜産研究所 | 外部資金※2 |
| A2-5 | 農業復興を実現する先端技術の実証 | | | | |
| A2-5-1 | 輸出対応型果樹生産技術の開発・実証 | 2024 | 2025 | 果樹研究所 | 外部資金※2 |
| A2-5-2 | 赤外センサーを用いた高品質ブドウ栽培のスマート化技術 | 2024 | 2027 | 生産環境部<br>果樹研究所 | 外部資金※2 |
| A2-5-3 | 先端技術を活用した鳥獣被害対策システムの構築・実証 | 2024 | 2029 | 企画経営部<br>浜地域農業再生研究センター | 外部資金※2 |
| A2-5-4 | 化学肥料・化学農業に頼らない耕畜連携に資する技術の開発・実証 | 2024 | 2025 | 有機農業推進室<br>浜地域農業再生研究センター | 外部資金※2 |
| A2-5-6 | 果菜類収穫作業の軽労化につながる協働ロボットの開発及び新たな協調作業体系の構築に関する研究 | 2024 | 2029 | 作物園芸部 | 外部資金※2 |
| B | 農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進 | | | | |
| B1 | 先端技術を活用した新たな農業生産技術の開発 | | | | |
| B1-2 | スマート農業技術を活用した農業生産技術の確立 | | | | |
| B1-2-3 | 花粉採取と受粉作業の省力化を可能にするスマート技術の開発 | 2025 | 2027 | 果樹研究所 | 外部資金※10 |
| B1-2-4 | 中山間地における農地・農業用施設に関するデジタル管理技術の実証 | 2024 | 2025 | 企画経営部 | 繰入金 |
| B1-3 | 先端技術を活用した省力的栽培技術の確立 | | | | |
| B1-3-8 | 大規模酪農経営における飼養管理技術の確立 | 2021 | 2025 | 畜産研究所 | 一般財源 |
| B1-4 | 担い手減少に対応した農業生産技術の確立 | | | | |

| 課題番号 | 試験課題　(大課題・中課題・小課題) | 始期 | 終期 | 担当部所 | 予算区分 |
|---|---|---|---|---|---|
| B1-4-1 | 条件不利地や小区画等におけるスマート農業技術導入上の課題等調査と作業性向上技術の確立 | 2025 | 2027 | 企画経営部 | 一般財源 |
| B1-4-2 | 狭あい・小区画ほ場におけるドローンを用いた高精度は種、防除栽培技術の開発 | 2025 | 2027 | 会津地域研究所 | 一般財源 |
| B1-4-3 | 中山間地における経営(複合経営)シミュレーション | 2025 | 2027 | 企画経営部 | 一般財源 |
| B1-4-4 | 野菜のドローンによるセンシングとドローン防除による省力化・省農薬化 | 2025 | 2027 | 浜地域研究所<br>浜地域農業再生研究センター | 一般財源 |
| B1-4-5 | 施設野菜における省力的な栽培技術の確立 | 2025 | 2027 | 作物園芸部 | 一般財源 |
| B1-4-6 | 鳥類飛来防除の設計(開発)と効果確認 | 2025 | 2025 | 企画経営部 | 一般財源 |
| B1-4-7 | スマート技術を用いた果樹栽培の栽培伝承教材の開発 | 2025 | 2027 | 果樹研究所 | 一般財源 |
| B1-4-8 | 果樹栽培における自動化・軽労化 | 2025 | 2027 | 果樹研究所 | 一般財源 |
| B1-4-9 | 花木生産拡大見通と新たな技術確立に向けた可能性調査 | 2025 | 2027 | 作物園芸部 | 一般財源 |
| B1-4-10 | 畑作物-野菜(畑地利用)における輪作体系及び持続的ほ場管理技術(雑草対策技術含む)の確立 | 2025 | 2027 | 作物園芸部 | 一般財源 |
| B1-4-11 | 野菜-畑作物(畑地利用)における持続的ほ場管理技術(緑肥活用技術含む)及び輪作体系の確立 | 2025 | 2027 | 浜地域研究所<br>浜地域農業再生研究センター | 一般財源 |
| C　県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進 | | | | | |
| C1　市場ニーズに対応したオリジナル品種・系統と生産技術等の開発 | | | | | |
| C1-1　個性豊かな県オリジナル水稲、野菜・花き品種の育成 | | | | | |
| C1-1-1 | 個性豊かな県オリジナル水稲品種の育成 | 2021 | 2025 | 作物園芸部<br>浜地域研究所 | 寄附金※3<br>一般財源 |
| C1-1-2 | 個性豊かな県オリジナル野菜の品種開発 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 国庫<br>寄附金※3<br>一般財源 |
| C1-1-3 | 個性豊かな県オリジナル花き品種の育成 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 国庫<br>一般財源 |
| C1-1-4 | 個性豊かな品種育成のための促進技術開発 | 2021 | 2025 | 作物園芸部<br>会津地域研究所 | 外部資金※10<br>国庫<br>一般財源 |
| C1-1-5 | バイテク活用による優良原種苗の長期保存・増殖技術開発 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 一般財源 |
| C1-2　作物、野菜、花きの有望品種・系統の評価 | | | | | |
| C1-2-1 | 奨励品種決定調査 | 2021 | 2025 | 作物園芸部<br>会津地域研究所<br>浜地域研究所 | 一般財源 |
| C1-3　作物、野菜、花きの有望系統・新品種の栽培技術の確立 | | | | | |
| C1-3-1 | 県産米の高品質化・良食味米生産のための栽培管理技術の確立 | 2021 | 2027 | 作物園芸部<br>会津地域研究所<br>浜地域研究所 | 外部資金※4,※7<br>寄附金※3<br>一般財源 |
| C1-3-2 | 県オリジナル酒造好適米の栽培方法の確立 | 2021 | 2026 | 作物園芸部<br>会津地域研究所<br>浜地域研究所 | 一般財源 |
| C1-3-3 | 野菜の有望系統・新品種の栽培技術の確立 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 国庫 |
| C1-3-4 | 花きの有望系統・新品種の栽培技術の確立 | 2021 | 2025 | 作物園芸部<br>会津地域研究所 | 国庫 |
| C1-4　個性豊かな県オリジナル果樹品種の育成 | | | | | |

| 課題番号 | 試験課題　（大課題・中課題・小課題） | 始期 | 終期 | 担当部所 | 予算区分 |
|---|---|---|---|---|---|
| C1-4-1 | 個性豊かな県オリジナル果樹品種の育成 | 2021 | 2025 | 生産環境部<br>果樹研究所 | 寄附金※3<br>国庫<br>一般財源 |
| C1-5 | 果樹の有望系統の評価および新品種・有望系統の栽培技術の確立 | | | | |
| C1-5-1 | 果樹系統適応性検定試験 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 外部資金※5<br>一般財源 |
| C1-5-2 | 県オリジナル果樹品種の安定生産・流通技術の確立 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 国庫<br>一般財源 |
| C1-6 | 個性豊かな県優良家畜等の改良 | | | | |
| C1-6-1 | 牧草・飼料作物の優良草種・品種の選定 | 2021 | 2028 | 畜産研究所 | 一般財源 |
| C1-6-2 | 「フクシマL2」の開放型育種 | 2021 | 2025 | 畜産研究所 | 一般財源 |
| C1-6-3 | 県ブランド鶏の改良と開発 | 2021 | 2025 | 畜産研究所 | 一般財源 |
| C1-6-5 | ゲノム情報を活用した家畜の育種改良技術の確立 | 2021 | 2025 | 畜産研究所 | 国庫<br>一般財源 |
| C2 | 農産物を「ふくしま」ならではの産品にする技術の開発 | | | | |
| C2-1 | 県産農産物の特性を活かした利用技術の開発 | | | | |
| C2-1-1 | 県産農産物の加工技術の開発 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 一般財源 |
| C2-1-2 | 県産農産物の品質保持技術の開発 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 一般財源<br>国庫 |
| C2-1-3 | 本県農産物の機能性成分の評価と利用技術の開発 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 国庫 |
| C2-2 | 県産農産物の輸出拡大に向けた生産・保鮮技術等の開発 | | | | |
| C2-2-1 | モモせん孔細菌病に対する多目的防災網を活用した防除効果の検証 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 国庫 |
| C2-2-3 | シュッコンカスミソウの輸出に向けた鮮度保持技術の開発 | 2021 | 2025 | 会津地域研究所 | 繰入金 |
| C2-2-4 | ナシ黒星病に対する秋期及び果実肥大後期の新防除体系の検証 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 国庫 |
| C2-2-6 | 花き類の保鮮流通技術の開発 | 2023 | 2025 | 作物園芸部 | 繰入金 |
| C2-3 | 「福島牛」ブランド競争力強化技術の確立 | | | | |
| C2-3-1 | 「福島牛」の高付加価値生産システムの確立 | 2021 | 2025 | 畜産研究所 | 国庫<br>一般財源 |
| C2-4 | 「ふくしま」ならではの地域特産物を活かした栽培・流通技術の確立 | | | | |
| C2-4-4 | オタネニンジンの産地づくり支援に関する研究 | 2022 | 2025 | 作物園芸部<br>会津地域研究所 | 国庫 |
| C2-4-5 | エゴマ安定生産体系の確立 | 2022 | 2025 | 企画経営部<br>作物園芸部 | 国庫 |
| D | 地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進 | | | | |
| D1 | 気候変動に対応し農業生産の安定化に寄与する技術の開発 | | | | |
| D1-1 | 気候変動に対応した生産技術の開発 | | | | |
| D1-1-1 | 夏季高温条件下における良質・良食味米生産技術の確立 | 2021 | 2026 | 作物園芸部 | 寄附金※3 |
| D1-1-2 | 主要野菜の安定生産技術の確立 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 一般財源 |

| 課題番号 | 試験課題　（大課題・中課題・小課題） | 始期 | 終期 | 担当部所 | 予算区分 |
|---|---|---|---|---|---|
| D1-1-3 | 温暖化傾向に対応した花きの安定生産技術の確立 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 一般財源 |
| D1-1-4 | 主要農作物生育作柄解析調査研究 | 2021 | 2025 | 作物園芸部<br>会津地域研究所<br>浜地域研究所 | 一般財源 |
| D1-1-5 | 温暖化に対応した果樹の生育予測技術及び生育障害対策技術の確立 | 2021 | 2025 | 果樹研究所<br>会津地域研究所 | 一般財源 |
| D1-1-6 | 気候リスク対応飼料生産技術の確立 | 2025 | 2027 | 畜産研究所 | 外部資金※11 |
| D1-2 | 温暖化・異常気象に対応した技術の開発 | | | | |
| D1-2-1 | 気候変動に対応した果樹病害虫の発生生態解明及び防除法の検討 | 2025 | 2027 | 果樹研究所 | 一般財源 |
| D1-2-2 | 水稲の品種開発ほ場や種子生産ほ場における異型判別技術の開発 | 2025 | 2027 | 作物園芸部 | 一般財源 |
| D1-2-3 | 会津地方 50m メッシュ精密気象データの作成と利用 | 2025 | 2027 | 会津地域研究所 | 一般財源 |
| D1-2-4 | 気候変動予測データを活用した水稲の白未熟粒発生シミュレーション | 2025 | 2027 | 作物園芸部 | 一般財源 |
| D1-2-5 | 病害虫の発生リスク評価と対応策 | 2025 | 2027 | 生産環境部 | 一般財源 |
| D1-2-6 | 果樹栽培における温暖化に打ち勝つ生理障害等の対策技術確立 | 2025 | 2027 | 果樹研究所 | 一般財源 |
| D1-2-7 | 本県奨励品種に合わせた小麦の発育段階モデルの構築 | 2024 | 2027 | 浜地域研究所<br>作物園芸部 | 一般財源 |
| D1-2-8 | 建築資材を用いた片屋根新型ハウス導入の検討 | 2025 | 2027 | 作物園芸部 | 一般財源 |
| D1-2-9 | 花き類の高温障害対策技術の確立 | 2025 | 2027 | 作物園芸部 | 一般財源 |
| D1-2-10 | 光を利用した病害虫防除技術の開発 | 2025 | 2027 | 生産環境部 | 一般財源 |
| D2 | 環境負荷を低減する農業生産に資する研究開発 | | | | |
| D2-1 | 中山間地における農地管理技術の開発 | | | | |
| D2-1-4 | 被災地域におけるほ場整備事業後の効果調査 | 2025 | 2026 | 企画経営部 | 繰入金 |
| D2-1-5 | 中山間地域におけるスマート農業技術の導入上の課題及び効果調査 | 2025 | 2025 | 企画経営部 | 繰入金 |
| D2-2 | 環境と共生する病害虫防除技術の開発 | | | | |
| D2-2-1 | 総合的病害虫管理(IPM)による環境と共生する農業技術の確立 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 一般財源 |
| D2-2-2 | 果樹における生物資源等を活用した環境と共生する病害虫防除技術の開発 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 一般財源 |
| D2-3 | 有機農産物の低投入持続型栽培技術の確立 | | | | |
| D2-3-1 | 有機農産物の低投入持続型栽培技術の確立 | 2021 | 2025 | 有機農業推進室 | 国庫 |
| D2-4 | 環境負荷の低減に向けた技術の開発 | | | | |
| D2-4-1 | 温室効果ガス排出軽減技術の確立 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 外部資金※1 |
| D2-4-2 | 農地における土壌管理実態調査 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 国庫 |
| D2-4-3 | 果樹園における省力的環境負荷軽減のための肥培管理技術の確立 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 一般財源 |
| D2-4-5 | 効率的肥培管理技術の確立 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 一般財源 |

| 課題番号 | 試験課題　（大課題・中課題・小課題） | 始期 | 終期 | 担当部所 | 予算区分 |
|---|---|---|---|---|---|
| D2-4-6 | 家畜排せつ物堆肥の高度利用技術の開発 | 2022 | 2026 | 生産環境部<br>畜産研究所 | 繰入金 |
| D2-4-7 | 農業副産物を活用した高機能バイオ炭の施用体系の確立 | 2023 | 2027 | 作物園芸部 | 外部資金※9 |
| D2-4-8 | 放射性物質除染後ほ場におけるバイオ炭施用の作物への影響と炭素貯留効果 | 2023 | 2027 | 生産環境部<br>浜地域農業再生研究センター | 外部資金※9 |
| D2-4-9 | 特別栽培生産拡大のための技術確立 | 2024 | 2026 | 生産環境部<br>作物園芸部<br>会津地域研究所<br>浜地域研究所 | 国庫<br>一般財源 |
| D2-4-10 | 切り花栽培における農業用使用済みプラスチック低減技術の確立 | 2024 | 2025 | 作物園芸部<br>会津地域研究所 | 繰入金 |
| D2-4-11 | 農業用使用済プラスチック処理の実態調査 | 2025 | 2026 | 企画経営部 | 繰入金 |
| E　安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進 | | | | | |
| E1 | 産地や経営体において収益性を高める技術の研究開発 | | | | |
| E1-1 | 水稲、畑作物の安定生産技術の確立 | | | | |
| E1-1-2 | 省力的な稲作栽培に適応した雑草防除技術の確立 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 一般財源 |
| E1-1-3 | 畑作物の高品質・安定栽培技術の確立 | 2021 | 2024 | 作物園芸部 | 一般財源 |
| E1-1-4 | マルチオミクス解析に基づく作物の安定多収に向けた栽培技術の開発 | 2018 | 2025 | 作物園芸部 | 外部資金※10 |
| E1-1-5 | 葉たばこ特別調査 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 外部資金※6 |
| E1-1-6 | 水稲の疎播疎植と高精度２段施肥体系による省力多収栽培技術の確立 | 2023 | 2026 | 作物園芸部 | 外部資金※10 |
| E1-1-7 | 露地プール育苗法と高密度播種苗の組み合わせによる水稲栽培法の検討 | 2025 | 2027 | 会津地域研究所 | 一般財源 |
| E1-2 | 野菜・花きの安定生産技術の確立 | | | | |
| E1-2-1 | 地域特性を活かした施設花きの安定生産技術の確立 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 一般財源 |
| E1-2-2 | ふくしまの特色ある露地花きの安定生産技術の確立 | 2021 | 2025 | 作物園芸部 | 外部資金※1<br>一般財源 |
| E1-2-3 | 特産野菜の安定生産技術の確立 | 2021 | 2027 | 企画経営部 | 一般財源 |
| E1-2-4 | 大規模園芸経営体の経営調査及び経営モデルの策定 | 2025 | 2027 | 企画経営部 | 一般財源 |
| E1-3 | 会津地域に適した作物、園芸品目等の生産技術の確立 | | | | |
| E1-3-1 | 会津地域における地場野菜等の生産技術の開発 | 2021 | 2027 | 会津地域研究所 | 一般財源 |
| E1-3-4 | 小麦の高品質・安定生産技術の確立 | 2024 | 2025 | 会津地域研究所 | 一般財源 |
| E1-3-5 | カキ「会津身不知」の適期防除と長期保存方法の検証 | 2024 | 2025 | 会津地域研究所 | 一般財源 |
| E1-3-6 | 亜リン酸液肥の葉面散布による秋ソバ増収効果確認試験 | 2025 | 2026 | 会津地域研究所 | 一般財源 |
| E1-4 | 浜通り地方に適した作物、園芸品目等の生産技術の確立 | | | | |
| E1-4-1 | 浜通りにおける大規模水田利用支援技術の開発 | 2021 | 2025 | 浜地域研究所 | 外部資金※12<br>一般財源 |
| E1-4-2 | 浜通りの気候を活かした野菜・花き等生産振興支援技術の確立 | 2021 | 2025 | 浜地域研究所 | 一般財源 |
| E1-5 | 果樹の安定生産技術の確立 | | | | |

| 課題番号 | 試験課題　（大課題・中課題・小課題） | 始期 | 終期 | 担当部所 | 予算区分 |
|---|---|---|---|---|---|
| E1-5-1 | 革新的栽培技術体系による果樹の栽培管理技術の確立 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 一般財源 |
| E1-5-2 | モモ「あかつき」の核障害軽減対策技術の確立 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 一般財源 |
| E1-5-3 | 大規模経営に対応できるリンゴの省力・高品質生産技術体系の確立 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 一般財源 |
| E1-6 | 畜産の安定生産技術の確立 | | | | |
| E1-6-1 | 乳牛の安定生産技術の確立 | 2024 | 2025 | 畜産研究所 | 外部資金※2 |
| E1-6-2 | 肉用牛の安定生産技術の確立 | 2021 | 2026 | 畜産研究所 | 寄附金※3<br>一般財源<br>国庫 |
| E1-6-3 | 豚の安定生産・高付加価値化技術の確立 | 2021 | 2025 | 畜産研究所 | 繰入金<br>一般財源 |
| E2 | 農産物の安定供給に寄与する鳥獣被害防止・病害虫防除等に係る研究開発 | | | | |
| E2-1 | 野生鳥獣害対策技術の確立 | | | | |
| E2-1-2 | 中山間地におけるドローン等を活用した ICT 鳥獣対策及び被害管理技術の確立 | 2024 | 2025 | 企画経営部 | 繰入金 |
| E2-3 | 新奇病害虫・難防除病害虫防除技術の確立 | | | | |
| E2-3-1 | 新奇・難防除病害虫に対する防除技術の開発 | 2021 | 2025 | 生産環境部 | 一般財源 |
| E2-4 | 果樹の病害虫に対する防除技術の確立 | | | | |
| E2-4-1 | 果樹の重要な課題である病害虫に対する防除技術の確立 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 外部資金※1<br>一般財源 |
| E2-4-5 | 果樹病害虫の防除法改善に関する試験 | 2021 | 2025 | 果樹研究所 | 外部資金※10<br>一般財源 |
| E2-4-7 | 相次いで侵入した外来カミキリムシから日本の果樹と樹木を守る総合対策手法の確立 | 2022 | 2025 | 果樹研究所 | 外部資金※10 |
| E2-5 | 新農薬・新資材等の効率的利用法 | | | | |
| E2-5-1 | 安全で効率的な新農薬・新資材等の実用化 | 2021 | 2025 | 生産環境部<br>作物園芸部<br>果樹研究所<br>会津地域研究所<br>浜地域研究所 | 外部資金※8 |

【備考】
※1　農林水産省
※2　福島国際研究教育機構（F-REI）
※3　JA グループ福島
※4　公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会
※5　国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
※6　日本たばこ産業株式会社
※7　新稲作研究会（公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会）
※8　公益社団法人福島県植物防疫協会
※9　経済産業省
※10　生物系特定産業技術研究支援センター
※11　日本中央競馬会
※12　公益財団法人日本植物調節剤研究協会

## ２　共同研究、研究協定一覧

（１）福島県農林水産部共同研究

ア　カドミウム低吸収遺伝子を導入した有望系統の育成とその評価（福島県）
（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農業環境研究部門）

イ　水稲いもち病ほ場抵抗性検定の東北地域向け基準品種の追加策定
（国立研究開発法人農業･食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター）

ウ　ゲノム育種による福島県オリジナル品種の開発（国立大学法人福島大学）

エ　和牛における経済形質のゲノム選抜手法の確立（独立行政法人家畜改良センター）

（２）研究協定

ア　地域資源を活用した水稲の品種育成に関する研究
（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構[*1]ほか 30 公設試験研究機関）

＊１　次世代作物開発研究センター

イ　水稲新品種の育成　（富山県農林水産総合技術センター）

ウ　国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の水稲有望系統を交配母本とした水稲品種・系統の共同育成（福島県）
（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中日本農業研究センター）

エ　倍加半数体リンゴ品種を利用した果実形質の遺伝解析に関する研究
（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹茶業研究部門）

オ　日本における除草剤抵抗性ヒエ属水田雑草の実態解明
（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構中日本農業研究センター、国立大学法人東京農工大学）

【備考】　１　福島県農林水産部共同研究

福島県農林水産部共同研究要綱に定められた、県と県以外の者が技術と知識を交換し、研究及び研究費用を分担しながら、共通の課題解決に向けて共同で行う研究

２　研究協定

農業総合センターと県以外の者が技術と知識を交換し、共通の課題解決に向けて共同で行う研究のうち、研究結果として知的所有権等の発生が見込めない１に至らない研究（所長が締結する研究契約）

※共同研究は、福島県農林水産技術会議評価部会の承認後、知事が実施機関と契約を締結している。

## ３　試験研究の概要

（文中に**【普及成果○】【参考成果○】【放射線技術情報○】【営農再開技術情報○】**の記載のある成果については、当所ホームページに「令和６年度に得られた研究成果」又は「令和７年度に得られた研究成果」として掲載しております。）

### Ａ　東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化による農林水産業の再生を支援するための試験研究の推進

#### Ａ１　農業における総合的な放射性物質対策の研究開発

##### Ａ１－１　放射性物質の分布状況の把握

| | | |
|---|---|---|
| **試験課題名：土壌の経年調査** | | A1-1-1 |
| 予算区分：外部資金（放射性物質測定調査委託事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：環境・作物栄養科、果樹研究所栽培科、畜産研究所飼料環境科、浜地域農業再生研究センター | | |
| | 概要 | 土壌の放射性セシウム濃度及び空間線量率は、減少傾向が見られたが、近年はほぼ横ばいとなっている。2012 年から 2024 年度と比較し、空間線量率及び土壌中の放射性セシウム濃度は、水田及び畑地では物理的減衰並に低下していた。樹園地及び草地では、空間線量率は物理的減衰よりも減少する傾向が見られた**【放射線技術情報１、２】**。 |
| **試験課題名：農地における放射性セシウム濃度深度分布の把握** | | A1-1-2 |
| 予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：環境・作物栄養科 | | |
| | 概要 | 事故から 10 年以上経過した現在でも $^{137}$Cs の大部分は表層 15 または 20cm 以浅にとどまり、重心速度の下方移動速度は徐々に低下していた**【放射線技術情報３】**。 |
| **試験課題名：郡山市における大気浮遊塵及び降下物中の放射性セシウム濃度調査** | | A1-1-3 |
| 予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：環境・作物栄養科 | | |
| | 概要 | 大気中の放射性セシウム濃度は、年々低下する傾向が見られ、検出頻度も低下している。大気降下物の放射性セシウムは、年々低下傾向にあり、大気降下物の $^{134}$Cs 濃度はほとんど検出されていない。しかし、冬期の風が強くなる時期に大気降下物の放射性セシウムは増加する傾向にあり、季節変動が示唆される。 |
| **試験課題名：果樹における放射性物質濃度の経年変化の把握** | | A1-1-4 |
| 予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所栽培科 | | |
| | 概要 | 東京電力福島第一原子力発電所事故後の果樹園における放射性物質の分布状況を把握するため、カキ、ユズの成熟期における果実及び葉の $^{137}$Cs 濃度を測定した結果、十分低い値で推移していることが明らかとなった。また、果樹園における土壌中の放射性セシウム濃度の垂直分布を測定した結果、2025 年のリンゴ土壌の $^{137}$Cs の深さ別分布率は、6 cmまでで約 51%、12 cmまでで約 82%となり、12 cm以下の分布率についても増加する傾向が見られた。 |

## Ａ１－２　放射性物質の吸収抑制技術等の確立

**試験課題名：基準値超過等要因解析**　A1-2-2

予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：環境・作物栄養科

概要

福島県内 73 ほ場を対象に、カリ上乗せ施用中止後の土壌の交換性カリ含量と作物への $^{137}$Cs 移行リスクの要因となる土壌特性について解析を行った結果、カリ卒後も交換性カリ含量 25 mg 以上を維持できたほ場は約 3 割にとどまっていた。非交換性カリ含量と交換性 $^{137}$Cs 割合との間には負の相関関係が見られ、非交換性カリ含量が多いほ場ほど交換性 $^{137}$Cs 割合が低く、土壌中の $^{137}$Cs のうち作物に吸収されやすい交換性画分が少ないため作物への移行リスクが小さいと考えられた。非交換性カリ含量と交換性カリ含量の減少量を組み合わせた評価が重要であると考えられた**【放射線技術情報４】**。

**試験課題名：県内農地土壌の交換性塩基含量の実態解明**　A1-2-3

予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：環境・作物栄養科

概要

過去に土壌調査を実施した県内水田 300 ほ場の土壌の交換性カリ含量の追跡調査を、2021 年～2024 年にかけて行った。その結果、交換性カリ含量が 4 割以上減少しているほ場が 21%あり、25mg$K_2O$/100g 乾土(土壌改良目標値)未満となった割合は 36%あるなど、全体的に低下傾向であった**【放射線技術情報５】**。

**試験課題名：水稲の生産性と安全性の評価ならびに放射性物質移行抑制の実証**　A1-2-8

予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：稲作科

概要

これまで全くカリ肥料を入れてこなかった区も含むほ場全体を、「農作物の放射性セシウム対策に係る除染及び技術対策指針」に従い、ほ場内の土壌中交換性カリ含量が 25mg$K_2O$/100g 乾土となるようにカリを施用した結果、玄米中のセシウム濃度は基準値を超えなかった。

**試験課題名：　畑作物の放射性セシウム吸収に対する土壌の影響解明**　A1-2-9

予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：畑作科

概要

灰色低地土、褐色森林土、赤黄色土では、塩化カリの投入量が多いほど生育が阻害された。黒ボク土は使用した土壌の交換性カリ含量が高く、また仮比重が他土壌と比べ小さく、塩化カリの投入量が少なかった。そのため、100 mg $K_2O$/100g 乾土となるように塩化カリを施用しても生育への影響は他土壌と比べ小さかった。土壌の種類に限らず、塩化カリの投入量が多いほど、生育が阻害されると考えられた。

**試験課題名：カキ・ユズにおける放射性物質の吸収抑制技術等の確立**　A1-2-10

予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：果樹研究所栽培科

概要

カキ「蜂屋」の葉及び果実の $^{137}$Cs 濃度は、どの処理区も十分に低い値であり、表土処理の違いによる影響は見られなかった。現地ほ場では硫酸カリを施用したが、$^{137}$Cs 吸収抑制効果は判然としなかった。

ユズ新植ほ場では、表土除去による処理後 10 年目(2024 年)の深さ 0～10cm の土壌の $^{137}$Cs 濃度は、表土を除去したほ場で低い状況で維持されていた**【放射線技術情報７】**。現地では、硫酸カリを施用しても交換性カリ濃度が昨年(2024 年)を下回り、目標濃度に達しなかった。土壌中の交換性カリ濃度が高い処理区で、葉や果実の $^{137}$Cs 濃度や吸収移行係数が低くなる傾向が見られた。

| 試験課題名：避難指示区域等における農作物中放射性セシウム吸収抑制技術の開発 | | A1-2-11 |
|---|---|---|
| | 予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域農業再生研究センター | |
| | 概要 | 営農再開地域で緑肥作物を蜜源とした養蜂を行うと、未除染地等の植物蜜が混在することで、ハチミツの放射性セシウム濃度が基準値を超える可能性があるが、緑肥作物の開花期間に限定して採蜜することで、放射性セシウム濃度の低いハチミツを得られた。<br>WCS 用稲の移植栽培で、追肥時に発酵消化液を活用して 2 回収穫は可能であったが、収量向上にはつながらなかった。茎葉及び籾への放射性セシウム移行に影響はなかった。 |
| 試験課題名：放射性セシウム濃度低減のための野菜栽培と調理加工 | | A1-2-12 |
| | 予算区分：繰入金（福島県民健康管理基金）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域農業再生研究センター | |
| | 概要 | 除染後農地 3 ほ場において、土壌の交換性カリ含量を調整して 5 種類の野菜(コマツナ、ブロッコリー、ネギ、タマネギ、キャベツ)を栽培した。ブロッコリーについて土壌の交換性カリ含量を高めることで放射性セシウムの移行低減が確認された**【放射線技術情報９】**。 |
| 試験課題名：再浮遊物質を含む大気中の放射性セシウムの動態と農地・農作物への影響の解明 | | A1-2-13 |
| | 予算区分：外部資金（放射線調査研究委託事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域農業再生研究センター | |
| | 概要 | 大熊町の帰還困難区域でコンテナ栽培した野菜類について、再浮遊物質等の付着による植物体への放射性セシウムの影響は限定的であった。 |

Ａ１－３　特定復興再生拠点区域等の円滑な営農再開に向けた技術実証

| 試験課題名：計測ロボットを活用した放射性物質等分布実態の把握 | | A1-3-1 |
|---|---|---|
| | 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域農業再生研究センター | |
| | 概要 | 放射性物質測定ロボット(KURAMA)により土壌の放射性セシウム濃度を高精度で推定することが可能であった。 |
| 試験課題名：営農再開を阻害する加害動物の行動特性や動物種把握による獣害防止策の提案 | | A1-3-2 |
| | 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域農業再生研究センター | |
| | 概要 | 特定復興再生拠点区域のアライグマは、大きく 4 つのクラスタ(行動タイプ)に分けられることから、好適地付近での捕獲が推奨された。誘因餌の選好性には個体差があり、複数の餌をローテーションすることで効率捕獲につながると考えられた**【営農再開技術情報２】**。 |
| 試験課題名：通い農業支援システム等を活用した栽培状況の可視化と評価 | | A1-3-3 |
| | 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域農業再生研究センター | |
| | 概要 | トルコギキョウ栽培での通い農業支援システムを導入した情報共有試験について、浪江町の 4 者間で実施しても問題なく運用できた**【営農再開技術情報３】**。栽培管理の見える化により、非熟練生産者は切り花の品質を高めることができた。 |

| 試験課題名：緑肥作物等の利用による地力回復技術の開発と蜜源利用 | | A1-3-4 |
|---|---|---|
| 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域農業再生研究センター | | |
| | 概要 | 秋ソバの前作に供試した全てのマメ科緑肥作物で、ソバ単収は無施肥でおおむね100kg/10aを確保できた。緑肥作物の播種適期は、前年 11 月中旬又は当年 3 月中旬までであった**【営農再開技術情報４】**。<br>営農再開地域では、放射性セシウム吸収抑制対策を行った除染後農地で緑肥作物を栽培し、開花期間に限定して採蜜を行うことで、放射性セシウム濃度の低い単花蜜を採取できた。 |

| 試験課題名：効率的雑草管理技術の開発と実証 | | A1-3-5 |
|---|---|---|
| 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域農業再生研究センター | | |
| | 概要 | 多年生雑草の防除体系は、春季の発生時や冬季の枯死時に塩素酸塩粒剤を散布することが有効であり、防除効果は翌年まで継続した。塩素酸塩粒剤散布後に栽培した牧草とタマネギには、影響が見られなかった**【営農再開技術情報５】**。 |

| 試験課題名：特定復興再生拠点等における農作物栽培の生産性と安全性の評価 | | A1-3-6 |
|---|---|---|
| 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域農業再生研究センター | | |
| | 概要 | 特定復興再生拠点区域の水田において、適切な肥培管理と放射性セシウムの吸収抑制対策を併せて実施することで、震災前並の収量確保と放射性セシウム濃度を基準値以下に抑えることが可能であった。周辺環境からの玄米に対する放射性セシウムの影響は、極めて小さかった。 |

| 試験課題名：放射性物質移行抑制技術の実証・開発と畑作物の安全性の評価 | | A1-3-7 |
|---|---|---|
| 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：畑作科 | | |
| | 概要 | 2024 年までのデータにより、ラッカセイの放射性セシウム濃度を予測するモデルを改良した。また、これまでに作成したダイズ子実の放射性セシウム濃度の予測モデルの活用に向けて、浪江町のほ場でダイズを栽培し、土壌の放射性セシウム濃度のばらつきが大きい除染後のほ場における土壌及び植物体試料の最適な採取方法を検討した。 |

| 試験課題名：草地における放射性セシウム吸収抑制技術の開発・実証と未除染牧草地利用可否基準の策定 | | A1-3-8 |
|---|---|---|
| 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：畜産研究所飼料環境科、浜地域農業再生研究センター | | |
| | 概要 | 嗜好性に懸念があるトールフェスク単一草種でも、黒毛和種繁殖雌牛の放牧は可能で、余剰牧草が枯れた長草になっても、再生草とともに採食され、採食性の低下は見られなかった**【営農再開技術情報１】**。<br>土壌の交換性カリ含量を 30mg$K_2O$/100g 乾土以上確保できれば、トールフェスクへの放射性セシウムの移行は低く抑えられた**【放射線技術情報８】**。 |

| 試験課題名：生産現場における最適な放射性セシウム移行リスクの評価手法および圃場特性に合わせた移行低減技術の提案 | A1-3-10 |
|---|---|
| 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：環境・作物栄養科 | |
| 概要 | 土壌調査では、西郷村の調査において交換性カリ含量が 2022 年度以降 2024 年、2025 年と維持されている傾向が見られ、今後土壌の交換性カリ含量の減少により放射性セシウム吸収移行が高まる可能性があると考えられた。<br>現地無カリ区試験では、カリ無施用継続下における玄米の $^{137}$Cs 濃度のほ場間差には、土壌の交換性カリ含量だけでなく土壌の交換性 $^{137}$Cs 濃度の違いが関与していることが示唆された**【放射線技術情報６】**。<br>ポット試験では、土壌の交換性カリ含量は、とりわけ土壌の交換性 $^{137}$Cs が玄米へ移行する過程と強く関連する指標であることが示唆された。 |

## Ａ２　避難地域等の営農再開を支える技術の実証

### Ａ２－１　避難地域の営農再開を支援する研究

| 試験課題名：避難地域等における営農再開のための支援研究 | A2-1-1 |
|---|---|
| 予算区分：繰入金（福島県原子力災害等復興基金）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域農業再生研究センター | |
| 概要 | 浪江町、双葉町の果樹・野菜類の営農再開予定 6 ほ場について、土壌実態を明らかにした。<br><br>大熊町の特定復興再生拠点区域の高リスクほ場でも、上乗せカリ施用によるダイズへの放射性セシウム移行低減効果は確認され、子実濃度の早期推定も可能であった。<br><br>大熊町で畦畔の雑草管理の省力化が期待できるイブキジャコウソウについて、定植 1 年目に課題となる夏生一年生雑草に対する除草剤等による省力化は期待できなかった。<br><br>川俣町山木屋地区で栽培したコムギ「さとのそら」「ゆきちから」「夏黄金」の収量は、県平均単収以上で、品質は一等であったことから、ソバと組み合わせたコムギ栽培が可能であることが明らかになった**【営農再開技術情報６】**。<br><br>富岡町でコムギ「さとのそら」について播種晩限以降に播種した場合は、指導されている追肥重点施肥体系を取っても慣行施肥体系と同程度の収量であった。<br><br>楢葉町でカンショ収穫後の 11 月上旬にライムギを播種することで、3 月中に出穂、すき込みが可能で、出穂期は基肥施用により早まった**【営農再開技術情報７】**。<br><br>葛尾村で、緑肥作物のすき込みにより除染後農地においても土壌改良効果が見られたが、雑草のみをすき込んだ場合も同様の傾向で、緑肥作物による効果は判然としなかった。<br><br>川内村のピーマン斑点病に対する反転耕の効果は判然としなかったが、感染リスクが高まる 6 月中旬からこまめに防除することで発病を抑えられ、それに伴い要する農薬費と作業時間を明らかにした**【営農再開技術情報８】**。<br><br>大熊町と富岡町の特定復興再生拠点区域で栽培した野菜類 4 品目について、土壌の交換性カリの増加により移行係数の低減が確認されたが、カンショでは判然とせず、さらなる知見を収集する必要があると考えられた。<br><br>飯舘村のトルコギキョウほ場において、pF 値を基準とした自動かん水を実施する際は、頂花着蕾までの栽培期間におけるかん水開始の目安として、pF 値を 1.9～2.0 に設定することが効果的であると考えられた。 |

| 試験課題名：避難地域等における営農再開のための支援研究 | | A2-1-1 |
|---|---|---|
| | 概要 | 浪江町の前作でトルコギキョウ立枯病を確認したほ場で低濃度エタノールによる土壌還元消毒を実施した結果、還元状態が確認できたが、*Fusarium oxsporum* の菌密度が増加し、立枯病の感染が拡大した。これは、植物残さの除去が十分でなかったこと、ほ場立ち入り時に病原菌を持ち込んだこと等が原因と考えられた。<br><br>楢葉町で発生が見られているユーカリの斑点性病害について、防草シート全面敷設による病害抑制効果は判然としなかったが、敷設の有無にかかわらず「グニー」の病害発生程度は軽微であった**【営農再開技術情報９】**。<br><br>大熊町の特定復興再生拠点区域で栽培した牧草について、土壌の交換性カリ含量が高く、カリ施用による放射性セシウム移行低減効果は判然としなかった。7 月に草量が減少し、供試した草種・品種の組み合わせでは永年生草地としての維持は難しいと考えられた。<br><br>飯舘村で栽培したイタリアンライグラス「タチサカエ」は「ガルフ」と比べて収量が多く、耐倒伏性にも優れていた**【営農再開技術情報１０】**。<br><br>飼料用トウモロコシの青刈りにおける収穫適期は、黄熟中期～後期と短いが、絹糸抽出期以降の雌穂の登熟が進む熟期では、放射性セシウム濃度は変動しないことを富岡町の栽培試験により明らかにした**【営農再開技術情報１１】**。 |

**【参考】** 営農再開に向けた実証栽培（20 課題）

| 実証地区 | 品目 | 面積(a) | 課　題　名 | 概　　要 | 営農再開技術情報No. |
|---|---|---|---|---|---|
| 南相馬市小高区 | 畜産（飼料作物） | 4 | 子実用トウモロコシ栽培における土壌の物理性改善の実証 | 子実用トウモロコシの作付けおよびすき込みによる土壌の物理性等改善効果を明らかにする。 | － |
| 川俣町山木屋 | 作物（コムギ） | 9 | 小麦有望品種の高冷地適性の検討 | コムギ３品種を山木屋地区に作付けし、生産性等を明らかにする。 | 6 |
| 楢葉町大谷熊野 | 作物（カンショ） | 12 | カンショ連作栽培における緑肥導入実証 | カンショ連作栽培において秋播き緑肥作物の導入が可能か実証する。 | 7 |
| 楢葉町上繁岡 | 花き（ユーカリ） | 0.8 | ユーカリ防草シート敷設２年目の検証 | ユーカリ斑点落葉病に対する防草シート敷設２年目の予防効果について明らかにする。 | 9 |
| 富岡町上手岡 | 作物（コムギ） | 19.3 | 日本めん用小麦追肥重点体系栽培による増収実証 | コムギ「さとのそら」栽培において追肥重点体系で収量が増加するか実証する。 | － |
| 富岡町小良ヶ浜 | 野菜（全般） | 1.6 | 特定復興再生拠点等における各種野菜の安全性評価 | 地域で作付実績のある野菜類について、経根吸収による放射性セシウム移行と、カリ施肥による吸収抑制効果を調査する。 | － |
| 富岡町小良ケ浜 | 畜産（飼料作物） | 4 | 飼料用トウモロコシの放射性セシウム吸収抑制対策に基づく栽培技術実証 | 除染後農地での飼料用トウモロコシ栽培において、生育ステージにおける放射性セシウム移行の推移を明らかにする。 | １１ |
| 川内村下川内 | 野菜（ピーマン） | 1.1 | ピーマン斑点病対策 | 露地ピーマン栽培において斑点病の効果的な防除方法を検証する。 | 8 |

| 実証地区 | 品目 | 面積(a) | 課　題　名 | 概　　要 | 営農再開技術情報No. |
|---|---|---|---|---|---|
| 大熊町<br>大野 | 作物<br>（ダイズ） | 0.7 | 除染後農地における放射性セシウム移行抑制試験 | 放射性セシウム濃度の高い土壌においてカリ資材や有機物施用によるダイズへの移行低減効果を確認する。 | － |
| 大熊町<br>野上 | 作物<br>（水稲） | 1.2 | イブキジャコウソウの省力栽培 | 定植１年目のイブキジャコウソウの雑草管理で防草シートなしでも除草剤を組み合わせれば栽培可能か検証する。 | － |
| 大熊町<br>大野 | 野菜<br>（全般） | 1.6 | 特定復興再生拠点等における各種野菜の安全性評価 | 地域で作付け実績のある野菜類について、経根吸収による放射性セシウム移行とカリ施肥による吸収抑制効果を調査する。 | － |
| 大熊町<br>熊 | 畜産<br>（牧草） | 20 | 混播種子牧草の放射性セシウム吸収抑制対策による栽培実証 | 作付け２年目の混播種子牧草で早春時のカリ増施による放射性セシウム移行への影響と追播による収量維持効果を明らかにする。 | － |
| 浪江町 | その他 | 2 | 除染後農地の土壌実態調査 | 営農再開後のリスクを事前に把握するため、営農再開予定ほ場における土壌実態を明らかにする。 | － |
| 双葉町<br>下羽鳥 | 野菜<br>（ブロッコリー） | 10 | ブロッコリー栽培における食品残渣由来消化液の利用実証 | ブロッコリー栽培における食品残さ由来消化液の散布方法と生育への影響を明らかにする。 | － |
| 双葉町 | その他 | 4 | 除染後農地の土壌実態調査 | 営農再開後のリスクを事前に把握するため、営農再開予定ほ場における土壌実態を明らかにする。 | 5 |
| 浪江町<br>幾世橋 | 花き<br>（トルコギキョウ） | 3.3 | トルコギキョウ栽培における低濃度エタノール消毒の実証 | 転炉石灰による pH 矯正と低濃度エタノールによる土壌還元消毒を実証し、栽培期間中の菌密度推移と病害発生の関係を明らかにする。 | － |
| 葛尾村<br>野行 | 作物<br>（ソバ） | 3 | 緑肥作物の活用による秋ソバの多収技術の実証 | 秋ソバ前作にマメ科及びハゼリソウ科緑肥作物を導入し、施肥代替効果を実証する。 | － |
| 飯舘村草野、比曽 | 花き<br>（トルコギキョウ） | 3.8 | トルコギキョウ栽培における自動かん水制御術の適応 | トルコギキョウ自動かん水制御技術の適応に向け、土壌 pF と土壌水分値を計測して季咲き作型栽培期間中の土壌水分推移を明らかにする。 | － |
| 飯舘村<br>関根 | 畜産<br>（牧草） | 1 | 阿武隈中山間地域におけるイタリアンライグラス収量向上の検討 | 耐倒伏性に優れるイタリアンライグラス品種を用いて収量に与える影響を明らかにする。 | １０ |
| 飯舘村<br>伊丹沢 | 畜産<br>（牧草） | 50 | 湿田におけるイタリアンライグラスの排水対策の実証 | 排水不良ほ場で排水対策を行い、牧草収量への影響を検討する。 | － |

## Ａ２－２　広域エリアを対象とした大規模水田営農における生産基盤技術の確立

**試験課題名：広域エリアにおける水田輪作栽培管理技術の開発・実証**　A2-2-1

予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：稲作科、浜地域研究所

概要

2023 年度に設定した生育指標値の精度検証、加えて追肥方法の検証を行った。既存の生育指標に 2024～2025 年度の所内試験の生育量、収量構成要素等を反映させて精度向上を図り、生育指標を完成させた。また、所内試験及び現地試験で追肥方法(時期、施肥量)の検証を行った結果、追肥による増収傾向を確認したが、追肥方法による傾向は判然としなかった。

**試験課題名：営農再開に対応した大規模水田輪作体系の実証**　A2-2-2

予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：畑作科

概要

所内試験では、浅層暗きょ＋畦立同時播種を実施した区の生育は優り、排水対策技術の有効性が認められた**【参考成果２１】**。

現地試験では、排水対策技術(籾殻補助暗きょ、サブソイラ)の施工と排水機能の評価を実施した結果、排水性が改善されたほ場では稔実莢数が確保され、収量が確保された。

**試験課題名：広域エリアにおける ICT を用いた省力的圃場管理技術**　A2-2-3

予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：作物保護科

概要

南相馬市と浪江町において、斑点米被害予測モデルの構築と、精度検証に向けた調査を行った。

アカスジカスミカメムシでは、農地情報の関係から斑点米発生予測リスクマップを作成した。クモヘリカメムシについては、スギ系植林地までの距離との関係から発生量予測マップを作成した**【参考成果７】**。

**試験課題名：飼料用トウモロコシの安定多収、加工・調製技術の開発と実証**　A2-2-4

予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：畜産研究所飼料環境科

概要

子実用トウモロコシ利用拡大に向け、子実用トウモロコシに規格外大豆と飼料用米を混合した肉用繁殖経営向け飼料を調製し、農家実証において 10 頭の繁殖雌牛に約 10 か月間給与したが、全ての給与牛の健康状態及び分娩に問題がないことを確認した。飼料の内部温度が 25℃以上の状態が 2 週間続くと変色が起こり、乳酸菌数が減少する傾向にあったが、発酵品質、真菌数に問題はなかった。保管場所や混合飼料の大きさによる変色速度や程度に大きな違いはなかった**【参考成果４８】**。

**試験課題名：経営管理システムを活用した経営データ分析・活用手法**　A2-2-5

予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：経営・農作業科

概要

経営管理システムのデータの収集と、収集したデータを活用した小集団活動を実施し、欠損データがあっても 5～6 名・現場主導型の小集団活動と組み合わせることで、経営改善提案の創出とデータ入力意識の向上効果が確認された**【参考成果４】**。

Ａ２－３　先端技術を活用した施設野菜・畑作物の省力高収益栽培・出荷技術の確立

| | | |
|---|---|---|
| **試験課題名：施設果菜類の雇用労力とロボットを作業主体とした大規模経営技術の開発・実証** | | A2-3-1 |
| 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域研究所、野菜科、経営・農作業科 | | |
| | 概要 | 現地試験ではつる下ろし栽培に加え、低圧ミストと日射量制御型遮光、炭酸ガス局所施用を組み合わせた総合実証区と、アーチ摘心栽培の現地慣行区における収量・作業時間等を比較した。総合実証区では初期生育の遅れなどがあり、収量は慣行区より少なくなったが、現地被雇用者による作業時間は、総合実証区で１割短くなった。これまで５か年の試験結果を取りまとめ、つる下ろし栽培の作業時間は摘心栽培より１割削減でき、可販果率が高く、可販果収量が多くなることで販売額が増加することなど、つる下ろし栽培の導入効果を明らかにした**【普及成果１５】**。また、栽培マニュアルを作成した。<br>低圧ミストと日射制御型遮光を組み合わせた高温対策試験を継続して行い、年次変動を確認した結果､低圧ミストと日射制御型遮光の併用による施設内環境の改善効果が確認できた。<br>技術導入区(つる下ろし栽培・低圧ミスト装置・炭酸ガス施用装置)と、対照区(アーチ摘芯栽培)の経済性評価を行った。その結果、施設費等を自己負担した場合、２区とも純損益はマイナスと試算された。 |
| **試験課題名：露地野菜栽培における難防除雑草優占化機構の解明と難防除雑草対策技術の確立** | | A2-3-3 |
| 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域農業再生研究センター、野菜科 | | |
| | 概要 | タマネギ秋まき直播栽培において、イネ科雑草に効果的な雑草防除技術を検討した結果、慣行防除に加え 10 月中旬及び 11 月下旬の２回、クレトジム乳剤を使用することで、イネ科雑草を防除できることを明らかにした**【普及成果８】**。<br>また、春まき直播栽培の雑草防除体系では、播種直後にシアナジン水和剤処理、タマネギ２葉期にペンディメタリン乳剤､５月下旬以降にプロスルホカルブ乳剤処理を２回行い、イネ科雑草にはクレトジム乳剤を処理することに加えて、耕種的防除として播種直後を除く土壌処理剤散布前に中耕除草が必要であった。それらを行っても取りこぼした雑草は、6 月下旬と７月中旬に手取り除草を実施する必要があることを明らかにした**【参考成果２２】**。<br>秋播き移植栽培における各種雑草に対する防除技術を確立し、新たな防除体系を現地ほ場で実証した結果、収穫に影響のない程度まで抑制することができた**【普及成果１６】**。 |

Ａ２－４　避難地域の営農再開を促進する先端プロ技術の社会実装

| | | |
|---|---|---|
| **試験課題名：花きの計画的安定生産技術の実証** | | A2-4-1 |
| 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：花き科 | | |
| | 概要 | 【キク類】<br>コギクの露地電照栽培について、2024 年度と合わせて計 13 品種の電照反応性と高温開花遅延程度を調査した結果、電照反応性の優れる品種として９品種、高温開花遅延しにくい品種として１品種を選定した**【参考成果２７】**。<br>また、電照栽培中の 1～2 日間の停電の影響について調査した結果、開花が前進する傾向や花房の形状が変わる傾向が見られたが、その程度には品種間差があった。<br><br>【トルコギキョウ】<br>トルコギキョウの秋出荷作型における作型適応苗の作成にあたり、保冷庫等で実施する簡易作型適応処理方法の開発を目指し、処理温度について標準の 20℃と 15℃を比較した結果、15℃でも 20℃と同等以上の品質向上効果が得られることが明らかとなり、さらに７月中旬～8 月上旬に定植する作型において安定した効果が得られることが明らかとなった**【参考成果２５】**。 |

| 試験課題名：早期成園化が可能な樹形によるナシ、ブドウ、モモの省力・高品質生産技術の実証 | A2-4-2 |
|---|---|
| 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所栽培科、病害虫科 | |
| 概要 | モモのジョイントＶ字トレリス樹形(以下、JV 樹形)は、「あかつき」では慣行の開心自然形と比較して早期多収で、収量は樹齢 10 年生で 10ａ当たり 3ｔ以上を確保できた。しかしながら、樹齢 10 年生をピークに収量は減少傾向となり、11 年生以降は下枝の着果が減少し、樹齢 12 年生では収量が慣行よりも顕著に減少した**【参考成果２９】**。<br>晩生種の生産量は開心自然形に比較して「川中島白桃」JV 樹形では多く「幸茜」では少なかった。また、果実品質では JV 樹形の「川中島白桃」で品質評価が高く、「幸茜」で劣る傾向が見られた。<br>台木別の樹体調査では、「川中島白桃」のひだ国府紅しだれ実生台は、おはつ台に比べ樹高及び幹周が小さかった。 |

| 試験課題名：肉用牛の AI 超音波肉質診断技術の実証 | A2-4-3 |
|---|---|
| 予算区分：外部資金（農林水産分野の先端技術展開事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：畜産研究所肉畜科 | |
| 概要 | 県内和牛肥育農家 13 戸へのアンケート調査では、全戸が AI 肉質診断を「出荷時期等の検討」に活用したいと回答した。また、AI-MEAT の検証では、17 カ月齢以上で推定 BMSNo.8 以上の場合に 5 等級となることを、おおむね 90%の精度で確認できた**【参考成果４５】**。さらに、胸囲 231 cm以上かつ推定 BMSNo.8 以上の場合に 5 等級となることを、おおむね 90%の精度で確認できた。 |

## Ａ２－５　農業復興を実現する先端技術の実証

| 試験課題名：輸出対応型果樹生産技術の開発・実証 | A2-5-1 |
|---|---|
| 予算区分：外部資金（福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進）<br>開始年度：2024　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所栽培科、病害虫科 | |
| 概要 | タイ向け輸出対応型防除体系案で防除を行った結果、タイの検疫対象となるモモシンクイガ及びせん孔細菌病の発生は地域慣行防除体系と同程度であることが確認された。 |

| 試験課題名：赤外センサーを用いた高品質ブドウ栽培のスマート化技術 | A2-5-2 |
|---|---|
| 予算区分：外部資金（福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進）<br>開始年度：2024　　終了年度：2027<br>担当科所：果樹研究所栽培科、流通加工科 | |
| 概要 | 育苗ハウスを利用したブドウ盛土式根圏制御栽培において、30%及び 50%遮光率の遮光ネットをハウスに外張りすることで、ハウス内の気温上昇を抑制できた。気温抑制効果は 50%遮光ネットで高かったが、糖度や果皮色に影響を及ぼす可能性が示唆された**【参考成果３９】**。<br>盛土式根圏制御栽培法の「シャインマスカット」では、多肥区の葉身長が慣行区及び対照区より大きくなった。また、満開後 50 日までの窒素施用量を増加させた多肥区で、糖度が高い傾向が見られた。<br>高品質な「シャインマスカット」果実外観について、一般消費者の嗜好性を明らかにするため、果房の大きさや形状、果粒の大きさ、果房の色合いについて官能評価を行った。その結果、果房重は 600～700g で粒が揃い、房締りがよく、果粒の大きさは 14g 以上のものの評価が高く、果房の色合いは黄化が進んだものの評価が低かった**【参考成果１２】**。 |

| 試験課題名：先端技術を活用した鳥獣被害対策システムの構築・実証 | A2-5-3 |
|---|---|
| 予算区分：外部資金（福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進）<br>開始年度：2024　　終了年度：2029<br>担当科所：企画技術科、浜地域農業再生研究センター | |
| 概要 | 町職員及び有害鳥獣捕獲隊の捕獲用務時間を把握するとともに巡回 GIS マップを作成し、さらに通信型センサーカメラの映像から地区内の主な獣種を特定した。<br>イノシシ捕獲数は試験罠区が多いが、からはじき回数も同様に多く、原因のアライグマ等中型獣類を並行して捕獲する必要があると考えられた。月別イノシシ出没状況の増減と捕獲数が同様の傾向を示し、センサーカメラ活用による出没状況把握・それに応じた罠の設置・アニマルセンサーによる捕獲を組み合わせることで､捕獲効率向上につながると考えられた。 |

| 試験課題名：化学肥料・化学農業に頼らない耕畜連携に資する技術の開発・実証 | A2-5-4 |
|---|---|
| 予算区分：外部資金（福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進）<br>開始年度：2024　　終了年度：2025<br>担当科所：有機農業推進室、浜地域農業再生研究センター | |
| 概要 | WCS 用水稲栽培において、化学肥料代替として消化液を施用した結果、慣行栽培と比べて収量及び茎葉の放射性セシウム濃度は同等であった。 |

| 試験課題名：果菜類収穫作業の軽労化につながる協働ロボットの開発及び新たな協調作業体系の構築に関する研究 | A2-5-6 |
|---|---|
| 予算区分：外部資金（福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進）<br>開始年度：2024　　終了年度：2029<br>担当科所：作物園芸部野菜科 | |
| 概要 | ピーマンの自動収穫に適する栽培方法の確立を目指し、仕立法の改良を図った。2 種類の改良仕立法(アーチネット栽培、アーチつり下げ栽培)において、LAI(葉面積指数)に大きな影響を与えない程度の葉かきを行うことで､通路から見える果実の割合を向上させられること、アーチネット栽培はネットが障壁となり自動収穫に適さないことを明らかにした。 |

## B　農林水産業の生産力を強化するための、先端技術を活用した技術開発等の推進

### Ｂ１　先端技術を活用した新たな農業生産技術の開発

#### Ｂ１－２　スマート農業技術を活用した農業生産技術の確立

| 試験課題名：花粉採取と受粉作業の省力化を可能にするスマート技術の開発 | B1-2-3 |
|---|---|
| 予算区分：外部資金（令和６年度補正予算「スマート農業技術の開発・供給に関する事業」）<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：果樹研究所栽培科 | |
| 概要 | 「暖地オウトウ」の花粉の発芽率は、「ナポレオン」と比較してやや高い傾向が認められた。また、赤葉系に比較して、青葉系は発芽率が高い傾向が認められ、受粉後の主力品目「佐藤錦」の結実状況は、「暖地オウトウ」で「ナポレオン」と比較して低い傾向が認められた。<br>リンゴ花蕾の機械採取時間は「レッドバッド」が最も短く、「スノードリフト」が最も長かった。切り返しによる新梢発生本数は、5cm、10cm 区に比較して 20cm 区で発生が多い傾向が見られた。 |

| 試験課題名：中山間地における農地・農業用施設に関するデジタル管理技術の実証 | B1-2-4 |
|---|---|
| 予算区分：繰入金（中山間ふるさと水と土保全基金）<br>開始年度：2024　　終了年度：2025<br>担当科所：経営・農作業科 | |
| 概要 | 農業用施設位置情報を作成する地図アプリとして、利用料が無料であり、農業用施設の入力可能数にほぼ不足ないグーグルマイマップを選定し、約 8,000 か所をマッピングした。使用マニュアルや、新施設の情報をマイマップに容易に反映できるインポート様式を作成した**【普及成果１】**。 |

Ｂ１－３　先端技術を活用した省力的栽培技術の確立

| 試験課題名：大規模酪農経営における飼養管理技術の確立 | | B1-3-8 |
|---|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：畜産研究所酪農科 | | |
| | 概要 | 県内酪農家が搾乳ロボットの導入を検討する際の参考とするため、つなぎ牛舎のパイプライン搾乳からフリーストール牛舎のロボット搾乳への移行に伴う変化を調査し、分析した。その結果、移行後に標準乳量は増加、飼料効果は上昇し、バルク乳中の体細胞数は減少した。また、搾乳関連作業の内容が変化するとともに、時間の短縮が確認された**【参考成果４４】**。 |

Ｂ１－４　担い手減少に対応した農業生産技術の確立

| 試験課題名：条件不利地や小区画等におけるスマート農業技術導入上の課題等調査と作業性向上技術の確立 | | B1-4-1 |
|---|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：経営・農作業科 | | |
| | 概要 | 狭あいで不整形なほ場において、後付けの RTK 自動操舵システムを搭載した小型、中型トラクタでロータリ耕を行った結果、いずれの大きさのトラクタでも自動操舵による作業は可能であった。ただし、耕うん法を隣接耕とした場合に自動操舵を使用すると、スムーズに旋回できず旋回時間が大きくなるため、熟練オペレータの単位面積当たりほ場作業時間は自動操舵システムを使わないときに約 1 割少なくなった。 |
| **試験課題名：狭あい・小区画ほ場におけるドローンを用いた高精度は種、防除栽培技術の開発** | | **B1-4-2** |
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：会津地域研究所 | | |
| | 概要 | RTK-GNSS 制御のレベラーについては、普通低地水田土のほ場において、土壌含水率 22.6%w.b.、砕土率 55.4%のほ場条件でスムーズなレベラー施工が可能であった。また、高低マップモニターを使用せずに施工した結果、10a 当たり 60 分程度の作業で均平精度が高まった**【参考成果４９】**。均平精度が高いほ場ほど雑草発生量は少なく、多収の傾向が見られたが、ドローンによる播種の均一性が十分ではなかったため、改めて検証する必要が考えられた。 |
| **試験課題名：中山間地における経営(複合経営)シミュレーション** | | **B1-4-3** |
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：経営・農作業科 | | |
| | 概要 | 中山間地域の農業経営の特性及び関連施策を踏まえた経営シミュレーションと農業経営モデル構築のため、データ解析と聴取調査により、中山間地における経営指標に中山間地域等直接支払制度を反映する際の前提条件をまとめた。 |
| **試験課題名：野菜のドローンによるセンシングとドローン防除による省力化・省農薬化** | | **B1-4-4** |
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：浜地域研究所、浜地域農業再生研究センター | | |
| | 概要 | 秋冬ネギにおいて所内試験を行い、手散布とドローン散布による作業時間や防除効果の比較を行った結果、ドローン散布は手散布より散布時間を 7～8 割削減でき、同等の防除効果が得られることを明らかにした。効果的に防除を行うために、ドローンの散布条件、散布時期について今後検討を進めていく必要があると考えられた。 |

| 試験課題名：施設野菜における省力的な栽培技術の確立 | | B1-4-5 |
|---|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：野菜科 | | |
| | 概要 | 間口 7.2m×奥行 19.8m のハウスに、畝幅 50cm×畝高 50cm のアスパラガスの枠板式高畝を 3 畝配置した場合の資材費は約 14 万円と試算され、設置作業時間は、6 人で 4 時間 30 分であった。<br>1 年生株の生育は、「ふくきたる」と「ウェルカム」は慣行栽培と比較し枠板式高畝栽培の方が良好であった。 |

| 試験課題名：鳥類飛来防除の設計(開発)と効果確認 | | B1-4-6 |
|---|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2025<br>担当科所：企画技術科 | | |
| | 概要 | 非公開 |

| 試験課題名：スマート技術を用いた果樹栽培の栽培伝承教材の開発 | | B1-4-7 |
|---|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：果樹研究所栽培科 | | |
| | 概要 | 携帯型果実非破壊測定器「ゆびけん」により測定した第 3 共振周波数は、「あかつき」の果肉硬度と関連があり、収穫適期である果肉硬度 2.2～2.5kg の果実は第 3 共振周波数が 800～1,000 を示す傾向があった。<br>また、核周辺部付近の硬度と関連のある第 2 共振周波数及び第 3 共振周波数を測定し、第 3 共振周波数/第 2 共振周波数を算出した結果、1.31～1.37 の果実は正常果である傾向が明らかになった**【参考成果３０】**。 |

| 試験課題名：果樹栽培における自動化・軽労化 | | B1-4-8 |
|---|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：果樹研究所栽培科 | | |
| | 概要 | ニホンナシ「甘太」及び「王秋」のジョイント V 字トレリス樹形は、定植 7 年目においても成園並の収量を維持できることが明らかとなった。<br>リンゴにおける静電風圧式受粉機による受粉では、ぼん天による受粉に比べ、作業時間が約 57～61%削減されたが、純花粉使用量は 6 倍程度増加した。結実率は、中心果、側果、果そうともに慣行区より低かった。 |

| 試験課題名：花木生産拡大見通と新たな技術確立に向けた可能性調査 | | B1-4-9 |
|---|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：花き科 | | |
| | 概要 | 県内の枝物花木類の生産や販売状況等について調査した結果、山取り品を含む様々な品目が生産、出荷されていることが確認された。特にドウダンツツジの出荷量が多く、需要も大きいことが明らかとなった。また、サクラ類については長さや本数がわかりやすい出荷形態で、120cm 程度のカジュアルな規格の需要が高いことが明らかとなった。<br>6 月に 2 種類の培土を用いてサクラ類の当年枝を挿し木した結果、「彼岸桜」「東海桜」では両培土で発根がほぼ確認されなかったが、高温による葉の萎れの影響が大きいと考えられた。 |

| 試験課題名：畑作物-野菜(畑地利用)における輪作体系及び持続的ほ場管理技術(雑草対策技術含む)の確立 | | B1-4-10 |
|---|---|---|
| | 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：畑作科、野菜科 | |
| | 概要 | 畑作物、土地利用型野菜の輪作体系の検討においては、コムギ、ダイズ、春タマネギ(移植)の輪作体系における春タマネギ、ダイズの生育、収量について調査した。<br>輪作による雑草の増殖対策技術の検証では、センター内ほ場において、コムギ－ダイズ－春タマネギ(移植)の輪作体系で問題となる雑草を調査した。確認された草種はイネ科雑草及び非イネ科雑草ともに、通常のコムギ栽培で使用可能な除草剤で防除できる草種であると考えられた。 |

| 試験課題名：野菜-畑作物(畑地利用)における輪作体系及び持続的ほ場管理技術(緑肥活用技術含む)及び輪作体系の確立 | | B1-4-11 |
|---|---|---|
| | 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：浜地域研究所、浜地域農業再生研究センター | |
| | 概要 | タマネギ、畑作物、緑肥を組み合わせた畑地における輪作体系による持続的なほ場管理技術を確立するため、タマネギ－ダイズ－コムギ－緑肥の 3 年 3 作の輪作体系(輪作区)を組み、タマネギ連作区と比較して、生育・収量及び病害抑制効果、土壌物理性の改善効果を明らかにする試みを開始した。<br>2024-2025 年にタマネギ(初作)を栽培したほ場では全面にべと病の症状が見られた。発病が遅かったため、収量等に影響は見られなかった。タマネギ後に残さをすき込んでダイズを栽培した結果、成熟が遅れたため、減肥が必要である可能性が考えられた。ダイズ作後にコムギを播種し、タマネギは連作区に 2 作目を植え付け、生育状況を確認した。また、水田転換畑でも同様に輪作体系を組み、畑地輪作との生育・収量差、土壌物理性の改善効果を検証することとした。 |

C　県産農林水産物の競争力を強化するための、「ふくしま」ならではの価値向上に資する品種開発等の推進

C１　市場ニーズに対応したオリジナル品種・系統と生産技術等の開発

C１－１　個性豊かな県オリジナル水稲、野菜・花き品種の育成

| 試験課題名：個性豊かな県オリジナル水稲品種の育成 | C1-1-1 |
|---|---|
| 予算区分：寄附金（JA グループ福島寄附金）、一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：品種開発科、浜地域研究所 | |
| 概要 | 出穂期が「あきたこまち」～「日本晴」並の高温登熟性の優れる良質・極良食味品種、低温出芽性と、伸長性があり耐倒伏性の優れる直播向け品種、高度精白可能な酒造好適米品種の育成を目標とし、117 組合せの交配を行い、117 組合せから稔実種子を得た。<br><br>【郡系番号の付与】<br>系統選抜により、一般粳米 29 系統(郡系 1523～1551)、　酒米 7 系統(郡系酒 1552～1558)、飼料用米 3 系統(郡系飼 1559～1561)の計 39 系統に新規で郡系番号を付与した。<br><br>【福島番号の付与】<br>郡系から有望な系統を選抜し、一般粳米 2 系統に福島番号を付与し、次年度の生産力検定本調査、奨励品種決定基本調査に供試することとした。<br><br>【生産力検定調査】<br>福島番号を付与した系統について総合的な評価を行った結果、「福島 59 号」「福島 66 号」「福島 68 号」は、比較品種よりも多収だった。「福島 65 号」「福島 69 号」「福島 84 号」は、高温登熟性に優れ、品質が特に優れていた。「福島 59 号」「福島 65 号」「福島 66 号」「福島 76 号」は、食味が優れていた。<br>「福島酒 82 号」は、栽培特性に優れ、心白の大きさや形状が小さく、高度精白試験の砕米率も低く、精米特性も優れ特に有望であった。福島系統のうち「福島 66 号」、「福島 73 号」「福島糯 80 号」「福島酒 81 号」は特性を把握したため、試験終了とした。<br>「福島 59 号」は、高温登熟条件下でも白未熟粒の発生が少なく、いもち病ほ場抵抗性遺伝子を保有し、耐倒伏性にも優れるなど栽培特性が優れることから、品種登録出願を行うこととした**【普及成果５】**。<br><br>【特性検定試験（耐冷性、葉いもち、穂いもち、真性抵抗性）】<br>耐冷性が「かなり強」以上と判定された系統は 14 系統、葉いもちが「強」以上と判定された系統は 20 系統、穂いもちが「強」以上と判定された系統は 69 系統だった。真性抵抗性は、88 系統についていもち病に対する真性抵抗性遺伝子型を明らかにした。<br><br>【特性検定試験（直播適性、高温登熟性）】<br>湛水直播適性（低温出芽性、低温伸長性）を検定し、福島系統 17 系統、郡系系統 11 系統、単独系統 1 組合せ 69 系統を評価した結果、福島系統、郡系系統について、低温出芽性や低温伸長性に優れた系統はなく、単独系統で低温出芽性が“優”2 系統、“やや優”11 系統だった。<br>高温条件下でも品質が安定した系統を選抜するため、福島番号系統及び郡系系統 30 系統について高温登熟性検定を実施した。「やや強」以上の系統は 17 系統であった。 |

**試験課題名：個性豊かな県オリジナル野菜の品種開発** C1-1-2

予算区分：寄附金（JA グループ福島寄附金）、国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)）
一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：品種開発科

概要

【イチゴ】
収量性、果実品質、病害抵抗性に優れた交配母本を選定し、86 組合せの交配を行った。
個体選抜では、25 組合せ 1594 個体を供試し、14 組合せ 53 個体を選抜した。
系統選抜では、42 系統を供試して 2 系統を選抜し、「郡系 114」「郡系 115」を付与した。
生産力検定では、郡系付与系統 4 系統を供試したが、選抜系統はなかった。

【アスパラガス】
品質及び収量性が優れる全雄系統、又は雌雄混合品種を育成するため、15 組合せの交配を行った。組合せ検定 1 年目に、17 系統を供試した。組合せ検定 2 年目では、供試 17 系統の中で収量に優れた全雄系統 2 系統を継続調査とした。生産力検定(3 年目)と現地試験(5 年目)に「福島交 11 号」を供試し、喜多方の現地ほ場では、既存品種に比べ収量は低く、南会津では、夏に扁平や空洞茎など規格外品の発生が多かったことから、「福島交 11 号」は特性を把握し試験終了とした。

**試験課題名：個性豊かな県オリジナル花き品種の育成** C1-1-3

予算区分：国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)）一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：品種開発科

概要

【リンドウ】
頂花咲き性が優れ需要期に採花できる青紫系品種、新奇性のある花色や花序等の特長を持つ品種を育成するため、自殖 21 系統、組合せ能力検定 124 組合せの交配を行った。
組合せ能力検定(3 年目)では、育種素材として 9 系統を選抜した。
「F1884(4)」の挿し芽増殖適性検定の結果、総合評価は良好であり、組織培養での増殖適性も高かったため、「郡交栄 113」を付与した。
培養適性検定では、交配親系統「06AZ20」「S1914-1」「S1914-3」及び栄養繁殖系統「F1460(2)」「F1884(4)」について適性ありと判断した。

**試験課題名：個性豊かな品種育成のための促進技術開発** C1-1-4

予算区分：外部資金（イノベーション創出強化研究推進事業）、国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)）、一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：品種開発科、会津地域研究所

**概要**

【イネ】
DNA マーカーを用いて福島系統 4 系統、郡系系統 21 系統、単独系統 171 系統の多型解析を行い、葉いもち抵抗性、穂いもち抵抗性、イネ縞葉枯抵抗性、耐冷性及び高温登熟性遺伝子の有無を明らかにした。2024 年に交配し F2 養成を行う 9 組合せ 880 個体についてマーカー解析し、複数の目的遺伝子を集積できた個体を 34 個体選抜した。
全ゲノム解析により、新たに 15 系統のゲノム情報を取得した。また、「福乃香」と「福島酒 67 号」の交配後代を用いて、酒造好適米の特徴的な形質についてゲノム解析を用いた QTL 解析を行った結果、形質との関連が疑われる複数の候補領域を得た。県オリジナル品種の全ゲノム情報を解析したところ、「天のつぶ」の特徴的な形質である短稈の遺伝的由来が、半矮性遺伝子“*sd1*”に由来するものであることを明らかにした**【普及成果６】**。
岩手県及び宮城県において遺伝子集積による超多収良食味品種の育成を目的として、複数の組合せで遺伝子が集積された系統の生産力検定を行った結果、供試系統全てで目標とする 800kg/10a の収量には達しなかったが、5 系統が「ひとめぼれ」を上回る多収となった。

【リンドウ】
白色 3 系統 6 個体の未受精胚珠培養により、349 株の植物体のうち、9 個体で稔性が確認できた。

【アスパラガス】
両生花由来種子から得た実生苗 60 個体のうち、「2210」10 個体、「0905」1 個体、「ハルキタル」6 個体の計 17 個体が超雄であった。

**試験課題名：バイテク活用による優良原種苗の長期保存・増殖技術開発** C1-1-5

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：品種開発科

**概要**

【リンドウ】
エゾリンドウ 2 系統及びササリンドウ 2 系統を用いて、培地条件について温度と植物成長調整剤を組み合わせて培養苗の生育に及ぼす影響について検討し、越冬芽形成に有効となる培養法を開発した。また、培養苗の長期保存方法を確立するため、越冬芽の得られた 2 系統について植物成長調整剤の種類と濃度及び温度条件を組合せて、3～4.5 か月保存における生育について明らかにした。

【オタネニンジン】
オタネニンジン品種「かいしゅうさん」6 年生株の葉片培養において、不定胚は小葉より小葉柄で形成されやすく、培養素材として小葉柄が適していると考えられた。一方、スペルミジンの添加による有効性は確認されなかった。

## Ｃ１－２　作物、野菜、花きの有望品種・系統の評価

**試験課題名：奨励品種決定調査**　C1-2-1

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：稲作科、畑作科、会津地域研究所、浜地域研究所

概要

水稲では、予備調査で「福島 74 号」「福島 75 号」「福島 78 号」(本部、会津研、浜研 3 所共通)をやや有望とした。本調査では、「福島 68 号」を再検討(3 所共通)、「福島 69 号」を有望(会津研)、再検討(本部、浜研)、「福島 65 号」を有望(会津研)、やや有望(本部、浜研)、「福島 59 号」及び「福島酒 82 号」を奨励品種候補(3 所共通)とした。

コムギでは、予備調査で「東北 241 号」を再検討とした。

オオムギでは、予備調査で「こはく雪(北陸二条皮 70 号)」「北陸皮糯 81 号」を再検討とし、「北陸皮 79 号」を試験終了とした。

ダイズでは、予備調査で 6 品種系統供試し、「関東 155 号」をやや有望、「東北 197 号」、「東北 200 号」「関東 156 号」「そらひびき」「そらみずき」を再検討とした。本調査では「北陸 6 号」について検討し、再検討とした。

## Ｃ１－３　作物、野菜、花きの有望系統・新品種の栽培技術の確立

**試験課題名：県産米の高品質化・良食味米生産のための栽培管理技術の確立**　C1-3-1

予算区分：外部資金（新稲作研究会委託試験、稲民間育成品種評価委託試験）、寄附金（JA グループ福島寄附金）
開始年度：2021　　終了年度：2027
担当科所：稲作科、会津地域研究所、浜地域研究所

概要

稲民間育成品種評価委託試験について、民間育成系統「I 系 8」を供試し、有望度を並(比較品種：コシヒカリ)とした。

水稲米粉用品種(パン用「ゆめふわり」「笑みたわわ」、麺用「越のかおり」)の生育、収量及び製粉特性は、前年と同様の傾向であった**【参考成果２０】**。

「天のつぶ」「福笑い」のザルビオフィールドマネージャーによる生育ステージ予測について、主要な生育ステージ(幼穂形成始期、出穂期、成熟期)では実測値と予測値に大きな差は見られなかった。「福笑い」の同システムによる生育診断については、生育量や収量、玄米タンパク質含有率などは、NDVI から推定可能であり、幼穂形成期の NDVI を用いた生育指標値を作成した**【参考成果１６】**。

「福島 59 号」の中通り平坦地域における栽培方法確立に向けて、生育や収穫適期を調査した。出穂期は 8 月 15 日、成熟期は 9 月 26 日であった。基肥窒素施肥量の増加に従い収量は増加し、減数分裂期追肥区で多収となった。移植 30 日後までの窒素吸収量は少なく、茎数増加は緩慢であった。出穂後積算気温 1050～1200℃で収穫したサンプルの玄米品質が優れた。

「福島 59 号」の会津平坦地域における生育や、収穫適期を調査した。出穂期は 8/14 頃、成熟期は 9/26 頃であり、全区で倒伏は見られなかった。収量は籾数/㎡と相関が高かった。窒素の総施肥量 0.8kg/a 以上で玄米のタンパク質 6.4 以上、食味値 80 未満となった。整粒歩合と検査等級から見た刈取適期は、積算平均気温 1100～1200℃程度であった。

**試験課題名：県オリジナル酒造好適米の栽培方法の確立**　C1-3-2

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2026
担当科所：品種開発科、稲作科、会津地域研究所

概要

「福島酒 82 号」の中通り平坦地域における栽培方法確立に向けて、生育や収穫適期を調査した。出穂期は 8 月 4 日、成熟期は 9 月 12 日であった。基肥窒素施肥量の増加に従い稈長が長くなった。出穂後積算気温 1100～1200℃で収穫したサンプルの玄米品質が優れた。

「福島酒 82 号」の会津平坦地域に適した栽培法を検討した。基肥より追肥の方が収量に影響し、減数分裂期の追肥が最も収量が増加した。また、無追肥の場合と比較して、減数分裂期の追肥により玄米蛋白質含有率が最大 0.5 ポイント増加した。

| 試験課題名：野菜の有望系統・新品種の栽培技術の確立 | C1-3-3 |
|---|---|
| 予算区分：国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：野菜科 | |
| 概要 | イチゴ「福島 ST14 号」の暖候期の栄養成長への傾きを抑えるために追肥量について検討したが、追肥量が生育及び収量に及ぼす影響は判然としなかった。 |

| 試験課題名：花きの有望系統・新品種の栽培技術の確立 | C1-3-4 |
|---|---|
| 予算区分：国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：品種開発科、花き科、会津地域研究所、浜地域研究所 | |
| 概要 | 【リンドウ】<br>「天の川」の追肥時期や施肥量ついて検討し、春肥の施肥量を増やし萌芽期に施用することで草丈、節数が向上し上位規格品が増加することを明らかにした**【参考成果２６】**。<br>「福島栄 24 号」の挿し芽時期を３月上旬、３月下旬、４月中旬に分けて定植した結果、4 月中旬区では一部で欠株が見られた。<br>「福島栄 24 号」「天の川」の定植にあたり、無処理、定植直前、定植 4 週間後にジベレリン処理した結果、2 品種とも草丈・節数は定植 4 週間後区で多く、茎数は定植直前区で多かった。<br><br>【カラー】<br>県育成 3 品種は、定植時の球根重が 30ｇ以上であれば開花が期待できると考えられた**【参考成果２４】**。<br>順化苗の低温処理効果について、購入苗を 60 日間 10℃で冷蔵した後、所内のパイプハウス及び現地生産ほ場に定植した結果、出芽が遅れ生育も緩慢であり無処理区と比較して球根重も小さかった。2024 年度に所内で培養し順化した苗については、低温処理 60 日、90 日で出芽揃いと生育が良好だったが、購入苗については 60 日間の低温処理期間では休眠打破が不十分であったと考えられた。<br>また、培養中に 10℃で 90 日間低温処理した後順化した苗を、冬期間に温室に定植し栽培した結果「はにかみ」と「ミルキームーン」は低温処理により球根重の増加が促進されることが確認された。<br>会津地域の現地ほ場(猪苗代町)においては、培養苗を鉢上げすることにより、掘上げ後の球根重が重くなる傾向が見られたが、品種によっては逆転する場合もあった。また、3 品種ともに培養苗を低温処理した方が掘上げ後の球根重が軽かった。また、培養苗をほ場に直接定植した場合、「はにかみ」「ミルキームーン」については定植時期が早いほど開花見込み球が多かった。7 月中旬以降の定植の場合、3 品種ともに開花見込み球が得られた割合は 1 割未満であり、7 月中旬以降の定植では球根が十分に肥大しないと考えられた。 |

## Ｃ１－４　個性豊かな県オリジナル果樹品種の育成

| 試験課題名：個性豊かな県オリジナル果樹品種の育成 | C1-4-1 |
|---|---|
| 予算区分：寄附金（JA グループ福島寄附金）、国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)）<br>一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所栽培科、流通加工科 | |
| 概要 | モモ福島 18 号、19 号について、品種登録に向けた特性調査を実施するとともに**【参考成果３２】**、検討会の実施など品種化に向けて手続きを進めた。<br>「川中島白桃」と同時期に収穫され、果実が大きく品質が優れる系統を、福島 20 号として選抜した**【参考成果３３】**。<br>リンゴの交雑実生 200 個体で DNA マーカーによる選抜を実施した結果、着色、日持ち性、非生理落果性ですべて優性の個体 20 個体を選抜した**【参考成果３６】**。<br>ブドウでは、初結実した 5 組合せ 16 個体について品質調査を実施したが、果実は小さく成熟期の判断が難しかった。 |

## Ｃ１－５　果樹の有望系統の評価および新品種・有望系統の栽培技術の確立

**試験課題名：果樹系統適応性検定試験**　C1-5-1

予算区分：外部資金（系統適応性・特性検定試験）、一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：果樹研究所栽培科

| 概要 | 非公開 |
|---|---|

**試験課題名：県オリジナル果樹品種の安定生産・流通技術の確立**　C1-5-2

予算区分：国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)）、一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：果樹研究所栽培科

| 概要 | モモ「はつひめ」は、早生品種であるため樹勢が強勢化し、樹が大型化しやすいが、「ひだ国府紅しだれ」を台木として使用することにより、幹周や樹冠の拡大が７割程度に抑えられ、収量や果実の大きさ、着色や糖度などの果実品質は「おはつもも」台と同程度～やや優れる傾向があった**【参考成果３４】**。<br>ナシ福島７号は、果皮色が RGB 表色系における R 値 210 以下が未熟、210～230 の場合適熟、230 以上の場合過熟に分類されると考えられた**【参考成果３８】**。 |
|---|---|

## Ｃ１－６　個性豊かな県優良家畜等の改良

**試験課題名：牧草・飼料作物の優良草種・品種の選定**　C1-6-1

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2028
担当科所：畜産研究所飼料環境科

| 概要 | 越夏性に優れたオーチャードグラスの品種を選定するために、「まきばゆうか」「きよは」「バッカス」の３品種を供試品種として播種した結果、「きよは」のみ初期生育及び定着時草勢が参考品種より優れていた。 |
|---|---|

**試験課題名：「フクシマ L2」の開放型育種**　C1-6-2

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：畜産研究所肉畜科

| 概要 | 「フクシマ L2」種豚群に「(新)フクシマ L2」後継豚３頭を組み入れることで、平均近交係数が 10.0%、平均血縁係数が 28.4%に低下した。今年度をもって開放型育種を終了し、再度閉鎖群として「フクシマ L2」の長期的維持及び能力向上を図る**【参考成果４６】**。 |
|---|---|

**試験課題名：県ブランド鶏の改良と開発**　C1-6-3

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：畜産研究所養鶏科

| 概要 | 「会津地鶏」と「川俣シャモ」の雌系種鶏である「ロードアイランドレッド種 P13」系統、雄系種鶏である「大型会津地鶏」と「大型しゃも」の推定育種価は向上し、遺伝的改良は進んでいた。P13 系統は、造成開始から 22 世代となり近交係数が上昇している。民間種鶏場飼養の種鶏性能において直近５年間で近交退化は認められていないが、近交係数の上昇値から９年後の種鶏更新を目指し、後継系統作出スケジュールを作成した。 |
|---|---|

| 試験課題名：胚移植技術を活用した高能力肉用牛の効率的生産技術の確立 | C1-6-4 |
|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：畜産研究所動物工学科 | |
| 概要 | 2023 より休止 |

| 試験課題名：ゲノム情報を活用した家畜の育種改良技術の確立 | C1-6-5 |
|---|---|
| 予算区分：国庫（「福島牛」次世代型技術実証事業）、一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：畜産研究所動物工学科 | |
| 概要 | 県有種雄牛 12 頭(枝肉重量の推定育種価正確度 0.95 以上)の推定育種価(2025 年 9 月)と(独)家畜改良センターとの共同研究で得られたゲノム育種価(2025 年 11 月)(以下、全国評価)との間においては、枝肉重量、ロース芯面積、皮下脂肪厚及び歩留基準値で高い相関を、バラの厚さ及び脂肪交雑で中程度の相関を確認した。<br>オレイン酸の推定育種価を持つ県有種雄牛13頭(枝肉重量の推定育種価正確度0.65～0.93以上)の推定育種価と、全国評価との間において、相関係数は、中程度(r=0.55)の相関を、推定育種価と県ゲノム育種価(2025 年 11 月)(以下、県評価)との相関係数は、やや高い(r=0.78)相関を認めた。また、全国評価と県評価との相関係数は、やや高い(r=0.75)相関を認めた。<br>2023 年に整備した福島県独自訓練群(2025 年 11 月現在 6,033 頭)により、県内繁殖雌牛 2,268 頭についてゲノミック評価を実施し、遺伝的趨勢を確認した。県内繁殖雌牛における枝肉 6 形質のゲノム育種価は、基準となる訓練群より高かった。 |

## Ｃ２　農産物を「ふくしま」ならではの産品にする技術の開発

### Ｃ２－１　県産農産物の特性を活かした利用技術の開発

| 試験課題名：県産農産物の加工技術の開発 | C2-1-1 |
|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：流通加工科 | |
| 概要 | あんぽ柿の国内での通年販売や輸出に寄与するため、冷凍あんぽ柿の解凍後の保管温度の違いによる日持ち性を調査した。 |

| 試験課題名：県産農産物の品質保持技術の開発 | C2-1-2 |
|---|---|
| 予算区分：一般財源、国庫（福島ならでは農林水産物ブランド力強化事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：流通加工科 | |
| 概要 | アスパラガスの茎色は、R(赤)値と L*(明度)値で評価できることを明らかにし、茎色の評価指標を作成した**【参考成果１３】**。会津産地(5 月、7 月)での茎色及び糖度の頻度分布割合を調べ、2024 年に調査した市場流通品の頻度分布割合と比較した結果、会津産は茎色が良く、糖度が高かった**【参考成果１４】**。<br>アスパラガスの官能評価試験を行った結果、糖度が 5.1%以上で甘味を感じ、美味しいと評価されやすく、糖度が 4.6%を下回ると総合評価が低下した。主要な 3 種の糖(フルクトース、グルコース、スクロース)の組成比は、フルクトース及びグルコースが占める割合が大きく、3 糖の総量が増加するほど、糖度は増加する相関が見られた。<br>「べにこはく」を市場出荷する際に想定される 1.0℃の冷蔵環境において、果実品質を階級別に調査した。 |

| 試験課題名：本県農産物の機能性成分の評価と利用技術の開発 | | C2-1-3 |
|---|---|---|
| 予算区分：国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究)）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：流通加工科 | | |
| | 概要 | 「べにこはく」「ふじ」のプロシアニジン類含有量は、収穫直後から貯蔵３か月後まで維持された。プロシアニジン類の局在は、両品種ともに定量分析の結果との間に一定の傾向が認められず、果実全体に存在していた。<br>アスパラガスをピクルスに加工し、ルチン含有量を測定した結果、商品化のために加熱殺菌を行っても完成直後まで維持されているが、常温保存１か月後には減少し、調味液に溶出していた**【参考成果１５】**。<br>ブドウを干しブドウに加工した際の GABA 含有量は、「あづましずく」「巨峰」ともに、いずれの熱風乾燥方法(低温乾燥、高温乾燥)でも維持された。「あづましずく」は、熱風乾燥により GABA 含有量が増加する傾向が見られたが、「巨峰」では有意な差は認められなかった。<br>ブロッコリーに含まれるアミノ酸含有量の一次加工による変化を調査した結果、ペースト、粉末、チップスの順に多く維持でき、ペーストの変化が最も小さかった**【R6 秋冬作参考成果２】**。ルテイン含有量の加熱処理による変化を調査した結果、生と比べいずれの加熱処理(蒸し、レンジ、茹で)でも維持された**【R6 秋冬作参考成果３】**。<br>また、ブロッコリーの一次加工後のルテイン含有量を測定するとともに、ポタージュ加工時の殺菌処理によるビタミンＣ及びアミノ酸含有量の変化を調査した。 |

## Ｃ２－２　県産農産物の輸出拡大に向けた生産・保鮮技術等の開発

| 試験課題名：モモせん孔細菌病に対する多目的防災網を活用した防除効果の検証 | | C2-2-1 |
|---|---|---|
| 予算区分：国庫（園芸グローバル産地育成強化事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所病害虫科 | | |
| | 概要 | 発芽期からの多目的防災網の設置は、モモせん孔細菌病の防除効果が高く、果実品質への影響は認められなかった。また、害虫の発生については、多目的防災網内及び雨よけ栽培においてはハダニ類の発生がやや多く認められたものの、その他の害虫の発生は明確な違いは認められなかった。 |

| 試験課題名：シュッコンカスミソウの輸出に向けた鮮度保持技術の開発 | | C2-2-3 |
|---|---|---|
| 予算区分：繰入金（原子力災害等復興基金）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：会津地域研究所 | | |
| | 概要 | 産地から湿式輸送後、市場にて乾式梱包し、輸出を想定して保管した後に開梱した結果、カビの発生は見られなかった。<br>前処理剤に品質保持剤を添加し、25℃・24h 日長で 48h 催花処理したときに最も日持ち日数が長く、市場が求める日持ち日数である１週間以上の日持ちであった。資材費は、前処理剤のみの場合から１本あたり 0.1 円増加した。切り前については、適期に収穫したもの(1.8)と開花程度前進(2.0)で日持ち日数に大きな差はなかった【成果非公表】。 |

| 試験課題名：ナシ黒星病に対する秋期及び果実肥大後期の新防除体系の検証 | | C2-2-4 |
|---|---|---|
| 予算区分：国庫（園芸グローバル産地育成強化事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所病害虫科 | | |
| | 概要 | ナシのりん片生組織露出芽率は、10 月中旬頃から高くなり、11 月にピークとなった。また落葉率は、11 月上中旬までに８割以上となったことから、現在の秋期防除の実施時期が適切であることが明らかとなった。 |

| 試験課題名：花き類の保鮮流通技術の開発 | | C2-2-6 |
|---|---|---|
| 予算区分：繰入金（原子力災害等復興基金）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：花き科 | | |
| 概要 | ドウダンツツジの切り枝について、鮮度保持剤の有無による日持ち性を調査した結果、前処理剤のみ、または水道水のみで日持ち期間が長くなり、その期間は平均にして約２か月であった。後処理剤の利用は日持ち期間を低下させた。<br>また、サクラ類の切り枝は、前処理剤及び後処理剤の利用により日持ち期間がやや長くなる傾向が見られた。 | |

## Ｃ２－３　「福島牛」ブランド競争力強化技術の確立

| 試験課題名：「福島牛」の高付加価値生産システムの確立 | | C2-3-1 |
|---|---|---|
| 予算区分：国庫（福島県産農産物競争力強化事業(研究）、福島牛改良基盤再生事業、<br>うまい！「福島県産牛」生産・販売力強化対策事業）、一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：畜産研究所肉畜科 | | |
| 概要 | 同一個体の牛肉のサシ形状を比較する嗜好型官能評価を実施した。小ザシ区と粗ザシ区の比較では、粗ザシ区で「やわらかい」「ジューシー」「口どけの良さ」「脂がくどい」「甘い風味」の項目が有意に高かった。<br>「隆福久」はゲノム育種価において胸最長筋面積、歩留まり基準値、脂肪交雑が福島県平均を上回り、産子の枝肉成績においても全国値と比べ高い数値となった。「隆之白清」は枝肉重量、ばらの厚さが全国値と比べ高い数値となった。「桃勝晴」は、ばらの厚さが全国値と比べ高い数値となった。<br>県内肥育牛 2,401 頭の枝肉横断面画像から県種雄牛の脂肪交雑形状指標(脂肪面積割合、新細かさ指数、あらさ指数)のゲノム育種価を算出し、推定育種価との相関を調査した。ゲノム育種価と推定育種価の相関は 0.7～0.9 と高かった**【普及成果１３】**。 | |

## Ｃ２－４　「ふくしま」ならではの地域特産物を活かした栽培・流通技術の確立

| 試験課題名：オタネニンジンの産地づくり支援に関する研究 | | C2-4-4 |
|---|---|---|
| 予算区分：国庫（地域特産活用産地づくり支援事業）<br>開始年度：2022　　終了年度：2025<br>担当科所：会津地域研究所、品種開発科 | | |
| 概要 | オタネニンジンのコンテナ栽培において栽植密度や様式を変えて栽培した結果、１コンテナ当たり 250 粒の点播で良好な結果であった。また、敷きわらの設置により地温を下げ、土壌中の水分の蒸発を抑えることが可能と考えられた。使用コンテナは、底部がメッシュのもので根長が長くなった。<br>催芽処理においては、水分率 40%のパーライト大粒を用いることで種子の成熟に良好な傾向が見られ、ジベレリン処理によって催芽を助けることが示唆された。<br>オタネニンジンの組織培養において、小葉柄片は小葉片より不定胚形成効率が高く、より適した供試素材であった。また、不定胚形成数は植物成長調整剤(AVG)濃度が高い(1.0～2.5μM)場合に多い傾向を示した。<br>オタネニンジンの休眠誘導時は 10℃で管理することにより、休眠までの生育期間の短縮と安定した休眠芽形成が可能であった。<br>オタネニンジン培養苗 10 株を外部環境で養成した結果 9 株生存でき、内４株から計 22 粒の種子を得た。また、2024 年度に採種した培養苗由来種子２粒は催芽できたが、発芽には至らなかった。 | |

| 試験課題名：エゴマ安定生産体系の確立 | | C2-4-5 |
|---|---|---|
| | 予算区分：国庫（地域特産活用産地づくり支援事業）<br>開始年度：2022　　終了年度：2025<br>担当科所：畑作科、経営・農作業科 | |
| | 概要 | 【播種・収穫適期】<br>県内で普及している「田村在来(黒種)」と早生品種である「下郷町在来」について、時期を変えて播種した結果、「田村在来(黒種)」は早期播種により播種作業の分散が期待できた。また、「下郷町在来」は 4 月播種で早期開花、5 月播種で生育障害が確認されたことから播種期が 6 月上旬以降に限定されるが、「田村在来(黒種)」と組み合わせることで収穫作業の分散が期待できた。<br><br>【追肥時期】<br>施肥法に関する試験では、8 月中旬頃の追肥で草丈、主茎長が長く、個体が大きくなる傾向にあった。8 月下旬以降の追肥の効果は判然としなかった。<br><br>【経営調査】<br>県内 2 市村のエゴマ小規模経営体を 2 か年調査し、経営指標を取りまとめた。その結果、所得は 38,470 円/10a、総作業時間は 76.5 時間/10a となった**【参考成果６】**。 |

## Ｄ　地球温暖化等の気候変動に対応し、環境と共生する農林水産業を進めるための技術開発等の推進

### Ｄ１　気候変動に対応し農業生産の安定化に寄与する技術の開発

#### Ｄ１－１　気候変動に対応した生産技術の開発

| 試験課題名：夏季高温条件下における良質・良食味米生産技術の確立 | | D1-1-1 |
|---|---|---|
| | 予算区分：寄附金（JA グループ福島寄附金）<br>開始年度：2021　　終了年度：2026<br>担当科所：稲作科 | |
| | 概要 | センター本部における 2025 年の気象条件下では、出穂期追肥により整粒歩合が高まった。減数分裂期や出穂期の追肥により葉色が高まった。出穂後の葉色と整粒歩合には相関があった。<br>また、6 月中旬移植でも安全成熟期晩限日までに成熟期に達した。しかし、6 月移植では出穂後 20 日間の気温が 26℃を上回って最も高くなり、倒伏により登熟歩合が低下し、玄米タンパク質含有率や白未熟粒が増加した。 |

| 試験課題名：主要野菜の安定生産技術の確立 | | D1-1-2 |
|---|---|---|
| | 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：野菜科 | |
| | 概要 | アスパラガス半促成栽培において、「夏季追加立茎法」の本県オリジナル品種「ふくきたる」への適応性を検討した結果、通常の立茎に加えて 7 月中下旬に追加立茎を行うことで、その後 1 か月程度は収量が減少するが、翌年の春どり収量が増加し、年間収量は慣行栽培と同程度となることを明らかにした**【R6 秋冬作普及成果１】**。また、「ふくきたる」4 年生株において、早期保温することで収穫時期の前進化が見られたが、1 月上旬よりさらなる出荷時期の前進はできなかった。 |

| 試験課題名：温暖化傾向に対応した花きの安定生産技術の確立 | | D1-1-3 |
|---|---|---|
| | 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：花き科 | |
| | 概要 | 宿根カスミソウの 8 月摘芯栽培において、被覆資材として紫外線カット PO フィルムを用いた結果、通常の PO フィルムと比較しアザミウマ類の飛び込みは抑えられ、切り花長は長く、切り花重は重くなる傾向が見られた**【参考成果２８】**。 |

**試験課題名：主要農作物生育作柄解析調査研究** D1-1-4

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：稲作科、畑作科、会津地域研究所、浜地域研究所

概要

【水稲】
6月以降の高温により、平年に比べて生育ステージが早まった。精玄米重(篩目1.7㎜以上)は、平年対比で本部が97～108(「天のつぶ」は穂数、㎡籾数の増、「福笑い」は1穂籾数、㎡籾数の減)、会津地域研究所が98～107(1穂籾数、登熟歩合、千粒重の増)、浜地域研究所が105～116(穂数、登熟歩合、千粒重の増)であった。整粒歩合について、本部では平年より低く、会津地域研究所と浜地域研究所では概ね平年並みだった。粒厚は本部と会津地域研究所で薄く、浜地域研究所では厚かった。

【ダイズ】
本部では高温により開花までの日数が短かった。収量は平年を上回ったが品質は裂皮粒が多くみられた。会津地域研究所では、高温により生育は旺盛で、開花までの日数が短かった。収量は「あやこがね」が平年より多く、「里のほほえみ」は平年並みであった。品質は裂皮が多くみられた。浜地域研究所では、高温により収量は「タチナガハ」が平年より少なく、「里のほほえみ」が平年並みであった。品質は裂皮粒が多く見られた。

【ムギ類】
本部では2月が低温で経過し、会津地域研究所では積雪の影響により出穂期が平年より遅くなった。浜地域研究所では気温が1月～2月に平年並みで経過したため、出穂期は平年並みであった。収量は本部、会津地域研究所が平年を上回り、浜地域研究所は平年並みであった。品質は本部が平年を下回り、会津地域研究所は平年を上回り、浜地域研究所は平年並みであった。

**試験課題名：温暖化に対応した果樹の生育予測技術及び生育障害対策技術の確立** D1-1-5

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：果樹研究所栽培科、会津地域研究所

概要

2016年から2025年の「はつひめ」の硬核期開始日、収穫開始日、収穫盛期日と「あかつき」の硬核期開始日及び「モモ「あかつき」の硬核期・収穫期予測システム」による硬核期開始予測日から、「はつひめ」の収穫期を予測するシステムを作成した。予測精度は、RMSEで硬核期以前が1.9日、硬核期以降が0.8～1.3日であった**【普及成果９】**。
ナシ「豊水」において収穫期直前の気温が高いと果皮中クロロフィル含量が高い傾向が見られ、地色の抜けが遅れるので、収穫遅れによるみつ症の発生に注意が必要であることを明らかにした**【参考成果３７】**。
リンゴ「ふじ」において、着脱が容易で繰り返し使用可能な白色化繊布(商品名：サンテ)を利用することにより、慣行栽培と比較して日焼け発生果実数は約27～47%抑制された。 果実品質は、試験区、慣行区ともに差が見られなかった**【参考成果３５】**。
会津地域におけるリンゴ、カキの本年の生育や品質を調査した。リンゴは、開花盛期が平年よりやや早まった。早生から中生の赤色系品種で着色が遅延したこと、「王林」でデンプンの抜けが悪かったことなどから、平年よりも収穫期が遅い品種が多かった。カキは、発芽日、満開日が平年より1日遅かった。果頂部の着色は平年より高く推移し、生育日数は平年より早くなった。また、収穫果実で汚損果が多かった。脱渋後の果実は、平年よりも糖度が高く、硬度はやや低かった。

**試験課題名：気候リスク対応飼料生産技術の確立** D1-1-6

予算区分：外部資金（日本中央競馬会助成事業）
開始年度：2025　　終了年度：2027
担当科所：畜産研究所飼料環境科

概要

超極早生品種「ハヤミノルド(RM60)」を4月上旬、5月上旬、6月上旬、7月上旬に播種した結果、播種日が遅くなるほど黄熟期までの到達日数が短くなった。7月播種ですす紋病が多発し、乾物雌穂重及び乾物総重量が有意に少なくなった。

## Ｄ１－２　温暖化・異常気象に対応した技術の開発

**試験課題名：気候変動に対応した果樹病害虫の発生生態解明及び防除法の検討　D1-2-1**

予算区分：一般財源
開始年度：2025　　終了年度：2027
担当科所：果樹研究所病害虫科

概要

主要害虫の発生消長調査及び発生予測を行った結果、ナシヒメシンクイの発生世代数は、平年より１世代多い見込みであること、ナシヒメシンクイの第５世代防除適期に残効の長い薬剤を使用することで第６世代の防除を省略できる可能性があることを明らかにした。

カイガラムシ類の歩行幼虫の発生消長を調査し、発生時期は有効積算温度による予測とおおむね一致することを確認した。

**試験課題名：水稲の品種開発ほ場や種子生産ほ場における異型判別技術の開発　D1-2-2**

予算区分：一般財源
開始年度：2025　　終了年度：2027
担当科所：稲作科

概要

非公開

**試験課題名：会津地方 50m メッシュ精密気象データの作成と利用　D1-2-3**

予算区分：一般財源
開始年度：2025　　終了年度：2027
担当科所：会津地域研究所

概要

会津盆地内の 20 地点の気温から 50m メッシュ精密気象データのモデルを作成することができた。また、精密気象データの温度とメッシュ作成範囲の 18 箇所の実測値を比較した結果、誤差の平均値は最低気温のモデルで 0.8～1.8℃、最高気温のモデルで 0.6～1.4℃、平均気温のモデルで 0.2～0.5℃であり、実用性が高いと考えられた。

**試験課題名：気候変動予測データを活用した水稲の白未熟粒発生シミュレーション　D1-2-4**

予算区分：一般財源
開始年度：2025　　終了年度：2027
担当科所：稲作科

概要

施肥方法の違いによる成熟期の形質、収量構成要素に差は見られなかったが、5 月上、中旬移植では減数分裂期や出穂期の追肥量の増加に従い、玄米タンパク質含有率が高まり白未熟粒歩合の減少が確認された。一方、6 月中旬移植でも追肥量の増加に従い、玄米タンパク質率が高まり、白未熟粒歩合は減少するが、そもそもの未熟粒発生量が多く、品質向上評価は低いと考えられた。本データ及び玄米サンプルを農研機構へ送付し、白未熟粒発生モデルを用いたシミュレーションにて現在解析中である。

**試験課題名：病害虫の発生リスク評価と対応策　D1-2-5**

予算区分：一般財源
開始年度：2025　　終了年度：2027
担当科所：作物保護科

概要

気候変動による病害虫発生予測リスクマップを作成するため、葉いもち病について 42 地点の気象データから BLASTAM による感染好適条件を判定した**【R6 秋冬作参考成果１】**。

タバココナジラミの越冬可能性について、会津坂下町、郡山市、相馬市においてハウス等での成虫・幼虫の生存について 12 月～3 月に調査した。

**試験課題名：果樹栽培における温暖化に打ち勝つ生理障害等の対策技術確立　D1-2-6**

予算区分：一般財源
開始年度：2025　　終了年度：2027
担当科所：果樹研究所栽培科

概要

石川県で作成したブドウの果皮色予測式から算出したカラーチャート値は、実測値より低い傾向があり、実用性は確認できたが、精度の向上が必要であると考えられた。

イチジクの試験ほ場を整備し、苗木時代の生育データを取得した。

ウンシュウミカンの果実品質データを取得し、静岡県と比較した結果、「宮川早生」の糖度は、12.8°Brix、酸含量は 0.72%であり、本県産の果実より糖度が高く、酸含量は低かった。

**試験課題名：本県奨励品種に合わせた小麦の発育段階モデルの構築　D1-2-7**

予算区分：一般財源
開始年度：2025　　終了年度：2027
担当科所：浜地域研究所、畑作科

概要

既存の試験データを基に、浜通りにおけるコムギ「さとのそら」の発育段階モデルのパラメータを推定した結果、播種期から出穂期は高い精度で予測が可能であったが、出穂期から成熟期は作期や年次の異なるサンプル数を増やすなど予測精度の向上が必要であると考えられた。この発育段階モデルと長期気象予測を活用した生育ステージ予測では、10 月下旬～11 月中旬播種では高い精度で出穂期、成熟期の予測が可能であると示唆された。

「さとのそら」の播種量を検討した結果、慣行の播種量 8kg/10a よりも播種量を減らした 4～6kg/10a において、同程度の収量・品質の確保が可能であることが明らかになった。

**試験課題名：建築資材を用いた片屋根新型ハウス導入の検討　D1-2-8**

予算区分：一般財源
開始年度：2025　　終了年度：2027
担当科所：野菜科

概要

片屋根ハウスの施設内気温上昇抑制効果とトマトの生育及び収量に及ぼす影響を検討した結果、片屋根ハウスは慣行ハウスと比較し、日最高気温、日平均気温が低く抑えられた。また、「桃太郎みなみ」において着果率の低下が抑えられたものの、収量への影響は見られなかった。5.4m×20m の片屋根ハウス 1 棟にかかる資材費は約 180 万円であった。

**試験課題名：花き類の高温障害対策技術の確立　D1-2-9**

予算区分：一般財源
開始年度：2025　　終了年度：2027
担当科所：花き科

概要

【リンドウ】

遮光資材を設置したリンドウほ場において、積極的なかん水が高温障害の発生に及ぼす影響を調査した結果、かん水を行うことで高温障害の発生が抑えられる傾向が見られた。また、遮光無しでもかん水を行うことで障害の発生割合や程度がやや低下する傾向が見られた。

【鉢物（シクラメン）】

県内の鉢物生産者に対し、シクラメンとパンジーを対象として近年の猛暑の影響や実施している対策等について聞き取り調査を実施した結果、高温の影響としては開花期の遅れ、生育不良、病害虫の発生拡大等が下られた。対策としては、遮光や換気に加え葉水の効果を実感している生産者が多かった。

**試験課題名：光を利用した病害虫防除技術の開発　D1-2-10**

予算区分：一般財源
開始年度：2025　　終了年度：2027
担当科所：作物保護科

概要

光を活用した虫害防除技術を開発するため、イチゴにおいてハダニの忌避、アザミウマの誘因に関する光の影響について、それぞれ波長別に 3 月から試験を開始した。

## Ｄ２　環境負荷を低減する農業生産に資する研究開発

### Ｄ２－１　中山間地における農地管理技術の開発

| | | |
|---|---|---|
| **試験課題名：被災地域におけるほ場整備事業後の効果調査** | | **D2-1-4** |
| 予算区分：繰入金（中山間ふるさと水と土保全基金）<br>開始年度：2025　　終了年度：2026<br>担当科所：経営・農作業科 | | |
| | 概要 | ほ場整備が行われた２地区の担い手法人の状況を経時的に把握した結果､ほ場整備により、経営者能力を有する担い手の労働時間の低減や、機械の効率化が進んでおり、経営発展の一助になることが示された。 |
| **試験課題名：中山間地域におけるスマート農業技術の導入上の課題及び効果調査** | | **D2-1-5** |
| 予算区分：繰入金（中山間ふるさと水と土保全基金）<br>開始年度：2025　　終了年度：2025<br>担当科所：経営・農作業科 | | |
| | 概要 | スマート農業技術を使用している稲作経営体を対象として導入上の課題について調査した結果、中山間地域における自動操舵システム類と農業用ドローンの満足度は高く有効性が示された。一方で、「農地分散による作業効率の低下」「山林付近における通信障害及び接触リスク」「条件不利地での導入効果に不安を感じること」が導入上の課題として挙げられた**【参考成果５】**。 |

### Ｄ２－２　環境と共生する病害虫防除技術の開発

| | | |
|---|---|---|
| **試験課題名：総合的病害虫管理（IPM）による環境と共生する農業技術の確立** | | **D2-2-1** |
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：作物保護科 | | |
| | 概要 | 水稲のいもち病について、ほ場群落における穂いもちの被害リスクが高まる時期は、出穂２日前と推定された**【R6 秋冬作参考成果１】**。<br>トマトすすかび病を対象とし、安価なマイコン開発用ボードを用いた防除判断プログラム及び機器を作製し、予測精度の検証を行った。 |
| **試験課題名：果樹における生物資源等を活用した環境と共生する病害虫防除技術の開発** | | **D2-2-2** |
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所病害虫科 | | |
| | 概要 | 福島市で採集した土着天敵ケナガカブリダニの薬剤感受性を調査した結果、スピネトラムは死虫率が高く、アセタミプリド、ビフェントリン、ミルベメクチンもやや死虫率が高かった。 |

### Ｄ２－３　有機農産物の低投入持続型栽培技術の確立

| | | |
|---|---|---|
| **試験課題名：有機農産物の低投入持続型栽培技術の確立** | | **D2-3-1** |
| 予算区分：国庫（環境にやさしい農業拡大推進事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：有機農業推進室 | | |
| | 概要 | 水稲有機栽培ほ場において、副産物(稲わら)のみを再投入して栽培を継続する「低投入持続型水稲有機栽培技術」を実証した。実証８年目である本年の収量は、低投入(稲わら施用)区 394kg/10a、有機慣行(稲わら+有機肥料施用)区 624kg/10a となり、試験を開始した 2021 年以降、最も高い収量を確保した。<br>低投入(稲わら施用)区と有機慣行(稲わら+有機肥料施用)区において、３回代かきと RTK 田植機を活用した湛水状態での精度の高い田植え及び水位センサーを活用した深水管理を組み合わせることで、コナギとホタルイの発生量を抑えることができ、機械除草による防除回数が減り、省力化に繋がった**【参考成果１】**。 |

## Ｄ２－４　環境負荷の低減に向けた技術の開発

**試験課題名：温室効果ガス排出軽減技術の確立**　D2-4-1

予算区分：外部資金（農地土壌炭素貯留量等基礎調査事業(農地管理技術検証)）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：環境・作物栄養科

概要

秋耕及び中干しを延長することにより、水稲栽培期間中に水田から発生するメタンの削減が可能であった**【普及成果４】**。

新規資材を施用し、水稲栽培を行うことで水稲栽培期間中に水田から発生するメタンを削減することができた。

**試験課題名：農地における土壌管理実態調査**　D2-4-2

予算区分：国庫（農地土壌温室効果ガス排出量算定基礎調査事業(農地管理実態調査)）
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：環境・作物栄養科

概要

農地土壌炭素貯留に関する農地土壌調査事業において、県内 12 地点で土壌調査を行った。結果、土壌中の炭素貯留量は前回調査の 2021 年度と同等であった。

水田及び施設畑の土壌深 30cm 当たりの全炭素量と全窒素量は、牛ふんオガ堆肥区が化学肥料区より高く推移していた**【参考成果９】**。

国内肥料資源利用拡大対策事業として県内 12 地点を土壌調査した結果、2021 年より 1 層目が浅くなる地点が水田で 1 地点、普通畑で 3 地点見られた。

**試験課題名：果樹園における省力的環境負荷軽減のための肥培管理技術の確立**　D2-4-3

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：環境・作物栄養科

概要

モモ園において、慣行の施肥量を 50%減肥した影響を 4 年間調査した結果、土壌の化学性は可給態リン酸が減少する傾向にあったものの、改良基準以上を維持した。収穫量、果実品質及び樹体生育に大きな差は見られなかった**【参考成果１０】**。

リンゴで肥効調節型肥料の施肥時期(9、12、3 月)による影響について、無窒素区、慣行区とともに調査した結果、樹体の生育と果実品質については処理区間に有意な差はなく、着色等にも影響はなかった。生育期間中の土壌の無機態窒素は、9 月施肥区では 10 月、12 月施肥区は 3～4 月、3 月施肥区は 4～6 月、対照区は 10 月から 3 月にかけて上昇した。無窒素区は年によって異なった。

**試験課題名：効率的肥培管理技術の確立**　D2-4-5

予算区分：一般財源
開始年度：2021　　終了年度：2025
担当科所：環境・作物栄養科

概要

資材施用による土壌の可給態ケイ酸量、茎葉中のケイ酸含量、水稲の生育、水稲の収量及び玄米品質への効果は判然としなかった。

**試験課題名：家畜排せつ物堆肥の高度利用技術の開発**　D2-4-6

予算区分：繰入金（産業廃棄物税基金）
開始年度：2022　　終了年度：2026
担当科所：環境・作物栄養科、畜産研究所飼料環境科

概要

水分調整資材を膨軟籾殻と無処理籾殻に絞り、新たに県内 2 か所の堆肥を用いてペレットを作製した結果、堆肥センターの堆肥によってペレット化に適・不適な堆肥があることがわかった。また、ペレット堆肥の散布適性試験では膨軟籾殻、無処理籾殻どちらのペレットも問題なく散布することができた。

水稲の栽培において、堆肥のペレット化の有無及び堆肥と化学肥料を同時施用した場合の生育量と土壌養分の溶出パターンの関連を解析した結果、牛ふん堆肥はペレット化の有無にかかわらず、肥効と収量は同等であった。また、牛ふん堆肥 1 kg/$m^2$ を化学肥料と併用した場合、堆肥による収量増加量は堆肥単体の施用と比較して多かった。

**試験課題名：農業副産物を活用した高機能バイオ炭の施用体系の確立　D2-4-7**

予算区分：外部資金（グリーンイノベーション基金事業）
開始年度：2023　　終了年度：2027
担当科所：野菜科

概要

ブロッコリーにおいて、バイオ炭の適正施用量及び施用上限を明らかにするため、ポット試験で体積比 0～30%のバイオ炭を施用した結果、体積比 20%で 5 作連用(≒22.5t/10a)した場合に増収が認められた。体積比 30%で 6 作連用(≒40.5t/10a)した場合に減収が認められ、収量に悪影響を及ぼさない施用量は体積比 30%で 5 作連用(≒33.8t/10a)した場合であった。また、微生物資材添加による生育、収量への影響は見られなかった。ほ場試験で 0～600kg/10a のバイオ炭を施用した結果、連用 3 年目における生育、収量に差はないことを明らかにした。

**試験課題名：放射性物質除染後ほ場におけるバイオ炭施用の作物への影響と炭素貯留効果　D2-4-8**

予算区分：国庫（みんなでチャレンジ！環境保全型農業拡大事業）
開始年度：2023　　終了年度：2027
担当科所：環境・作物栄養科、浜地域農業再生研究センター

概要

除染後農地にもみ殻炭を施用した場合、施用 2 年目のオオムギ、連用 3 年目のダイズともに一酸化二窒素の発生量に影響はなかった。

ダイズのポット栽培でバイオ炭(もみ殻炭)を施用した結果、生育への影響はなく、施用量増加につれて子実の放射性セシウム吸収抑制に効果があった。オオムギのポリポット栽培で代替の高機能バイオ炭を用いた結果、収量および茎葉への放射性セシウム吸収抑制に影響はなく、除染後農地においても使用できる可能性が示された。

**試験課題名：特別栽培生産拡大のための技術確立　D2-4-9**

予算区分：国庫（デジタル田園都市国家構想交付金）、一般財源
開始年度：2024　　終了年度：2026
担当科所：環境・作物栄養科、作物保護科、稲作科、会津地域研究所、浜地域研究所

概要

ほ場への堆肥の投入量(0～3t)及び化成肥料と特別栽培専用肥料における水稲の生育・収量への影響を確認した結果、肥料の種類による差は判然としなかった。

初年度では堆肥の有無や特別栽培肥料と化成肥料による土壌化学性の明確な差は見られなかった。水稲窒素吸収量は無窒素区で低くなった。

中山間地域において「福笑い」の栽培試験を行った結果、「福笑い」は「コシヒカリ」と比べて生育ステージが 1～3 日遅かった。また、過去の栽培試験の結果から「福笑い」の出穂予測モデルのパラメータを決定し、過去 10 年間の気象データに基づく成熟可能性マップを作成した**【参考成果１７】**。

土壌の化学性は、堆肥の施用量が増加すると、交換性カリ含量が増加する傾向がみられた。水稲窒素吸収量は無窒素区で低くなった。菌叢構造のα多様性(Chao1)は、堆肥施用区で値が高くなる傾向があった。

**試験課題名：切り花栽培における農業用使用済みプラスチック低減技術の確立　D2-4-10**

予算区分：繰入金（産業廃棄物税基金）
開始年度：2024　　終了年度：2027
担当科所：花き科、会津地域研究所

概要

シュッコンカスミソウ栽培で生分解性ポットを用いた結果、苗抜き作業で労力を低減できたものの、機械による定植作業では慣行のポリポットより時間を要し、苗転びも多く、機械定植に課題が見られた。また、かん水作業にもより多くの時間を要し、生分解性ポットを用いた場合には生育に遅れが見られた。ポットの分解に時間を要したことで、根張りが阻害されたことが要因と考えられた。

| 試験課題名：農薬使用済プラスチック処理の実態調査 | | D2-4-11 |
|---|---|---|
| 予算区分：繰入金（産業廃棄物税基金）<br>開始年度：2025　　終了年度：2026<br>担当科所：経営・農作業科 | | |
| | 概要 | 本県における農業廃プラスチックは協議会体制のもと、おおむね適正に処理されていることが確認された。しかし処理業者との契約は固定化傾向にあり、処理方法の見直しや再生利用の高度化に向けた取組は限定的であった。また、農業用廃プラのマテリアルリサイクルは他産業のものと比較し、実施が困難であることが明らかになった。 |

## E　安全・安心な県産農林水産物の安定供給と生産者の所得向上のための試験研究の推進

### Ｅ１　産地や経営体において収益性を高める技術の研究開発

#### Ｅ１－１　水稲、畑作物の安定生産技術の確立

| 試験課題名：省力的な稲作栽培に適応した雑草防除技術の確立 | | E1-1-2 |
|---|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：稲作科 | | |
| | 概要 | べんがら・モリブデンコーティング及び鉄黒コート直播栽培における初中期一発除草剤1回施用の除草効果を確認した結果、除草剤を2回施用する体系処理と比べて残草量が多く、気象条件や水管理等のほ場条件によっては初中期一発除草剤1回施用の除草効果が安定しない場合があることが明らかとなった**【参考成果１８】**。 |

| 試験課題名：畑作物の高品質・安定栽培技術の確立 | | E1-1-3 |
|---|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2024<br>担当科所：畑作科 | | |
| | 概要 | 「夏黄金」は、晩播することで収量は高まる傾向にあったが、11月中旬播種は気象の影響を受けやすいため11月上旬播種が望ましいと考えられた。11月上旬播種の「夏黄金」については、収量性や子実の外観品質、コスト削減の点で、播種量は0.6kg/aが望ましいと考えられた。また、出穂からの積算気温が 900℃程度に達するころから機械収穫の適期を迎えたが、1100℃程度になると子実の外観品質の低下が見られた。このため、中通り地方の「夏黄金」については、播種適期は11月上旬、播種量は0.6kg/a、収穫適期は出穂からの積算気温が900℃程度に達する頃が適切と考えられた**【普及成果７】**。 |

| 試験課題名：マルチオミクス解析に基づく作物の安定多収に向けた栽培技術の開発 | | E1-1-4 |
|---|---|---|
| 予算区分：外部資金（ムーンショット型農林水産研究開発事業）<br>開始年度：2018　　終了年度：2025<br>担当科所：畑作科 | | |
| | 概要 | ダイズを対象に、関係各所から送付された14資材を施用し栽培、生育データとダイズの乾物と土壌を解析担当の研究機関に提供した。<br>ダイズの播種時期の検討試験では、「里のほほえみ(中生晩)」は7月上旬の播種で、生育量を確保しつつ、高温に伴う障害を避けられると考えられた。「フクユタカ(晩生)」は、いずれの播種期でも高温に伴う障害を避けやすく、生育量に応じて子実を確保できると考えられた。 |

| 試験課題名：葉たばこ特別調査 | | E1-1-5 |
|---|---|---|
| 予算区分：外部資金（福島県農業総合センター葉たばこ特別調査）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：畑作科 | | |
| | 概要 | 新規薬剤の葉たばこ耕作への適性を検証するため、所定量の薬剤を適期に散布後、官能試験用の原料を生産し、乾葉を提供した。 |

| 試験課題名：水稲の疎播疎植と高精度２段施肥体系による省力多収栽培技術の確立　E1-1-6 | |
|---|---|
| 予算区分：外部資金（オープンイノベーション研究・実用化推進事業）<br>開始年度：2023　　終了年度：2026<br>担当科所：稲作科 | |
| 概要 | 疎播疎植と高精度２段階ペースト施肥を組み合わせた「天のつぶ」の収量は、側条と深層の施肥割合によらず、慣行栽培と比べて穂数はやや少なくなるが、1 穂籾数が増えることにより、慣行栽培と同等の収量を得られることが明らかになった**【参考成果１９】**。 |

| 試験課題名：露地プール育苗法と高密度播種苗の組み合わせによる水稲栽培法の検討　E1-1-7 | |
|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：会津地域研究所 | |
| 概要 | 育苗法(露地プール又は慣行)や播種量(150g/箱(慣行)又は 250g/箱)、移植時期(6/4 又は 6/11)の違いによる生育の違いは、7 月中旬頃までに解消され、出穂期、成熟期、収量、収量構成要素及び品質に差異はほとんど見られなかったことから、高密度播種苗を用いた露地プール育苗の実用化の可能性が示唆された。 |

## Ｅ１－２　野菜・花きの安定生産技術の確立

| 試験課題名：地域特性を活かした施設花きの安定生産技術の確立　E1-2-1 | |
|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：花き科 | |
| 概要 | トルコギキョウの抑制栽培において早生品種を供試し、作型適応処理の有無、定植時期の組み合わせを検討した結果、8 月 2 半旬に定植すると 10 月下旬に採花可能であるが、作型適応処理による切り花長増加等品質向上効果は見られず、平均切り花長は両処理区とも 60 cm 未満となった。 |

| 試験課題名：ふくしまの特色ある露地花きの安定生産技術の確立　E1-2-2 | |
|---|---|
| 予算区分：外部資金（ジャパンフラワー強化プロジェクト推進）、一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：花き科 | |
| 概要 | 【リンドウ】<br>リンドウ品種「ふくしまさやか」「ふくしましおん」「ふくしまほのか」「天の川」の生育調査を行い、主要な生育ステージにおけるデータを蓄積した。早生品種の「ふくしまさやか」は、花弁抽出期まで平均からやや早く進んだが、開花期は平均とほぼ同等だった。中生種の「ふくしましおん」晩生種の「ふくしまほのか」と開花期が遅くなるのに従い開花期の遅延日数が増加し、高温の影響により開花が遅延していると考えられた。<br><br>【キク】<br>コギクの開花予測に必要な各品種の着色時花蕾径は、年次間差が小さいことが求められるが、高温年と通常年でかなり差があることが明らかとなり、近年の気象の傾向からは着色時花蕾径から開花期を予測することは難しいと考えられた。<br>また、コギクの発蕾後に、花蕾の直径が５㎜の時期と７㎜の時期からそれぞれジベレリン溶液を７日間隔で２回散布した結果、開花期が無処理と比較して平均で１～4 日早くなる傾向が見られた。ただし、その効果の程度についてはばらつきがあり、散布時期と効果の関係等については判然としなかった。<br>コギク電照栽培の現地実証ほでは、電照反応性が優れた２品種の消灯日別の到花日数が明らかとなった。今年度は消灯日によっては消灯後の高温により開花が遅れたが、需要期に概ね出荷できた。また、機械体系の導入により作業時間は慣行と比較して３割程度減少し、作業の効率化が図られた。<br><br>【ユーカリ】<br>6 月挿し木において、穂木の採取位置は樹幹と比較して地際が、かん水方法はシャワーかん水と比較して底面給水の流水管理で発根率が高くなる傾向が見られた。また、親株の個体差が影響する可能性が示唆された。 |

| 試験課題名：特産野菜の安定生産技術の確立 | | E1-2-3 |
|---|---|---|
| | 予算区分：国庫（風評に打ち勝つ園芸産地競争力強化事業）、一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2024<br>担当科所：野菜科、経営・農作業科 | |
| | 概要 | 機械化体系において、3 回播種モデルは 23 万円の純収益増となり、慣行栽培とおおむね同等の収益性となることを明らかにした。なお、収穫時のアシストスーツ利用、選別作業テーブル面の色変更（灰色）は高評価を得た。<br>サヤインゲン(矮性)の機械化体系において、10a 当たりの年間労働時間は 222 時間、収益は 6 万円の純損失となったが、3 回播種モデルは 23 万円の純収益となり、慣行栽培とおおむね同等の収益性となった。<br>加工用ブロッコリーについて、青果用ブロッコリーよりも密植し、花蕾径が大きくなってから収穫することで、面積当たりの花蕾部重量を確保できることを明らかにした**【Ｒ６年度参考成果４】**。 |
| 試験課題名：大規模園芸経営体の経営調査及び経営モデルの策定 | | E1-2-4 |
| | 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2027<br>担当科所：経営・農作業科 | |
| | 概要 | 伊達地域においてキュウリ経営に取り組む 2 経営体の労働時間、収益・費用、雇用実態を調査し、選果場の活用効果や経営・雇用に関する課題を把握した。 |

## Ｅ１－３　会津地域に適した作物、園芸品目等の生産技術の確立

| 試験課題名：会津地域における地場野菜等の生産技術の開発 | | E1-3-1 |
|---|---|---|
| | 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2027<br>担当科所：会津地域研究所 | |
| | 概要 | サヤインゲンの高温耐性品種「ナリブシ」と比べ、主要品種「いちず」では高温時期の収穫がほとんどできなかった。また、「ナリブシ」は、夏季高温時期には「いちず」よりも A 品と B 品の収穫量が多かった**【参考成果５１】**。<br>8 月上旬播種では、9 月中旬(開花始期)以降、おおむね 25℃を超える高温が回避された。「ナリブシ」「いちず」「スラットワンダー」3 品種とも収穫盛期は 10 月 2 半旬であり、「ナリブシ」は規格内収量が最も多く、A 品率及び B 品率が高かった**【参考成果５２】**。<br>アスパラガスの主要品種(１年生)の地上部生育状況(草丈、茎径、５㎜以上茎数)を調査した結果、「ふくきたる」「福島交 12 号」が良好であった。 |
| 試験課題名：小麦の高品質・安定生産技術の確立 | | E1-3-4 |
| | 予算区分：一般財源<br>開始年度：2024　　終了年度：2025<br>担当科所：会津地域研究所 | |
| | 概要 | パン・中華めん用コムギ品種「夏黄金」を会津地域で栽培した場合、子実水分が機械収穫開始の目安となる 30％以下となるのは、出穂後の積算気温がおおむね 800℃からであった。また、2025 年は登熟後期から収穫期が極少雨であったこともあり、積算気温 1100～1200℃付近で収穫した場合に外観品質が良好であった。 |

| 試験課題名：カキ「会津身不知」の適期防除と長期保存方法の検証 | | E1-3-5 |
|---|---|---|
| | 予算区分：一般財源<br>開始年度：2024　　終了年度：2025<br>担当科所：会津地域研究所 | |
| | 概要 | カキ「会津身不知」を通常より5日程度早く収穫し、炭酸ガス脱渋を実施した結果、脱渋後約3週間程度は果実品質が良好に保たれた。また、早期に収穫した果実の場合でも、食味には問題ないとの評価であった**【参考成果５０】**。<br>脱渋後の日持ち性を考慮した場合のアルコール脱渋の適温は15℃～20℃と考えられた。<br>「会津身不知」を低量のアルコールを用いて低温条件で脱渋することで、貯蔵2週目から可食可能となり、約5週間は軟化せず貯蔵が可能であった。 |

| 試験課題名：亜リン酸液肥の葉面散布による秋ソバ増収効果確認試験 | | E1-3-6 |
|---|---|---|
| | 予算区分：一般財源<br>開始年度：2025　　終了年度：2026<br>担当科所：会津地域研究所 | |
| | 概要 | 亜リン酸液肥を追肥した場合、全重、主茎長、㎡着粒数が高まり、収量が増加する傾向が見られたが、追肥回数の影響は明確ではなかった。 |

## Ｅ１－４　浜通り地方に適した作物、園芸品目等の生産技術の確立

| 試験課題名：浜通りにおける大規模水田利用支援技術の開発 | | E1-4-1 |
|---|---|---|
| | 予算区分：一般財源、外部資金（植物調節剤の研究開発事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域研究所 | |
| | 概要 | 福島県浜通り地域における除草剤抵抗性ノビエの発生実態を早期に把握するため、従来の方法より簡便で短期間に除草税抵抗性を評価できる実生検定法を開発した**【R6 秋冬作普及成果２】**。<br>浜通り地方における除草剤抵抗性ノビエの発生実態調査を行った。2024年に調査した特定の薬剤作用機作に依存した除草体系がとられていた圃場では複数地点で抵抗性が確認されたが、2025年に調査したほ場では多様な作用機作の除草剤を組み合わせた防除体系がとられており、全地点で感受性が確認された。このことから適切な薬剤体系が抵抗性発達の抑制に有効であることが示唆された。<br>浜通り地域で見つかった抵抗性個体に対して有効な除草剤を選定するため、ノビエに登録のある各除草剤の防除効果について検証した結果、5 葉期処理では多くの水稲用除草剤への感受性の低下が確認された。有効な薬剤を使用可能な他作物との輪作導入が、本バイオタイプの管理に極めて有効であると考えられた。<br>畦畔におけるナガエツルノゲイトウ越冬期防除技術開発のため、クロレートＳ粒剤、カソロン粒剤の防除効果について検証した。その結果、クロレートＳ 粒剤は初期効果が低いものの5月16日には高い抑制効果を示した。カソロン粒剤6.7 は萌芽抑制に優れ、その後も6月25 日まで高い抑制効果を示した。しかし、両剤とも単用での完全防除は困難なため、茎葉処理剤を用いた体系防除が必須であると考えられた。<br>また、本田におけるナガエツルノゲイトウ防除技術開発のため、ピラクロニル含有剤及びフェンキノトリオン含有剤のナガエツルノゲイトウに対する防除効果について検証した。供試した各除草体系は、ナガエツルノゲイトウ及び他の水田雑草に対し、高い除草効果を示した。経済性においては、プライオリティ豆つぶ 250＋ロイヤント乳剤の体系が現地慣行体系よりも最も低コストであり、省力性においては、散布器具不要なアットウ Z400FG＋ウィードコアジャンボ SD が優れる結果となった。以上から、本体系はナガエツルノゲイトウ防除に有効かつ無理なく導入可能であると判断された**【普及成果１４】**。 |

| 試験課題名：浜通りの気候を活かした野菜・花き等生産振興支援技術の確立 | | E1-4-2 |
|---|---|---|
| 予算区分：科研費、一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：浜地域研究所 | | |
| | 概要 | カンパニュラの摘心栽培において、定植後に株を養生してから 45 日間電照を行い、抽苔後に摘心して複数本仕立てとすることで、無摘心 1 本仕立てよりも品質の良い切り花を収穫することが可能となることを明らかにした**【R6 秋冬作参考成果５】**。電照 22 時～2 時では切り花品質への影響は見られず、終夜電照(16 時～6 時)とした場合、「ローズワイン」「レーヌラベンダー」で採花時期が早くなった。また、終夜電照することで採花本数が多くなったものの、切り花長、切り花重は電照なしと比べて小さくなる傾向が見られた。 |

Ｅ１－５　果樹の安定生産技術の確立

| 試験課題名：革新的栽培技術体系による果樹の栽培管理技術の確立 | | E1-5-1 |
|---|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所栽培科 | | |
| | 概要 | オウトウジョイント V 字トレリス栽培の 11 年生の収量は 352.7kg/10a で、立ち木の同樹齢樹と比較して少なかったが、年々収量が増加傾向となっている。また、果実品質では、果実重は JV 区の方が立ち木と比較して大きく、糖度は有意差が認められなかった。<br>ニホンナシ「あきづき」の新一文字型樹形は、慣行樹形に比較して 10a 当たり収量が早期から継続して高く推移することが確認された**【普及成果１０】**。<br>モモ「あかつき」の平棚栽培は、慣行の立木栽培に比較して、樹高や樹幅は小型に抑えられ、収穫時期はやや早く、収穫期間もやや短い傾向が認められた。果実の生産性については、平棚栽培は、立木栽培に比較して、収量はほぼ同程度と考えられるが、果実の大きさは同等～やや小さめで、糖度や着色は優れる傾向が見られた。なお、平棚栽培は核割れ果の発生が多くなる傾向が見られた**【参考成果３１】**。 |
| 試験課題名：モモ「あかつき」の核障害軽減対策技術の確立 | | E1-5-2 |
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所栽培科 | | |
| | 概要 | モモ「あかつき」の核障害軽減のため、仕上げ摘果で多めに着果させ、修正摘果で核障害果を摘除する着果管理体系を慣行区と比較した。修正摘果で核障害果を摘除することにより、製品果の割合が増加した。 |
| 試験課題名：大規模経営に対応できるリンゴの省力・高品質生産技術体系の確立 | | E1-5-3 |
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所栽培科 | | |
| | 概要 | リンゴ「ふじ」において摘花剤、摘果剤散布により、摘果作業時間(予備・仕上げ・修正摘果)が慣行区より約 27%削減され、合計時間では慣行区より約 25%削減された。果実品質は、摘花剤、摘果剤散布区、慣行区ともに差が見られなかった。 |

Ｅ１－６　畜産の安定生産技術の確立

| 試験課題名：乳牛の安定生産技術の確立 | E1-6-1 |
|---|---|
| 予算区分：外部資金（「福島国際研究教育機構における農林水産研究の推進」福島浜通り地域等の農林水産業復興に資する研究事業）<br>開始年度：2024　　終了年度：2025<br>担当科所：畜産研究所酪農科 | |
| 概要 | 農研機構動物衛生研究部門で試作した黄色ブドウ球菌(SA)BM1006 株を抗原とし、ケモカインをアジュバントに用いた試作乳房炎ワクチンと、現在日本で市販されている乳房炎ワクチンを搾乳牛へ皮下投与し、それぞれのワクチンを比較・評価し、有効性を検討した。<br>乳汁中及び血清中の SA 特異的 IgG 抗体は、試作 1 回区、試作 2 回区とも上昇し、乳汁中の SA 特異的 IgA 抗体も、試作 1 回区、試作 2 回区ともに上昇した。また、ワクチン接種による栄養状態や乳質への影響は観察されなかった。 |

| 試験課題名：肉用牛の安定生産技術の確立 | E1-6-2 |
|---|---|
| 予算区分：寄附金（JA グループ福島寄附金）、一般財源、国庫（農林水産省委託プロジェクト研究）<br>開始年度：2021　　終了年度：2026<br>担当科所：畜産研究所沼尻分場 | |
| 概要 | 短期肥育技術は、肥育期間の短縮による飼料費の低減など畜産経営の安定に資するが、さらなる商品価値の向上を図るため、発酵飼料を利用した短期肥育牛に出荷前 90 日間に酒粕飼料を給与して産肉成績に及ぼす影響を調査した。酒粕の嗜好性は良好で、酒粕給与群の全頭が A5 の成績を収め、酒粕給与群は脂肪のオレイン酸割合が高かった。増体や枝肉格付け、味覚センサー分析での甘味については差がなかった。 |

| 試験課題名：豚の安定生産・高付加価値化技術の確立 | E1-6-3 |
|---|---|
| 予算区分：繰入金（産業廃棄物税基金）、一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：畜産研究所肉畜科 | |
| 概要 | 桃皮残さと白酒ヌカを原物重量比 2:1 で混合し、日中はビニールハウス内で自然乾燥、夜間は屋内で通風乾燥することにより、2024 年度乾燥に約 4 日間必要だった期間を 2 日間に短縮することができた。<br>製造した桃飼料を肥育豚出荷前 30 日間、市販配合飼料の重量で 30%代替給与した結果、発育及び肉質に影響は見られなかった。また、嗜好型官能評価においても有意な差はなく、市販配合飼料による慣行肥育の豚肉と食味も遜色ないことが示唆された**【参考成果４７】**。 |

Ｅ２　農産物の安定供給に寄与する鳥獣被害防止・病害虫防除等に係る研究開発

Ｅ２－１　野生鳥獣害対策技術の確立

| 試験課題名：中山間地におけるドローン等を活用した ICT 鳥獣対策及び被害管理技術の確立 | E2-1-2 |
|---|---|
| 予算区分：繰入金（中山間ふるさと水と土保全基金）<br>開始年度：2025　　終了年度：2026<br>担当科所：企画技術科 | |
| 概要 | 果樹園地での鳥類の出没状況を把握するために、リンゴ園地 1 か所及びナシ園 1 か所に通信型センサーカメラを設置し、日時別にカラス類の飛来羽数を集計した結果、収穫期の 1 か月以上前から飛来が増加する傾向が見られた。また、園地ごとに出没の傾向が異なることが示唆された**【参考成果２】**。<br>南会津町のリンゴ園地(82a)において、カラス類の飛来を多く確認した時期(8 月上旬)において、8 時～17 時の間、 1 時間おきにドローン(251×362×72　㎜及び 245×289×56　㎜)による追い払いを実施した結果、カラス類の飛来数が減り、果実の被害が軽減することを確認した**【参考成果３】**。 |

Ｅ２－３　新奇病害虫・難防除病害虫防除技術の確立

| 試験課題名：新奇・難防除病害虫に対する防除技術の開発 | | E2-3-1 |
|---|---|---|
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：作物保護科 | | |
| | 概要 | 2025年度の病害虫診断依頼件数は94件で、前年比76%であった。内訳は、作物18件(19.6%)、野菜58件(61.7%)、花き及び樹木類18件(19.1%)であった。診断・同定結果は、ウイルス・ウイロイド病9件(9.6%)、細菌病14件(14.9%)、糸状菌病36件(38.3%)、虫害1件(1.1%)、生理障害・薬害8件(8.5%)、不明・正常が26件(27.7%)であった。<br>てんろ石灰を水稲苗箱覆土量の 10%混和することにより、イネばか苗病、イネ苗立枯細菌病、イネもみ枯細菌病の発病を抑制する傾向が見られた。<br>県中地方平坦部は、県北、県南地方に比べクモヘリカメムシの越冬が可能となる気温になる日は少ないが、2年連続で発生し発生時期も7月中旬と早まった。<br>主な要因は、温暖化の影響による冬期間の温度上昇で、県北及び県中地方も浜通り及び県南地方と同等にクモヘリカメムシが越冬可能となり定着する地域になったと考えられた**【参考成果８】**。<br>土壌消毒実施ほ場においてトルコギキョウ立枯病が発生する要因を探るため、土壌消毒後から経時的に深度別の土壌の菌密度を調査した結果、土壌消毒後に畦の表層から再汚染されている可能性が示唆され、留意事項を取りまとめた**【普及成果２】**。<br>シンテッポウユリにおいて、生育障害が乾腐病によることを解明し、クロルピクリンによる防除方法を構築した**【普及成果３】**。 |

Ｅ２－４　果樹の病害虫に対する防除技術の確立

| 試験課題名：果樹の重要な課題である病害虫に対する防除技術の確立 | | E2-4-1 |
|---|---|---|
| 予算区分：外部資金（安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進委託事業）、一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所病害虫科 | | |
| | 概要 | 雨よけ処理を継続することで、モモせん孔細菌病以外の病害を対象とした殺菌剤も削減できること**【普及成果１１】**、湿展性展着剤の加用により酸化亜鉛水和剤(商品名：IC ジンク水和剤)のモモ果実薬斑を低減できることを明らかにした**【参考成果４０】**。その他、新規資材の防除効果や抗菌剤を削減した防除体系の効果について明らかにした。。<br>ナシ黒星病対策として効果のある落葉処理について、ロボット自走草刈機を用いることで効率的に処理できることを明らかにした**【参考成果４３】**。また、ナシ黒星病子のう胞子の飛散盛期とナシの開花期が2024年度と同様に一致していることを明らかにした。 |
| **試験課題名：果樹における農薬耐性、抵抗性を管理する技術確立** | | **E2-4-4** |
| 予算区分：一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所病害虫科 | | |
| | 概要 | （委託試験として E2-5-1 で実施） |

| 試験課題名：果樹病害虫の防除法改善に関する試験 | | E2-4-5 |
|---|---|---|
| 予算区分：外部資金（オープンイノベーション研究・実用化推進事業）、一般財源<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所病害虫科 | | |
| | 概要 | リンゴ褐斑病子のう飛散消長を明らかにしたほか、二次感染期の防除体系、新資材の防除効果を明らかにした。<br>リンゴ黒星病の子のう胞子飛散は、展葉期～落花 20 日頃に多いことを確認した。<br>ブドウ黒とう病に対する展葉期における薬剤の防除効果を明らかにした**【普及成果１２】**。<br>新規資材のモモせん孔細菌病、ナシ黒星病、リンゴ褐斑病、ブドウべと病に対する防除効果を明らかにした。<br>赤色防虫ネットのチャノキイロアザミウマに対する防除効果は、設置 6 年目で白色ネットと同程度となることを明らかにした。 |
| 試験課題名：相次いで侵入した外来カミキリムシから日本の果樹と樹木を守る総合対策手法の確立 | | E2-4-7 |
| 予算区分：外部資金（イノベーション創出強化研究推進事業）<br>開始年度：2022　　終了年度：2025<br>担当科所：果樹研究所病害虫科 | | |
| | 概要 | 本県においてクビアカツヤカミキリの発生、被害は認められなかった。また、ツヤハダゴマダラカミキリのリンゴ及びナシ樹への寄生リスクは低いことを明らかにした。 |

## Ｅ２－５　新農薬・新資材等の効率的利用法

| 試験課題名：安全で効率的な新農薬・新資材等の実用化 | | E2-5-1 |
|---|---|---|
| 予算区分：外部資金（新農薬等に関する試験研究事業）<br>開始年度：2021　　終了年度：2025<br>担当科所：作物保護科、環境・作物栄養科、稲作科、畑作科、野菜科、果樹研究所栽培科、病害虫科、会津地域研究所、浜地域研究所 | | |
| | 概要 | 2025 年度は、殺菌剤及び殺虫剤 49 剤、除草剤 8 剤及び植物成長調整剤,肥料・農薬等の効率的利用法 26 件について効果確認試験を受託した。<br>水稲において、プラスチック不使用の緩効性のウレアホルムを主体とした混合堆肥複合肥料の栽培試験を行った結果、対照肥料と同等の収量を確保できた**【参考成果１１】**。<br>「ニーナ Z」を用いた夏秋キュウリの隔離床養液栽培において、つる下ろし栽培では、収穫節位が地上高１m より下がったときに収穫枝を更新することにより、ストレートと同等以上の収量を確保しつつ、収穫節位を上げ、誘引作業時間を短縮することができた**【参考成果２３】**。<br>水稲育苗用ハウスの空き期間を活用した簡易養液栽培システムによるミニトマト栽培について検証し、品種別の収量・品質の差を明らかにした。<br>リンゴ褐斑病の一次感染期の防除薬剤として、マンゼブ水和剤(商品名：ジマンダイセン水和剤)が有効であることを明らかにした**【参考成果４１】**。<br>リンゴハダニ及びナミハダニでスピロメシフェンへの感受性が低下している個体群があることを明らかにした**【参考成果４２】**。 |

## 4 試験設計・試験成績検討会の開催状況

（１）一般課題

| 開 催 日 | 検 討 会 名 | 会　場 |
|---|---|---|
| 令和7年 6月27日 | 第1回生産環境・作物園芸専門別検討会 | 本部、オンライン |
| 8月27日 | 第2回作物園芸専門別検討会 | 本部、オンライン |
| 12月11日 | 第3回作物園芸専門別検討会 | 本部、オンライン |
| 12月23日～24日 | 畜産専門別検討会 | 畜産研究所、オンライン |
| 令和8年 1月 7日 | 第1回果樹専門別検討会 | 果樹研究所、オンライン |
| 1月 8日 | 第2回生産環境専門別検討会 | 本部、オンライン |
| 1月 9日 | 第4回作物園芸専門別検討会 | 本部、オンライン |
| 2月12日 | 第2回果樹専門別検討会 | 果樹研究所、オンライン |
| 2月20日 | 第3回生産環境・第5回作物園芸専門別検討会 | 本部、オンライン |

（２）放射性物質対策

| 開 催 日 | 検 討 会 名 | 会　場 |
|---|---|---|
| 令和8年 1月16日 | 令和6年度放射性物質試験研究課題に関する検討会 | 本部、オンライン |

## 5 試験研究成果の公表

（１）試験研究成果一覧

ア　普及に移しうる成果（生産者に活用され農業振興に寄与する研究成果、研究に利用できる新たな手法等の研究成果、行政施策の推進に活用できる研究成果）

（ア）令和７年９月公開

| No. | 成　　果　　名 | 担当部所 |
|---|---|---|
| 1 | 夏季高温期の収穫作業が軽減でき、翌春の収量が増加するアスパラガスの夏季追加立茎法 | 作物園芸部 |
| 2 | 実生を用いたノビエの除草剤抵抗性検定法の開発 | 浜地域研究所 |

（イ）令和８年３月公開

| No. | 成　　果　　名 | 担当部所 |
|---|---|---|
| 1 | 農業用施設の位置情報を共有する簡易的な手法 | 企画経営部 |
| 2 | 土壌消毒後に発生するトルコギキョウ立枯病の発病要因 | 生産環境部 |
| 3 | シンテッポウユリの連作障害の主な原因及びクロルピクリンくん蒸剤処理方法とその効果 | |
| 4 | 秋耕及び中干し延長の組み合わせによる水田から発生するメタンの削減効果 | |

| No. | 成　　果　　名 | 担当部所 |
|---|---|---|
| 5 | 高温登熟性に優れる水稲有望系統「福島 59 号」の育成 | 作物園芸部 |
| 6 | 「天のつぶ」の短稈要因の特定 | |
| 7 | 小麦品種「夏黄金」の安定生産のための栽培暦の作成(中通り地方) | |
| 8 | タマネギ秋まき直播栽培におけるイネ科雑草防除方法 | |
| 9 | モモ「はつひめ」の収穫期予測システムの開発 | 果樹研究所 |
| 10 | ナシ「あきづき」の新一文字型樹形は定植後 15 年を経過しても多収を維持できる | |
| 11 | 雨よけ栽培の継続によってモモせん孔細菌病が減少し殺菌剤の使用を大幅に削減できる | |
| 12 | ブドウ黒とう病の効果的な防除方法 | |
| 13 | 牛枝肉の横断面画像から脂肪交雑形状に関するゲノム育種価の推定が可能である | 畜産研究所 |
| 14 | 水田におけるナガエツルノゲイトウ対策を考慮した防除体系 | 浜地域研究所 |
| 15 | 施設夏秋キュウリにおけるつる下ろし栽培の導入効果 | |
| 16 | 相双地域のタマネギ秋まき移植栽培において有効な雑草防除体系 | 浜地域農業再生研究センター |

イ　参考となる成果(指導者の指導上の参考として適当と思われる情報)

（ア）令和 7 年 9 月公開

| No. | 成　　果　　名 | 担当部所 |
|---|---|---|
| 1 | いもち病に感染しやすい日が 5 月下旬に増加しています | 生産環境部 |
| 2 | ブロッコリーに含まれる総遊離アミノ酸含有量の一次加工後の変化 | |
| 3 | ブロッコリーに含まれるルテイン含有量は加熱処理により変化しない | |
| 4 | 中通りの秋冬どり加工用ブロッコリーは密植して増肥することで単収を多く得られる | 作物園芸部 |
| 5 | 定植 45 日後からの電照開始と抽苔後摘心により複数本に仕立てる秋冬カンパニュラの栽培法 | 浜地域研究所 |

（イ）令和８年３月公開

| No. | 成　　果　　名 | 担当部所 |
|---|---|---|
| 1 | ３回代かき、湛水移植・深水管理、機械除草の組み合わせによる水田除草の防除効果 | 有機農業推進室 |
| 2 | 果樹園でのカラス被害は収穫期の１か月以上前から発生する | 企画経営部 |
| 3 | 果樹園でのドローンによるカラス追払いの効果 | |
| 4 | 経営管理システムにより収集したデータの活用促進手法 | |
| 5 | 中山間地域における稲作経営体でのスマート農業技術導入上の課題 | |
| 6 | エゴマ小規模経営体における経営指標 | |
| 7 | 南相馬市及び浪江町における斑点米の被害予測と防除時期 | 生産環境部 |
| 8 | 中通り北部・中部でのクモヘリカメムシ定着のおそれ | |
| 9 | 有機物連用による水田・施設畑における全炭素量の推移 | |
| 10 | モモの半量減肥による土壌及び生育への影響 | |
| 11 | 樹脂使用量を削減した改良型被覆尿素肥料は従来型肥料と同等の水稲生育・収量が得られる | |
| 12 | 官能評価結果から見た「シャインマスカット」果実外観の嗜好性 | |
| 13 | アスパラガスの茎色評価指標の策定 | |
| 14 | 会津産アスパラガスの流通品質評価 | |
| 15 | アスパラガスピクルス加工後のルチン含有量の変化 | |
| 16 | 中通りにおける「福笑い」のザルビオによる生育指標値 | 作物園芸部 |
| 17 | 過去10年間の気象データに基づく「福笑い」の成熟可能性マップの作成 | |
| 18 | 水稲湛水直播栽培において初中期一発除草剤の１回施用では残草リスクがある | |
| 19 | 「天のつぶ」のペースト２段施肥体系による疎植栽培 | |
| 20 | 福島県内で栽培した場合の米粉用品種の生育特性 | |
| 21 | 暗渠施工と畦立て同時播種の組合せは大豆栽培ほ場の排水性改善に効果的である | |
| 22 | タマネギ春まき直播栽培の雑草防除体系 | |
| 23 | 「ニーナＺ」の夏秋キュウリのつる下ろし栽培で収穫枝を更新すると減収せずに誘引時間を短縮できる | |

| No. | 成　　果　　名 | 担当部所 |
|---|---|---|
| 24 | 福島県育成カラー品種は球根重が 30g 以上であれば切り花生産に使用できる | 作物園芸部 |
| 25 | トルコギキョウの作型適応処理(秋出荷作型)は 15℃でも可能 | |
| 26 | リンドウ「天の川」の上位出荷規格別割合を増やす施肥方法 | |
| 27 | 近年新たに販売された 8 月咲き小ギク品種の電照による開花抑制効果と高温開花遅延の程度 | |
| 28 | シュッコンカスミソウ栽培のＵＶカットフィルム被覆によるアザミウマ類侵入の抑制効果 | |
| 29 | モモのジョイントＶ字トレリス樹形における果実生産性 | 果樹研究所 |
| 30 | 果実硬度非破壊測定器「ゆびけん」を用いたモモの収穫適期および核割れ果推定技術 | |
| 31 | モモ「あかつき」の平棚栽培の特徴 | |
| 32 | 「あかつき」に続いて収穫される「モモ福島 18 号」と「モモ福島 19 号」の特性 | |
| 33 | 甘くて大きい晩生系統「モモ福島 20 号」の選抜 | |
| 34 | 「ひだ国府紅しだれ」実生を台木に利用することでモモ「はつひめ」の樹勢を抑制できる | |
| 35 | 白色化繊布を利用することでリンゴ「ふじ」の日焼け果発生を抑制できる | |
| 36 | DNA マーカーによりリンゴ交雑実生の幼苗を効率的に選抜した | |
| 37 | ナシ「豊水」における収穫期直前の高温は地色の抜けに影響するため“みつ症”の発生に注意を要する | |
| 38 | 「ナシ福島 7 号」の食べごろを示す果皮色 | |
| 39 | ブドウ盛土式根圏制御栽培における遮光の影響 | |
| 40 | 殺菌剤使用時の展着剤加用によるモモ果実の薬斑軽減効果 | |
| 41 | リンゴ褐斑病の一次感染期にはマンゼブ水和剤（商品名：ジマンダイセン水和剤）が有効である | |
| 42 | 果樹に寄生するハダニ類の薬剤感受性の実態 | |
| 43 | ナシ黒星病対策の落葉処理にはロボット自走草刈機を活用できる | |
| 44 | 搾乳ロボット導入による乳生産性及び労働時間の変化 | 畜産研究所 |
| 45 | AI-MEAT により 17 カ月齢から 5 等級推定が可能 | |
| 46 | 開放型育種により「フクシマ L2」の近交係数が抑制され、繁殖能力が維持された | |

| No. | 成　　果　　名 | 担当部所 |
|---|---|---|
| 47 | 肥育豚用市販配合飼料の 30%を桃飼料で代替できる | 畜産研究所 |
| 48 | 開発した県産原料 100%の黒毛和種繁殖雌牛用混合飼料は市販配合飼料と全量代替が可能 | |
| 49 | RTK-GNSS 制御の小型レベラーによるほ場均平化 | 会津地域研究所 |
| 50 | 早期に収穫したカキ「会津身不知」は炭酸ガス脱渋後 3 週間まで貯蔵が可能である | |
| 51 | 夏季高温条件下におけるサヤインゲンの高温耐性品種「ナリブシ」の収量性 | |
| 52 | 夏季高温期の生産を回避したサヤインゲンの収量性 | |

ウ 放射線関連支援技術情報（農業における放射性物質対策の推進となる情報）

| No. | 成　　果　　名 | 担当部所 |
|---|---|---|
| 1 | 水田及び畑地における土壌の放射性セシウム濃度及び空間線量率の推移（2025） | 生産環境部 |
| 2 | 樹園地及び草地における土壌の放射性セシウム濃度及び空間線量率の推移（2025） | |
| 3 | 農地土壌における $^{137}$Cs の深度分布及び下方移動の経年変化 | |
| 4 | カリ上乗せを終了した水田土壌の交換性カリ含量の動向 | |
| 5 | 2017 年以降の水田土壌の交換性カリ含量の推移 | |
| 6 | 土壌の交換性 $^{137}$Cs 濃度が高いほ場では玄米 $^{137}$Cs 濃度が高くなる傾向がある | |
| 7 | ユズ苗木新植時の表土除去により果実や土壌の $^{137}$Cs 吸収が抑制できる | 果樹研究所 |
| 8 | 土壌の交換性カリ含量 30mg/100g 乾土以上を確保できればトールフェスクの $^{137}$Cs の移行は低く抑えられる | 浜地域農業再生研究センター |
| 9 | 土壌の交換性カリ含量を高めることでブロッコリーへの放射性セシウム移行を低減できる | |

エ 営農再開実証技術情報（避難地域等の営農再開の推進に活用できる情報）

（ア）令和 7 年 9 月公開

| No. | 成　　果　　名 | 担当部所 |
|---|---|---|
| 1 | 加工用の秋冬ブロッコリー栽培では株間を狭くするほど単収が向上する | 浜地域農業再生研究センター |

（イ）令和 8 年 3 月公開

| No. | 成　　果　　名 | 担当部所 |
|---|---|---|
| 1 | トールフェスクは単一草種でも黒毛和種繁殖雌牛放牧に利用できる | 畜産研究所 |
| 2 | 営農再開地域におけるアライグマの行動特性と罠餌嗜好性の調査 | 浜地域農業再生研究センター |

| No. | 成　　果　　名 | 担当部所 |
|---|---|---|
| 3 | 生産者間で栽培管理状況を情報共有できる「通い農業支援システム v2」の実証 | 浜地域農業再生研究センター |
| 4 | マメ科緑肥作物による地力回復技術の実証 | |
| 5 | 営農再開前に活用できる塩素酸塩粒剤による効率的な雑草防除 | |
| 6 | 中通り中山間高冷地でも製日本めん・製パン適性に優れる小麦の栽培は可能である(川俣町) | |
| 7 | カンショ連作栽培では冬季に緑肥作物としてライムギの導入が可能である(楢葉町) | |
| 8 | ピーマン斑点病に対する初期防除の効果(川内村) | |
| 9 | 防草シート全面敷設処理と薬剤防除によるユーカリ斑点性病害対策の事例(楢葉町) | |
| 10 | イタリアンライグラス「タチサカエ」は収量が多く、耐倒伏性が高い(飯舘村) | |
| 11 | 飼料用トウモロコシは絹糸抽出期以降では $^{137}$Cs 濃度は変動しない | |

（２）東北農業研究成果情報（東北地域の試験研究機関における顕著な研究成果）
なし

（３）「みどりの食料システム戦略」技術カタログ掲載
なし

## ６ 品種登録・職務発明

（１）品種登録

| 品目名 | 登録品種の名称 | 登録日 | 育成担当者 |
|---|---|---|---|
| カラー | はにかみ | 令和7年12月9日 | 岡田景子、福田秀之、大河内栄、鈴木芳成、野田正浩、田中智子 |
| カラー | ミルキームーン | 令和7年12月9日 | 松野香子、岡田景子、福田秀之、大河内栄、田中智子、諏訪理惠子 |
| カラー | キビタンイエロー | 令和7年12月9日 | 松野香子、岡田景子、福田秀之、野田正浩、田中智子、諏訪理惠子 |

（２）品種登録出願

| 品目名 | 出願品種の名称 | 出願日 | 育成担当者 |
|---|---|---|---|
| リンドウ | 福島GE24号 | 令和8年1月30日 | 大竹智美、田中智子、松野香子、宍戸邦明、福田秀之、尾形正幸、有賀保奈美、野田正浩 |
| ニホンナシ | 福島JP7号 | 令和8年1月30日 | 吉田小夏、額田光彦、芝祥太郎、岡田初彦、大橋義孝、佐藤守 |

（３）特許取得
なし

（４）特許出願
なし

（５）勤務発明届

| 発明の名称 | 届出日 | 認定日 | 発明者 |
|---|---|---|---|
| 水稲「福島59号」 | 令和7年3月24日 | 令和7年8月6日 | 吉田直史、齋藤隆、佐藤園子、我妻わか菜、大野光、小林恭子、渡邉洋一、菅野拓朗、渡邊滉士、菅野史佳、大寺真史、佐藤郁恵、松崎拓真、馬上瑤子、佐藤弘一、吉川学、南隼人、川島史寛、横田佳奈子、斎藤真一 |
| リンドウ「福島栄24号」 | 令和7年3月24日 | 令和7年8月6日 | 大竹智美、田中智子、松野香子、宍戸邦明、福田秀之、尾形正幸、有賀保奈美、野田正浩 |
| ナシ「ナシ福島７号」 | 令和7年3月24日 | 令和7年8月6日 | 吉田小夏、額田光彦、芝祥太郎、岡田初彦、大橋義孝、佐藤守 |

## 7 技術開発に伴う表彰・学位取得

（1）表彰

ア　令和 6 年度農業食料工学会東北支部賞功績賞
　　青田　聡（企画経営部経営・農作業科）

イ　日本植物病理学会東北部会地域貢献賞
　　堀越紀夫（生産環境部作物保護科）
　　「福島県における園芸作物に発生する病害の診断・同定と防除に関する研究」

ウ　「日本土壌肥料学会 2025 年度新潟大会」若手ポスター発表優秀賞
　　前田慧、渡辺明、浅枝諭史、平山孝（浜地域農業再生研究センター）、
　　丸山隼人、信濃卓郎（北海道大学）
　　「福島県内の農地における放射性物質に関する研究（第 61 報）－除染後農地土壌から葉菜類への $^{137}$Cs 移行の制御因子に関する研究」

（2）学位取得

鈴木誉子（作物園芸部品種開発科）
「リンドウの葉片培養における生育と越冬芽形成に関する研究」
東北大学大学院農学研究科資源生物科学専攻　博士（農学）　2026 年 3 月

## 8 有識者懇談会の開催

技術開発、地域農業支援、先進的農業者の育成、食の安全の確保、県民との交流等の全国的な動向や、県内の農業者及び消費者のニーズを把握し、より的確かつ効果的に業務推進を図ることを目的に、外部の有識者から意見を頂く「福島県農業総合センター有識者懇談会」を開催した。

（1）有識者懇談会の開催

| 開催日 | 開催場所 | テ　ー　マ |
|---|---|---|
| 令和7年<br>10月31日 | 農業総合センター | 1 ほ場視察<br>2 令和6年度事業実績概要及び令和7年度試験研究の取組について<br>3 農業短期大学校の取組(次世代の農業担い手育成の取組)について<br>4 令和8年度以降の試験研究取組等について |

（2）有識者委員（敬称略）

| 氏名 | 所属・役職名等 |
|---|---|
| 河野　恵伸 | 国立大学法人福島大学農学群食農学類農業経営学　教授 |
| 板橋　直 | 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター<br>農業放射線研究センター　センター長 |
| 菅野　康徳 | 全国農業協同組合連合会　福島県本部　本部長 |
| 橋本　洋美 | 福島県指導農業士会　監事 |
| 髙野　イキ子 | 福島県消費者団体連絡協議会　会長 |

## 9 技術・研究に関する職員研修

| No | 研 修 名 | 所属・職名 | 氏　名 | 研修主催機関 | 研修テーマ | 研修期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 中央畜産技術研修会（新任畜産技術職員(1)） | 畜産研究所<br>研究員 | 亀井結佳<br>高橋司宰 | 農林水産省 | 畜産技術職員として必要な基礎知識の習得 | 6/ 3- 6/ 5 |
| 2 | 中央畜産技術研修会(肉用牛生産技術指導者養成(1)(専門)) | 畜産研究所<br>研究員 | 戸田宗生 | 農林水産省 | 肉用牛管理指導を行うための技術習得 | 6/ 9- 6/13 |

| No | 研 修 名 | 所属・職名 | 氏　名 | 研修主催機関 | 研修テーマ | 研修期間 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 研究職員派遣研修 | 作物園芸部<br>研究員 | 齋藤江里 | 農林水産省農林水産技術会議事務局 | コムギ、ダイズの生育モデル開発及び作柄解析のためのメッシュ農業強データ利用技術習得 | 6/11- 6/12<br>6/26- 6/27 |
| 4 | 農林水産関係研究リーダー研修 | 果樹研究所<br>所長<br>畜産研究所<br>所長 | 畠 良七<br>佐藤亮一 | 農林水産省 | 研究リーダーとして必要な知見の習得及び能力の向上 | 6/12- 6/13 |
| 5 | 中央畜産技術研修会（放牧） | 畜産研究所<br>研究員 | 髙橋司宰 | 農林水産省 | 牛の放牧の基礎知識の習得 | 6/24- 6/27 |
| 6 | 牛ゲノム選抜手法研修 | 畜産研究所<br>研究員 | 谷内田 柊 | (公社)畜産技術協会 | ゲノム解析、SNP情報抽出に必要な知識・技術の習得 | 7/ 8- 7/11 |
| 7 | 指導者向け集合研修 | 農業短期大学校<br>教務 | 源 祐生 | 農林水産省<br>㈱マイファーム | ミライの農業をつくる指導者研修　農業大学校向け | 8/ 4- 8/ 5 |
| 8 | 中央畜産技術研修会(肉用牛生産技術指導者養成(2)(専門)) | 畜産研究所<br>研究員 | 岡直樹 | 農林水産省 | 肉用牛管理の指導に必要な技術習得 | 10/ 6-10/10 |
| 9 | 農林水産関係若手研究者研修 | 作物園芸部<br>研究員 | 北郷公大 | 農林水産省 | 知的財産、研究倫理等に関する基礎知識の習得 | 10/14-10/15 |
| 10 | 普及指導員研修 | 有機農業推進室<br>技師 | 八代祐弥 | 農林水産省 | みどりの食料システム戦略研修Ⅱ(有機農業) | 10/15 |
| 11 | 牛ゲノム選抜手法研修 | 畜産研究所<br>研究員 | 谷内田 柊 | (公社)畜産技術協会 | ゲノム解析、SNP情報抽出に必要な知識・技術の習得 | 10/27-10/30 |
| 12 | 中央畜産技術研修会（酪農） | 畜産研究所<br>研究員 | 亀井結佳 | 農林水産省 | 酪農の現状課題、基礎知識の習得 | 11/10-11/14 |
| 13 | 研究職員派遣研修 | 作物園芸部<br>研究員 | 金澤優紀 | (国研)農研機構　植物防疫研究部門 | イネカメムシの生理・生態・累代飼育について | 11/10-11/21 |
| 14 | ArcGIS Pro 基本操作 | 安全農業推進部<br>技師<br>生産環境部<br>副主任研究員 | 鈴木友也<br>前原　瞳 | ESRIジャパン(株) | ArcGISの基本操作について | 12/ 3-12/ 5 |
| 15 | 病害虫防除所職員等中央研修 | 安全農業推進部<br>技師 | 門馬雅孔莉 | 農林水産省 | 発生予察事業等に関する基礎的知識及び技術の習得 | 12/16-12/19 |
| 16 | ArcGIS Pro 基本操作 | 作物園芸部<br>研究員 | 鈴木寛人 | ESRIジャパン(株) | ArcGISの基本操作について | 1/14- 1/16 |
| 17 | 令和７年度技術講習会 | 安全農業推進部<br>技師<br>技師 | 小野 祥児<br>渡邉 秀明 | 独立行政法人農林水産消費安全技術センター | 肥料法に基づく肥料制度（入門編） | 2/ 6 |
| 18 | 東北地区病害虫防除所職員等研修会 | 安全農業推進部<br>技師<br>技師 | 小野 祥児<br>鈴木　友也 | 東北農政局 | アブラムシ類、ハダニ類の見分け方 | 2/10 |
| 19 | 研究職員派遣研修 | 会津地域研究所 | 中村陽登 | 千葉大学環境健康フィールド科学センター | オタネニンジン省力化栽培のための先進的な栽培管理技術の習得 | 2/16- 2/20 |
| 20 | カミキリムシ類のフラス検出技術研修 | 安全農業推進部<br>技師<br>果樹研究所<br>研究員 | 鈴木友也<br>阿部初紀 | 農研機構植物防疫研究部門 | 外来カミキリムシ類のフラス検出技術の習得 | 3/ 4- 3/ 5 |

## １０　試験研究推進会議の開催

現場と密着した実用性の高い技術開発と迅速な技術移転を図ることを目的に、センター本部、会津地域研究所、浜地域研究所、果樹研究所及び畜産研究所ごとに農業者(指導農業士等)、団体、市町村を構成員とした「試験研究推進会議」を下記のとおり会議を開催した。

| 開催日 | 部門・開催場所 | 出席者 | | | | | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 農業者 | 市町村 | JA | 県関係 | 関係機関 | |
| 令和7年<br>6月25日 | 本部<br>(県南地域) | 2 | 4 | 3 | 4 | － | 1 農業総合センターにおける試験研究成果について<br>2 試験研究に関する事前アンケートの結果について |
| 令和7年<br>7月 4日 | 本部<br>(県北・県中) | 5 | 7 | 4 | 7 | 1 | 1 農業総合センターにおける試験研究成果について<br>2 試験研究に関する事前アンケートの結果について |
| 令和7年<br>6月18日 | 果樹 | 3 | 3 | 5 | 14 | 1 | 1 令和7年度試験研究課題について<br>2 研究成果について<br>3 試験研究への意見・要望について |
| 令和7年<br>6月12日～<br>6月27日 | 畜産（書面開催） | 3 | 6 | － | 11 | 2 | 1 試験研究課題及び成果について<br>2 試験研究に関する意見・要望について |
| 令和7年<br>7月 3日 | 会津地域 | 1 | 9 | 4 | 2 | 0 | 1 会津地域研究所の取組概要について<br>2 試験研究推進方針の重点研究テーマ、地域の課題と試験研究に関する意見交換<br>3 所内ほ場視察 |
| 令和7年<br>8月29日 | 浜地域<br>（相馬地域） | 0 | 2 | 2 | 1 | － | 1 浜地域研究所の試験研究の取組について<br>2 解決が必要な技術的課題と研究に関する意見・要望について |
| 令和7年<br>8月29日 | 浜地域<br>（双葉、いわき地域） | 0 | 1 | 4 | 3 | － | |

※ 浜地域農業再生研究センター業務連携会議　令和8年3月（書面開催）

## １１　所内ゼミ

| 回 | 開催日 | 場所 | 内容 | 講師 | | 出席者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 令和7年<br>4月16日<br>22日 | 大会議室* | 研究倫理<br>日本学術振興会<br>農林水産省 | e-ラーニング | － | 88名* |
| 2 | 5月21日 | 大会議室* | 初任者、転入者<br>センター職員としての心構え<br>試験研究の進め方<br>設計、成績書の書き方 | 所長<br>企画技術科長<br>企画技術科主任研究員 | 小久保仁子<br>木幡 栄子<br>松﨑 俊 | 24名* |
| 3 | 6月11日 | 大会議室* | 研究の実績報告書の作り方１ | 事務部部長 | 矢吹 幸雄 | 61名* |
| 4 | 6月24日 | 3階ゼミ室* | 第68回東北農業試験研究発表会予演会 | 発表予定者 | 3名 | 28名* |
| 5 | 7月 8日 | 大会議室* | 統計学の基礎 | 安全農業推進部分析課 | 櫻井 哲史 | 13名* |
| 6 | 7月23日 | 多目的ホール | 救命救急講習会<br>普通救命講習 | 郡山消防署日和田分署署員 | 1名 | 23名 |
| 7 | 10月20日 | 大会議室* | 成績書、成果の書き方 | 企画経営部企画技術科 | 松﨑　俊 | 13名* |

| 回 | 開催日 | 場　所 | 内　　容 | 講　　師 | | 出席者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 10月27日 | 大会議室* | 統計<br>実験計画法 | 安全農業推進部分析課 | 櫻井 哲史 | 18名* |
| － | 11月12日 | 浜地域研究所 | 現地輪作ほ場における雑草管理 | 農研機構植物防疫研究部門<br>雑草防除研究領域雑草防除グループグループ長 | 浅井元朗 | 25名 |
| 9 | 11月14日 | 大会議室* | 統計<br>Ｒの使い方 | 生産環境部作物保護科 | 前原 瞳 | 13名* |
| 10 | 11月20日 | 大会議室* | 研究における実績報告書の作り方２ | 事務部部長 | 矢吹幸雄 | 31名* |
| 11 | 令和8年<br>2月27日 | 大会議室* | 研修報告会 | 作物園芸部稲作科<br>畑作科<br>会津地域研究所 | 金澤優紀<br>齋藤江里<br>中村陽登 | 35名* |
| 12 | 3月24日 | 多目的ホール* | 先輩を囲む集い | 副所長(業務)<br>生産環境部部長<br>作物園芸部部長<br>作物園芸部副部長 | 佐藤睦人<br>岡崎一博<br>本馬昌直<br>大竹祐一 | 105名* |

＊はオンライン同時開催

## １２　初任者研修・新規採用職員研修

| 回 | 開催日 | 開催場所 | 内　　容 | 講　　師 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 令和7年<br>5月21日 | 大会議室* | センター職員としての心構え<br>試験研究の進め方<br>設計、成績書の書き方 | 所長<br>センター職員 |
| 2 | 令和8年<br>3月19日 | 大会議室* | OJTの実績報告及び自己評価を題材としたプレゼンテーション実践 | ― |

＊はオンライン同時開催

## １３　その他研修

| 回 | 開催日 | 開催場所 | 内　　容 | 講　　師 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 令和7年<br>7月 7日 | 多目的ホール* | 農林水産試験研究育成方針<br>研究に係る制度<br>外部資金管理の適正な事務他 | 農業振興課 主任主査<br>副主査 | 関澤 春仁<br>有賀 雅喜 |
| 2 | 12月 5日 | 自席* | 統計基礎研修 | 東北大学大学院農学研究科<br>特任教授 | 池田 郁男 |

＊はオンライン同時開催

# Ⅲ　地域農業支援

## 1 技術移転・技術支援

（1）技術移転セミナー

地域ごとにセミナーを開催し、普及に移しうる成果、参考となる成果、営農再開実証技術情報等の農業総合センターの試験研究成果の現地への円滑な技術移転を図るとともに、意見交換を行った。

| 回 | 月日 | 場所 | テーマ等 | 内　容　、　講　師 | 出席者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 5/22 | 郡山市<br>(農業総合センター) | トマト病害防除及び高温対策 | ○トマト黄化葉巻病対策<br>生産環境部作物保護科 科長 堀越紀夫<br>○トマト「りんか409」のミスト噴霧を利用したハウス内高温対策<br>作物園芸部野菜科　科長　雨宮潤子 | 41名 |
| 2 | 6/20 | 郡山市<br>(農業総合センター) | 農業総合センターにおける放射性物質対策研究 | ○福島県農業総合センターにおける放射性物質に係る研究と様々な対策技術の開発<br>副所長(業務担当) 佐藤睦人<br>○水稲作における放射性物質対策研究<br>生産環境部環境・作物栄養科　科長　中山秀貴<br>○畑作における放射性物質対策研究<br>浜地域農業再生研究センター技術研究科　科長　平山 孝<br>○果樹における放射性物質対策研究<br>果樹研究所栽培科　科長　岡田初彦<br>○畜産における放射性物質対策研究<br>畜産研究所　所長　佐藤亮一 | 83名* |
| 3 | 7/ 2 | 福島市<br>(多目的防災網現地実証ほ場) | モモ(せん孔細菌病・胴枯細菌病)防除対策 | ○多目的防災網設置によるモモせん孔細菌病対策<br>果樹研究所病害虫科　副主任研究員　日下部翔平<br>○簡易暗きょ設置によるモモ急性枯死症（胴枯細菌病）対策<br>生産環境部環境・作物栄養科　主任研究員　尾形亜希子 | 42名 |
| 4 | 7/24 | いわき市<br>(川部公民館) | 特定外来生物ナガエツルノゲイトウの識別方法と防除対策 | ○ロイヤント乳剤の効果的な使用方法と使用上の注意点<br>コルテバアグリサイエンス日本株式会社　社員<br>○ナガエツルノゲイトウの識別ポイントと類似植物の見分け方<br>浜地域研究所　副主任研究員　吉川 学<br>○今後の防除対策について<br>いわき農林事務所農業振興普及部　地域農業推進課　課長　木田義信 | 36名 |
| 5 | 7/31 | 郡山市<br>(農業総合センター) | 水稲、野菜、花き高温対策 | ○水稲<br>・水稲の病害虫発生状況<br>安全農業推進部発生予察課　主査　菅田　充<br>・水稲の高温対策と良食味に向けた稲づくり(栽培編)<br>作物園芸部稲作科　研究員　金澤優紀<br>○野菜<br>・野菜の病害虫発生状況<br>安全農業推進部発生予察課　副主査　石川万里那<br>・施設キュウリにおけるミストと日射制御型遮光を併用した高温対策技術<br>作物園芸部野菜科　副主任研究員　宗像祐太朗<br>○花き<br>・花きの病害虫発生状況<br>安全農業推進部発生予察課　副主査　石川万里那<br>・簡易な遮光幕の設置によりリンドウ着色不良花の発生は軽減できる<br>作物園芸部花き科　副主任研究員　鈴木保奈美 | 延べ<br>126名 |

| 回 | 月日 | 場所 | テーマ等 | 内　容、講　師 | 出席者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 8/ 5 | 会津坂下町<br>(農業総合センター会津地域研究所) | RTK-GNSS制御の小型レベラーを用いたほ場の均平化と水稲ドローン直播栽培 | ○小型(ＧＰＳ)レベラーを用いたほ場の均平化について<br>スガノ農機(株)社員、(株)南東北クボタ社員<br>○RTK基地局事業について<br>農業振興課 主査 山田康平<br>○ドローン播種による水稲直播栽培について<br>会津地域研究所　主任研究員(キャップ)　大寺真史 | 33名 |
| 7 | 8/20 | 大熊町<br>(CREVAおおくま)<br>双葉町<br>(実演会場) | メタン発酵消化液の畑地利用に向けた現地検討会 | ○メタン発酵消化液の畑地での有効利用推進のための新型スラリーインジェクターの開発<br>農研機構農村工学部門　中村真人<br>○メタン発酵消化液の肥料効果と適正施肥(北海道における家畜ふん消化液の利用)<br>(地独)北海道立総合研究機構　十勝農業試験場　石倉　究<br>○小型スラリーインジェクターを用いた栽培実証試験<br>農研機構農村工学部門　折立文子<br>○メタン発酵消化液の農業利用に向けた取組について<br>共栄株式会社　新事業室　鈴木久伸<br>○メタン発酵消化液を利用した実証研究について<br>浜地域農業再生研究センター 技術研究科　科長　平山　孝<br>○現地実演<br>スラリーインジェクターによる食品残渣由来消化液の散布実演 | 68名* |
| 8 | 10/29 | 相馬市<br>(農業総合センター浜地域研究所) | RTK-GNSS制御の農業散布用ドローンと自動操舵システム付きトラクタの利活用 | ○RTK基地局事業について<br>農業振興課 主査 山田康平<br>○RTK-GNSS制御の農業散布用ドローンについて<br>(株)南東北クボタ社員<br>○浜地域研究所におけるスマート農業関連研究課題について　浜地域研究所　副主任研究員　南隼人<br>○RTK-GNSS制御の自動操舵システム付きトラクタについて<br>(株)トプコンソキアポジショニングジャパン社員、(株)南東北クボタ社員 | 21名 |

注)＊はオンライン参加者含む。

（２）成果発表会

令和７年度に当センターの試験研究で得られた各分野の最新研究成果を中心に、会場及びオンラインにより研究成果発表会を開催し、広く情報の共有を図った。

| 回 | 月日 | 場所 | テーマ等 | 内　　容 | 出席者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 3/ 3 | 福島市<br>（農業総合センター畜産研究所） | 令和7年度研究成果発表（畜産） | ○畜産に関する成果 | 41名<br>(20) |
| 2 | 3/ 4 | 福島市<br>（JA福島ビル） | 令和7年度研究成果発表（果樹） | ○モモ・ニホンナシ・リンゴ・ブドウに関する成果 | 114名<br>(32) |
| 3 | 3/ 9 | 郡山市<br>（農業総合センター） | 令和7年度研究成果発表（本部） | ○稲作・畑作・野菜・花きに関する成果 | 120名<br>(38) |
| 4 | 3/10 | 大熊町<br>（Linkる大熊） | 令和7年度研究成果発表（浜） | ○浜地域の農業、営農再開に関する成果<br>○農林水産分野の先端技術展開事業の取組 | 61名<br>(27) |
| 5 | 3/11 | 桑折町<br>（ＪＡふくしま未来桑折支店2階大ホール） | 令和7年度研究成果発表（県北） | ○県北地域の農業に関する成果 | 41名 |
| 6 | 3/12 | 会津若松市<br>（JA会津よつば河東支店会議室） | 令和7年度研究成果発表（会津） | ○会津地域の稲作・野菜・花き・果樹に関する成果 | 75名<br>(25) |

注)Zoom によるオンライン開催併用であり、出席者数の(　)はオンライン参加者数

（３）技術支援(鳥獣害防止対策)

| 内　　容 | 支援地方 、 実施月日 | | | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 県段階活動支援<br>（県段階連携活動、各種研修支援等） | 県全域　5回<br>令和7年　5/9、5/30、6/20、7/2、7/4 | | | |
| 地方会議活動支援<br>（地方会議、モデル集落・重点支援集落活動等） | 全4回<br>県北<br>県中<br>県南<br>会津 | <br>6/25<br>2/25<br>7/29<br>6/11 | | 企画技術科<br>副主任研究員<br>廣瀬允康 |
| その他 | 個人等<br>試験研究機関野生鳥獣関係情報交換会 | | 2回<br>3回 | |

## ２　指導・啓発活動

研修会の講師及び資料の作成、配付により技術の普及を図った。

（１）研修会

| No | 所属 | 担当者 | 内　　容 | 月日 | 主　催　者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | － | 小久保仁子 | 福島県農業の復興と持続的発展に向けた取組について | 11/28 | 東京電力ホールディングス株式会社ふくしま流通促進室 |
| 2 | － | 小久保仁子 | 福島県国際研究教育機構(F-REI)農林水産業分野検討会「福島県(浜通り)における農林水産業の将来方向とF-REIが担う研究開発」 | 3/ 6 | 福島国際研究教育機構 |
| 3 | － | 佐藤睦人 | 会津伝統野菜に関する研修会 | 10/28 | 会津農林高校<br>会津農林事務所 |
| 4 | 安全農業推進部<br>有機農業推進室<br>企画経営部<br>作物園芸部 | 山田真孝<br>田口明広<br>新田耕作<br>小林智之<br>新妻和敏 | JICA研修員研修<br>農業総合センターの概要<br>福島県の稲作の概要<br>品種の育成、種子生産、先進技術開発<br>福島県の有機農業の概要<br>試験研究と普及現場の連携 | 7/23 | JICA |
| 5 | 安全農業推進部<br>生産環境部<br>作物園芸部<br>果樹研究所 | 山田真孝<br>小野祥児<br>渡邉秀明<br>宍戸邦明<br>新妻和敏<br>柳沼久美子 | 福島県農薬管理指導士認定研修 | 11/25<br>11/26 | 福島県 |
| 6 | 安全農業推進部<br>生産環境部<br>作物園芸部<br>果樹研究所 | 小野祥児<br>宍戸邦明<br>新妻和敏<br>柳沼久美子 | 福島県農薬適正使用アドバイザ-認定研修 | 11/25<br>12/ 2 | 福島県 |
| 7 | 作物園芸部<br>生産環境部<br>有機農業推進室 | 新妻和敏<br>清田裕司<br>横田智宏 | 令和７年度二本松市認定農業者と農業委員会委員の意見交換会(水稲の高温対策、害虫対策、有機栽培 | 1/20 | 二本松市農業委員会 |
| 8 | 安全農業推進部 | 今井麻奈 | 令和７年度県中地方園芸振興セミナー（県内のトマト黄化葉巻病の発生状況について） | 11/28 | 県中農林事務所 |
| 9 | | 石川万里那 | 令和７年度第１回南郷トマト講座（トマト褐色輪紋病対策について） | 12/ 8 | 南会津農林事務所 |
| 10 | | 鈴木友也 | 県中・県南地方園芸振興セミナー（クビアカツヤカミキリの調査状況と普及啓発活動） | 1/13 | 県南農林事務所 |
| 11 | | 菅田　充 | 住友化学農薬セミナー（本年度における水田病害虫の発生状況と防除対策） | 2/ 5 | 住友化学（株）東日本営業所 |
| 12 | | 山内富士男 | 令和７年度福島県ゴルフ場農薬安全使用管理責任者講習会 | 2/24 | 環境保全農業課 |
| 13 | | 門馬雅孔莉 | 令和７年度病害虫防除員研修会公開セミナー（イネカメムシ等の斑点米カメムシ類の発生状況、雑草ナガエツルノゲイトウ対策） | 2/25 | 福島県病害虫防除所 |
| 14 | | 今井麻奈 | 令和７年度病害虫防除員研修会公開セミナー（トマトキバガの発生状況） | 2/25 | 福島県病害虫防除所 |

| No | 所属 | 担当者 | 内　　容 | 月日 | 主　催　者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 安全農業推進部 | 鈴木友也 | 令和７年度病害虫防除員研修会公開セミナー（クビアカツヤカミキリの警戒態勢） | 2/25 | 福島県病害虫防除所 |
| 16 | | 藤田剛輝 | 令和７年度病害虫防除員研修会公開セミナー（近年確認された果樹におけるカイガラムシ類の発生状況の変化） | 2/25 | 福島県病害虫防除所 |
| 17 | 安全農業推進部<br>生産環境部 | 堀越紀夫 | 農作物病害虫防除公開セミナー（トマト黄化葉巻病の防除対策） | 2/25 | 福島県病害虫防除所 |
| 18 | 有機農業推進室 | 木幡由美子<br>八代祐弥 | 令和７年度就農研修(中級) | 6/ 4 | 農業短期大学校 |
| 19 | | 木幡由美子<br>横田智宏<br>八代祐弥 | 令和７年度就農研修(中級) | 6/13 | 農業短期大学校 |
| 20 | | 田口明広<br>横田智宏<br>八代祐弥 | 福島県有機農業ネットワーク総会（有機農業推進室の取組） | 6/19 | 福島県有機農業ネットワーク |
| 21 | | 木幡由美子<br>横田智宏<br>八代祐弥 | 令和７年度就農研修(中級) | 8/ 6 | 農業短期大学校 |
| 22 | | 木幡由美子 | エゴマ収穫祭（有機実証ほ結果報告） | 12/16 | 田村市エゴマ振興協議会 |
| 23 | | 横田智宏<br>八代祐弥 | 有機生産交流会（水稲有機栽培について） | 2/26 | 福島農民連産直農業協同組合 |
| 24 | 企画経営部 | 加藤磨璃子<br>宮川貴光 | 令和７年度就農研修（中級） | 7/ 9 | 農業短期大学校 |
| 25 | | 廣瀬允康 | 令和７年度就農研修(中級) | 8/27 | 農業短期大学校 |
| 26 | | 作田善紀 | 熱中症対策研修 | 8/28 | いわき農林事務所 |
| 27 | | 武藤景子 | 都道府県 GAP 担当者会議 | 10/16 | 農林水産省農産局 |
| 28 | | 岡本和夫 | 農業簿記短期研修 | 11/ 7<br>14<br>21<br>28 | くにみ農業ビジネス訓練所 |
| 29 | | 武藤景子 | 農業経営セミナー | 11/ 7 | 東京農業大学 |
| 30 | | 加藤磨璃子<br>宮川貴光 | 令和７年度農業経営管理研修（応用） | 11/11 | 農業振興課 |
| 31 | | 武藤景子 | 視察研修(農作業事故の発生現場における GAP 管理点の遵守状況) | 11/14 | 栃木県認定農業者会 |
| 32 | | 加藤磨璃子 | ひとつ、ひとつ、実現する郡山農業塾 | 12/ 9 | 県中農林事務所 |

| No | 所属 | 担当者 | 内　　容 | 月日 | 主　催　者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 企画経営部 | 武藤景子 | GAP による農業経営”カイゼン“セミナー | 12/18 | 環境保全農業課 |
| 34 | | 武藤景子 | 令和７年度県中地方 GAP セミナー | 1/23 | 県中農林事務所 |
| 35 | | 武藤景子 | GAP の取組推進セミナー | 1/29 | 宮城県 |
| 36 | 生産環境部 | 岡崎一博 | 原子力災害に伴う放射性物質対策について | 6/ 2 | 海外農業開発コンサルタンツ協会（ADCA） |
| 37 | | 堀越紀夫 | 令和７年度 リーダー研修会（環境にやさしい病害虫等の防除について） | 4/18 | 福島県生活研究グループ連絡協議会 |
| 38 | | 尾形亜希子<br>佐久間宣昭 | 専門技術向上研修(果樹) | 5/23 | 農業振興課 |
| 39 | | 堀越紀夫 | 令和７年度須賀川・石川地方いちご育苗研修会（いちご育苗期における炭疽病防除のポイントについて） | 6/30 | 県中農林事務所須賀川農業普及所 |
| 40 | | 尾形亜希子<br>佐久間宣昭 | 専門技術向上研修(果樹) | 7/ 4 | 農業振興課 |
| 41 | | 清田裕司<br>前原 瞳 | 専門技術向上研修(作物) | 7/11 | 農業振興課 |
| 42 | | 堀越紀夫 | 病害の診断と防除のポイント | 7/14 | 福島大学 |
| 43 | | 堀越紀夫<br>宍戸邦明<br>菅野孝盛 | 専門技術向上研修(野菜・花き) | 7/16 | 農業振興課 |
| 44 | | 佐久間宣昭 | 新任農業革新支援専門員研修 | 7/16<br>8/26 | 農林水産省農林水産研修所 |
| 45 | | 尾形亜希子<br>佐久間宣昭 | 専門技術向上研修(果樹) | 7/25 | 農業振興課 |
| 46 | | 尾形亜希子<br>佐久間宣昭 | 専門技術向上研修(果樹) | 8/18 | 農業振興課 |
| 47 | | 清田裕司 | 水稲斑点米カメムシ類の防除対策 | 8/29 | ジェイカムアグリ㈱ |
| 48 | | 佐藤綾香 | 令和７年度技術交流まつり | 9/19 | 県産品加工支援センター他 |
| 49 | | 尾形亜希子<br>佐久間宣昭 | 専門技術向上研修(果樹) | 10/ 2 | 農業振興課 |
| 50 | | 尾形亜希子<br>佐久間宣昭 | 果樹研究所長期就農研修（土壌肥料・流通加工について） | 10/14 | 果樹研究所 |

| No | 所属 | 担当者 | 内　　容 | 月日 | 主　催　者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 51 | 生産環境部 | 中山秀貴 | 専門技術向上研修(土壌肥料) | 10/15 | 農業振興課 |
| 52 | | 堀越紀夫 | 病害虫対策について | 11/ 4 | 二本松市生活研究グループ連絡協議会 |
| 53 | | 中山秀貴 | 令和７年度新規就農者等研修会(第２回)(土づくりと肥培管理) | 11/11 | 会津農林事務所会津坂下農業普及所 |
| 54 | | 尾形亜希子<br>佐久間宣昭 | 専門技術向上研修(果樹) | 11/14 | 農業振興課 |
| 55 | | 堀越紀夫 | キク白さび病の防除について | 11/ 7 | JA 愛知みなみ |
| 56 | | 清田裕司 | 最近の病害虫防除・管理の研究と今後の研究の方向 | 11/20 | 福島県農薬商業協同組合 |
| 57 | | 菅野孝盛 | 令和７年度県中地方園芸振興セミナー | 11/28 | 県中農林事務所 |
| 58 | | 堀越紀夫 | 炭疽病対策について | 12/ 1 | JA 会津よつば　あいづいちご生産部会 |
| 59 | | 中山秀貴 | ふくしま土の会研修会(土づくりと施肥について) | 12/ 1 | ふくしま未来農業協同組合 |
| 60 | | 尾形亜希子<br>佐久間宣昭 | 専門技術向上研修(果樹) | 12/ 3 | 農業振興課 |
| 61 | | 堀越紀夫 | 安達地域新規就農向け研修会(野菜病害虫セミナー) | 12/ 5 | 県北農林事務所安達農業普及所 |
| 62 | | 堀越紀夫 | 第３回ひとつ、ひとつ、実現する郡山農業塾(病害虫防除編) | 12/19 | 県中農林事務所 |
| 63 | | 中山秀貴 | 第３回 ひとつ、ひとつ、実現する郡山農業塾(土づくりと施肥のポイント) | 12/19 | 県中農林事務所 |
| 64 | | 堀越紀夫 | しらかわ農業経営アカデミー(トマト黄化葉巻病の現状と対策技術) | 1/23 | 白河市産業部農政課 |
| 65 | | 安達祐介 | 肥料技術講習会(土づくりと施肥について) | 2/ 2 | 全国肥料商連合会福島県部会 |
| 66 | 作物園芸部 | 福田秀之<br>鈴木洋平<br>鈴木保奈美 | 専門技術向上研修(花き) | 5/ 8 | 農業振興課 |
| 67 | | 新妻和敏 | 専門技術向上研修(作物) | 5/27 | 農業振興課 |
| 68 | | 増戸めぐみ<br>大越　聡 | 専門技術向上研修(野菜) | 5/14 | 農業振興課 |

| No | 所属 | 担当者 | 内　　容 | 月日 | 主　催　者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 69 | 作物園芸部 | 金澤優紀 | 水稲種子場生産者研修会 | 6/ 5 | 福島県米改良協会 |
| 70 | | 佐藤弘一<br>佐藤郁恵 | 福島県における「夏黄金」栽培のための講習会 | 6/ 6 | 農研機構東北農業研究センター |
| 71 | | 鈴木寛人 | 水稲生育管理等指導講習会 | 7/ 2 | 全国肥料商連合会福島県部会 |
| 72 | | 福田秀之<br>高田真美 | 令和７年度飯舘村花き勉強会 | 7/ 7 | 飯舘村産業振興課 |
| 73 | | 福田秀之<br>高田真美<br>鈴木保奈美 | 専門技術向上研修(花き) | 7/ 8 | 農業振興課 |
| 74 | | 鈴木寛人 | 令和７年度福笑い現地検討会 | 7/10 | 水田畑作課 |
| 75 | | 宗像祐太朗<br>北郷公大<br>信田俊成<br>増戸めぐみ<br>大越　聡 | 専門技術向上研修(野菜) | 7/10 | 農業振興課 |
| 76 | | 新妻和敏 | 専門技術向上研修(作物) | 7/14 | 農業振興課 |
| 77 | | 伊藤稜晟<br>佐藤郁恵 | 専門技術向上研修(作物) | 7/18 | 農業振興課 |
| 78 | | 金澤優紀 | 水稲種子センター調製担当者研修会 | 7/24 | 福島県米改良協会 |
| 79 | | 宮野法近 | 水稲の高温対策、雑草イネについて | 7/31 | 大崎市農業委員会 |
| 80 | | 福田秀之<br>高田真美<br>熊坂　京 | 専門技術向上研修(花き) | 8/ 5 | 農業振興課 |
| 81 | | 八木田靖司 | 相双地方土地利用型野菜推進セミナー(育苗のポイントと省力的なかん水管理技術) | 8/ 6 | 相双農林事務所 |
| 82 | | 鈴木寛人 | 水稲の高温対策について | 8/ 7 | 松島地区認定農業者・稲作・園芸部会 |
| 83 | | 新妻和敏<br>宮野法近 | 令和７年度農作物技術講習会 | 8/ 7 | 福島県農業共済組合 |
| 84 | | 新妻和敏 | 雑草イネ・水稲高温対策について | 8/21 | 常陸農業協同組合稲作部会笠間支部 |
| 85 | | 宮野法近 | 郡山市農業政策課研修会 | 8/29 | 郡山市農業政策課 |
| 86 | | 鈴木寛人 | 水稲栽培研修会 | 8/29 | 猪苗代苗箱まかせ友の会 |

| No | 所属 | 担当者 | 内　　容 | 月日 | 主　催　者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 87 | 作物園芸部 | 八木田靖司<br>大越 聡 | 専門技術向上研修(野菜) | 9/ 9 | 農業振興課 |
| 88 | | 新妻和敏 | 専門技術向上研修(作物) | 10/ 7 | 農業振興課 |
| 89 | | 増戸めぐみ<br>大越 聡 | 専門技術向上研修(野菜) | 10/21 | 農業振興課 |
| 90 | | 福田秀之<br>鈴木保奈美 | リンドウの暑熱対策について | 10/27 | 栃木県河内農業普及所 |
| 91 | | 雨宮潤子<br>福田秀之 | 北斗市農業委員会研修会 | 10/29 | 北斗市農業委員会 |
| 92 | | 新妻和敏 | 桐生市農業委員会研修会 | 11/12 | 桐生市農業委員会 |
| 93 | | 八木田靖司 | 令和７年度スマート農業社会実装推進事業実証ほ(野菜)現地検討会<br>(タマネギ直播栽培における研究成果について) | 11/12 | 新たなふくしまの未来を切り開く園芸振興双葉地方推進会議 |
| 94 | | 新妻和敏 | 見附市農業者会議研修会 | 11/19 | 見附市農業者会議 |
| 95 | | 鈴木寛人 | 高温に対する稲作技術について | 12/ 5 | 朝日地区岩舟米協議会 |
| 96 | | 佐藤郁恵 | 国産小麦セミナー<br>パン・中華麺用小麦「夏黄金」の新たな食品への利用拡大に向けて | 1/22 | 東北地域農林水産・食品ハイテク研究会<br>農研機構東北農業研究センター |
| 97 | | 金澤優紀 | 採種技術研修会 | 2/ 5 | 福島県米改良協会 |
| 98 | | 鈴木寛人 | 高温に対する稲作技術について | 2/ 4 | 株式会社　蓬田 |
| 99 | | 増戸めぐみ | 令和７年度福島県きゅうり生産振興セミナー | 2/12 | 全国農業協同組合連合会福島県本部 |
| 100 | | 鈴木寛人 | 良食味米づくりについて | 2/19 | 猪苗代町農業技術者連絡協議会 |
| 101 | | 鈴木寛人 | 高温に対する稲作技術について | 2/27 | 川俣町役場農林振興課 |
| 102 | | 雨宮潤子 | 夏秋トマトの高温対策 | 3/12 | JA会津よつば<br>ばんだいトマト生産部会 |
| 103 | | 鈴木寛人 | 令和８年度福笑い研究会説明会 | 3/18 | 水田畑作課 |
| 104 | 果樹研究所 | 志村浩雄<br>小松健太郎<br>阿部初紀 | 福島大学農学群食農学類学生実習 | 6/ 5<br>6/12<br>6/19<br>7/ 3 | 福島大学農学群食農学類 |

| No | 所属 | 担当者 | 内　　容 | 月日 | 主　催　者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 105 | 果樹研究所 | 岡田初彦<br>柳沼久美子 | 令和７年度果樹共済評価技術研修会 | 7/14 | 福島県農業共済組合 |
| 106 | | 上野美和 | 園芸重点品目専門部会(ぶどう) | 8/22 | 園芸課 |
| 107 | | 上野美和 | ブドウ施設栽培セミナー | 9/19 | 県相双農林事務所双葉農業普及所 |
| 108 | | 岡田初彦<br>佐藤寛人<br>山本晶人 | 令和７年度スマート農業社会実装推進事業実証ほ現地検討会(いわき) | 9/30 | いわき農林事務所 |
| 109 | | 日下部翔平<br>髙橋佳大 | 専門技術向上研修(果樹病害虫) | 10/28 | 農業振興課 |
| 110 | | 阿部初紀 | 県北地方園芸振興セミナー | 11/11 | 県北農林事務所 |
| 111 | | 志村浩雄 | モモせん定講習会 | 11/27<br>1/26 | ふくしま農業富女子会 |
| 112 | | 畠　良七<br>岡田初彦<br>秋山祐輝<br>阿部和博<br>志村浩雄 | モモジョイントＶ字樹形の現地試験検討会 | 12/4 | 農業総合センター<br>果樹研究所 |
| 113 | | 日下部翔平<br>小松健太郎 | 県南地域果樹防除研修会<br>～ナシ黒星病及び果樹類胴枯細菌病対策について～ | 12/19 | 県南農林事務所 |
| 114 | | 岡田初彦<br>佐藤寛人<br>山本晶登 | 日本なしジョイントＶ字トレリス栽培現地検討会 | 12/22 | 県北農林事務所農業振興普及部 |
| 115 | | 柳沼久美子 | 農薬講習会 | 12/23 | 福島県農薬商業組合 |
| 116 | | 髙橋佳大 | 令和８年度版果樹栽培防除暦説明会 | 1/14 | JAふくしま未来桑折営農センター |
| 117 | | 志村浩雄<br>秋山祐輝<br>穴澤拓哉<br>佐藤寛人<br>上野美和 | 園友会冬季研修会 | 1/15 | 園友会 |
| 118 | | 髙橋佳大 | 令和８年度版果樹栽培防除暦説明会 | 1/16 | JAふくしま未来伊達営農センター |
| 119 | | 柳沼久美子<br>小松健太郎<br>髙橋佳大 | JAふくしま未来ナシ部会野田杉野会勉強会 | 1/29 | JAふくしま未来ナシ部会野田杉野会 |
| 120 | | 日下部翔平 | 羽山リンゴ生産組合勉強会 | 1/30 | 羽山リンゴ生産組合 |
| 121 | | 志村浩雄<br>瓜生武司<br>穴澤拓哉<br>秋山祐輝<br>髙橋佳大 | 果樹経営者研修会経営発展研修会 | 1/30<br>-31 | 果樹経営者研究会 |

| No | 所属 | 担当者 | 内　　容 | 月日 | 主　催　者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 122 | 果樹研究所 | 髙橋佳大 | 令和８年度版果樹栽培防除暦説明会 | 2/ 2 | JA夢みなみ五箇行政センター |
| 123 | | 髙橋佳大 | 令和８年度版果樹栽培防除暦説明会 | 2/ 5 | JA夢みなみ須賀川東支店 |
| 124 | | 岡田初彦<br>佐藤寛人<br>山本晶登 | 令和７年度なしＶ字ジョイント栽培勉強会 | 2/13 | 相双農林事務所農業振興普及部 |
| 125 | | 上野美和 | 福島・伊達地域ブドウ根圏制御栽培研究会次年度検討会 | 2/13 | 県北農林事務所 |
| 126 | | 髙橋佳大 | 害虫に関する講習会 | 3/ 5 | 野田果樹共同防除組合 |
| 127 | | 阿部初紀 | 害虫勉強会 | 3/10 | JAふくしま未来 |
| 128 | 畜産研究所 | 萩原 瞳<br>中村フチ子<br>菅野那奈 | 専門技術向上研修(牧草生産管理) | 6/26 | 農業振興課 |
| 129 | | 新妻恭子<br>吉田朋恵<br>亀井結佳 | 専門技術向上研修(酪農) | 7/10<br>7/11 | 農業振興課 |
| 130 | | 萩原 瞳<br>中村フチ子<br>菅野那奈 | 専門技術向上研修(トウモロコシ) | 8/ 1 | 農業振興課 |
| 131 | | 岡直樹<br>堀江太樹 | セリ前ワンポイント講座「現場後代検定」 | 8/ 4<br>-5 | JA全農福島 |
| 132 | | 岡直樹<br>堀江太樹 | セリ前ワンポイント講座「福島県基幹種雄牛」 | 9/ 3<br>-4 | JA全農福島 |
| 133 | | 古閑文哉 | 専門技術向上研修(肉用牛) | 9/12 | 農業振興課 |
| 134 | | 中村フチ子 | セリ前ワンポイント講座「トールフェスクの紹介」 | 3/ 4<br>- 5 | JA全農福島 |
| 135 | 会津地域研究所 | 中村陽登<br>江川孝二 | 会津オタネニンジン研究会 | 7/15<br>9/19<br>11/28 | 新鶴温泉んだ |
| 136 | | 中村陽登 | オタネニンジン栽培研修会 | 6/30<br>7/28<br>10/31<br>2/26 | 会津農林事務所 |
| 137 | | 松岡宏明 | 水稲の生育と今後の肥培管理 | 7/ 1 | 全肥商連福島県部会会津支部会 |
| 138 | | 松岡宏明 | 第１回水稲指導員担当者会議 | 7/11 | JA会津よつば |
| 139 | | 松岡宏明 | ＪＡ会津よつばあいづ西部稲作生産部会ならびに北会津銘柄米生産部会の研修 | 8/ 8 | JA会津よつば西部稲作生産部会 |

| No | 所属 | 担当者 | 内　　容 | 月日 | 主　催　者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 140 | 会津地域研究所 | 中村陽登<br>江川孝二 | 会津オタネニンジン研究会 | 7/15<br>9/19<br>11/28 | 新鶴温泉んだ |
| 141 | | 松岡宏明 | 第２回水稲指導員担当者会議 | 9/ 5 | JA 会津よつば |
| 142 | | 松岡宏明 | 稲作情報会議 | 12/24 | 会津農林事務所会津坂下農業普及所 |
| 143 | | 松岡宏明 | 令和７年度産米稲実績と令和８年産米対策検討会 | 2/17 | JA 会津よつば |
| 144 | | 髙畑有佳子 | 県オリジナルカラー品種現地試験結果について | 3/27 | JA 会津よつば |
| 145 | 浜地域研究所 | 佐久間祐樹 | 水稲生育管理等現地指導講習会 | 7/ 3 | 全肥肥料商連合会福島県部会 |

（２）技術指導資料

| No | 所　　属 | 掲 載 資 料 名 | 発行年月 | 発　　行 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 生産環境部<br>果樹研究所 | 果樹胴枯細菌病（急性枯死症）対策技術ガイドブック | 7.4 | 農研機構 |
| 2 | 果樹研究所 | 外来カミキリムシ対策マニュアル | 8.3 | 農研機構 |
| 3 | 作物園芸部 | 施設キュウリの夏秋作型における低圧ミスト及び日射制御型遮光導入マニュアル（第１版） | 8.3 | 農業総合センター |
| 4 | 作物園芸部、浜地域農業再生研究センター | 南東北のタマネギの安定生産に向けた雑草と病害の総合防除（仮） | 8.6 | 農研機構東北農業研究センター、福島県農業総合センター |
| 5 | 浜地域研究所 | 施設キュウリの夏秋作型における簡易なつる下ろし栽培マニュアル～福島型つる下ろし栽培～（第１版） | 8.3 | 農業総合センター |

（3）技術相談対応件数

| 部　　所 | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安全農業推進部 | 指導・有機認証課 | 25 | 30 | 19 | 21 | 14 | 18 | 15 | 12 | 12 | 18 | 19 | 21 | 224 |
| | 発生予察課 | 2 | 7 | 5 | 2 | 2 | 3 | 2 | 0 | 4 | 1 | 0 | 1 | 29 |
| | 分析課 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 部合計 | 27 | 37 | 24 | 23 | 16 | 21 | 17 | 12 | 16 | 19 | 19 | 22 | 253 |
| 有機農業推進室 | | 8 | 7 | 9 | 12 | 7 | 3 | 5 | 14 | 3 | 4 | 10 | 0 | 82 |
| 企画経営部 | 企画技術科 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| | 経営・農作業科 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 |
| | 部合計 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 6 |
| 生産環境部 | 作物保護科 | 5 | 13 | 13 | 13 | 17 | 18 | 8 | 3 | 2 | 0 | 2 | 0 | 94 |
| | 環境・作物栄養科 | 5 | 11 | 4 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 | 2 | 0 | 30 |
| | 流通加工科 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 4 |
| | 部合計 | 10 | 24 | 18 | 15 | 18 | 18 | 9 | 3 | 2 | 5 | 4 | 2 | 128 |
| 作物園芸部 | 品種開発科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 |
| | 稲作科 | 6 | 4 | 3 | 5 | 1 | 2 | 3 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 28 |
| | 畑作科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 4 |
| | 野菜科 | 1 | 8 | 4 | 2 | 2 | 3 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 27 |
| | 花き科 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 8 |
| | 部合計 | 9 | 12 | 9 | 8 | 3 | 7 | 8 | 2 | 3 | 4 | 3 | 3 | 71 |
| 本 部 合 計 | | 54 | 81 | 61 | 60 | 44 | 49 | 39 | 31 | 24 | 33 | 36 | 28 | 540 |
| 果樹研究所 | | 1 | 3 | 8 | 4 | 5 | 3 | 2 | 6 | 2 | 1 | 3 | 1 | 39 |
| 畜産研究所 | | 2 | 4 | 3 | 5 | 0 | 4 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 0 | 23 |
| 会津地域研究所 | | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 浜地域研究所 | | 0 | 1 | 1 | 3 | 0 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| 浜地域農業再生研究センター | | 4 | 7 | 6 | 6 | 2 | 1 | 6 | 5 | 4 | 1 | 8 | 4 | 54 |
| 農業総合センター合計 | | 62 | 98 | 80 | 78 | 51 | 59 | 49 | 44 | 33 | 36 | 49 | 33 | 672 |

## 3 主要農作物種子生産実績

福島県主要農作物種子生産取扱基本要綱に基づき、原原種・原種ほを設置し、優良種子を生産することにより本県主要農作物の生産性と品質向上を図った。

（1）担当者

| 所　属 | 職 | 氏　名 | 担当作物 |
|---|---|---|---|
| 事務部農場管理課 | 課　長 | 竹内 恵 | － |
| 作物園芸部 | 部　長 | 本馬 昌直 | － |
| 稲作科 | 科　長 | 新妻 和敏 | 水稲 |
| | 研究員 | 金澤 優紀 | 水稲 |
| 畑作科 | 科　長 | 佐藤 弘一 | 小麦、大豆 |
| | 主任研究員 | 佐藤 郁恵 | 大豆 |
| | 副主任研究員 | 薄 瑶子 | 小麦 |
| 会津地域研究所 | 所　長 | 野田 正浩 | － |
| | 専門研究員 | 芳賀 紀之 | 水稲、小麦 |
| | 主任研究員 | 大寺 真史 | 水稲、小麦 |
| | 主任研究員 | 小森 秀雄 | 小麦 |
| | 主任研究員 | 松岡 宏明 | 水稲 |
| 浜地域研究所 | 専門研究員 | 佐久間 祐樹 | 水稲 |

（２）原原種・原種ほ設置面積

| 項目 | | 水 稲(a) | 小 麦(a) | 大 麦(a) | 大 豆(a) |
|---|---|---|---|---|---|
| 原原種 | 直 営 | － | 4.0 | － | 16.0 |
| 原　種 | 直 営 | 421.0 | 16.0 | － | 85.0 |
| | 委 託 | － | － | － | － |
| 合　計 | | 421.0 | 20.0 | － | 101.0 |

（３）生産状況

ア 水稲

| 区分 | 品　種 | 生 産 地 | 面積(a) | 生産量(kg) |
|---|---|---|---|---|
| 原　種　直営 | コシヒカリ | 会津地域研究所 | 220.0 | 6,256 |
| | ひとめぼれ | 会津地域研究所 | 70.0 | 3,551 |
| | 天のつぶ | 会津地域研究所 | 90.0 | 4,421 |
| | 福笑い | 本部 | 10.0 | 273 |
| | あぶくまもち | 本部 | 3.0 | 100 |
| | ふくひびき | 本部 | 14.0 | 578 |
| | ふくひびき | 浜地域研究所 | 14.0 | 0 |
| | 合　計 | | 421.0 | 15,179 |

イ 小麦

| 区分 | 品　種 | 生 産 地 | 面積(a) | 生産量(kg) |
|---|---|---|---|---|
| 原原種　直営 | さとのそら | 本部 | 4.0 | 45 |
| | 小　計 | | 4.0 | 45 |
| 原　種　直営 | さとのそら | 本部 | 16.0 | 360 |
| | 小　計 | | 16.0 | 360 |
| 合　計 | | | 20.0 | 365 |

ウ 大豆

| 区分 | 品　種 | 生 産 地 | 面積(a) | 生産量(kg) |
|---|---|---|---|---|
| 原原種　直営 | タチナガハ | 本部 | 8.0 | 59 |
| | 里のほほえみ | 本部 | 8.0 | 66 |
| | 小　計 | | 16.0 | 125 |
| 原　種　直営 | あやこがね | 本部 | 30.0 | 調製中 |
| | 里のほほえみ | 本部 | 55.0 | 537 |
| | 小　計 | | 85.0 | 537 |
| 合　計 | | | 101.0 | |

## 4 オリジナル品種（園芸作物等）種苗生産実績

福島県育成品種（園芸作物等）種苗生産取扱基本要綱に基づき、普及すべき園芸作物等の優良な品種について品質の高い種苗を安定的に供給することを目的として、種苗生産及び販売を行った。

（1）担当者

| 所　属 | 職 | 氏　名 | 担当作物 |
|---|---|---|---|
| 作物園芸部 | 部　長 | 本馬　昌直 | － |
| 作物園芸部 | 副部長 | 大竹　祐一 | － |
| 野菜科 | 科　長 | 雨宮　潤子 | アスパラガス |
| | 専門員 | 大越　聡 | アスパラガス |
| 花き科 | 科　長 | 福田　秀之 | リンドウ |
| | 副主任研究員 | 鈴木　保奈美 | リンドウ |
| 会津地域研究所 | 所長 | 野田　正浩 | － |
| | 専門研究員 | 芳賀　紀之 | － |
| | 研究員 | 中村　陽登 | オタネニンジン |
| | 専門員 | 江川　孝二 | オタネニンジン |

（2）生産量及び販売量

ア アスパラガス種子

| 品種名 | 生産量(粒) | 販売量（粒） | 備考 |
|---|---|---|---|
| ふくきたる | 118,156 | 43,800 | 令和5年産種子を販売 |
| はるむらさきエフ | 1,576 | 1,000 | 平成20年産種子を販売 |

イ　リンドウ苗（令和7年5月販売）

| 品種名 | 販売数（本） | 備考 |
|---|---|---|
| ふくしまみやび | 120 | 128穴セルトレイ1枚 |
| ふくしまさやか | 360 | 128穴セルトレイ3枚 |
| ふくしまほのか | 840 | 128穴セルトレイ7枚 |

令和5年2月播種

ウ オタネニンジン種子

| 品種名 | 生産量（粒） | 備考 |
|---|---|---|
| かいしゅうさん | 4,651 | |

## 5 オリジナル品種の親株等の供給実績

オリジナル品種について、種苗増殖するための親株等を育成し、許諾先に供給した。

| 作　物 | 品種名 | 規格 | 供給数量 | 供　給　先 | 生 産 地 |
|---|---|---|---|---|---|
| イチゴ | ふくはる香<br>ふくあや香 | 原種苗 | 150 株<br>15 株 | 福島さくら農業協同組合 | 本部 |
| | ふくはる香 | 原種苗 | 100 株 | 農業生産法人こもろ布引いちご園株式会社 | |
| ブドウ | あづましずく | 穂木 | 5 kg | 有限会社菊池園芸 | 果樹研究所 |
| | あづましずく | 穂木 | 6 kg | 株式会社福島天香園 | |
| | ふくしずく | 穂木 | 1 kg | | |
| | あづましずく | 穂木 | 15 kg | 株式会社植原葡萄研究所 | |
| | あづましずく | 穂木 | 7.7 kg | 株式会社カワイぶどう園 | |
| リンゴ | べにこはく | 穂木 | 4.3 kg | 株式会社福島天香園 | |
| モモ | ふくあかり | 穂木 | 4 kg | 株式会社福島天香園 | |
| ソバ | 会津のかおり | 原原種 | 200 kg | 会津のかおり種子協議会 | 会津地域研究所 |

## ６ 家畜管理及び生産実績

（１）畜産研究所本所

ア 家畜繋養実績

（ア）種雄畜　　（頭）

| 畜種及び品種 | | 年度初頭数 | 受入 | | 払出 | 年度末頭数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 購入 | 組替 | 廃用その他 | |
| 牛 | 黒毛和種 | 18 | － | 2 | 4 | 16 |
| 豚 | ランドレース種 | 4 | － | 2 | 1 | 5 |
| | デュロック種 | 10 | － | 1 | 1 | 10 |
| | 大ヨークシャー種 | 0 | － | － | － | 0 |

（イ）基幹種雄牛（黒毛和種）

| 名号 | 生年月日<br>登録番号 | 産地 | 血統<br>父 | 血統<br>母の父 | 推定育種価(R7.11評価)<br>枝肉重量(kg) | 推定育種価(R7.11評価)<br>ロース芯面積(cm²) | 推定育種価(R7.11評価)<br>脂肪交雑(基準値) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 隆福久（たかふくひさ） | H30. 6.29<br>黒原6332 | 石川郡<br>平田村 | 隆之国 | 安福久 | 31.963 | 20.950 | 3.049 |
| 勝忠安福（かつただやすふく） | H24. 6.28<br>黒原5825 | 石川郡<br>古殿町 | 勝忠平 | 安福久 | 64.868 | 8.915 | 2.531 |
| 福平晴（ふくひらはる） | H23. 6. 3<br>黒原5637 | 耶麻郡<br>猪苗代町 | 平茂晴 | 平茂勝 | 58.823 | 8.643 | 2.609 |
| 多久実（たくみ） | H22.10. 1<br>黒原5638 | 石川郡<br>玉川村 | 安福久 | 安平 | 17.610 | 17.757 | 2.886 |
| 勝平安（かつひらやす） | H20.12.25<br>黒原5373 | 田村市 | 北平安 | 平茂勝 | 48.179 | 17.285 | 2.411 |
| 桜咲光（さくらさくひかり） | H20. 8. 7<br>黒原5302 | 耶麻郡<br>猪苗代町 | 第1勝光 | 福桜(宮崎) | 44.624 | 11.326 | 1.999 |
| 高百合（たかゆり） | H20. 8.21<br>黒原5303 | 双葉郡<br>川内村 | 百合茂 | 安福栄 | 80.725 | 12.110 | 1.794 |
| 福景桜（ふくかげさくら） | H17.11.22<br>黒原4949 | 耶麻郡<br>猪苗代町 | 景東 | 福桜(宮崎) | 37.882 | 15.570 | 2.085 |
| 勝隼茂（かつはやしげ） | H17.10.11<br>黒原4850 | 石川郡<br>石川町 | 平茂勝 | 第5隼福 | 73.963 | 8.436 | 2.506 |
| 喜多平茂（きたひらしげ） | H16.10.25<br>黒14188 | 喜多方市 | 平茂勝 | 北国7の8 | 64.144 | 9.733 | 2.481 |
| 第1勝光（だいかつひかり） | H15. 3.27<br>黒原4570 | 本宮市 | 平茂勝 | 東平茂 | 94.560 | 17.405 | 2.207 |

注　現在、繋養していない基幹種雄牛も含む。

（ウ）種雄豚

| 品　種 | 名　号<br>(登録番号) | 生年月日 | 血　　統<br>父 | 母 |
|---|---|---|---|---|
| ランドレース種<br>(ﾌｸｼﾏL２) | ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 1 0167<br>証明番号LL07-A000265 | R4. 8.18 | ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 4 0061<br>証明番号LL07-A000182 | ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 3 0096<br>証明番号LL07-A000251 |
| | ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 10 0078<br>証明番号LL07-A000277 | R5. 7.28 | ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 3 0013<br>証明番号LL07-A000190 | ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 3 0103<br>証明番号LL07-A000183 |
| | ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 1 0102<br>証明番号LL07-A000298 | R6. 9.16 | ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 2 0181<br>証明番号LL07-A000186 | ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 10 0076<br>証明番号LL07-A000279 |
| | ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 2 0310<br>証明番号LL07-A000300 | R7. 2. 7 | ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 9 0038<br>証明番号LL07-A000259 | ﾌｸｼﾏ ｴﾙ ﾌｸﾁｸ 10 0076<br>証明番号LL07-A000279 |
| デュロック種<br>(ﾌｸｼﾏD桃太郎) | ﾅｶﾞﾗ ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 7 0094<br>証明番号DD07-A000397 | R3. 7.18 | ﾅｶﾞﾗ ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 2 0076<br>証明番号DD07-A000345 | ﾅｶﾞﾗD ﾌｸｼﾏﾃﾞｰﾓﾓﾀ ﾌｸﾁｸ 1 0001<br>証明番号DD07-A000315 |
| | ﾌｸｼﾏ ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 1 0106<br>証明番号DD07-A000398 | R3. 7.22 | ﾌｸｼﾏ ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 03 0191<br>証明番号DD07-A000314 | ﾅｶﾞﾗ ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 3 0090<br>証明番号DD07-A000373 |
| | ﾅｶﾞﾗD ﾌｸｼﾏ ﾌｸﾁｸ 7 0154<br>証明番号DD07-A000413 | R3.10. 6 | ﾅｶﾞﾗD ﾌｸｼﾏ ﾌｸﾁｸ 2 0174<br>証明番号DD07-A000329 | ﾌｸｼﾏ ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 1 0011<br>証明番号DD07-A000347 |
| デュロック種<br>(ﾌｸｼﾏD桃太郎) | ﾅｶﾞﾗD ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 1 0016<br>証明番号DD07-A000417 | R4. 1.28 | ﾅｶﾞﾗD ﾌｸｼﾏﾃﾞｰﾓﾓﾀ ﾌｸﾁｸ 8 0152<br>証明番号DD07-A000350 | ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 3 0130<br>証明番号DD07-A000387 |
| | ﾌｸｼﾏﾃﾞｰﾓﾓﾀ ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 3 0044<br>証明番号DD07-A000419 | R4. 3.13 | ﾌｸｼﾏﾃﾞｰ ﾓﾓﾀ ﾌｸｼﾏ ﾌｸﾁｸ 7 0297<br>証明番号DD07-A000303 | ﾅｶﾞﾗ ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 3 0092<br>証明番号DD07-A000375 |
| | ﾌｸｼﾏﾃﾞｰﾓﾓﾀ ﾅｶﾞﾗD 1154 ﾌｸﾁｸ 1 0050<br>証明番号DD07-A000420 | R4. 3.19 | ﾌｸｼﾏﾃﾞｰ ﾓﾓﾀ ﾌｸｼﾏ ﾌｸﾁｸ 7 0297<br>証明番号DD07-A000303 | ﾅｶﾞﾗD 1154 ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 3 0107<br>証明番号DD07-A000380 |
| | ﾌｸｼﾏ ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 1 0086<br>証明番号DD07-A000425 | R4. 5.22 | ﾌｸｼﾏ ﾌｸｼﾏﾃﾞｰﾓﾓﾀ ﾌｸﾁｸ 2 0158<br>証明番号DD07-A000088 | ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 3 0128<br>証明番号DD07-A000385 |
| | ﾅｶﾞﾗD 1154 ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 5 0179<br>証明番号DD07-A000442 | R5.10.25 | ﾅｶﾞﾗD 1154 ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 2 0168<br>証明番号DD07-A000357 | ﾅｶﾞﾗD ﾌｸｼﾏ ﾌｸﾁｸ 5 0167<br>証明番号DD07-A000390 |
| | ﾅｶﾞﾗD ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 7 0212<br>証明番号DD07-A000444 | R5.11.13 | ﾅｶﾞﾗD ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 5 0190<br>証明番号DD07-A000336 | ﾅｶﾞﾗ ﾅｶﾞﾗD ﾌｸﾁｸ 3 0092<br>証明番号DD07-A000375 |
| | ﾅｶﾞﾗD ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 3 0020<br>証明番号DD07-A000463 | R7. 1. 1 | ﾅｶﾞﾗD ﾌｸｼﾏ ﾌｸﾁｸ 7 0154<br>証明番号DD07-A000413 | ﾅｶﾞﾗD ﾅｶﾞﾗ ﾌｸﾁｸ 3 0026<br>証明番号DD07-A000436 |

イ　各家畜繋養状況

（ア）乳用牛移動表　　（頭）

| 区　分 | 年度初頭　数 | 増　加 | | | | 減　少 | | | | 年度末頭　数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 生産 | 組替 | 購入 | 小計 | 出荷 | 組替 | その他 | 小計 | |
| 成雌牛 | 30 | － | 18 | － | 18 | 3 | － | 6 | 9 | 39 |
| 育成牛 | 20 | － | 16 | － | 16 | － | 18 | 1 | 19 | 17 |
| 子牛 | 20 | 43 | － | － | 43 | 32 | 16 | 1 | 49 | 14 |
| 合　計 | 70 | 43 | 34 | － | 77 | 35 | 34 | 8 | 77 | 70 |

（イ）肉用牛移動表　　（頭）

| 区　分 | 年度初頭　数 | 受　入 | | | | 払　出 | | | | 年度末頭　数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 購入 | 組替 | その他 | 小計 | 出荷 | 組替 | その他 | 小計 | |
| 基幹種雄牛 | 4 | － | － | － | 0 | 1 | － | 1 | 2 | 2 |
| 直接検定牛 | 10 | 2 | 8 | 4 | 14 | 2 | 12 | － | 14 | 10 |
| 待　機　牛 | 14 | － | 2 | － | 2 | 2 | － | － | 2 | 14 |
| 肥育試験牛 | 17 | － | 5 | 14 | 19 | 7 | － | 2 | 9 | 27 |
| 供　卵　牛 | 19 | － | － | - | 0 | － | － | 11 | 11 | 8 |
| 合　計 | 64 | 2 | 15 | 18 | 35 | 12 | 12 | 14 | 38 | 61 |

（ウ）豚移動表　（頭）

| 区分 | | 年度初頭数 | 受入 生産 | 受入 導入 | 受入 組替 | 受入 小計 | 払出 出荷 | 払出 組替 | 払出 その他 | 払出 小計 | 年度末頭数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 成豚（雄） | デュロック | 10 | － | － | 1 | 1 | 1 | － | － | 1 | 10 |
| | 大ヨークシャー | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| | ランドレース | 4 | － | － | 2 | 2 | 1 | － | － | 1 | 5 |
| 成豚（雌） | デュロック | 21 | － | － | － | － | 8 | － | － | 8 | 13 |
| | ランドレース | 20 | － | － | 5 | 5 | 4 | － | 5 | 9 | 16 |
| | その他 | 20 | － | － | 6 | 6 | 7 | － | 4 | 11 | 15 |
| 子豚 | デュロック | 70 | 297 | － | － | 297 | － | 232 | 82 | 314 | 53 |
| | ランドレース | 87 | 212 | － | － | 212 | － | 198 | 48 | 246 | 53 |
| | 雑種 | 104 | 544 | － | － | 544 | － | 428 | 76 | 504 | 144 |
| 肥育豚 | | 213 | － | － | 844 | 844 | 799 | － | 9 | 808 | 249 |
| 合計 | | 549 | 1,053 | － | 858 | 1,911 | 820 | 858 | 224 | 1,902 | 558 |

※　成豚（雄）及び（雌）の出荷には払下を含む。

ウ　各種生産実績

（ア）乳生産販売状況　(kg)

| 年度 | 販売量 |
|---|---|
| 平成27年度 | 212,350 |
| 28年度 | 204,974 |
| 29年度 | 228,930 |
| 30年度 | 214,889 |
| 31年度 | 211,623 |
| 令和 2年度 | 215,047 |
| 3年度 | 207,329 |
| 4年度 | 178,515 |
| 5年度 | 203,444 |
| 6年度 | 243,122 |
| 7年度 | 355,363 |

(kg)

| 年月 | | 販売量 |
|---|---|---|
| 令和7年度 | 4月 | 25,436 |
| | 5月 | 29,529 |
| | 6月 | 29,347 |
| | 7月 | 29,267 |
| | 8月 | 30,475 |
| | 9月 | 28,376 |
| | 10月 | 31,246 |
| | 11月 | 31,014 |
| | 12月 | 32,241 |
| | 1月 | 31,960 |
| | 2月 | 27,939 |
| | 3月 | 28,533 |
| | 合計 | 355,363 |

（イ）肉用牛精液生産実績　（本）

| | | 生産 生産 | 生産 その他 | 払出 売払 | 払出 その他 | 廃棄 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 前年度繰越 | | 51,895 | － | － | － | － |
| 令和7年 | 4月 | 82 | － | 56 | 1 | － |
| | 5月 | 742 | － | 40 | 2 | 13 |
| | 6月 | 1,411 | － | 188 | 81 | 77 |
| | 7月 | 1,028 | － | 62 | 100 | 359 |
| | 8月 | 82 | － | 83 | 43 | 333 |
| | 9月 | 452 | － | 68 | 80 | 9 |
| | 10月 | 674 | － | 93 | 2 | 8 |
| | 11月 | 73 | － | 47 | 0 | － |
| | 12月 | 490 | － | 33 | 20 | 2 |
| 令和8年 | 1月 | 629 | － | 118 | 0 | － |
| | 2月 | 0 | － | 70 | 4 | － |
| | 3月 | 755 | － | 85 | 0 | － |
| 次年度繰越 | | 56,236 | － | － | － | － |

（ウ）肉用牛検定実績

a 直接検定実績　　（頭）

| 保　留 | 検定中 |
|---|---|
| 2 | 3 |

b 現場後代検定実績（頭）

| 終　了 | 実施中 |
|---|---|
| 4 | 8 |

（エ）フクシマ L2 生産実績（維持頭数及び更新、配布状況）

| | | 実績 | 内訳 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 雄 | 雌 |
| 種雄豚数 | （頭） | 5 | 5 | － |
| 種雌豚数 | （頭） | 16 | － | 16 |
| 分娩腹数 | （腹） | 24 | － | 24 |
| 生産子豚数 | （頭） | 212 | 103 | 109 |
| 離乳頭数 | （頭） | 184 | － | － |
| 育成率 | （％） | 86.8 | － | － |
| 子豚登記数 | （頭） | 19 | 7 | 12 |
| 自場更新数 | （頭） | 7 | 2 | 5 |
| 配布場所数 | （戸） | 2 | 1 | 1 |
| 配布頭数 | （頭） | 6 | 1 | 5 |

（オ）デュロック種「フクシマ D 桃太郎」生産実績

a 維持頭数及び更新、配布状況

| | | 実績 | 内訳 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 雄 | 雌 |
| 種雄豚数 | （頭） | 10 | 10 | － |
| 種雌豚数 | （頭） | 13 | － | 13 |
| 分娩腹数 | （腹） | 31 | － | 31 |
| 生産子豚数 | （頭） | 297 | 149 | 148 |
| 離乳頭数 | （頭） | 242 | － | － |
| 育成率 | （％） | 81.5 | － | － |
| 子豚登記数 | （頭） | 15 | 14 | 1 |
| 自場更新数 | （頭） | 7 | 1 | 6 |
| 配布場所数 | （戸） | 3 | 3 | － |
| 配布頭数 | （頭） | 8 | 8 | － |

b と体形質

| 性別及び頭数 | 生体重 | と体重 | と体長 | 背腰長 | | と体幅 | ロース | | 背脂肪の厚さ | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | と殺前 (kg) | 冷 (kg) | (cm) | Ⅰ (cm) | Ⅱ (cm) | (cm) | 長さ (cm) | 断面積 ($cm^2$) | カタ (cm) | セ (cm) | コシ (cm) |
| 去勢 5 | 114.7 | 71.6 | 90.9 | 75.7 | 65.8 | 35.5 | 55.4 | 24.6 | 4.1 | 2.7 | 3.8 |
| (標準偏差) | 2.0 | 2.7 | 0.7 | 0.8 | 1.2 | 0.8 | 1.1 | 2.2 | 0.5 | 0.4 | 0.4 |
| 雌 5 | 114.1 | 72.0 | 93.5 | 77.7 | 68.0 | 35.0 | 57.1 | 25.9 | 3.7 | 2.3 | 3.4 |
| (標準偏差) | 2.6 | 2.2 | 1.8 | 1.4 | 1.4 | 1.0 | 1.6 | 2.2 | 0.5 | 0.3 | 0.3 |

（カ）飼料作物生産実績

a　牧乾草生産量(本所)

| 区分 | 収穫期間 | 面積(a) | 生産量(現物 kg) | | 乾物生産量(kg) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 総　量 | 10a当り | 総　量 | 10a当り |
| 1番草 | 5/12 ～ 5/29 | 2,240 | 164,241 | 733 | 105,422 | 471 |
| 2番草 | 6/17 ～ 7/18 | 2,240 | 77,418 | 346 | 56,632 | 253 |
| 3番草 | 9/14 ～ 9/24 | 1,710 | 83,881 | 491 | 59,561 | 348 |
| 合計 | － | － | 325,540 | － | 221,615 | － |

b　トウモロコシサイレージ(本所)

| ほ場No. | 収穫期間 | 面積(a) | 生産量(現物 kg) | | 乾物生産量(kg) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 総　量 | 10a当り | 総　量 | 10a当り |
| 8 | 8/25 ～ 8/27 | 180 | 107,146 | 5,953 | 32,572 | 1,810 |
| 9 | 8/27～ 8/29 | 170 | 97,175 | 5,716 | 28,764 | 1,692 |
| 合計 | － | 350 | 204,321 | 5,835 | 61,336 | 1,751 |

注　収穫面積は、ほ場内枕地を除く実栽培面積

（キ）鶏移動表（成鶏羽数）　（羽）

| 区　分 | | 年度初羽　数 | 受　入 | | | | 払　出 | | | | 年度末羽　数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 生産 | 導入 | 組替 | 小 計 | 出荷 | 組替 | その他 | 小 計 | |
| 保存鶏 | 育成 | － | 800 | － | － | 800 | － | 656 | 144 | 800 | － |
| | 成鶏 | 488 | － | － | 656 | 656 | － | － | 511 | 511 | 633 |
| 育種鶏 | 育成 | － | 2,020 | － | － | 2,020 | － | 1,474 | 546 | 2,020 | － |
| | 成鶏 | 1,413 | － | － | 1,474 | 1,474 | 1,274 | － | 167 | 1,441 | 1,446 |
| 種　鶏 | 育成 | 679 | 1,470 | － | － | 1,470 | 1,130 | － | 206 | 1,336 | 813 |
| | 成鶏 | － | － | － | － | － | － | － | － | | － |
| 実用鶏 | 育成 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| | 成鶏 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 合計 | | 2,580 | 4,290 | － | 2,130 | 6,420 | 2,404 | 2,130 | 1,654 | 6,108 | 2,892 |

（ク）ふ化実績

| 区　分 | 入卵個数(個) | ふ化羽数(羽) | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 育雛 | 出荷 | その他 |
| 保 存 鶏 | 3,166 | 2,126 | 800 | － | 1,326 |
| 育 種 鶏 | 5,271 | 3,753 | 2,020 | － | 2,398 |
| 種　　鶏 | 11,142 | 7,135 | 1,500 | 1,140 | 4,495 |
| 実 用 鶏 | 326 | 257 | － | － | 257 |
| 計 | 19,905 | 13,271 | 4,320 | 1,140 | 8,476 |

（ケ）卵の生産状況　（個）

| 月 | 産卵数 | 正常卵 | 廃棄卵 | 種　卵 | 破損卵 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4月 | 22,899 | 20,383 | 539 | 1,524 | 453 |
| 5月 | 20,177 | 13,431 | 592 | 5,620 | 534 |
| 6月 | 12,073 | 11,415 | 240 | 0 | 418 |
| 7月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 8月 | 1,759 | 1,679 | 40 | 0 | 40 |
| 9月 | 13,432 | 12,557 | 487 | 0 | 388 |
| 10月 | 30,827 | 28,283 | 1,042 | 605 | 897 |
| 11月 | 34,818 | 27,266 | 716 | 6,090 | 746 |
| 12月 | 35,106 | 33,678 | 569 | 115 | 744 |
| 1月 | 32,859 | 31,372 | 488 | 443 | 556 |
| 2月 | 28,802 | 27,395 | 416 | 491 | 500 |
| 3月 | 34,468 | 30,585 | 797 | 2,220 | 866 |
| 合計 | 267,220 | 238,044 | 5,926 | 17,108 | 6,142 |

（２）沼尻分場

ア 肉用牛移動表　（頭）

| 品種 | 区分 | 年度初頭数 | 受入 | | | | 払出 | | | | | 年度末頭数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 生産 | 組替 | その他 | 小計 | 出荷 | 組換 | その他 | 死亡 | 小計 | |
| 黒毛和種 | 成牛(雌) | 78 | － | 16 | 9 | 25 | 42 | － | | 3 | 45 | 58 |
| | 子牛 | 39 | 44 | － | 9 | 55 | 4 | 25 | 19 | 5 | 53 | 39 |
| | 肥育牛 | 15 | － | 15 | － | 15 | 10 | － | － | － | 10 | 20 |
| F1 | 受卵牛 | 3 | － | － | 1 | 1 | 4 | － | － | － | 4 | 0 |
| 合　計 | | 135 | 44 | 31 | 19 | 96 | 60 | 25 | 19 | 8 | 112 | 117 |

※その他は所内移動

イ 産子成績　（頭）

| 品種 | 分娩頭数 | （死産） | （流産） | 生産頭数 | ヘイ死 |
|---|---|---|---|---|---|
| 黒毛和種 | 46 | (3) | (0) | 44 | 5 |

注 死産及び流産は分娩頭数の内数。なお、分娩牛１頭は双子（死産とヘイ死）

ウ 繁殖成績（妊娠率）

| 人工授精（受胎頭数/授精頭数） |
|---|
| 73.8％　(48頭/65頭) |

エ 牧乾草生産量(沼尻分場)

| 区分 | 収穫期間 | 面積(a) | 生産量(現物 kg) | | 乾物生産量(kg) | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 総　量 | 10a当り | 総　量 | 10a当り |
| 1番草 | 6/16 ～ 6/29 | 1,710 | 128,663 | 752 | 98,377 | 575 |
| 2番草 | 8/17 ～ 9/ 1 | 1,710 | 84,854 | 496 | 64,155 | 375 |
| 合計 | － | － | 213,518 | － | 162,532 | － |

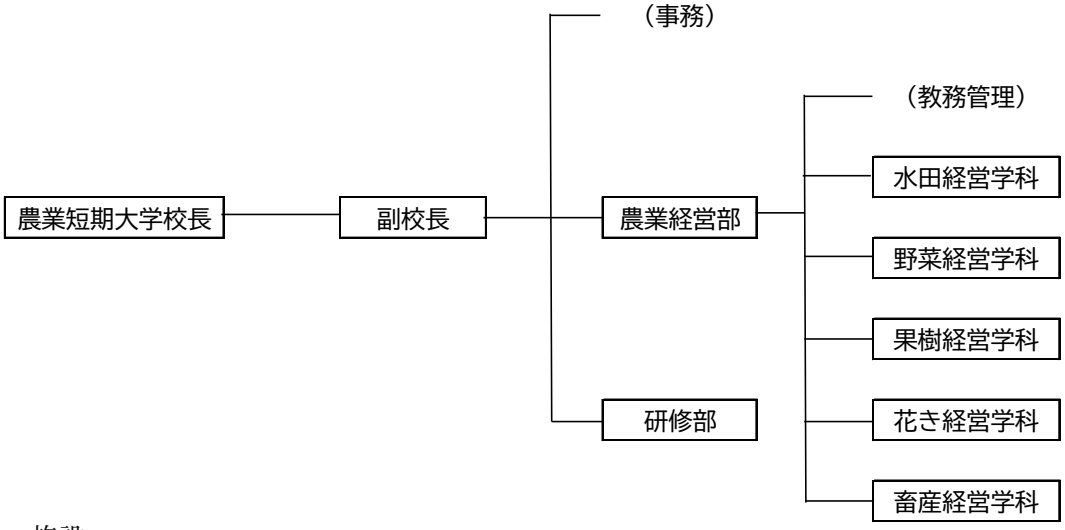
注　沼尻分場のある猪苗代町は、国の通知に基づく永年生牧草の流通・利用自粛地域であるため、除染を実施し、モニタリング検査で利用可能となった草地においてのみ収穫した。なお、利用できない草地については維持管理のみを実施した。

# Ⅳ　先進的農業者育成・支援

## 1　農業短期大学校の業務実績

（1）概要

ア　組織




イ　施設

| 区　　分 | 主　な　施　設　内　容 |
|---|---|
| 教育施設 | 本館(教室、教養ホール、視聴覚教室、職員室、事務室、会議室、講師控室)<br>研究実験棟(各学科、学科教室(ゼミ室)、実験演習室、研究室、無菌室、培養室)<br>多目的学習棟(図書室、情報処理演習室、学生ホール)<br>屋外作業準備棟(警備員室、静養室、ロッカー室、ランドリー室、個室シャワー室)<br>学生寮(5棟)、食堂、体育館 |
| 実習教育施設 | 実習教育棟、作業棟、機械格納庫、果実選果場、鉄骨ハウス等栽培施設、<br>乳牛舎、肉牛舎、肥育牛舎、畜産加工演習棟、堆肥舎、パドック、農産物直売所(アグリハウス万菜) |
| 研修施設 | アグリ探求棟、一般宿泊棟、屋外トイレ<br>農業機械実習棟(整備実習室)、トラクタ運転練習コース<br>農産加工技術センター(開発室、発酵加工室、高湿加工室、粉体加工室) |

（2）農業経営部の取組

実践的な農業の技術力と優れた経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成するため、農業に関する講義や実験・演習、実習、研修などの教育を行った。

ア　学生の状況(学年毎の定員、農業経営部 60 名)

（ア）　令和 7 年 4 月現在の学生数は、1 学年 57 名、2 学年 41 名、合計 98 名(前年度 97 名)であり、定員には及ばないが、近年 1 学年 40 名以上の確保ができている状況にある。しかしながら、全国的な少子化の傾向が今後ますます進行することから、学生確保が一層厳しさを増すものとみられる。このようなことから新卒者のみならず広く学生募集を行うため、令和 6 年度より一般入校試験に新たに「社会人等」の受験区分を設けた。

学科別では、水田経営学科 23 名、野菜経営学科 31 名、果樹経営学科 18 名、花き経営学科 13 名、畜産経営学科 13 名の在籍数となっている。

出身高校別では農業課程が 58 名、普通課程 23 名、その他が 17 名であり、農業高校出身の学生が 59%となっている。

農家・非農家別では専業農家 24 名、兼業農家 21 名、非農家 53 名であり、非農家出身の学生が 5 割以上を占めている。

出身地域別では県北 36 名、県中 23 名、県南 10 名、会津 13 名、南会津 0 名、相双 4 名、いわき 7 名、県外 6 名であり、各地域からの応募がある。

（イ）　令和 7 年度の専門士(農業専門課程)の称号が付与される者(卒業生)は、41 名であった。

（ウ）　独立行政法人日本学生支援機構の奨学金貸与者は、1 学年 11 名、2 学年 10 名であった。

（エ）　学生寮の令和 7 年度の入寮は、2 学年は男子 14 名、女子 9 名、1 学年は男子 26 名、女子 13 名であった。

イ　専修教育の状況

（ア）　水田経営学科

１学年は、農場実習で水稲、麦類、大豆、イモ類などの食用作物の栽培や加工を体験し、基礎的な技術、観察力などを身に付けた。また、県内・県外研修や先進農家等留学研修により、実践的な経営感覚を養った。

２学年は、水稲または畑作物を対象作物として、就農後または生産現場で活用できる成果を目標にした卒業論文に取り組んだ。作物の栽培や論文のとりまとめを通して、高度な技術と経営感覚を身につけた。

また、学科独自に、学生がデザインしたオリジナル米袋による本校産米の販売、大玉村『あだたらの里「福、笑い」栽培研究会』の一員として県オリジナル水稲品種「福、笑い」の栽培、本校産小麦を使用した乾麺「アグリカレッジ福島のうどんだばい」の矢吹町ふるさと納税返礼品への供給に取り組んだ。

学生の進路については、２学年生８名のうち４名が卒業後に就農する予定である（自家就農２名、雇用就農２名）。

（イ）　野菜経営学科

１学年は、県内で栽培が盛んで就農時の経営の柱となるきゅうりやトマト、アスパラガス等の栽培の基礎を学び、さらに経営の副品目を組み合わせて周年で営農する農業技術や農業機械の操作などについて学習し知識・技術を高めた。県内先進農家において長期研修を行い優れた技術や経営について学んだ。

２学年は、産地視察を行い生産者やＪＡ担当者から現場の課題を聞き取り、それを反映する形で課題解決や高収益生産などを検討する卒業論文調査研究に取り組んだ。年６回開催の直売実習などにおいて学生が生産物を消費者に直接販売するなど、高度な栽培技術の習得や経営実践力を養った。また、産地は農業者の係る優良事例について自ら企画して現地で視察・調査を行い知識や技術を高めた。

JGAP 及び FGAP の認証を取得しているトマトやきゅうりにおいて、学生によるリスク評価や管理作業及び収穫の記録作成等の実践が定着するとともに、更新審査の準備、事前の模擬審査について学びを深めた。また、直売実習でトマト、キュウリを販売する際はＧＡＰを説明するパネルを展示するなど消費者へのＰＲも行った。

学生の進路については、２学年 15 名のうち、６名が雇用就農した。

（ウ）　果樹経営学科

１学年は、講義及び実習を通して県内の主要品目であるモモ、ナシ、リンゴ、ブドウ、カキについて年間の生育や作業などの基礎を学んだ。また、先進農家等留学研修、県内研修を実施し先進的または熟練した技術や経営について学んだ。さらに、ＪＡへの出荷や近隣の事業所を訪問しての販売活動を通して販売感覚を養った。

２学年は、１学年で習得した知識と技術を活用し、率先して果樹の管理を行うとともに１学年に対して作業手順などを助言するに至った。また、卒業論文として果実品質の改善や収量の増加、加工品の作製などの試験研究に取り組んだ。また、県内外研修を通して果樹の専門技術ついて理解を深めるとともに、経営の多角化などについても学んだ。

JGAP、FGAP の認証の更新にあたり、改めて関連する項目を確認するとともに、実習においてほ場や作業におけるリスクを実感していた。

学生の進路については、４名が雇用就農した。

（エ）　花き経営学科

花き経営の基礎である栽培管理については、高温障害の影響で一部のキクに開花遅延が見られたものの、各栽培品目共に順調に生育し、計画どおりの生産・販売を行うことができた。特に夏場の早朝収穫実習や校内外の直接販売の実習など、学生自ら生産から販売まで実践し、技術力や販売力を養うことができた。

また、県内の先進農家や県外の生花店、花き関連展示会への視察研修を行うなど高度な栽培技術や先進的な経営感覚を実際に体験し、花き経営への知識を深めることができた。

GAP の一環として、令和３年度に取得した「花き日持ち品質管理認証」については10月の更新審査に学生が対応して継続認定を受けるとともに、認証シールを宿根カスミソウの販売時に貼付した。学生は日常的に花きの日持ち性向上の意義を認識し、実習に取り組んだ。

学生の進路については、２学年５名のうち１名が雇用就農した。

（オ）　畜産経営学科

講義や実習を通して乳用牛や肉用牛に関する知識や飼養管理技術の習得に努めた。特に、責任分担制の下、当番の学生による休日の飼養管理、早朝の出荷作業等を実施させることにより、学生全員が農場の共同経営者となり責任を持って管理するという意識醸成を図った。

また、食肉流通業者や小売店の協力を得て、校内産牛肉の販売実習を行い、牛を育てるだけではなく、繁殖から肥育、流通、販売までの一連の流れを実践的に学ぶことで、経営感覚の醸成を図った。

校外活動では、共進会や枝肉共励会、各種研修会への参加、乳業工場や畜産研究所等の視察研修を実施した。
学生の進路については、２学年７名のうち１名が自家就農、５名が雇用就農した。

（カ）　その他特徴的な取組

ａ　福島大学食農学類との連携の具現化(本校教育への支援、福大生実習受け入れ、学生の交流活動、他)

（ａ）　卒業論文発表会審査委員長　　高橋秀和教授
（ｂ）　講義(スマート農業実践)　　窪田陽介准教授

ｂ　GAP の取組

（ａ）　GAP 概論の開講
本校職員、環境保全農業課職員、GAP・IT サポート合同会社佐久間輝仁代表を講師として GAP 概論を実施した。講座では、GAP の基本理念や本県での取組状況の説明、グループワーク、本校農場における取組状況の見学等を行い、GAP に関する理解を深めた。

（ｂ）　JGAP 審査に向けた学生指導の強化
更新審査に向けて模擬審査を実施し、学生に審査の流れや書類の内容を把握させるとともに、農場審査に対する準備を実施させた。一部学生は、更新審査にも立ち会い、審査作業の補助等を行うことで、審査への理解を深めた。

（ｃ）　JGAP 認証品目
水田経営学科　米(玄米)、そば、小麦
野菜経営学科　トマト、きゅうり
果樹経営学科　ぶどう、かき　　＊更新認証日：令和 7 年 12 月 17 日

（ｄ）　JGAP 指導員資格取得 2 学年 4 名、1 学年 7 名

（ｅ）　FGAP 認証品目：JGAP 認証品目に同じ　　＊更新認証日：令和 8 年 2 月 2 日

ｃ　スマート農業に係る人材育成

（ａ）　スマート農業実践の開講
本校職員、福島大学食農学類准教授によるスマート農業に関する講義と、農業機械メーカー((株) ヤンマーアグリジャパン)と連携し、スマート農業機械(２機種)を操作演習する研修を実施した。

（ｂ）　ドローン資格取得促進特別講座の開講
農業担い手課及び農業機械メーカー（㈱丸山製作所）と連携して、ドローンの基礎知識や操作技術を学ぶ研修会を学生向けに２回、一般向けに２回開催し、計 21 名が受講した。

（ｃ）　その他
農業振興課が主催する「スマート農業普及啓発セミナー」全５回のうち２回を本校で開催した（11 月：学生・一般計 145 名参加、12 月：同 146 名参加)。他３回もサテライト会場として本校施設を開放した。

ｄ　地域との連携

（ａ）　農業体験の受入(認定こども園ポプラの木、中島幼稚園、三神小学校)
（ｂ）　矢吹町と本校との連携協定による取組「フロンティア農園」による町民との交流(３回開催、参加数延べ 51 名)。
（ｃ）　インターンシップの受入(郡山萌世高等学校定時制課程３名)
（ｄ）　JA 東西しらかわとの連携協定に基づくコシヒカリ 100 kgの受領
（ｅ）　矢吹町広報誌への本校学生の紹介記事掲載
（ｆ）　「やぶきフロンティア祭り」への参加

ｅ　販売活動

（ａ）　直売実習
アグリハウス万菜を会場に、年間６回（6/18,7/16,8/7,9/19,10/26,11/19）の直売実習を実施した。毎回、実行委員会を開催して、販売計画や年間テーマ、PR チラシの作成を行った。

（ｂ）　農業総合センターまつりにおける農産物販売の実施
農業総合センターまつりに２学年が参加し、水田：乾麺、小麦粉、野菜：ﾐﾆﾄﾏﾄ、ﾀﾏﾈｷﾞ、ﾆﾝﾆｸ、ﾋﾟｰﾏﾝ等などの農産物を販売した（9/5,6、販売は５日のみ)。

（ｄ）　牛肉の販売実習
本校産牛肉の販売実習を ICHII’S ロシナンテ MARKET４店舗で実施した（11/29)。

ｆ　情報発信
（ａ）　テレビ・ラジオによる学生募集案内
＜県政広報テレビ番組４回＞
ⅰおしえてキビタン！（6/13 放送「新施設供用開始」）
ⅱ県広報課 30 秒スポット放送（6/16 放送「オープンキャンパス」）
ⅲ県広報課 30 秒スポット放送（7/1 放送「直売実習」）
ⅳ県広報課 30 秒スポット放送（12/1 放送「学生募集」）
＜ラジオ１回＞
ⅰ農家の皆さんへ（10/18 放送「欅隆祭」）
（ｂ）　新聞広報(県からのお知らせ)3 回
オープンキャンパス（6/29)、学生募集（10/26)、就農研修（12/14)
（ｃ）　矢吹町広報誌「広報やぶき(農短大生のひとりごと)」12 回
（ｄ）　ホームページ、インスタグラムによる情報発信

ｇ　学生募集
（ａ）　県外(東京、千葉、埼玉、栃木ほか)への学校要覧の送付
近年は他県よりオープンキャンパスへの参加者及び受験生がいるため、隣県及び入校した実績のある県(高校)への情報提供を行った。
（ｂ）　通信制、定時制への学校訪問
近年、通信制、定時制からの学生応募が増加しているため実施した。
（ｃ）　オープンキャンパスの時間短縮
予定どおり 3 回開催した。
新施設への関心の高さから、生徒及び保護者、その他を含め 173 名の参加があり、その内生徒数は 83 名参加があった。

ｈ　その他
（ａ）　今年度欅隆祭において新施設を利用し開催した。農業関連企業、地元飲食店、農業法人、キッチンカーによる販売や企業紹介。福島明成高校による販売も継続して行った。来場者は約 1,200 名と前年度より少なかった。
（ｂ）　卒業記念講演
3 月 4 日(水)に鈴木農場 鈴木光一氏による記念講演を実施した。

ウ　進路指導の取組
（ア）　就農への誘導
令和７年度卒業生の進路状況は、就農 21 名(51%)、農協・農業団体５名(12%)、農業関連産業４名(10%)、他産業６名(15%)、公務員５名(12%) であり、就農率は２年連続して５割を越える結果となった。
ａ　令和３年度から就農支援サポート支援員（１名)を配置し、新規就農にかかる支援体制の充実、強化を図っている。県内の農業法人や各市町村、各農林事務所との連携を図り、親元就農に向けた準備支援や、雇用就農者を増やすための農業法人と学生とのマッチング、学生への個別相談、受け入れ可能な農業法人の掘り起こし、就農相談会、各農林事務所及び各方部の就農コーディネーターとの懇談会の開催等を行った。
ｂ　学生の就農意欲高揚のため、１学年を対象として「相双地域における農業法人等視察相談会」、「新・農業人交流会（9/12)」、「ふくしま農業人フェア（10/21)」、「校内ミニ版企業説明会（2/4)」へ参加した。
ｃ　就農予定学生と農林事務所の懇談会を２回開催し、学生と各農林事務所就農担当者との顔合わせを行い、地域農業の担い手として定着し活躍していけるよう、学生に対する適切な助言や情報共有を行った。

（イ）　進路に対する意識付けと支援
ａ　１学年を対象として８月に進路希望調査を実施した。
ｂ　学生の進路に対する目的意識を強く持たせるとともに、就職を希望する学生に対しては就職活動における心構えを、また、自家就農を希望する学生には雇用する立場となる経営者としての資質向上が図られるよう、就農講座、農業法人等就職講座において指導を実施した。
ｃ　ハローワーク白河と連携し１学年 56 名を対象に、ジョブサポーターによる就職に向けた授業を実施した（12/1）。

（ウ）資格取得支援
ａ　大型特殊免許（農耕車に限る）　2 学年 30 名が免許を取得した。
ｂ　けん引運転免許（農耕車に限る）2 学年 27 人が免許を取得した。
ｃ　毒物劇物取扱者　1 学年 4 名が資格を取得した。
ｄ　刈払機取扱作業者安全衛生教育　1 学年 31 名受講
ｅ　アーク溶接業務特別教育　1 学年 30 名受講
ｆ　家畜人工授精師　畜産経営学科 2 学年 6 名が資格を取得した。
ｇ　フォークリフト運転技能講習　7 名が受講した。

（エ）就農準備資金の活用

a　就農準備資金は、就農を希望する青年が農業技術及び経営ノウハウの習得のための長期の研修実施を支援する制度で、交付金が年額150万円で最長2年間交付される。本校農業経営部の学生と研修部長期研修の研修生が交付要件を満たす研修として位置づけられている。2学年9名、1学年6名、長期就農研修生4名が受給した。

b　本制度を活用した2学年の就農分野は、雇用就農9名であった。

エ　学生募集の取組

（ア）　募集要項等の送付

募集要項等を高校160校、県の36機関、59市町村、16団体に送付し、学生募集への協力を依頼した。

（イ）　高校訪問他

県内の高校80校を訪問し、進路担当教員に対して、本校の概要及び募集について、今年度供用開始した新施設（学生寮）等について説明、生徒の進路希望状況について調査した。

（ウ）　進路説明会への参加

高校主催の説明会20校延べ39校に参加し、本校の概要、新施設等について説明した。

（エ）　オープンキャンパスの開催

7月12日(土)、7月25日(金)、8月3日(日)にオープンキャンパスを開催し、本校の施設及び講義内容等について説明した。83名の高校生等及び90名の保護者が参加した。開催案内は高校160校、59市町村、農林水産部の16機関、2団体に送付し、協力を依頼した。

（オ）　県広報の活用

広報課30秒スポット放送4回、農家の皆さんへ(ラジオ福島)1回で学生募集を行った。

（カ）　学校見学の受け入れ

入校希望者等個別訪問6件、フレッシュ農業ガイド講座の中で修明高校生20名が来校した。また、新施設の見学者27件・361名を受け入れた。

（キ）　募集結果は、推薦入校試験受験者36名、一般入校試験(前期)受験者8名、の計44名が受験し、43名が合格となった。

オ　学生数

（ア）学科別　※令和7年4月時点

| 学　科 | 1学年 | | | 2学年 | | | 計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男子 | 女子 | 計 | 男子 | 女子 | 計 | 男子 | 女子 | 計 |
| 水田経営学科 | 14 | 2 | 16 | 6 | 1 | 7 | 20 | 3 | 23 |
| 野菜経営学科 | 11 | 5 | 16 | 11 | 4 | 15 | 22 | 9 | 31 |
| 果樹経営学科 | 8 | 3 | 11 | 4 | 3 | 7 | 12 | 6 | 18 |
| 花き経営学科 | 5 | 3 | 8 | 1 | 4 | 5 | 6 | 7 | 13 |
| 畜産経営学科 | 4 | 2 | 6 | 7 | 0 | 7 | 11 | 2 | 13 |
| 計 | 42 | 15 | 57 | 29 | 12 | 41 | 71 | 27 | 98 |

（イ）農家、非農家別　※令和7年4月時点

| | | 1学年 | | 2学年 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 学生数(名) | 割合(%) | 学生数(名) | 割合(%) | 学生数(名) | 割合(%) |
| 農家 | 専業 | 17 | 30 | 7 | 17 | 24 | 25 |
| | 兼業 | 12 | 21 | 9 | 22 | 21 | 21 |
| | 計 | 29 | 51 | 16 | 39 | 45 | 36 |
| 非農家 | | 28 | 49 | 25 | 61 | 53 | 54 |
| 合　計 | | 57 | － | 41 | － | 98 | － |

（ウ）出身高校課程別　※令和7年4月時点

| | 1学年 | | 2学年 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 学生数(名) | 割合(%) | 学生数(名) | 割合(%) | 学生数(名) | 割合(%) |
| 農業高校 | 35 | 61 | 23 | 56 | 58 | 59 |
| 普通高校 | 13 | 23 | 10 | 24 | 23 | 24 |
| その他 | 9 | 16 | 8 | 20 | 17 | 17 |
| 合　計 | 57 | － | 41 | － | 98 | － |

カ　教育科目
（ア）２学年

| 区分 | | 科目名 | 単位数 | 授業時間数 | | | 授業回数（時限数） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | １学年 | | ２学年 | |
| | | | | 講義・演習 | 実験 | 実習 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 共通教養科目 | 全学科共通 | 生物基礎 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 化学基礎 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 数学基礎 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 国語表現Ⅰ | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 国語表現Ⅱ | 1 | 15 | | | | 8 | | |
| | | 国語表現Ⅲ | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | 人間と社会 | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | 体育 | 4 | 60 | | | 10 | 10 | 3 | 7 |
| | | 教養講座 | 1 | 15 | | | | 8 | | |
| | | 就農講座Ⅰ<br>農業法人等就職講座Ⅰ | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 就農講座Ⅱ<br>農業法人等就職講座Ⅱ | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | ❶　小計 | 15 | 225 | 0 | 0 | 42 | 41 | 27 | 7 |
| 共通専門科目 | 全学科共通 | 農業経営 | 2 | 30 | | | | | 15 | |
| | | 農業経営演習 | 2 | 30 | | | | | | 15 |
| | | 農業法規 | 2 | 30 | | | | | | 15 |
| | | 農業関連産業論 | 1 | 15 | | | 5 | 3 | | |
| | | 簿記概論 | 3 | 45 | | | 23 | | | |
| | | 農業情報処理基礎 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 農業情報処理応用 | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | 農業情勢Ⅰ | 1 | 15 | | | | | | 8 |
| | | 農業情勢Ⅱ | 1 | 15 | | | | | | 8 |
| | | 土壌肥料概論 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 農業機械 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 農業機械基礎実習 | 1 | | | 45 | 6 | 17 | | |
| | | 農業機械操作実習Ⅰ | 1 | | | 45 | | | 23 | |
| | | マーケティング論 | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | マーケティング演習 | 2 | 30 | | | | | 4 | 11 |
| | | 食品製造 | 1 | 15 | | | | 8 | | |
| | | スマート農業実践 | 1 | 15 | | | | 8 | | |
| | | GAP 概論 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 卒業論文 | 10 | 150 | | | | 15 | 30 | 30 |
| | | 簿記検定講座* | 2 | 30 | | | | 14 | | |
| | | 毒物・劇物取扱解説* | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 毒物劇物取扱者資格講座* | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 農業機械操作実習Ⅱ* | 1 | | | 45 | | | 23 | |
| | | ❷　小計<br>（＊自由選択科目を除く） | 37 | 525 | 0 | 90 | 72 | 66 | 88 | 87 |

| 区分 | | 科目名 | 単位数 | 授業時間数 | | | 授業回数（時限数） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 1学年 | | 2学年 | |
| | | | | 講義・演習 | 実験 | 実習 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 専門科目 | 水田野菜果樹花き学科共通 | 農業概論 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 作物保護 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 植物生理 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 環境保全と農業 | 2 | 30 | | | | | | 15 |
| | | 有機農業 | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | 農産物流通 | 1 | 15 | | | | | | 8 |
| | | 農学実験 | 1 | | 30 | | 8 | 7 | | |
| | | ❸　小計 | 10 | 135 | 30 | 0 | 31 | 22 | 8 | 23 |
| | 水田経営学科 | 先進農家等留学研修 | 5 | | | 225 | 45 | | | |
| | | 水田経営研修 | 2 | | | 90 | 10 | 12 | 19 | 4 |
| | | 作物経営実習 | 25 | | | 1125 | 140 | 130 | 195 | 98 |
| | | 水田経営基礎 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 水田経営応用 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 水田経営実践 | 2 | 30 | | | | | 8 | 7 |
| | | 食品製造演習 | 2 | 30 | | | 4 | 11 | | |
| | | ❹-1　小計 | 40 | 120 | 0 | 1440 | 214 | 168 | 222 | 109 |
| | 野菜経営学科 | 先進農家等留学研修 | 5 | | | 225 | 45 | | | |
| | | 野菜経営研修 | 2 | | | 90 | 10 | 12 | 19 | 5 |
| | | 野菜経営実習 | 25 | | | 1125 | 140 | 130 | 195 | 98 |
| | | 野菜生産概論 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 野菜栽培各論 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 野菜経営各論 | 2 | 30 | | | | | 8 | 7 |
| | | 食品製造演習 | 2 | 30 | | | 4 | 11 | | |
| | | ❹-2　小計 | 40 | 120 | 0 | 1440 | 214 | 170 | 221 | 109 |
| 専門科目 | 果樹経営学科 | 先進農家等留学研修 | 5 | | | 225 | 45 | | | |
| | | 果樹経営研修 | 2 | | | 90 | 10 | 12 | 19 | 4 |
| | | 果樹経営実習 | 25 | | | 1125 | 140 | 130 | 195 | 98 |
| | | 果樹生産概論 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 果樹栽培各論 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 果樹経営各論 | 2 | 30 | | | | | 7 | 8 |
| | | 食品製造演習 | 2 | 30 | | | 4 | 11 | | |
| | | ❹-3　小計 | 40 | 120 | 0 | 1440 | 214 | 168 | 222 | 109 |
| | 花き経営学科 | 先進農家等留学研修 | 5 | | | 225 | 45 | | | |
| | | 花き経営研修 | 2 | | | 90 | 10 | 12 | 19 | 4 |
| | | 花き経営実習 | 25 | | | 1125 | 140 | 130 | 195 | 98 |
| | | 花き生産概論 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 花き栽培各論 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 花き経営各論 | 2 | 30 | | | | | 7 | 8 |
| | | フラワー装飾演習 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | ❹-4　小計 | 40 | 120 | 0 | 1440 | 210 | 172 | 222 | 109 |
| 水田、野菜、果樹、花き経営学科共通必修科目合計（❶、❷、❸、❹） | | | 102 | 1,005 | 30 | 1530 | 350 | 282 | 336 | 218 |

| 区分 | | 科目名 | 単位数 | 授業時間数 | | | 授業回数（時限数） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 1学年 | | 2学年 | |
| | | | | 講義・演習 | 実験 | 実習 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 専門科目 | 畜産経営学科 | 畜産概論 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 家畜育種学 | 1 | 15 | | | | 8 | | |
| | | 家畜繁殖学Ⅰ | 1 | 15 | | | | 8 | | |
| | | 家畜繁殖学Ⅱ | 2 | 30 | | | | | 15 | |
| | | 家畜栄養学 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 家畜衛生学 | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | 畜産環境保全 | 1 | 15 | | | | | | 8 |
| | | 家畜解剖生理学 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 家畜解剖実験 | 1 | | 30 | | 15 | | | |
| | | 先進農家等留学研修 | 5 | | | 225 | 45 | | | |
| | | 畜産経営研修 | 2 | | | 90 | 10 | 12 | 19 | 5 |
| | | 畜産経営実習 | 25 | | | 1125 | 132 | 138 | 188 | 105 |
| | | 乳用牛・肉用牛概論 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 飼料作物 | 1 | 15 | | | | | 7 | |
| | | 食品製造演習 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 乳用牛飼養管理技術応用<br>肉用牛飼養管理技術応用 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 乳用牛経営<br>肉用牛経営 | 1 | 15 | | | | | | 8 |
| | | ❺　小計 | 50 | 255 | 30 | 1440 | 245 | 192 | 246 | 117 |
| 畜産経営学科<br>必修科目合計（❶、❷、❺） | | | 102 | 1005 | 30 | 1530 | 359 | 299 | 361 | 211 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修科目<br>（必修科目102単位、自由選択科目5単位の合計） | 107 | 1065 | 30 | 1575 | 660 | | 576 |

（イ）1学年

| 区分 | | 科目名 | 単位数 | 授業時間数 | | | 授業回数（時限数） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 1学年 | | 2学年 | |
| | | | | 講義・演習 | 実験 | 実習 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 共通教養科目 | 全学科共通 | 数学基礎 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 国語表現 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 体育 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 農業と情報（基礎） | 1 | 15 | | | | 8 | | |
| | | 農業と情報（応用） | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | 福島の農業 | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | 特別講義 | 4 | 60 | | | 10 | 10 | 3 | 7 |
| | | (選)就農講座Ⅰ<br>(選)農業法人等就職講座Ⅰ | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | (選)就農講座Ⅱ<br>(選)農業法人等就職講座Ⅱ | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | ❶　小計 | 15 | 225 | 0 | 0 | 42 | 41 | 27 | 7 |

| 区分 | | 科目名 | 単位数 | 授業時間数 | | | 授業回数（時限数） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 1学年 | | 2学年 | |
| | | | | 講義・演習 | 実験 | 実習 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 共通専門科目 | 全学科共通 | 農業経営 | 2 | 30 | | | | | 15 | |
| | | 農業法規 | 2 | 30 | | | | | | 15 |
| | | 農業関連産業論 | 1 | 15 | | | 5 | 3 | | |
| | | 簿記概論 | 3 | 45 | | | 23 | | | |
| | | 農業情勢 | 1 | 15 | | | | | | 8 |
| | | 土壌肥料概論 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 農業機械 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 農業機械基礎実習 | 1 | | | 45 | 7 | 16 | | |
| | | 農業機械操作実習Ⅰ | 1 | | | 45 | | | 23 | |
| | | マーケティング論 | 2 | 30 | | | | | 15 | |
| | | 鳥獣害対策 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 食品製造 | 1 | 15 | | | | 8 | | |
| | | スマート農業実践 | 2 | 30 | | | | 8 | 7 | |
| | | GAP 概論 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 卒業論文 | 10 | 150 | | | 4 | 11 | 30 | 30 |
| | 自由選択科目 | 毒物劇物取扱者資格講座* | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 簿記検定講座* | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 刈払機・ｱｰｸ溶接安全衛生 | 1 | | | 45 | 8 | 15 | | |
| | | ﾌｫｰｸﾘﾌﾄ運転技能講習 | 1 | | | 45 | | 23 | | |
| | | 農業機械操作実習Ⅱ | 1 | | | 45 | | | 23 | |
| | | 進路対策講座 | | 30 | | | | 7 | 8 | |
| | | 自由選択小計 | 7 | 90 | 0 | 135 | 23 | 60 | 31 | 0 |
| | | ❷　小計<br>（＊自由選択科目を除く） | 28 | 390 | 0 | 90 | 48 | 54 | 90 | 53 |
| 専門科目 | 水田野菜果樹花き学科共通 | 農業概論 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 病害虫基礎 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 植物生理 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 環境保全と農業 | 2 | 30 | | | | | | 15 |
| | | 有機農業 | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | 農産物流通 | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | 農学実験 | 1 | | 30 | | 8 | 7 | | |
| | | ❸　小計 | 10 | 135 | 30 | 0 | 31 | 22 | 16 | 15 |
| | 水田経営学科 | 先進農家等留学研修 | 5 | | | 225 | 45 | | | |
| | | 水田経営研修 | 2 | | | 90 | 10 | 12 | 19 | 4 |
| | | 作物経営実習 | 23 | | | 1035 | 110 | 125 | 170 | 113 |
| | | 水田経営基礎 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 水田経営応用 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 水田経営実践 | 2 | 30 | | | | | 8 | 7 |
| | | 食品製造演習 | 2 | 30 | | | 4 | 11 | | |
| | | ❹-１　小計 | 38 | 120 | 0 | 1350 | 184 | 163 | 196 | 125 |
| | 野菜経営学科 | 先進農家等留学研修 | 5 | | | 225 | 45 | | | |
| | | 野菜経営研修 | 2 | | | 90 | 10 | 12 | 19 | 5 |
| | | 野菜経営実習 | 23 | | | 1035 | 110 | 125 | 170 | 113 |
| | | 野菜生産概論 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 野菜栽培各論 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 野菜経営各論 | 2 | 30 | | | | | 8 | 7 |
| | | 食品製造演習 | 2 | 30 | | | 4 | 11 | | |
| | | ❹-２　小計 | 38 | 120 | 0 | 1350 | 184 | 163 | 196 | 125 |

| 区分 | | 科目名 | 単位数 | 授業時間数 | | | 授業回数（時限数） | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 1学年 | | 2学年 | |
| | | | | 講義・演習 | 実験 | 実習 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 専門科目 | 果樹経営学科 | 先進農家等留学研修 | 5 | | | 225 | 45 | | | |
| | | 果樹経営研修 | 2 | | | 90 | 10 | 12 | 19 | 4 |
| | | 果樹経営実習 | 23 | | | 1035 | 110 | 125 | 170 | 113 |
| | | 果樹生産概論 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 果樹栽培各論 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 果樹経営各論 | 2 | 30 | | | | | 7 | 8 |
| | | 食品製造演習 | 2 | 30 | | | 4 | 11 | | |
| | | ❹-３　小計 | 38 | 120 | 0 | 1350 | 184 | 163 | 196 | 125 |
| | 花き経営学科 | 先進農家等留学研修 | 5 | | | 225 | 45 | | | |
| | | 花き経営研修 | 2 | | | 90 | 10 | 12 | 19 | 4 |
| | | 花き経営実習 | 23 | | | 1035 | 110 | 125 | 170 | 113 |
| | | 花き生産概論 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 花き栽培各論 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | 花き経営各論 | 2 | 30 | | | | | 7 | 8 |
| | | ﾌﾗﾜｰﾃﾞｻﾞｲﾝ演習 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | ❹-４　小計 | 38 | 120 | 0 | 1350 | 184 | 163 | 196 | 125 |
| 水田、野菜、果樹、花き経営学科共通必修科目合計（❶、❷、❸、❹） | | | 91 | 840 | 30 | 1530 | 350 | 295 | 330 | 214 |
| 専門科目 | 畜産経営学科 | 畜産概論 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 家畜育種学 | 1 | 15 | | | | 8 | | |
| | | 家畜繁殖学Ⅰ | 1 | 15 | | | | 8 | | |
| | | 家畜繁殖学Ⅱ | 2 | 30 | | | | | 15 | |
| | | 家畜栄養学 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 家畜衛生学 | 1 | 15 | | | | | 8 | |
| | | 畜産環境保全 | 1 | 15 | | | | | | 8 |
| | | 家畜解剖生理学 | 1 | 15 | | | 8 | | | |
| | | 家畜解剖実験 | 1 | | 30 | | 15 | | | |
| | | 先進農家等留学研修 | 5 | | | 225 | 45 | | | |
| | | 畜産経営研修 | 2 | | | 90 | 10 | 12 | 19 | 5 |
| | | 畜産経営実習 | 23 | | | 1035 | 110 | 125 | 170 | 113 |
| | | 飼養管理基礎 | 2 | 30 | | | 15 | | | |
| | | 飼料作物 | 1 | 15 | | | | | 7 | |
| | | 食品製造演習 | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | (選)飼養管理応用(乳用牛)<br>(選)飼養管理応用(肉用牛) | 2 | 30 | | | | 15 | | |
| | | (選)乳用牛経営<br>(選)肉用牛経営 | 1 | 15 | | | | | | 8 |
| | | ❺　小計 | 48 | 255 | 30 | 1350 | 223 | 179 | 220 | 133 |
| 畜産経営学科必修科目合計（❶、❷、❺） | | | 91 | 840 | 30 | 1530 | 313 | 289 | 338 | 207 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 履修科目<br>（必修科目91単位、自由選択科目7単位の合計） | 98 | 930 | 30 | 1665 | 683 | 575 |

キ　非常勤講師一覧

| 科目 | | | 講師名 | 所属・職・機関 |
|---|---|---|---|---|
| 共通教養科目 | 全学科共通 | 国語表現 | 担当者 | ベスト学院株式会社 |
| | | 体育 | 水野純子 | メディカルフィットネスさくら |
| | | 英語コミュニケーション | 担当者 | ベスト学院株式会社 |
| | | 農業と情報(基礎) | 志間幸恵 | シップスパソコンスクール |
| | | 福島の農業 | 担当職員 | 各農林事務所、本校職員 |
| 共通専門科目 | 全学科共通 | 農業経営 | 川西　学<br>久野雅己 | 税理士法人三部会計事務所<br>株式会社ソーシャルスピーカー代表取締役 |
| | | 農業経営演習 | 高原一司 | 日本政策金融公庫 |
| | | 農業法規 | 本庁職員 | 福島県庁 |
| | | 農業関連産業論 | 清野博樹<br>担当職員 | 元気象庁職員<br>福島県農業協同組合中央会<br>福島県農業共済組合 |
| | | 農業情報処理応用 | 志間幸恵 | シップスパソコンスクール |
| | | 農業情勢Ⅰ | 郷田芳博 | 元高校教師 |
| | | 農業情勢Ⅱ | 本庁職員 | 福島県庁 |
| | | 土壌肥料概論 | 安田修久 | 元高校教師 |
| | | マーケティング論 | 横尾恵美 | しゅふコミ代表 |
| | | マーケティング演習 | 横尾恵美 | しゅふコミ代表 |
| | | 鳥獣害対策 | 担当者 | ｾﾝﾀｰ職員・特定非営利法人おーでらす |
| | | 食品製造 | 郡司尚子 | 郡山女子大学准教授 |
| | | スマート農業実践 | 担当職員 | ヤンマーアグリジャパン |
| | | ＧＡＰ概論 | 佐久間輝仁 | GAP･IT サポート合同会社代表 |
| | 自由選択 | 簿記検定講座 | 担当者 | 税理士法人三部会計事務所 |
| | | 刈払機･ｱｰｸ溶接安全衛生 | 担当者 | 一般社団法人　白河労働基準協会 |
| 専門科目 | | 病害虫基礎 | 草野憲二 | 福島県植物防疫協会 |
| | | 環境保全と農業 | 谷口崇至 | AW エンジニアリング代表取締役社長 |
| | | フラワーデザイン演習 | 中村良美 | フラワースタジオ POCO A POCO 主宰 |
| | | 家畜育種学 | 國分洋一 | 元県職員 |
| | | 家畜栄養学 | 伊藤純一 | 元県職員 |
| | | 家畜衛生学 | 担当職員 | 中央家畜保健衛生所 |
| | | 家畜解剖生理学 | 二瓶由佳 | 元県職員 |
| | | 家畜解剖実験 | 担当職員 | 中央家畜保健衛生所 |
| | | 飼料作物 | 國分洋一 | 元県職員 |

ク　教育行事

| 月　　日 | 行　　事　　名 |
|---|---|
| 令和 7年 4月 9日 | 始業式 |
| 10日 | 入校式 |
| 11日 | オリエンテーション |
| 17日 | 学生健康診断 |
| 30日 | 防災避難訓練 |
| 5月中 | 卒業論文設計発表会 |
| 21日 | スポーツ大会 |
| 6月 5日 | 植付祭 |
| 18日 | 直売実習（1回目） |
| 7月12日 | オープンキャンパス（1回目） |
| 16日 | 直売実習（2回目） |
| 17日 | 学校記念日 |
| 25日 | オープンキャンパス（2回目） |
| 8月 3日 | オープンキャンパス（3回目） |
| 7日 | 直売実習（3回目） |
| 8日～19日 | 夏期休業 |
| 9月 4日 | 毒物劇物取扱者資格試験 |
| 9日～12日 | 前期試験（1学年） |
| 16日～30日 | 先進農家等留学研修 |
| 19日 | 直売実習（4回目） |
| 24日～25日 | 前期試験（2学年） |

| 月　　日 | 行　　事　　名 |
|---|---|
| 10月 1日 | 後期授業開始 |
| 25日 | 欅隆祭・直売実習（5回目） |
| 11月 7日 | 防火避難訓練 |
| 12日 | 校内意見発表会（1学年） |
| 16日 | 日商簿記検定試験 |
| 19日 | 直売実習（6回目） |
| 20日～21日 | 球技大会(学生自治会、寮自治会主催)、桜記念植樹（20日） |
| 21日 | 収穫祭 |
| 12月12日 | 校内卒業論文発表会 |
| 22日～ 1月12日 | 冬期休業 |
| 令和 8年 1月14日～15日 | 東日本農業大学校等プロジェクト発表・交換大会 |
| 19日～20日 | 後期試験（2学年） |
| 19日～ 2月20日 | 家畜人工授精に関する講習会 |
| 2月12日～13日 | 後期試験（1学年） |
| 22日 | 日商簿記検定試験 |
| 24日～3月1日 | 海外農業研修（台湾、オーストラリア） |
| 3月 4日 | 卒業記念講演会（講師：鈴木農場 鈴木光一氏） |
| 6日 | 卒業式 |
| 12日 | 終業式 |
| 13日～ 4月 8日 | 春期休業 |

ケ　各種表彰者

| 月　　日 | 行事名 | 結　果 |
|---|---|---|
| 令和7年<br>11月12日 | 意見発表会 | 最優秀賞<br>「和牛にかける夢」<br>畜産経営学科１年　緑川（みどりかわ） 天滋（たかし）<br>優秀賞1席<br>「和牛とともに過ごす未来」<br>畜産経営学科１年　鈴木（すずき） 悠太（ゆうた）<br>優秀賞2席<br>「私の将来の夢～作業の効率化と収量・品質向上、収益増加を目指して～」<br>野菜経営学科１年　兼子（かねこ） 真奈（まな） |
| 令和7年<br>12月12日 | 卒業論文発表会 | 最優秀賞<br>「ピーマン栽培でのＶ字誘引法における作業時間及び収量の検証」<br>野菜経営学科２年　松本（まつもと） 輝（ひかり）<br>優秀賞１席<br>「高温に強いとされる水稲新系統『福島５９号』の特性について」<br>水田経営学科２年　丹治（たんじ） 瞬（しゅん）<br>優秀賞２席<br>「肥育飼料の給与方法の違いによる飼料摂取量の比較」<br>畜産経営学科２年　門馬（もんま） 聖弥（せいや）<br>優秀賞３席<br>「大麦とイタリアンライグラス混播の収量性と牛に与える影響」<br>畜産経営学科２年　鈴木（すずき） 陸斗（りくと） |

コ　卒業生の進路状況

| 進　　路 | | 農業経営部 |
|---|---|---|
| 就　農 | 自家 | 3 |
| | 法人 | 18 |
| | 研修 | 0 |
| | 小計 | 21 |
| 非就農 | 農協 | 5 |
| | 農業団体 | 0 |
| | 農業関連産業 | 4 |
| | 他産業 | 6 |
| | 公務員 | 5 |
| | 進学 | 0 |
| | 小計 | 20 |
| 未定 | | 0 |
| 合　　計 | | 41 |

（３）研修部の取組

ア　研修実施状況

就農研修は新規就農希望者や新規就農者の技術習得を目的として初級・中級コースを設け、受講希望者のレベルに応じた体系により実施した。

長期就農研修は就農希望者が就農後の農業経営を早期に安定できるよう、1 年を単位とした実習主体の研修として実施した。

就農研修の初級・中級、長期就農研修の実施を通して、長期就農研修 11 名(内果樹 6 名)が新規就農した。

農産加工研修は、加工初心者を対象とした「基礎コース(全 4 回継続参加)」を年 2 回開催し農産加工に必要な講義を実施した。実際に農産加工品開発を行っている方を対象に「応用コース」を開催し、より高いレベルの商品開発につなげた。新設の「技術コース」では、加工食品の保存方法について実習を行った。

農業機械研修では、大型特殊免許及びけん引免許(いずれも農耕車限定)の取得支援を目的とした「安全運転技術総合コース」、農業機械の基本操作や点検整備、ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用したスマート農業を学ぶ「技術向上コース」を実施した。

また、農業者が抱える課題解決のため、本校の施設・設備を活用する施設利用研修については就農・農産加工・農業機械の各種研修体系の中に組み入れて実施するとともに、農作業安全に関する研修については現地の要請に応じ実施した。

イ　研修実績

（ア）就農研修

ａ　初級

| 名　称 | 主な内容 | 対象者及び定員 | 受講者数 | 期間(日数) |
|---|---|---|---|---|
| (ａ)春コース | ［講義］・栽培のための基礎知識<br>・営農に係る基礎知識<br>［実習］・栽培管理実習 | 県内の新規就農希望者等<br>15名 | 15名 | 5～7月(5日)<br>(土曜日開催) |
| (ｂ)秋コース | ［講義］・栽培のための基礎知識<br>・営農に係る基礎知識<br>［実習］・栽培管理実習 | | 19名 | 9～11月(5日)<br>(平日開催) |

ｂ　中級

| 名　称 | 主な内容 | 対象者及び定員 | 受講者数 | 期間(日数) |
|---|---|---|---|---|
| (ａ) 中級 | ［講義、演習、見学］<br>必修科目：土壌肥料 農業経営、農業機械、鳥獣害対策<br>選択科目：水稲、野菜、果樹、花き、畜産、有機農業 | 県内の新規就農希望者等<br>15名 | 12名 | 5～8月<br>(必修科目9日)<br>(選択科目各4日)<br>(平日開催) |

c　長期就農研修

| 名　称 | 主な内容 | 対象者及び定員 | 受講者数 | 期間 |
|---|---|---|---|---|
| （a）長期就農研修 | ［実習、講義］<br>栽培管理実習を柱にした1年間の研修<br>研修科目：<br>施設野菜、露地野菜、果樹、花き、水稲・畑作物、畜産、有機栽培<br>研修場所：<br>農業短期大学校、果樹研究所、本部、会津地域研究所、浜地域研究所、畜産研究所 | 福島県内で農業により生計を立てることを目標とし、就農前に農業の知識及び技術の習得を目指す者<br><br>21名（左記の研修場所における総受入れ人数） | 15名<br><br>内訳<br>農業短大<br>7名<br>果樹研<br>8名 | 令和7年4月<br>～<br>令和8年3月 |

（イ）農産加工研修

a　基礎（春コース）

| 名称 | 主な内容 | 対象者及び定員 | 受講者数 | 期間（日数） |
|---|---|---|---|---|
| （a）営業許可と食品表示 | ・衛生管理、食品営業許可<br>・栄養表示 | 農産物加工販売予定者16名 | 16名 | 5/15（1日） |
| （b）殺菌と包装 | ・食品の殺菌方法<br>・6次化に関する補助事業 | | | 5/22（1日） |
| （c）瓶詰め・袋詰め食品 | ・瓶詰め・袋詰めの加工方法<br>・瓶詰め実習 | | | 5/30（1日） |
| （d）事例紹介 | ・優良農産加工者による事例紹介<br>・加工所運営 | | | 6/18（1日） |

b　基礎（秋コース）

| 名称 | 主な内容 | 対象者及び定員 | 受講者数 | 期間（日数） |
|---|---|---|---|---|
| （a）営業許可と食品表示 | ・衛生管理、食品営業許可<br>・栄養表示 | 農産物加工販売予定者16名 | 14名 | 9/11（1日） |
| （b）殺菌と包装 | ・食品の殺菌方法<br>・6次化に関する補助事業 | | | 9/18（1日） |
| （c）瓶詰め・袋詰め食品 | ・瓶詰め・袋詰めの加工方法<br>・瓶詰め実習 | | | 10/ 3（1日） |
| （d）事例紹介 | ・優良農産加工者による事例紹介<br>・加工所運営 | | | 10/22（1日） |

c　応用コース

| 名称 | 主な内容 | 対象者及び定員 | 受講者数 | 期間（日数） |
|---|---|---|---|---|
| （a）新商品づくり | ・新たな商品づくり<br>・食品の殺菌方法 | 農産物加工販売者16名 | 11名 | 8/20（1日） |
| （b）長期保存食品 | ・保存技術の紹介<br>・レトルト食品の加工実習 | | 13名 | 11/18（1日） |

d　技術コース

| 名称 | 主な内容 | 対象者及び定員 | 受講者数 | 期間（日数） |
|---|---|---|---|---|
| （a）瓶詰め食品 | ・瓶詰め・袋詰めの加工方法<br>・瓶詰め実習 | 農産物加工販売者16名 | 14名 | 7/1（1日） |
| （b）袋詰め食品 | ・瓶詰め・袋詰めの加工方法<br>・瓶詰め実習 | | 16名 | 7/25（1日） |

e　食品素材活用コース

| 名称 | 主な内容 | 対象者及び定員 | 受講者数 | 期間(日数) |
|---|---|---|---|---|
| (a)トマトの加工① | ・トマトの一次加工(ドライトマト・トマトピューレ)実習 | 農産物加工販売者16名 | 14名 | 6/27(1日) |
| (b)トマトの加工② | ・トマトの一次加工品を活用した二次加工(パン・トマトケチャップ)実習 | | 18名 | 11/7(1日) |
| (c)モモの加工① | ・モモの一次加工(ドライフルーツ・ペースト)実習 | | 14名 | 8/7(1日) |
| (d)モモの加工② | ・モモの一次加工品を活用した二次加工(焼き菓子・ゼリー)実習 | | 14名 | 9/26(1日) |
| (e)米粉の加工 | ・米粉の基礎知識<br>・米粉を使った食品(ケーキ・パン)の加工実習 | | 16名 | 8/28(1日) |

f　施設利用研修

| 名称 | 主な内容 | 対象者 | 受講者数 | 期間(日数) |
|---|---|---|---|---|
| (a)農産加工 | ・イチゴ乾燥研修 | 個人事業者 | 3名 | 6/2(1日) |
| | ・レトルト加工研修 | 県加工者連絡協議会 | 1名 | 8/12(1日) |
| | ・ジェラード・急速冷凍果実加工 | 法人 | 1名 | 9/12(1日) |
| | ・漬物加工研修 | 県加工者連絡協議会 | 15名 | 10/15(1日) |
| | ・果実乾燥加工 | 個人事業者 | 1名 | 10/29(1日) |
| | ・米粉パン加工 | 法人 | 1名 | 10/30(1日) |
| | ・ブルーベリージェラード加工 | 個人事業者 | 1名 | 11/20(1日) |
| | ・仕出し加工研修 | 県加工者連絡協議会 | 18名 | 12/3(1日) |
| | ・和菓子・おこわ加工研修 | 県加工者連絡協議会 | 30名 | 3/11(1日) |

(ウ)農業機械研修

a　安全運転技術総合コース

| 名称 | 主な内容 | 対象者及び定員 | 受講者数 | 期間(日数) |
|---|---|---|---|---|
| (a)けん引操作(農耕車限定) | ・けん引免許(農耕車限定)取得に向け、公道を安全に運転ができるための技術習得 | 農業者等各9名 | 33名 | 第1回　5/27～ 5/29(3日)<br>第2回　6/ 3～ 6/ 5(3日)<br>第3回　6/10～ 6/12(3日)<br>第4回　6/24～ 6/26(3日)<br>第5回　9/30～10/ 2(3日) |
| (b)大型特殊操作(農耕車限定) | ・大型特殊免許(農耕車限定)取得に向け、公道を安全に運転ができるための技術習得 | 農業者等各9名 | 40名 | 第1回 10/14～10/16(3日)<br>第2回 10/28～10/30(3日)<br>第3回 11/11～11/13(3日)<br>第4回 11/25～11/27(3日)<br>第5回 12/ 2～12/ 4(3日) |

b　技術向上コース

| 名称 | 主な内容 | 対象者及び定員 | 受講者数 | 期間(日数) |
|---|---|---|---|---|
| (a) 初めての刈払機 | ・刈払機の基礎知識<br>・基本操作の習得 | 農業者等<br>各8名 | 13名 | 第1回　5/13(1日)<br>第2回　8/21(1日) |
| (b) 田植機及びコンバインの整備点検 | ・整備点検技術の習得 | 農業者等<br>各10名 | 30名 | 2/ 4～ 2/ 5(2日) |
| (c) 初めての農機整備 | ・農業機械（トラクタ、刈払機管理機）の点検整備 | 農業者等<br>各8名 | 14名 | 第1回　9/ 4（1日）<br>第2回　1/14（1日） |
| (d) トラクタ操作技術向上 | ・トラクタの基本操作<br>・ロータリ耕<br>・点検整備 | 農業者等<br>各8名 | 22名 | 第1回 11/ 5～11/ 6(2日)<br>第2回 11/19～11/20(2日)<br>第3回 12/10～12/11(2日) |
| (e) スマート農業 | ・中山間地域におけるスマート農業を活用した畑作物・飼料作物栽培<br>・ＲＴＫを活用した大規模水稲栽培<br>（農業振興課主催のスマート農業啓発セミナーとして開催） | 農業者等 | 242名 | 第1回 11/28（1日）<br>第2回 12/ 9（1日） |

c　農作業安全推進コース

| 名称 | 主な内容 | 対象者 | 受講者数 | 期間(日数) |
|---|---|---|---|---|
| (a) 現地支援研修<br>現地で学ぶ農作業安全 | ・農作業事故の現状<br>・農機械の安全対策 | ・弥栄ぷらす１地域保全会 | 12名 | 6/ 8(1日) |
| | | ・西原地区農地環境を守る会 | 16名 | 6/29(1日) |
| | | ・くにみ農業ビジネス訓練所 | 10名 | 7/ 3(1日) |
| | | ・しらかわ農業経営アカデミー | 27名 | 8/ 1(1日) |
| | | ・こころの里あだたら | 5名 | 9/25(1日) |
| | | ・JA夢みなみ石川地区 | 18名 | 2/26(1日) |
| | | ・喜多方農業普及所主催 | 17名 | 11/ 4(1日) |

d　施設利用研修

| 名称 | 主な内容 | 対象者 | 受講者数 | 期　間(日数) |
|---|---|---|---|---|
| （a）農業機械 | ・農作業安全 | 須賀川農業普及所管内農業者 | 15名 | 4/17(1日) |
| | ・農作業安全 | 普及指導員 | 14名 | 6/ 6(1日) |
| | ・農作業安全 | ＪＡグループ福島営農担当職員 | 11名 | 7/23(1日) |
| | ・けん引操作 | 農業法人 | 4名 | 8/18～8/19(2日) |
| | ・農作業安全 | 安達農業普及所管内農業者 | 20名 | 10/27(1日) |
| | ・大型特殊操作 | 女性農業者 | 16名 | 11/14(1日) |
| | ・大型特殊操作 | 長期就農生(果樹研) | 5名 | 1/20～1/21(2日) |
| | ・けん引操作 | 長期就農生(短大) | 3名 | 1/27～1/28(2日) |
| | ・けん引操作 | こおりやま園芸カレッジ生 | 2名 | 2/9～2/10(2日) |
| | ・農機整備 | 農業法人 | 6名 | 2/13(1日) |

## 2　福島県農業総合センター農業短期大学校運営会議の開催

大学校が適切かつ円滑に運営されるよう、大学校の教育・研修等の基本的事項について、県内各層の意見を徴し、助言を求めるため設置。令和２年度からは学校教育法に基づく学校関係者評価委員会を兼ねる。

（１）　農業短期大学校運営会議の開催

| 開催日 | 開催場所 | テ　ー　マ |
|---|---|---|
| 令和８年<br>2月17日 | 農業短期大学校<br>クリエイティブホール | 1　令和７年度の教育実績<br>2　学校評価<br>3　令和８年度の教育内容<br>4　意見交換 |

（２）　運営会議委員（敬称略）

| 氏名 | 所属・役職名等 |
|---|---|
| 橋本　淳一 | 福島県指導農業士会　会長 |
| 中田　幸司 | うつくしまふくしま農業法人協会　会長 |
| 鈴木　正洋 | 福島県農業会議　担い手・経営対策部長 |
| 宍戸　隆之 | 福島県農業協同組合中央会　経営改革支援部長 |
| 半澤　伸治 | 福島県農業振興公社　就農支援課長 |
| 鈴木　憲治 | 福島県高等学校教育研究会農業部会　部会長 |
| 新田　洋司 | 福島大学　教授 |
| 志間　幸恵 | 大学校外来講師 |
| 足立　靖孝 | 農業短期大学校後援会　会長 |
| 小沢　充博 | 農業短期大学校同窓会　会長 |
| 岩沢　正浩 | 農業担い手課　課長 |

# Ⅴ　食の安全・環境と共生する農業支援

## 1　安全農業推進部の業務実績

（1）指導・有機認証課の業務

ア　農薬に関する業務

農薬取締法に基づき、農薬販売の届出受理、農薬販売者に対する立入検査等を実施した。このほか、農薬適正使用、航空防除等の指導を行った。

（ア）　農薬販売届の受理(令和 8 年 3 月 31 日現在)

| 新規届出 | 変更届出 | 廃止届出 | 販売者総数 |
|---|---|---|---|
| 36 | 23 | 25 | 1,211 |

（イ）　農薬販売者立入検査（令和 8 年 3 月 31 日現在）

| 立入検査延べ数 | 注意指導票による指導実件数 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 販売の制限、禁止 | 虚偽宣伝等の禁止 | 販売所の届出 | 帳簿の備付、記載、保管 | その他(表示等) | 指導延べ件数計 | 左のうち改善済み件数 |
| 241 | 19 | 0 | 0 | 3 | 16 | 0 | 19 | 19 |

（ウ）　主な農薬適正使用指導記録

| 月　日 | 内　　容 | 受講者数 |
|---|---|---|
| 7 月 1、3 日 | 農薬危害防止講習会 | 250 |
| 11 月 25、26 日、12 月 2 日 | 農薬適正使用アドバイザー認定・更新研修 | 127 |
| 11 月 25、26 日 | 農薬管理指導士認定・更新研修 | 26 |

（エ）　ゴルフ場の検査・指導

| | |
|---|---|
| 農薬使用実績に基づく適正使用確認件数 | 35 |
| 福島県ゴルフ場農薬安全使用指導要綱に基づく立入検査 | 7 |

（オ）　航空防除（無人航空機）に関する指導　　(　)内は前年比

| | |
|---|---|
| 無人ヘリ防除実施面積 | 6,565.4ha(88.6%)<br>内訳：水稲 6,377.2ha(93.6%)、大豆 178.2ha(39.4%)、松 10ha(100%) |
| ﾏﾙﾁﾛｰﾀｰ計画面積(殺虫剤のみ) | 9,119.1ha(145.2%)<br>内訳：水稲 8,691.5ha(147.2%)、大豆 419.9ha(113.2%)、野菜 7.8ha(132.9%)、果樹 0.0ha |
| 農薬事故発生状況 | 0 件 |
| 指導対応状況 | 防除実施者、ドローンスクール等に対し、農薬適正使用、周辺住民等への事前情報提供、飛散防止、作業事故防止、事故発生時の報告方法等について郵便、電子メールで周知し、併せて防除所のホームページ等で農薬適正使用、県ガイドライン改正等を掲載、周知した。 |

※小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

（カ）　農作物病害虫防除指針掲載農薬登録変更内容の確認とホームページによる周知

| | |
|---|---|
| 防除指針掲載農薬の登録内容変更に関する情報 | 12 回 |

（キ）　農薬流通量調査

令和６年10月～令和７年９月までの期間(令和７農薬年度)を対象に、農薬卸売業者及びホームセンターから農薬販売量の報告を求め、県内の流通量を取りまとめた。

| 分　類 | 令和７農薬年度 | | 令和６農薬年度 | |
|---|---|---|---|---|
| | 流通品目数 | 流通量（t、kl） | 流通品目数 | 流通量（t、kl） |
| 殺菌剤 | 260 | 598 | 282 | 647 |
| 殺虫剤 | 309 | 1,288 | 326 | 1,297 |
| 殺虫殺菌剤 | 163 | 817 | 173 | 814 |
| 除草剤 | 466 | 2,474 | 538 | 2,390 |
| その他 | 131 | 4,275 | 137 | 4,693 |
| 合　計 | 1,329 | 9,452 | 1,456 | 9,841 |

※小数点第１位を四捨五入しているため、合計が合わない場合がある。

イ　農作物の野生鳥獣被害取りまとめ

令和６年４月～令和７年３月までの期間を対象に、各市町村から野生鳥獣による農作物の被害状況の報告を求め、県内の被害状況をとりまとめた。令和６年度の総被害面積は令和５年度の99.2%、総被害金額は令和５年度の105.7%となった。

| 分　類 | 令和６年度 | | 令和５年度 | |
|---|---|---|---|---|
| | 被害面積(ha) | 被害金額(千円) | 被害面積(ha) | 被害金額(千円) |
| 鳥害 | 8.74 | 47,903 | 9.06 | 36,014 |
| 獣害 | 79.65 | 102,727 | 80.03 | 106,545 |
| 合計 | 88.39 | 150,630 | 89.09 | 142,559 |

ウ　肥料に関する業務

肥料の品質の確保等に関する法律に基づき、知事登録肥料の登録申請等受理及び保証値の分析、指定混合肥料･特殊肥料･肥料販売の届出の指導や受理、生産業者等への立入検査及び収去を実施した。併せて、県の指導要綱に基づき、竹粉等の有機質土壌改良資材の利用再開申請の対応を行った。

また、県内の肥料の生産量や県内の肥料流通量(入出荷量)の調査を実施した。

（ア）　知事登録普通肥料　登録・届出受理(令和８年３月31現在)

| 新規登録 | 登録更新 | 変更届出 | 失効届出 | 登録件数 |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 11 | 7 | 0 | 48 |

（イ）　指定混合肥料届出受理（令和８年３月31現在）

| 新規届出 | 変更届出 | 廃止届出 | 届出件数 |
|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 0 | 14 |

（ウ）　特殊肥料生産・輸入届出受理(令和８年３月31現在)

| | 生産(輸入)業者届出 | 変更届出 | 廃止届出 | 届出件数 |
|---|---|---|---|---|
| 生産 | 14 | 37 | 42 | 649 |
| 輸入 | 1 | 2 | 4 | 8 |

（エ）　肥料販売業務開始届出受理(令和８年３月31現在)

| 新規届出 | 変更届出 | 廃止届出 | 有効届出数 |
|---|---|---|---|
| 30 | 89 | 51 | 1,098 |

（オ）　肥料生産・販売事業場立入検査(令和８年３月31現在)

| 立入検査件数 | 収去・分析 | 主な検査・指導事項 |
|---|---|---|
| 115 | 38 | 表示票、帳簿、届出内容(生産業者)<br>内容成分(収去肥料) |

（カ）　有機質土壌改良資材の利用再開申請対応：1 件（竹粉）

（キ）　肥料入荷量（流通量）調査

調査対象期間は、令和 6 年 6 月～令和 7 年 5 月までとした。

総入荷量は 72,786t で、前年比 114%であった。うち特殊肥料等の入荷量は 15,659 t で前年比 218%であった。

単位は t、()内は前年比(%)

| 窒素質 | りん酸質 | 加里質 | 複　合 | 石灰質 | 有機質 | 副産肥料等 | その他 | 指定混合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1,704<br>(92) | 2,194<br>(106) | 1,974<br>(102) | 13,240<br>(85) | 7,095<br>(108) | 1,347<br>(106) | 1,110<br>(97) | 2,637<br>(122) | 25,828<br>(106) |

（ク）　肥料生産数量調査

令和 7 年 1 月～12 月までの 1 年間を対象に、肥料の生産数量を調査し取りまとめた。

| 項　目 | 知事登録肥料 | 指定混合肥料 | 特殊肥料 | 輸入特殊肥料 |
|---|---|---|---|---|
| 事業者数 | 21　(13) | 6　(5) | 494　(412) | 6　(0) |
| 銘柄数 | 48　(34) | 14　(10) | 596　(487) | 11　(0) |
| 生産数量（t） | 2,739 | 427 | 204,481 | 0 |

(　)内は生産・輸入実績があるもの

エ　飼料に関する業務

飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づき、飼料製造業者等への指導や、販売届の受理や業者への立入検査及び収去による飼料の品質確認を実施した。また、省令等改正による鶏・豚・養魚等への牛肉骨粉使用解禁に伴う注意事項の周知を行った。

（ア）　飼料販売届出受理(令和 8 年 3 月 31 現在)

| 新規届出 | 変更届出 | 廃止届出 | 販売者総数 |
|---|---|---|---|
| 1 | 16 | 3 | 58 |

（イ）　飼料添加物販売届出受理(令和 7 年 3 月 31 現在)

| 新規届出 | 変更届出 | 廃止届出 | 販売業者総数 |
|---|---|---|---|
| 0 | 8 | 1 | 8 |

（ウ）　飼料製造・販売事業者立入検査(令和 8 年 3 月 31 現在)

| 立入検査件数 | 収去・分析 | 主な検査・指導事項 |
|---|---|---|
| 65 | 18 | ・届出事項、帳簿、表示(動物医薬品的表示については各家畜保健所に内容を確認)、重量検査(製造業者)<br>・BSE 対応ガイドライン、エコフィードガイドライン等の遵守状況<br>・成分分析による栄養性及び安全性の確認(収去飼料) |

オ　有機認証に関する業務

日本農林規格等に関する法律(JAS 法)に基づき、登録認証機関として有機農産物生産行程管理者の認証業務を実施した。

（ア）　業務経過

| 月　日 | 内　容 |
|---|---|
| 6 月 11 日、7 月 4 日、11 月 26 日 | 認証書交付式 |
| 4 月 14 日 | 有機認証検査員委任状交付式及び第 1 回認証業務担当者会議 |
| 6 月 18 日 | 第 1 回認証業務講習会(受講者 13 名) |
| 7 月 4 日、5 日 | 東北有機 JAS 登録認証機関合同研修会(山形県米沢市開催) |
| 8 月 14 日 | 格付実績及び面積報告(農林水産省へ) |
| 9 月 3 日 | FAMIC による実地調査の立会対応(1 回目) |
| 9 月 16 日 | 第 1 回公平性委員会 |
| 10 月 8 日 | 第 2 回認証業務担当者会議 |
| 11 月 5 日 | 有機 JAS 指導員研修(基礎研修)　(講師対応) |
| 11 月 6 日 | FAMIC による実地調査の立会対応(2 回目) |
| 11 月 19 日 | 登録認証機関内部監査 |
| 12 月 11 日 | 第 2 回認証業務講習会(受講者 21 名) |
| 1 月 28 日 | 有機認証業務担当者研修会 |
| 2 月 18 日、19 日 | 認証生産行程管理者全体研修会 |
| 2 月 19 日 | 第 3 回認証業務担当者会議 |
| 3 月 3 日 | 第 2 回公平性委員会 |

（イ）　認証状況（令和 8 年 3 月 31 日現在）

| | | |
|---|---|---|
| 申請受理件数 | 3 (155) | |
| 受理後自ら申請を取り下げた件数 | 1 (　5) | |
| 新たな認証生産行程管理者数 | 3 (141) | |
| 認証しなかった件数 | 0 (　8) | |
| 認証を取り消した件数 | 1 (　4) | |
| 認証を自ら取り下げた件数 | 7 ( 90) | |
| 認証生産行程管理者数 | 47 | 個人 44、組織 3、農家総数 54 |
| 認証ほ場面積(令和 6 年度)　(a) | 7,359 | 水田 6,542、畑 649、その他 168 |

(　) 内は業務開始からの累計

（ウ）　有機農産物格付実績(kg)(令和 6 年度)

| | |
|---|---|
| 野菜 | 15,804.4 |
| 果樹 | 688.3 |
| 米 | 132,754.0 |
| 小麦 | 0.0 |
| そば | 0.0 |
| 大豆 | 0.0 |
| その他豆類 | 16.0 |
| 雑穀 | 0.0 |
| きのこ類 | 575,350.6 |
| 植物種子（ｴｺﾞﾏ） | 0.0 |
| 香辛料（ﾊｰﾌﾞ） | 87.1 |
| 計 | 724,700.4 |

令和 7 年 8 月に農林水産大臣へ報告

（２）発生予察課の業務

ア　病害虫発生予察事業

植物防疫法に基づき、病害虫の発生予察・診断、防除対策情報提供等を実施した。

（ア）　普通作物

水稲は定点調査 19 か所、巡回調査 248 ほ場、麦類は巡回調査 36 ほ場、ダイズは巡回調査 36 ほ場において病害虫の発生状況を定期的に調査した。また、予察灯 1 か所、フェロモントラップ、白色粘着板による調査を延べ 20 か所で実施し、害虫の発生消長を調査した。

（イ）　果樹

リンゴは定点調査 8 か所、巡回調査 23 ほ場、モモは定点調査 4 か所、巡回調査 19 ほ場、ナシで定点調査 5 か所、巡回調査 23 ほ場、ブドウは定点調査 3 ほ場、カキは巡回調査 6 ほ場で、病害虫の発生状況を定期的に調査した。また、フェロモントラップ調査を延べ 21 か所、カメムシ越冬量調査を 4 か所で実施し、害虫の発生消長を調査した。

（ウ）　野菜・花き

野菜については、キュウリは定点調査 5 か所、巡回調査 11 ほ場、トマトは定点調査 5 か所、巡回調査 11 ほ場、イチゴで定点調査 5 か所、巡回調査 20 ほ場のほか、アスパラガス、ピーマン、ネギ、ナス、ホウレンソウの巡回調査及び定点調査と、カンショ、バレイショ、ダイコン、ホウレンソウの定点調査を実施した。花きについて、キクは定点調査 4 か所、巡回調査 11 ほ場、リンドウは巡回調査 7 ほ場で、病害虫の発生状況を定期的に調査した。

また、フェロモントラップ調査を延べ 20 か所で実施し、害虫の発生消長を調査した。

（エ）　情報の提供

病害虫発生予察情報を延べ 17 回発表し、各作物の防除対策資料として提供した。また、水稲斑点米カメムシ類、果樹カメムシ類、野菜類・花き類ハスモンヨトウの注意報と、スイカ黒点根腐病、ブドウリーフロール病の特殊報を発表した。

さらに、モモせん孔細菌病で１回、トマトキバガで３回、コナガで１回、モモハモグリガで１回、果樹カメムシ類で２回、リンゴ褐斑病で１回、オオタバコガで１回、果樹類ハダニ類で２回、トルコギキョウ葉巻病で１回、野菜類・花き類ハダニ類で１回、サツマイモ基腐病で１回の計 13 回の防除情報を発表した。

このほか、ホームページに各作物の病害虫発生状況、防除対策情報、BLASTAM、予察灯やフェロモントラップのデータなどの防除情報を提供した。

（オ）　国への報告事務

病害虫発生予察現況報告(13 回)、ウンカ類発生現況報告(随時)、各農作物病害虫発生面積報告(10 月、3 月)、その他病害虫発生情報等を報告した。

（カ）　病害虫防除員

農家 79 名、農協職員 41 名を委嘱し、予察灯やフェロモントラップの調査及び病害虫発生状況情報を定期的に収集した。

イ　病害虫診断同定

令和 7 年度の依頼件数は、87 件であった。

| | | |
|---|---|---|
| 診断・同定の結果 | 病害 | 44 件 |
| | 虫害 | 31 件 |
| | その他 | 12 件(原因不明、診断中) |

ウ　侵入調査事業

重要病害虫の侵入に伴う農業生産の影響を防止するため、県内の未発生地域への重要病害虫の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施できるよう、対象病害虫の発生を調査する。

（ア）　侵入警戒調査

ａ　イネミイラ穂病発生状況調査

水稲の予察ほ場 4 か所において、国内では未発生のイネミイラ穂病の発生の有無を 9 月に 1 回調査した。イネミイラ穂病は、いずれの調査ほ場においても認められなかった。

ｂ　火傷病発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査 5 か所において、国内では未発生の火傷病の有無を 5 月、10 月に調査した。火傷病は、いずれの調査ほ場においても認められなかった。

ｃ　チチュウカイミバエ発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査 5 か所において、誘引剤(トリメドルア剤)をスタイナー型トラップに入れ、4～10 月まで月 1 回誘殺数を調査した。チチュウカイミバエは、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。

ｄ　コドリンガ発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査 8 か所において、誘引剤(コドレルア剤)をジャクソン型トラップに入れ、4～10 月まで月 1 回誘殺数を調査した。コドリンガは、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。

e　ミカンコミバエ種群発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査5か所において、誘引剤(メチルオイゲノール及びキュウルア混合剤)をスタイナー型トラップに入れ、4～10月まで月1回誘殺数を調査した。ミカンコミバエ種群は、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。

f　クインスランドミバエ発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査5か所において、誘引剤(メチルオイゲノール及びキュウルア混合剤)をスタイナー型トラップに入れ、4～10月まで月1回誘殺数を調査した。クインスランドミバエは、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。

g　ウリミバエ発生状況調査

果樹(リンゴ、ナシ)の予察ほ場、定点調査5か所において、誘引剤(メチルオイゲノール及びキュウルア混合剤)をスタイナー型トラップに入れ、4～10月まで月1回誘殺を調査した。ウリミバエは、いずれの調査ほ場においても誘殺されなかった。

h　セグロウリミバエの発生状況調査

県内5ほ場において、令和7年5月からフェロモントラップを設置し、月1回誘殺数を調査した。セグロウリミバエの誘殺は確認されなかった。

i　ウメ輪紋ウイルス(*Plum pox virus*)の発生状況調査

調査地点は県内4か所とし、苗生産園(母樹園)2か所(福島市、伊達市)と、本病が国内ではほぼウメでのみの発生であることから、ウメ生産地のある県中農林事務所農業振興普及部及び会津農林事務所会津坂下農業普及所管内にそれぞれ1か所を設定した。

苗生産園(母樹園)の調査は、ほ場で目視による病徴確認を行った後、病徴の有無によらず1か所当たり5樹を選定し、1樹から成葉5枚以上を採取して横浜植物防疫所に検体を送付し、検定を依頼した。生産園地の調査は、苗生産園(母樹園)と同様に目視調査及び試料採取後、イムノクロマト法によるウイルス検定を行った。

目視調査では、いずれの調査ほ場でも疑似症状は認められなかった。ウイルス検定の結果、すべての検体が陰性であり、本県でウメ輪紋ウイルスの発生は確認されなかった。

j　*Xylella fastigiosa* 発生状況調査

果樹(ブドウ、ナシ)の定点調査4か所において、国内では未発生の *Xylella fastigiosa* による症状の有無を7月に調査した。*Xylella fastigiosa* による症状は、いずれの調査ほ場においても認められなかった。

k　トマトキバガ発生状況調査

県内トマトほ場2か所(猪苗代町、南会津町)において、令和6年5月からフェロモントラップを設置し、5日おきに調査を行った。5月下旬から誘殺が確認され、9月から10月にかけて誘殺数はピークを迎えた。ほ場での被害は、春先から浜通り地方の周年栽培で確認され、5月下旬以降、会津地方および中通り地方の複数地点でも確認された。

l　トマト関連センチュウ類発生状況調査

侵入警戒有害動植物であるバナナネモグリセンチュウ、コロンビアネコブセンチュウ、カンキツネモグリセンチュウの3種について、発生拡大を未然に防ぐため、発生状況について調査を実施した。定点調査3か所(田村市、中島村、南会津町)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回による目視調査及び農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。

バナナネモグリセンチュウ、コロンビアネコブセンチュウ、カンキツネモグリセンチュウの3種による被害は確認されなかった。

m　トマト関連ウイロイド類発生状況調査

ウイロイド類の侵入警戒有害動植物であるCLVd、PCFVd、 TCDVd、TASVd、PSTVdの5種について、定点調査3か所(田村市、中島村、南会津町)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回による目視調査及び農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。CLVd、PCFVd、 TCDVd、TASVd、PSTVdの5種による被害は確認されなかった。

n　トマト関連ウイルス類発生状況調査

ウイルス類の侵入警戒有害動植物であるPepMV、ToBRFV、ToMMV、ToLCNDVの4種について、定点調査3か所(田村市、中島村、南会津町)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回による目視調査及び農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。

PepMV、ToBRFV、ToMMV、ToLCNDVの4種による被害は確認されなかった。

o　スイカ果実汚斑細菌病の発生状況調査

県内夏秋露地キュウリほ場5か所(伊達市、二本松市、須賀川市、会津坂下)を選定し、令和6年6～9月に月1回調査した。1ほ場あたり任意の100果について、発病の有無を確認した。スイカ果実汚斑細菌病の発生は確認されなかった。

p　ジャガイモがんしゅ病発生状況調査

定点調査2か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員による貯蔵調査を実施した。ジャガイモがんしゅ病の発生は確認されなかった。

q　*Thecaphora solani* 発生状況調査

ジャガイモの病害 *Thecaphora solani* の発生状況について定点調査 2 か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員による貯蔵調査を実施した。*Thecaphora solani* の発生は確認されなかった。

r　コロラドハムシ発生状況調査

ジャガイモのコロラドハムシの発生状況について、定点調査 2 か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。コロラドハムシの発生は確認されなかった。

s　ジャガイモシストセンチュウ

定点調査 2 か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。ジャガイモシストセンチュウの発生は確認されなかった。

(イ)　緊急防除等対象病害虫調査

a　クビアカツヤカミキリの発生状況調査

県境に近い県内 4 か所(白河市、西郷村、いわき市 2 か所)おいて、調査時期はフラスの確認しやすい夏季に調査した。1 か所当たりサクラ 100 樹程度について、フラス及び寄生(成虫、幼虫)の有無を確認した。

一部の樹体にフラスが確認されたが、カミキリムシ類によるものではなかった。また、本種をはじめカミキリムシ類の寄生は確認されなかった。

b　ジャガイモシロシストセンチュウ発生状況調査

定点調査 2 か所(二本松市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。ジャガイモシロシストセンチュウの発生は確認されなかった。

c　テンサイシストセンチュウ発生状況調査

定点調査 2 か所(下郷町、相馬市)において、国が定めた侵入調査マニュアルに基づき、巡回調査及び農家病害虫防除員によるほ場調査を実施した。テンサイシストセンチュウの発生は確認されなかった。

エ　ベトナム向け輸出なし検疫

本県より輸出されるベトナム向けなし生果実について、海外への病害虫の侵出を防止するため、「植物防疫法」と「二国間協議に係る生果実輸出検査実施要領」に基づき輸出検疫を行った。

病害虫防除所職員(4 名)が横浜植物防疫所長より栽培地検査補助員を委嘱され、輸出対象のなし生産園地(いわき市)について補助員検査を実施した。

オ　主要病害虫の発生状況

(ア)　水稲

a　いもち病

本田での葉いもちの初発確認は、中通り地方で 7 月中旬、会津地方、浜通り地方で 7 月下旬だった。高温の影響によって発病が抑制され、8 月上旬の発生ほ場割合は平年より低かった。

穂いもちの初発確認日は、全域で 8 月下旬と平年並であった。9 月上旬の発生ほ場割合は、県全体で平年よりやや低かったが、中通り地方の一部で発生程度が高いほ場が確認された。

b　紋枯病

紋枯病の初発確認日は、全域で 7 月下旬と平年並であった。程度別発生ほ場割合は平年より高く、中通り地方の一部の常発地域で高温・降雨の影響によって病斑が上位葉へ進展し、発生程度が高いほ場が確認された。

c　稲こうじ病

9 月上旬の発生ほ場割合は、会津で高く、中通り、浜通りで低かった。

d　ごま葉枯病

9 月上旬の発生ほ場割合は、中通り地方、会津地方で平年よりやや低く、浜通り地方で平年より高かった。

e　イネミズゾウムシ

6 月下旬の発生ほ場割合は、中通り地方で平年より高く、会津地方で平年並、浜通り地方で平年よりやや高かった。

f　イネドロオイムシ(イネクビホソハムシ)

6 月下旬の発生ほ場割合は、、会津地方、浜通り地方で平年より高く、中通り地方では発生が確認されなかった。

g　ニカメイガ(ニカメイチュウ)

幼虫の発生ほ場割合は、全域で平年並または低かった。

h　フタオビコヤガ(イネアオムシ)

8月の幼虫の発生ほ場割合は、すくい取り調査による幼虫・成虫の発生ほ場割合ともに平年より低く、発生程度も低かった。

i　イナゴ類

すくい取り調査による8月上旬、8月下旬の発生ほ場割合は、会津地方で平年並、中通り地方、浜通り地方で平年よりやや低いから低かった。

j　斑点米カメムシ類

畦畔雑草でのすくい取り調査では、発生ほ場割合及び発生程度が平年より高かったため、7月16日付けで注意報を発表した。本田内でのすくい取り調査では、発生ほ場割合及び発生程度とも平年並だった。坪刈り調査における斑点米混入率は平年並だった。

k　イチモンジセセリ(イネツトムシ)

8月下旬の幼虫の発生ほ場割合及び発生程度は、平年より低かった。

(イ)　ムギ類(令和6年産)

a　赤かび病

6月の発病穂率は、中通り地方で平年よりやや高く、浜通り地方で平年より低く、会津地方で平年並みであった。

b　雪腐病類

会津地方のムギ産地では、根雪期間は平年並で、雪腐病による古紙面積率は、平年より高かった。

(ウ)　ダイズ

a　紫斑病

子実調査の被害粒率は、中通り地方で平年よりやや低く、会津地方、浜通り地方で高かった。

b　べと病

8月の発生ほ場割合は、中通り地方で平年よりやや高く、浜通り地方で平年より高く、会津地方では発生が確認されなかった。被害粒率は、中通り地方、会津地方で平年より高く、浜通り地方で平年並であった。

子実調査では、被害は全域で平年並～やや多かった。

c　吸実性カメムシ類

9月の払落し調査では、中通り、浜通りで発生の多いほ場を確認した。被害粒率は、全域で平年より高かった。

d　フタスジヒメハムシ

9月の払落し調査では、払落し頭数は中通り地方、浜通り地方で平年よりやや少なく、会津地方で多かった。被害粒率は、中通り地方で平年並、会津地方で高く、浜通り地方で低かった。

e　マメシンクイガ

被害粒率は、全域で平年よりやや低い～低かった。

f　ウコンノメイガ

8月の幼虫による葉巻の発生程度は、全域で平年より低かった。

(エ)　リンゴ

a　斑点落葉病

新梢葉での発生は6月下旬から確認され、発生ほ場割合は平年並に推移したが、10月のみ平年より少なかった。

b　うどんこ病

5月に県中・県南で発生が確認され、発生ほ場割合は平年並であった。

c　褐斑病

果そう葉での発生は、5月から確認され、6月まで高く推移した。新梢葉での発生は県北では6月から確認され、発生ほ場割合は7月までは平年より高く推移したが、8月以降は平年並となった。県中・県南では5月から確認され、9月まで平年より高く推移した。会津では6月から確認され、6月、8月は高く推移したが、9月以降は低く推移した。

d　腐らん病

5月下旬の発生ほ場割合は、平年並であった。

e　輪紋病

果実での発生は9月から確認され発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した。

f　炭疽病

果実での発生は9月から確認され、9月、10月の発生ほ場割合は平年よりも高く推移したが、11月はやや低かった。

g　すす点病
果実での発生は10月上旬から確認され、発生ほ場割合はやや高く推移した。
h　すす斑病
果実での発生は10月上旬から確認され、発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した。
i　シンクイムシ類
ナシヒメシンクイのフェロモントラップへの誘殺は4月3半旬から確認され、越冬世代、第1世代の誘殺数は平年よりも多かったが、それ以降は平年並となった。果実での被害は、8月のみ確認され平年並であった。
モモシンクイガのフェロモントラップへの誘殺は、6月6半旬から確認された。果実での被害は、8月に確認され平年並に推移した。
スモモヒメシンクイのフェロモントラップへの誘殺は、会津美里町では5月1半旬から確認され平年並に推移した。国見町では6月の2半旬から確認された。果実での被害は8月から確認され、平年並に推移した。
j　アブラムシ類
新梢での寄生の発生ほ場割合は、5、6月とも平年より低かった。
k　ハダニ類
新梢葉の寄生は6月から確認され、発生ほ場割合は中通りでは平年より高く推移した。会津では8月まで平年より高く推移したが、9月のみ平年より低かった。
優占種は、県北ではおおむねリンゴハダニであったが、8月のみナミハダニであった。会津ではリンゴハダニであった。県中・県南では概ねナミハダニであったが、7月のみカンザワハダニであった中通りではナミハダニ、会津ではリンゴハダニが優占する傾向にあった。
l　ハマキムシ類
リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップへの誘殺は、5月2半旬から確認された。
リンゴモンハマキのフェロモントラップへの誘殺は、5月2半旬から確認された。
ハマキムシ類の新梢での発生は6月のみ確認され、平年並みであった。果実での発生は11月のみ確認され、平年並であった。
m　キンモンホソガ
新梢葉での発生は7月から確認され、発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した。
n　アブラムシ類
新梢寄生の発生は5月から確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

（オ）　モモ
a　せん孔細菌病
春型枝病斑の初発確認は、4月2日(参考調査「ゆうぞら」)であった。巡回調査では、5月上旬のみで発生が確認された。新梢葉での発生は、9月下旬のみ確認され、平年より低かった。果実の発生は、確認されなかった。
b　ハダニ類
新梢葉の寄生は6月から確認され、発生ほ場割合は平年より高く推移した。優占種は、6月はカンザワハダニ、7月はクワオオハダニであり、8月はカンザワハダニ及びクワオオダニが同程度の発生であった。
c　シンクイムシ類
モモノゴマダラノメイガのフェロモントラップへの誘殺は、6月1半旬から確認され、例年並の誘殺数であった。
ナシヒメシンクイによる新梢の被害は、平年は確認されていない5月から確認された。発生ほ場割合は、福島地域では5月は平年より高く、その後は月ごとに変動しており、9月ではやや低かった。伊達地域では平年より高く推移した。
シンクイムシ類による果実被害は確認されなかった。
d　コスカシバ
主幹における羽化殻数は、平年より少なかった。
e　モモハモグリガ
2024年12月の越冬量は、平年より多かった。フェロモントラップにおける誘殺は4月2半旬から確認され、5月5半旬より第2世代が確認されたが、6月2半旬以降はほぼ見られなくなった。新梢葉の被害は5月下旬から確認され、発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した。
f　アブラムシ類
新梢の寄生は6月に確認され、平年並であった。
g　カイガラムシ類
側枝での寄生は5月下旬から確認され、発生ほ場割合は5月下旬では平年より高かったが、10月下旬では平年よりもやや低くなった。果実被害は確認されなかった。

（カ）　ナシ

a　黒星病

果そう基部での発生は4月中旬から確認され、5月下旬の発生ほ場割合は平年よりやや低かった。

果実での発生は6月下旬から確認され、7月下旬以降の発生ほ場割合は、やや低く推移した。

新梢葉での発生は6月下旬から確認された。発生ほ場割合は、県北では平年よりやや低く推移した。県中・県南では平年より高く推移した。浜通りでは、平年並に推移した。

b　赤星病

新梢葉での発生は浜通りで5月下旬から確認され、発生ほ場割合は、例年より高く推移した。県全域での発生ほ場割合は、例年並みに推移した。

c　ハダニ類

新梢葉の発生は、県北では6月下旬に確認され、発生ほ場割合は、7月下旬以降は平年より高く推移した。県中・県南では6月下旬に確認され、7月下旬以降は平年より高く推移した。浜通りでは6月下旬から確認され、8月下旬以降は平年より高く推移した。また、県北、県中・県南、浜通りの8月の発生ほ場割合は、過去10年間で最も高かった。さらに、いずれの地域でも発生程度が高いほ場が確認され、早期落葉した園地も確認された。優占種は、県北ではナミハダニであった。県中・県南では概ねカンザワハダニであったが、9月のみナミハダニであった。浜通りではカンザワハダニであった。

d　シンクイムシ類

ナシヒメシンクイによる果実被害は、8月下旬から確認され、平年並に推移し、前年より少なかった。

e　ハマキムシ類

新梢被害は6月に確認され、平年並であった。果実被害は確認されなかった。

f　アブラムシ類

5月下旬から新梢寄生が確認されたが、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した。

（キ）　ブドウ

a　晩腐病

収穫直前の調査で、発生が確認されたほ場があった。

（ク）　カキ

a　炭疽病

果実での発生ほ場割合は、平年並であった。

b　円星落葉病

新梢葉での発生ほ場割合は、平年よりやや低かった。

c　アザミウマ類

チャノキイロアザミウマ及びカキクダアザミウマによる果実被害は確認されず、平年よりやや低かった。

（ケ）　果樹共通

a　果樹カメムシ類

今年度から4月1半旬にフェロモントラップ調査を開始した。トラップへの誘殺は4月3半旬から確認され、県北地方3地点および会津坂下町、相馬市の誘殺数は越冬世代・当年世代ともに平年より多く推移し、その他の地点は平年並以下で推移した。クサギカメムシの越冬量は、県北地方（桑折町）、会津地方（会津若松市）で平年より多かった。

リンゴの果実被害はいずれの地域も7月下旬から確認され、その後も発生ほ場割合は県北地方と会津地方は平年より高く、県中・地方は高～やや高く推移した。

ナシの果実被害は相馬地方で6月下旬から確認され、8～9月の発生ほ場割合は、いずれの地域も平年より高かった。浜通り地方は相馬地方での発生が多く、いわき地方は少なかった。

モモの果実被害は5月から確認され、7月を含めて平年より発生ほ場割合が高かった。

（コ）　夏秋トマト

a　灰色かび病

6月から発生が確認され、7月に降水量が少なく、発生ほ場割合は平年よりやや低かったが、8月以降は平年並に推移した。

b　葉かび病

7月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した。

c　すすかび病

6 月から発生が確認され、発生ほ場割合は、平年並に推移した。

d　かいよう病

6 月から常発ほ場を中心に発生が確認された。

e　オオタバコガ(タバコガ類)

フェロモントラップの誘殺数のピークは、8 月下旬から 9 月にかけて確認された。7 月から被害果の発生が確認された。

f　コナジラミ類

6 月から発生が確認され、7 月以降発生ほ場割合は平年並に推移した。巡回調査では、複数のほ場で黄化葉巻病の発生が確認され、発病株率の高いほ場ではコナジラミ類の寄生密度も高かった。

g　アザミウマ類

7 月から被害果(白ぶくれ果)の発生が確認されたが、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した。

(サ)　夏秋キュウリ

a　べと病

6 月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

b　うどんこ病

6 月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

c　炭疽病

6 月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

d　褐斑病

8 月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年よりやや低く推移した。

e　モザイク病

6 月から発生が確認され、発生ほ場割合は平年よりやや高く推移した。

f　アブラムシ類

6 月から寄生が確認され、6、7 月の発生ほ場割合は平年並に推移したが、8 月にやや高くなった。。

g　ハダニ類

6 月から寄生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

(シ)　イチゴ(2024 年定植)

a　灰色かび病

果実被害は 2 月から確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

b　うどんこ病

果実被害は 12 月から確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

c　土壌病害（炭疽病、萎黄病）

感染した苗の本圃への持ち込みにより定植直後から発生が確認され、補植しているほ場が確認された。10、11 月の発生ほ場割合は平年よりやや高かったが、12 月以降平年並に推移した。

d　アブラムシ類

定植直後から寄生が確認され、発生ほ場割合は平年並に推移した。

e　コナジラミ類

発生ほ場割合は、作期を通して平年よりやや低く推移した。

f　アザミウマ類

花への寄生は 2 月から確認され、3 月の発生ほ場割合は平年よりやや高かったが、4 月以降平年並に推移した。4 月中旬から 5 月上旬にかけて降水量が少なく、気温も高かったため、5 月は寄生度の高いほ場が確認された。主要寄生種は、ヒラズハナアザミウマとミカンキイロアザミウマであった。

g　ハダニ類

発生ほ場割合は、平年並に推移した。カブリダニ剤の放飼により、寄生密度を抑えるほ場が多くなってきている。主要寄生種は、ナミハダニであった。

h　ハスモンヨトウ

10 月から発生が確認され、10 月の寄生度は、平年よりやや高かった。フェロモントラップによる誘殺数は、相馬市で 8 月 5 半旬～9 月 4 半旬に平年値をを大きく上回った。

（ス）　キク

a　白さび病

苗床からの持ち込みと思われる感染株が5月から確認された。発生ほ場割合は、栽培期間を通してやや低かった。5月は、一部ほ場で発病度の高いほ場がみられた。

b　アブラムシ類

5、6月の発生ほ場割合は、平年よりやや高かった。7、8月の発生ほ場割合は、平年並となった。

c　ハダニ類

5月から寄生を確認した。発生ほ場割合は、5、6月は平年並に推移したが、夏季の高温乾燥による影響で、7、8月の発生ほ場割合は平年よりやや高くなった。

d　オオタバコガ(タバコガ類)

平年より早い5月から被害を確認した。6、7月の発生ほ場割合はやや高く推移した。また、7、8月は発生密度が高いほ場が多く散見された。

フェロモントラップによる誘殺数は、5月6半旬、8月3半旬から9月1半旬に県北地方(伊達市)で平年を大きく上回った。

e　アザミウマ類

定植直後の5月から寄生を確認した。栽培期間中を通じ、発生ほ場割合は平年並に推移した。

f　ナモグリバエ

5月から寄生を確認した。発生ほ場割合は、栽培期間を通して平年並に推移した。

（セ）　リンドウ(例年：2015年～2022年の8年間平均)

a　葉枯病

5月から発生を確認した。発生ほ場割合は5～8月の期間を通して平年よりも高く推移した。また、発病程度の高いほ場も散見された。

b　褐斑病

6月から発生を確認しており、発生ほ場割合は平年より高く、発病程度の高いほ場も散見された。

c　ハダニ類

5～7月の発生ほ場割合は平年並に推移したが、高温乾燥の盈虚で8月の発生ほ場割合は平年よりやや高くなった。主要寄生種はカンザワハダニであった。

d　リンドウホソハマキ

例年よりやや早い5月中旬から成虫の飛来が確認された。発生ほ場割合は、栽培期間を通して平年並に推移したが、8月は被害度の高いほ場が多く見られた。本種による芯折れ被害は6～8月に確認された。

（３）分析課の業務

ア　農林水産物を対象とした緊急時環境放射線モニタリングの実施

災害対策基本法及び原子力災害対策特別措置法等に基づき、農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング検査を実施した。当課は、主務課が作成したサンプリング計画に基づき農林事務所等が採取した試料の放射性物質（放射性セシウム）を測定し、測定結果を原子力災害現地対策本部に報告した。

県が公表した農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング実施状況は、以下のとおりである。

**農林水産物の緊急時モニタリング実施状況**

令和8年3月31日
福島県環境保全農業課

【令和7年度（出荷確認検査）※1】

| 食品群 | 品目数 | 基準値※2（100Bq/kg）以下点数 | 基準値※2（100Bq/kg）超過点数 | 検査結果点数 | 月別 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 玄米※3 | 1 | 140 | 0 | 140 | 0 | 0 | 0 | 0 | 16 | 118 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 穀類（玄米除く） | 6 | 168 | 0 | 168 | 0 | 0 | 4 | 38 | 12 | 8 | 28 | 41 | 29 | 5 | 0 | 3 |
| 野菜 | 167 | 1,396 | 0 | 1,396 | 145 | 183 | 192 | 310 | 128 | 54 | 135 | 111 | 69 | 36 | 12 | 21 |
| 果実 | 33 | 395 | 0 | 395 | 0 | 4 | 25 | 32 | 63 | 105 | 107 | 50 | 8 | 0 | 1 | 0 |
| 原乳 | 1 | 72 | 0 | 72 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |
| 肉類 | 6 | 1,418 | 0 | 1,418 | 138 | 117 | 146 | 104 | 145 | 159 | 101 | 131 | 93 | 92 | 83 | 109 |
| 鶏卵 | 2 | 74 | 0 | 74 | 5 | 8 | 4 | 9 | 4 | 8 | 4 | 8 | 4 | 8 | 4 | 8 |
| はちみつ | 1 | 39 | 0 | 39 | 0 | 1 | 37 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 牧草・飼料作物 | － | 609 | 0 | 609 | 0 | 32 | 110 | 45 | 46 | 103 | 134 | 74 | 52 | 4 | 7 | 2 |
| 水産物（海産）※4※5 | 172 | 3,238 | 0 | 3,238 | 268 | 311 | 293 | 261 | 91 | 250 | 375 | 316 | 300 | 214 | 319 | 240 |
| 水産物（河川・湖沼）※5 | 11 | 156 | 1 ※7 | 157 | 21 | 31 | 14 | 13 | 8 | 4 | 10 | 4 | 0 | 0 | 0 | 52 |
| 水産物（内水面養殖） | 5 | 20 | 0 | 20 | 1 | 4 | 4 | 2 | 0 | 0 | 2 | 3 | 1 | 1 | 2 | 0 |
| 山菜（野生） | 16 | 297 | 0 | 297 | 107 | 141 | 19 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 4 | 17 |
| 山菜（栽培） | 2 | 98 | 0 | 98 | 53 | 43 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| きのこ（野生） | 62 | 110 | 0 | 110 | 0 | 0 | 0 | 6 | 6 | 15 | 65 | 17 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| きのこ（栽培） | 31 | 481 | 0 | 481 | 21 | 36 | 42 | 18 | 20 | 56 | 169 | 71 | 29 | 9 | 5 | 5 |
| 果実（野生） | 1 | 5 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 樹実類 | 2 | 16 | 0 | 16 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 6 | 5 | 2 | 0 | 0 | 1 |
| 合　計 | 519※6 | 8,732 | 1 | 8,733 | 765 | 917 | 898 | 852 | 545 | 888 | 1,153 | 837 | 595 | 376 | 443 | 464 |

※1　出荷・販売用の品目を対象に実施した検査（出荷制限等品目の解除に向けた検査を除く）
※2　食品衛生法における食品の基準値（セシウム134、セシウム137の合算値）　（一般食品）100Bq/kg、（牛乳）50Bq/kg
※3　玄米のモニタリング検査は、米の全量全袋検査を実施している7町村を除く地域で実施
（令和7年産米の全量全袋検査実施7町村：富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村、川俣町（旧山木屋村））
（米の全量全袋検査の結果：ふくしまの恵み安全対策協議会　https://fukumegu.org/ok/contentsV2/）
※4　ズワイガニ（オス）、ズワイガニ（メス）はそれぞれ1品目として集計
※5　シロザケ（筋肉）、シロザケ（精巣）、シロザケ（卵巣）はそれぞれ１品目とし、「海産」と「河川・湖沼」のそれぞれにおいて集計
※6　シロザケ（筋肉）、シロザケ（精巣）、シロザケ（卵巣）は、品目数合計では「海産」と「河川・湖沼」の区別をしない
※7　基準値超過は、イワナ1件

●出荷制限等品目の解除に向けた検査（令和7年度公表）

| 食品群 | 品目数 | 基準値（100Bq/kg）以下点数 | 基準値（100Bq/kg）超過点数 | 検査結果点数 | 月別 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 野菜 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 果実 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 水産物（海産） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 水産物（河川・湖沼） | 3 | 276 | 1 ※8 | 277 | 2 | 3 | 0 | 35 | 54 | 53 | 60 | 70 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 山菜（野生） | 2 | 76 | 0 | 76 | 76 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| きのこ（野生） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| きのこ（栽培） | 1 | 24 | 0 | 24 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 24 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合　計 | 6 | 376 | 1 | 377 | 78 | 3 | 0 | 35 | 54 | 77 | 60 | 70 | 0 | 0 | 0 | 0 |

※8　基準値超過は、既に国から出荷制限の指示が継続されているヤマメ１点

●食品群の区分方法について
詳細は、「ふくしま復興情報ポータルサイト」の「これまでのモニタリング検査結果【年度別集計】」参照
（https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/ps-monthly-report.html）

イ　その他検査の実施

出荷等制限品目の解除可否を判断する等、上記アの検査に資するため、県の自主的な検査を実施した。

| 検査名 | 検査実績 | 検　査　の　概　要 |
|---|---|---|
| 事前確認検査 | 1,109点 | 農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング検査の品目のうち、出荷等制限品目の解除可否を判断する検査等 |
| その他の検査 | 87点 | 農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング検査の他に主務課が必要とし、環境保全農業課が認める品目等の検査 |

ウ　放射性物質測定技能試験

測定・分析の技能の維持及び向上のため、各種技能試験を実施した。

| 参加した精度管理 | 実施主体 | 検査項目 | 評価結果 |
|---|---|---|---|
| IAEA-TERC-2025-01 World Wide Open Proficiency Test Exercise | 国際原子力機関(IAEA) | Cs-134、Cs-137<br>Co-60 | 良好 |
| 放射能測定技能試験(RacMAL-PT-2025) | 日本分析センター | Cs-134、Cs-137 | 良好 |
| 福島県放射能分析精度管理事業 | 福島県環境創造センター | Cs-134、Cs-137 | 良好 |

## 2 有機農業推進室の業務実績

（1）有機農業技術実証の取組

各地方の実態を踏まえた推進活動を展開するため、有機栽培の新たな技術や地域の優良技術に関する実証ほを県内6か所に設置した。

| No | 作物 | 実証地区 | 担　当 | 実証内容 | 結　　果 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 水稲 | 郡山市 | 農業総合センター有機農業推進室 | 水稲有機栽培における晩植によるクログワイの抑草効果と収量･品質確保の実証 | 6月26日に移植作業を実施した結果、移植前後の代かきと機械除草の実施により、クログワイの発生を抑制することができ、精玄米重で約500kg/10aを確保できた。<br>一方、移植前に発生したクログワイ等の雑草を土壌中にすき込んだことで、養分が供給され生育後半に倒伏が発生した。その結果、登熟歩合の低下や青未熟粒・その他未熟粒の発生及び玄米タンパク質の増加が見られた。 |
| 2 | エゴマ | 田村市 | 農業総合センター有機農業推進室 | エゴマ有機栽培に有効な育苗資材と有機質肥料の検証 | 農薬不使用でも、いずれの区もネキリムシの被害は少なく、補植により十分対応でき、70kg/10a以上の収量が確保された。72穴セルトレイの早播きでは、被害を抑制できたが、有機JAS適合の育苗培土を多く要するため経費がかさみ、128穴セルトレイ育苗が補植等の作業労賃を加味してもかかり増し経費は安くなった。 |
| 3 | 水稲 | 昭和村 | 会津農林事務所農業振興普及部 | 高冷地における水稲紙マルチ栽培の適応性の検証 | 標高700mに実証ほを設置した結果、移植後2週間程度は気温の低い時期があったが、慣行栽培と比べ、生育の遅延はほぼ見られなかった。高温・干ばつにより出穂期に用水が不足した影響で整粒歩合はやや低くなったが、収量は365kg/10aで目標を上回り、食味値も85と良好であった。 |
| 4 | にんじん | 会津若松市 | 会津農林事務所農業振興普及部 | 高分子ポリマー及びマルチムギ利用によるにんじんの発芽等への影響 | 8月8日にニンジンをシーダーテープで播種後、9月初旬まで降雨のない状態が続いたため、適正量とされる2～5kg/10aのポリマー土壌混和では、有効株率や収量への効果が確認できなかった。<br>マルチムギについても、生育初期から高温･干ばつ傾向で十分な根量が確保できず、降雨により病害が蔓延したため、マルチとして活用できる状態には至らなかった。 |
| 5 | 水稲 | 南相馬市 | 相双農林事務所双葉農業普及所 | 液肥「エキタン有機」追肥による収量品質確保の実証 | 1回処理では、2回処理より収量はやや少なくなったが、タンパク質含量が低く、食味値も良好だったことから、良食味米の生産につながった。また、作業面でも追肥作業が1回で済むことから省力的であった。 |
| 6 | オクラ | 楢葉町 | 相双農林事務所双葉農業普及所 | オクラ有機栽培における自家生産肥料による長期取りの実証 | 元肥と追肥に市販の有機質肥料を使用した区では、生育初期の収穫量が多く、総収穫量も多くなった。<br>一方、元肥に自家肥料、追肥に自家液肥あるいは市販の有機質肥料を使用した両区でも、7月下旬から10月下旬までオクラを長期収穫することができ、品質にも大きな差はなかった。 |

（2）有機農業者組織への活動支援

有機農業者組織への活動支援を次のとおり行った。

| 対象組織名 | 支　援　内　容 | 活動月日 |
|---|---|---|
| 福島県有機農業ネットワーク | 総会 | 6月19日 |
| 郡山環境保全農業研究会 | 第1回定例会 | 6月9日 |
| | 研修会（山形県鶴岡市） | 7月24日 |
| | 第2回定例会 | 10月27日 |
| | 第3回定例会 | 2月20日 |
| | 総会 | 3月23日 |
| やまろく米出荷協議会 | 米作り反省会 | 12月20日 |
| オーガニックふくしま安達 | 総会 | 2月17日 |
| 二本松市循環型農業推進協議会 | 総会 | 5月30日 |
| ZEROベジ | 役員会 | 8月26日 |
| | 「「ふくしまプライド。」県産農林水産物販売力強化支援事業」申請支援 | 8月29日<br>9月2日 |
| | 臨時会 | 1月9日 |
| 認定研修機関0氏 | 「ふくしま有機農業ひとづくり強化支援事業」申請支援 | 7月7日<br>14日<br>15日 |

（3）栽培技術研修会等の開催

有機農業に関する知識の習得及び栽培技術向上を図るため、研修会等を次のとおり開催した。

| 開催月日 | 場　所 | 研修名 | 内　容 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|
| 6月13日 | 農業総合センター・郡山市内 | 第1回中通り地方有機農業研修会 | 採用1～3年目の普及員等を対象に有機農業の講義及び現地研修<br>座学：水稲の有機栽培技術<br>見学：センター有機水田<br>現地研修：(有)仁井田本家あぐり | 5名 |
| 8月6日 | 農業総合センター・郡山市内 | 第2回中通り地方有機農業研修会 | 採用1～3年目の普及員等を対象に有機農業の講義及び現地研修<br>座学：野菜の有機栽培技術<br>見学：センター野菜有機ほ場<br>現地研修：(有)ニッケイファーム | 8名 |
| 12月5日 | 農業総合センター | 環境にやさしい農業セミナー | 講演　「水稲有機栽培で反収10俵、食味値95点を達成した土づくりの秘訣」<br>講師　一般社団法人日本有機農業普及協会 BLOFインストラクター　西田　聖氏 | 105名 |

（4）有機農業相談会の開催

有機農業の新たな担い手を確保するため、各地域有機農業推進チームが連携し、相談会を開催した。

| 開催月日 | 場　所 | 相談会名 | 相談者数 |
|---|---|---|---|
| 11 月 24 日 | ビッグパレットふくしま | ふくしま農業人フェア in 郡山<br>（有機農業相談コーナー） | 6 組 7 名 |
| 11 月 25 日 | 田村農業普及所 | 田村地方有機農業相談会 | 1 名 |
| 11 月 26 日 | 伊達農業普及所 | 伊達地方有機農業相談会 | 2 名 |

（5）理解促進・販路拡大に向けた取組

消費者等に対し、有機農業への理解促進を図るため、次の取組を実施した。

| 開催月日 | 場　所 | イベント名 | 内　　容 | 参加者数 |
|---|---|---|---|---|
| 7 月 10 日 | 福島市 | 福島学院大学短期大学学生向け理解促進講座 | 有機農業・有機農産物の概要や本県の有機農業推進活動等に関する講義に加え、生産者より有機農業の取組について講義を行った。併せて、有機栽培された米及び野菜の試食を行った。<br>講師：石澤農園　石澤　孝明氏 | 学生 22 名 |
| 9 月 5 日<br>6 日 | 農業総合センター | 親子野菜収穫体験 | 農業総合センターまつりで、親子を対象に有機農業の説明と有機栽培された野菜の収穫体験を行った。 | 親子 21 名 |
| 10 月 2 日 | 二本松市 | 桜の聖母短期大学学生向け理解促進講座 | 有機農業・有機農産物の概要や本県の有機農業推進活動等に関する講義に加え、生産者より有機農業の取組について講義を行った。併せて、有機野菜の収穫体験を行った。<br>講師：ななくさ農園　関　元弘氏 | 学生 12 名 |
| 1 月 15 日 | 郡山市 | 郡山女子大学短期大学部学生向け理解促進講座 | 有機農業・有機農産物の概要や本県の有機農業推進活動等に関する講義に加え、生産者より有機農業の取組について講義を行った。併せて、有機栽培された野菜の調理・試食を行った。<br>講師：(有)ニッケイファーム　大竹　秀世氏 | 学生 29 名 |

（6）広報誌「オーガニック通信」の発行

有機農業推進のための各種情報を掲載した広報誌を 3 回発行した。

第 1 号（ 7 月　3 日発行）
第 2 号（11 月 10 日発行）
第 3 号（ 3 月 23 日発行）

（7）農業総合センター農業短期大学校での有機農業の講義・研修の実施

ア　本科 2 学年の学生 34 名に対して、6 月から 7 月にかけて 7 回の講義を行った。

イ　就農研修（中級）有機農業講座の受講生 8 名に対して、研修を実施した。

6 月 4 日　有機農業の基礎、ぼかし肥料づくり実習(センター内)
6 月 13 日　水稲有機栽培に関する講義・現地研修(センター内、郡山市有機現地ほ場)
8 月 6 日　野菜有機栽培に関する講義・現地研修(センター内、郡山市有機現地ほ場)

（８）有機農業推進担当者等連携会議の開催

環境にやさしい農業拡大推進事業の円滑な推進や有機農業推進に係る普及活動の進捗状況等の共有を目的とし、次のとおり開催した。

| 回 | 開催月日 | 内　　容 |
|---|---|---|
| 第１回 | ４月 ９日 | 有機農業の推進体制について<br>環境にやさしい農業拡大推進事業について<br>有機農業担当者等連携会議の開催について<br>オーガニック通信の発行について |
| 第２回 | 7月11日 | 中通り地域の環境にやさしい実証ほ見学<br>福島県有機農業推進チームの体制について<br>環境にやさしい農業拡大推進事業について |
| 第３回 | ８月 ５日 | 浜通り地域の環境にやさしい実証ほ見学<br>環境にやさしい農業拡大推進事業について |
| 第４回 | 9月11日 | 会津地域の環境にやさしい実証ほ見学<br>環境にやさしい農業拡大推進事業について |
| 第５回 | 3月26日 | 令和７年度試験研究成果について<br>令和７年度普及指導活動実績について<br>次年度以降の有機農業の推進について<br>令和８年度有機関連補助事業等について |

（９）有機農業推進体制の強化

各地域有機農業推進チーム打合せ（5/15,16,20、9/1,2,9）

# Ⅵ　県民との交流・情報発信

## 1 交流事業

（1）第18回農業総合センターまつり

| 会　場 | 開催月日 | 入場者数 | 内　　容 |
|---|---|---|---|
| 本部 | 9/ 5(金)～6(土) | 3,933人<br>734人( 5日)<br>3,199人( 6日) | セミナー(農業技術、家庭菜園、各種)、センターツアー、農業技術相談、研究成果展示、RTK PR、玄米粒数当てゲーム、覗いてみよう顕微鏡で!!、体験コーナー１，２、親子野菜収穫体験、農業機械展示、協賛出展、畜産研究所コーナー、食の提供コーナー(キッチンカー) |
| 果樹研究所 | 9/12(金) | 488人 | 技術移転セミナー、技術・就農相談、研究成果展示、ほ場案内、農産物販売 |

（2）農的楽しみセミナー

家庭菜園セミナーに替えて、9月6日に実施した。

（3）子どもアグリ科学教室

開催なし

（4）イモ掘り体験学習（サツマイモ収穫体験）

| 月日 | 保育園(所)名 | 参加児童数 |
|---|---|---|
| 10/14(火) | おおまちてらす保育園 | 17名 |
| 10/17(金) | みどり幼稚園 | 32名 |
| 10/22(水) | (公財)鉄道弘済会郡山保育所 | 14名 |
| 10/23(木) | 株式会社つばさ保育園 | 7名 |

（5）第16回田んぼの学校

郡山市立高倉小学校の5年生2名、6年生7名の児童を対象とした。

| 回 | 月　日 | 内　　容 | 講　師 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 5/19 | 講義「米作りについて1」<br>実習「田植え」 | 作物園芸部稲作科<br>新妻　和敏 | 9名 |
| 2 | 6/16 | 講義「米作りについて2」<br>実習「田車による除草作業」 | 作物園芸部稲作科<br>新妻　和敏 | 9名 |
| － | 7/ 7 | 番外編～田んぼの生き物観察～ | 安全農業推進部指導・有機認証課<br>齋藤　伸考 | 20名* |
| 3 | 10/ 9 | 実習「稲刈りとはせ掛け作業」 | 作物園芸部稲作科<br>新妻　和敏 | 9名 |
| 4 | 11/12 | 講義・実習・体験「脱穀」「お米の食べ比べ」 | 作物園芸部品種開発科<br>鈴木　雄太 | 9名 |

＊1、2年生11名含む

（6）農業総合センター農業短期大学校の取組

| 回 | 月　日 | 内　　容 | 講　師 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 4/17 | 果樹園の開花状況見学（認定こども園ポプラの木） | 阿部兼太郎<br>大河原浩光 | 30名 |
| 2 | 4/25 | リンゴの人工受粉体験（認定こども園ポプラの木） | 大河原浩光 | 30名 |
| 3 | 5/15 | サツマイモ苗の植付体験（中島村立中島幼稚園） | 三本菅猛 | 72名 |
| 4 | 5/16 | サツマイモ苗の植付体験（認定こども園ポプラの木） | 三本菅猛 | 32名 |

| 回 | 月　日 | 内　　容 | 講　師 | 参加人数 |
|---|---|---|---|---|
| 5 | 8/27 | ナシの果実見学（認定こども園ポプラの木） | 大河原浩光 | 30 名 |
| 6 | 9/25 | ブドウの収穫体験（認定こども園ポプラの木） | 大河原浩光 | 30 名 |
| 7 | 10/ 8 | ベニバナ染め体験・花き栽培施設見学（矢吹町立三神小学校５年生） | 熊谷 千敏 | 20 名 |
| 8 | 10/10 | サツマイモ苗の収穫体験（認定こども園ポプラの木） | 三本菅猛 | 76 名 |
| 9 | 10/23 | サツマイモ苗の収穫体験（中島村立中島幼稚園） | 三本菅猛 | 73 名 |
| 10 | 11/10 | リンゴの収穫体験（矢吹町ひかり保育園） | 遠藤敦史他 | 20 名 |
| 11 | ８月～<br>10 月 | 講義　矢吹町との連携<br>実習　フロンティア農園（野菜づくり）３回 | 緑川修 | 51 名 |

## ２　視察見学者の受入状況

| 月 | 本　部 | | | | | 果樹研究所 | | | | | 畜産研究所 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 団体数 | | | | 人数 | 団体数 | | | | 人数 | 団体数 | | | | 人数 |
| | 県内 | 県外 | | 計 | | 県内 | 県外 | | 計 | | 県内 | 県外 | | 計 | |
| | | 国内 | 国外 | | | | 国内 | 国外 | | | | 国内 | 国外 | | |
| 4 月 | 1 | 0 | 0 | 1 | 80 | 3 | 1 | 0 | 4 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 5 月 | 1 | 0 | 0 | 1 | 3 | 4 | 1 | 1 | 6 | 29 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 6 月 | 7 | 2 | 1 | 10 | 220 | 6 | 6 | 0 | 12 | 189 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7 月 | 4 | 7 | 1 | 12 | 214 | 1 | 9 | 0 | 10 | 100 | 1 | 0 | 0 | 1 | 11 |
| 8 月 | 4 | 2 | 0 | 6 | 96 | 5 | 6 | 0 | 11 | 136 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 9 月 | 3 | 2 | 1 | 6 | 125 | 3 | 0 | 1 | 4 | 50 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10 月 | 4 | 6 | 0 | 10 | 401 | 6 | 5 | 0 | 11 | 91 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 11 月 | 7 | 8 | 0 | 15 | 228 | 3 | 1 | 0 | 4 | 43 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 12 月 | 2 | 2 | 0 | 4 | 60 | 0 | 1 | 0 | 1 | 11 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1 月 | 2 | 0 | 0 | 2 | 42 | 6 | 0 | 0 | 6 | 179 | 1 | 0 | 1 | 2 | 6 |
| 2 月 | 4 | 4 | 0 | 8 | 88 | 4 | 2 | 0 | 6 | 45 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3 月 | 2 | 2 | 0 | 4 | 12 | 1 | 2 | 0 | 3 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 41 | 35 | 3 | 79 | 1,569 | 42 | 34 | 2 | 78 | 892 | 2 | 0 | 1 | 3 | 17 |

| 月 | 会津地域研究所 | | | | | 浜地域研究所 | | | | | 浜地域農業再生研究センター | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 団体数 | | | | 人数 | 団体数 | | | | 人数 | 団体数 | | | | 人数 |
| | 県内 | 県外 | | 計 | | 県内 | 県外 | | 計 | | 県内 | 県外 | | 計 | |
| | | 国内 | 国外 | | | | 国内 | 国外 | | | | 国内 | 国外 | | |
| 4 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 |
| 5 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 6 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 7 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 10 | 1 | 0 | 0 | 1 | 10 |
| 8 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 6 | 0 | 1 | 0 | 1 | 3 |
| 9 月 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 2 | 24 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 10 月 | 0 | 1 | 0 | 1 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 11 月 | 0 | 1 | 0 | 1 | 20 | 1 | 0 | 0 | 1 | 11 | 1 | 0 | 0 | 1 | 14 |
| 12 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 18 |
| 2 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 3 月 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 1 | 2 | 0 | 3 | 35 | 3 | 2 | 0 | 5 | 51 | 3 | 3 | 1 | 7 | 50 |

| 月 | 総計 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 団体数 | | | | 人数 |
| | 県内 | 県外 | | 計 | |
| | | 国内 | 国外 | | |
| 4月 | 4 | 1 | 1 | 6 | 96 |
| 5月 | 6 | 1 | 1 | 8 | 33 |
| 6月 | 13 | 8 | 1 | 22 | 409 |
| 7月 | 8 | 16 | 1 | 25 | 345 |
| 8月 | 9 | 10 | 0 | 19 | 241 |
| 9月 | 8 | 3 | 2 | 13 | 201 |
| 10月 | 10 | 13 | 0 | 23 | 506 |
| 11月 | 12 | 10 | 0 | 22 | 316 |
| 12月 | 2 | 3 | 0 | 5 | 71 |
| 1月 | 9 | 1 | 1 | 11 | 245 |
| 2月 | 8 | 6 | 0 | 14 | 133 |
| 3月 | 3 | 4 | 0 | 7 | 18 |
| 計 | 92 | 76 | 7 | 175 | 2,614 |

注 1）人数は個人見学者と団体見学者の合計。畜産研究所は沼尻分場を含む。
注 2）オンラインツアーへの対応含む(本部)。

## 3　施設の利用状況

（1）多目的ホール、大会議室

ア　件数及び利用者数

| 月 | 農業関係 | | 一般 | | 県関係 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 件数 | 人数 | 件数 | 人数 | 件数 | 人数 | 件数 | 人数 |
| 4 月 | 3 | 110 | 7 | 535 | 6 | 280 | 16 | 925 |
| 5 月 | 4 | 145 | 4 | 250 | 5 | 210 | 13 | 605 |
| 6 月 | 7 | 380 | 10 | 620 | 3 | 130 | 20 | 1,130 |
| 7 月 | 5 | 230 | 18 | 1,290 | 11 | 729 | 34 | 2,249 |
| 8 月 | 4 | 155 | 10 | 670 | 7 | 344 | 21 | 1,169 |
| 9 月 | 2 | 150 | 4 | 302 | 5 | 210 | 11 | 662 |
| 10 月 | 4 | 260 | 13 | 787 | 7 | 265 | 24 | 1,312 |
| 11 月 | 2 | 190 | 14 | 1,062 | 11 | 580 | 27 | 1,832 |
| 12 月 | 3 | 110 | 4 | 230 | 12 | 720 | 19 | 1,060 |
| 1 月 | 2 | 190 | 1 | 10 | 9 | 592 | 12 | 792 |
| 2 月 | 11 | 770 | 9 | 540 | 7 | 380 | 27 | 1,690 |
| 3 月 | 2 | 170 | 5 | 470 | 2 | 60 | 9 | 700 |
| 合計 | 49 | 2,860 | 99 | 6,766 | 85 | 4,500 | 233 | 14,126 |

イ　会場別（多目的ホール）

| 月 | 農業関係 | | 一般 | | 県関係 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 件数 | 人数 | 件数 | 人数 | 件数 | 人数 | 件数 | 人数 |
| 4 月 | 0 | 0 | 5 | 420 | 4 | 210 | 9 | 630 |
| 5 月 | 1 | 40 | 3 | 200 | 1 | 30 | 5 | 270 |
| 6 月 | 2 | 200 | 5 | 370 | 2 | 100 | 9 | 670 |
| 7 月 | 0 | 0 | 10 | 870 | 7 | 589 | 17 | 1,459 |
| 8 月 | 2 | 100 | 4 | 360 | 4 | 270 | 10 | 730 |
| 9 月 | 1 | 100 | 2 | 170 | 2 | 140 | 5 | 410 |
| 10 月 | 2 | 170 | 6 | 490 | 3 | 160 | 11 | 820 |
| 11 月 | 1 | 120 | 11 | 995 | 5 | 335 | 17 | 1,450 |
| 12 月 | 1 | 35 | 1 | 80 | 6 | 430 | 8 | 545 |
| 1 月 | 1 | 130 | 0 | 0 | 5 | 417 | 6 | 547 |
| 2 月 | 5 | 440 | 5 | 450 | 4 | 220 | 14 | 1,110 |
| 3 月 | 1 | 150 | 4 | 430 | 0 | 0 | 5 | 580 |
| 合計 | 17 | 1,485 | 56 | 4,835 | 43 | 2,901 | 116 | 9,221 |

ウ　会場別（大会議室）

| 月 | 農業関係 | | 一般 | | 県関係 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 件数 | 人数 | 件数 | 人数 | 件数 | 人数 | 件数 | 人数 |
| 4 月 | 3 | 110 | 2 | 115 | 2 | 70 | 7 | 295 |
| 5 月 | 3 | 105 | 1 | 50 | 4 | 180 | 8 | 335 |
| 6 月 | 5 | 180 | 5 | 250 | 1 | 30 | 11 | 460 |
| 7 月 | 5 | 230 | 8 | 420 | 4 | 140 | 17 | 790 |
| 8 月 | 2 | 55 | 6 | 310 | 3 | 74 | 11 | 439 |
| 9 月 | 1 | 50 | 2 | 132 | 3 | 70 | 6 | 252 |
| 10 月 | 2 | 90 | 7 | 297 | 4 | 105 | 13 | 492 |
| 11 月 | 1 | 70 | 3 | 67 | 6 | 245 | 10 | 382 |
| 12 月 | 2 | 75 | 3 | 150 | 6 | 290 | 11 | 515 |
| 1 月 | 1 | 60 | 1 | 10 | 4 | 175 | 6 | 245 |
| 2 月 | 6 | 330 | 4 | 90 | 3 | 160 | 13 | 580 |
| 3 月 | 1 | 20 | 1 | 40 | 2 | 60 | 4 | 120 |
| 合計 | 32 | 1,375 | 43 | 1,931 | 42 | 1,599 | 117 | 4,905 |

（２）開放実験室　（利用件数）

| 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件数 | 0 | 1 | 0 | 0 | 3 | 5 | 25 | 13 | 5 | 2 | 2 | 0 | 56 |

（３）図書室

ア　受入れ書籍類

| 項　目 | 冊　数 |
|---|---|
| 図書類 | 23 冊 |
| 雑誌類 | 181 冊 |
| 資料類 | 78 冊 |

イ　県民貸出冊数

| 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 貸出者数 | 6 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| 貸出冊数 | 14 | 4 | 2 | 0 | 0 | 2 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 27 |

（４）農業短期大学校アグリ探求棟

| 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1 | 2 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 13 |
| 利用者数 | 35 | 90 | 320 | 20 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 360 | 40 | 0 | 885 |

（５）農業短期大学校一般宿泊棟

| 月 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 月利用者 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 12 |
| 日利用者 | 0 | 2 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 11 |

## ４　研究成果の発表

（１）　学会等研究発表

| No | 所　属 | 発表、講演者 | 内　　容 | 名　称　等 | 年 月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 安全農業推進部 | 藤田剛輝 | 福島県のリンゴ園におけるナシマルカイガラムシの発生状況とフェロモントラップを用いた発生消長の把握 | 第29回農林害虫防除研究会東京大会 | 2025. 9 |
| 2 | | 藤田剛輝 | 福島県における気候変動による果樹カイガラムシ類およびカメムシ類の発生の影響 | 令和７年度落葉果樹研究会 | 2026. 1 |
| 3 | | 藤田剛輝 | 福島県における2024年および2025年のツヤアオカメムシの発生の特徴 | 第79回北日本病害虫研究発表会（ポスター発表） | 2026. 2 |

| No | 所　属 | 発表、講演者 | 内　　容 | 名　称　等 | 年 月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 安全農業推進部 | 藤田剛輝<br>鈴木友也 | 福島県のモモに寄生するクワシロカイガラムシ属の優占種と有効積算温度に基づくウメシロカイガラムシのふ化幼虫発生期の推定 | 関東東山病害虫研究会第18回研究発表会 | 2026. 2 |
| 5 | 企画経営部 | 鈴木正春 | GAP認証取得が経営に与える改善効果 | 第68回東北農業試験研究発表会 | 2025. 7 |
| 6 | | 作田善紀 | 作業技術に係る試験研究成果紹介 | 農業食料工学会東北支部会「東北若手の会」 | 2025. 8 |
| 7 | | 金田　誠 | 農業用施設に関するデジタル管理技術の構築 | 令和7年度農業農村工学会東北支部大会 | 2025.11 |
| 8 | 生産環境部 | *矢ヶ崎泰海*<br>中山秀貴<br>安達祐介 | 機械学習による福島県内水田土壌の非交換性カリ含量分布推定地図の検証 | 2025年度日本土壌肥料学会東北支部大会福島大会 | 2025. 7 |
| 9 | | *森田雅之*<br>*目黒友紀*<br>*渡邊範之*<br>*岩本義幸*<br>中山秀貴<br>*鈴木俊夫*<br>*三浦吉則* | 福島県内水田の土壌化学性の実態と改良方法の可視化 | 日本土壌肥料学会2025年度新潟大会 | 2025. 9 |
| 10 | | *Yasumi Yagasaki*, Hidetaka Nakayama, Yusuke Adachi | Availability of soil radiocesium to rice utilized for model prediction on the safety in producing rice grains and a challenge for assessing its geographical distribution using machine learning tool | Joint conference of the 17th International Conference of Biogeochemistry of Trace Elements (ICOBTE) and the 22nd International Conference of Heavy Metals(ICHMET) | 2025. 9 |
| 11 | | *田渕 研*<br>*吉村英翔*<br>*松木伸浩*<br>*舛谷悠祐* | クモヘリカメムシ最近の話題：被害リスク予測と分布拡大 | 日本昆虫学会第85回大会 | 2025. 9 |
| 12 | | *Tabuchi K.*, *H.Yoshimura*, *N.Matsuki*, H. Kiyota, K. Yoshida, M.Yamada, H. Maehara *and* H.Watanabe | Rice pest in agricultural landscape: damage prediction using land use, and mapping hazard | Joint Annual Meeting of the Entomological Societies of Canada and Alberta | 2025.10 |
| 13 | | *Yasumi Yagasaki*, Hidetaka Nakayama, Yusuke Adachi | Integration of machine learning and statistical modeling to support decision making of stake holders for the management of radiocesium transfer from soil to rice grains in Fukushima | ICRP 2025: The 8th International Symposium on the System of Radiological Protection | 2025.10 |
| 14 | | *田渕 研*<br>*吉村英翔*<br>清田裕司<br>*松木伸浩*<br>吉田昂樹<br>前原 瞳<br>山田真孝<br>渡邉秀明 | 土地利用を用いた害虫被害リスク予測：複数害虫の予測とその統合 | 第70回日本応用動物昆虫学会大会 | 2026. 3 |
| 15 | 作物園芸部 | 鈴木寛人<br>齋藤正頼<br>新妻和敏 | ザルビオフィールドマネージャーによる生育診断技術の福島県育成水稲品種への適応性 | 第68回東北農業試験研究発表会 | 2025. 7 |

| No | 所　属 | 発表、講演者 | 内　　容 | 名　称　等 | 年 月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 作物園芸部 | 松崎拓真<br>*高橋秀和* | 福島県育成品種「天のつぶ」の短稈遺伝子の由来 | 第68回日本作物学会東北談話会講演会 | 2025. 7 |
| 17 | | 八木田靖司 | 福島県のタマネギ秋まき直播栽培におけるイネ科雑草防除法 | 第30回東北雑草研究会 | 2025. 9 |
| 18 | | *枡谷悠祐*<br>佐藤弘一<br>齋藤正頼<br>新妻和敏 | 福島県における水稲「天のつぶ」乾田直播栽培の播種晩限日の面的推定 | 日本農業気象学会2026年全国大会 | 2026. 3 |
| 19 | 果樹研究所 | 志村浩雄<br>*安達義輝*<br>岡田初彦<br>*杉浦俊彦* | 気象予報を利用したモモ‘あかつき’の発育予測 | 一般社団法人園芸学会令和7年度秋季大会 | 2025. 9 |
| 20 | | 穴澤拓哉<br>瓜生武司<br>岡田初彦<br>*竹村圭弘* | リンゴ花粉採取専用品種の特性 | 一般社団法人園芸学会令和7年度秋季大会 | 2025. 9 |
| 21 | | 岡田初彦<br>志村浩雄<br>佐久間宣昭 | 種間交雑により得られた挿し木発根性を有するモモ台木 | 一般社団法人園芸学会令和7年度秋季大会 | 2025. 9 |
| 22 | | *杉山泰之*<br>*明石秀也*<br>上野美和<br>志村浩雄 | ウンシュウミカンの栽培可能な北限地域に関する調査 | 一般社団法人園芸学会令和7年度秋季大会 | 2026. 3 |
| 23 | | 日下部翔平 | 新規モモせん孔細菌病対象薬剤の残効性および抗生物質剤を削減した防除体系の防除効果 | 令和7年度果樹病害研究会 | 2026. 1 |
| 24 | | 日下部翔平<br>小松健太郎 | リンゴ褐斑病に対するセルロースナノファイバーの防除効果 | 第79回北日本病害虫研究発表会 | 2026. 2 |
| 25 | | 小松健太郎<br>日下部翔平 | 福島県における開花期のリンゴ褐斑病防除薬剤 | 第79回北日本病害虫研究発表会 | 2026. 2 |
| 26 | | 阿部初紀 | 福島県相馬市のナシ園におけるチャノキイロアザミウマの発生消長及び被害実態(第２報) | 第79回北日本病害虫研究発表会 | 2026. 2 |
| 27 | | 小松健太郎<br>藤田剛輝 | ロボット自走草刈機によるナシ黒星病に対する落葉粉砕処理精度 | 令和８年度日本植物病理学会大会 | 2026. 3 |
| 28 | | 阿部初紀<br>柳沼久美子 | 福島県の果樹に寄生するハダニ類の薬剤感受性の実態 | 第70回応用動物昆虫学会大会 | 2026. 3 |
| 29 | | 志村浩雄<br>*安達義輝*<br>岡田初彦<br>*杉浦俊彦* | 気象予報を利用したモモ‘あかつき’の発育予測 | 一般社団法人園芸学会令和7年度秋季大会 | 2025. 9 |
| 30 | | 穴澤拓哉<br>瓜生武司<br>岡田初彦<br>*竹村圭弘* | リンゴ花粉採取専用品種の特性 | 一般社団法人園芸学会令和7年度秋季大会 | 2025. 9 |
| 31 | 会津地域研究所 | Hiroaki Matsuoka, *Mineo Sakurada, Takashi Hirayama, Wakako Funatsuki, Katashi Kubo* | Application of rice full biochar for resuming barley and soybean production in pot test using radioactive decontamination paddy field soil | Rhizosphere 6 | 2025. 6 |

| No | 所　属 | 発表、講演者 | 内　　容 | 名　称　等 | 年 月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 32 | 浜地域研究所 | 古川鞠子 | ネギ類における肥効調節型肥料を用いた省力施肥技術の確立 | 園芸学会令和7年度秋季大会 | 2025. 9 |
| 33 | | Manabu YOSHIKAWA, *Akira UCHINO, Satoshi IWAKAMI, Hiroyuki KOBAYASHI* | Development of Seedling-Based Herbicide Resistance Testing for Echinochloa Spp. and Their Distribution of Fukushima Prefecture | 第9回国際雑草科学会議・第29回アジア太平洋雑草学会・第17回中国雑草学会議 合同大会（Joint Congress: 9th IWSC, 29th APWSS and 17th CWSC） | 2025.10 |
| 34 | | 吉川学<br>浅井元朗<br>南隼人 | 福島県の水田におけるナガエツルノゲイトウ防除体系の確立 | 日本作物学会第261回講演会 | 2026.3 |
| 35 | 浜地域農業再生研究センター | 平山孝<br>*浅枝諭史* | 特定復興再生拠点区域の除染後農地における土壌実態 | 日本土壌肥料学会東北支部大会 | 2025. 7 |
| 36 | | 小椋智文<br>小林航太 | ピーマン露地栽培における小規模生産者向けの簡易かん水システム | 第 68 回 東北農業試験研究発表会 | 2025. 7 |
| 37 | | 前田 慧<br>渡辺 明<br>*浅枝諭史*<br>平山 孝<br>*丸山隼人*<br>*信濃卓郎* | 福島県内の農地における放射性物質に関する研究（第61報）－除染後農地土壌から葉菜類への$^{137}$Cs移行の制御因子に関する研究 | 日本土壌肥料学会2025年度新潟大会 | 2025. 9 |
| 38 | | 渡辺 明<br>*中村大輔*<br>*吉田雅貴*<br>*星 典宏* | 旧避難指示区域におけるアライグマの捕獲効率向上のための選択的給餌試験と誘引効果の検証 | 第30回「野生生物と社会」学会大会（早稲田大会） | 2025.12 |

※　斜体字は当機関外所属

（２）　シンポジウム等講演

| No | 所　属 | 講演者 | 内　　容 | 名　称　等 | 年 月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 安全農業推進部 | 小野勇治 | 農産物・食品の放射性セシウム測定を正しく行うための知識や技術を提供する | 第248回農林交流センターワークショップ 食品を対象とした放射能分析（初級者向け） | 2025.11 |
| 2 | | 小野勇治 | 福島県農業総合センターにおける農林水産物放射線モニタリングの取り組み | 第562回生存圏シンポジウム　福島県への支援の取り組み及び放射線マッピング研究会2025 | 2025.12 |
| 3 | | 櫻井哲史 | 福島県の森林・林業への影響と県によるモニタリングの取り組み | 第562回生存圏シンポジウム　福島県への支援の取り組み及び放射線マッピング研究会2025 | 2025.12 |
| 4 | 生産環境部 | 前原 瞳 | UAV搭載マルチスペクトルカメラを用いた植生指標とダイズべと病発病との関係 | 生態と防除研究会 | 2025.12 |
| 5 | | 前原 瞳 | 水稲育苗培土への混和処理について | 水稲の生育促進と病害抑制のための転炉スラグ肥料研究の勉強会 | 2026. 1 |
| 6 | 果樹研究所 | 志村浩雄 | 福島県における果樹の生産と試験研究の取組について | 果実の超貯蔵コンソーシアムフォーラム | 2025.10 |
| 7 | | 志村浩雄 | 近年の果樹の生育と試験研究の取組について | 令和7年度ＪＡ全農福島園芸振興大会 | 2025.11 |
| 8 | | 志村浩雄 | 福島県農業総合センター果樹研究所の概要（視察） | F-REIリサーチビジョンセッション（RVS）福島県産モモの高付加価値化に向けた情報交換会 | 2025. 8 |
| 9 | 畜産研究所 | 谷内田 柊 | 畜産トピックス「ゲノミック評価」 | 福島大学　農学群　食農学類<br>講義：「畜産学概論」 | 2025. 7 |

| No | 所　属 | 講演者 | 内　　容 | 名　称　等 | 年 月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 畜産研究所 | 萩原 瞳 | 福島県の飼料作物生産<br>原発事故後の飼料作物生産 | 福島大学　農学群　食農学類<br>講義：「飼料資源学」 | 2025. 7 |
| 11 | | 古閑文哉 | ふくしまの新しいブランド牛「福粕花」 | 福島大学　農学群　食農学類<br>講義：「飼料資源学」 | 2025. 7 |
| 12 | | 佐藤亮一 | 畜産研究所の先進的技術の研究（Ai-MEAT、福島牛「福粕花」） | 2025年度農業施設学会 | 2025. 9 |
| 13 | | 堀江太樹 | 令和９年全国和牛能力共進会、県種雄牛について | 令和７年度会津地方家畜生産技術向上研修会 | 2025.11 |
| 14 | | 古閑文哉 | 福島牛のおいしさに関する研究の取り組み状況について | JAグループ福島牛振興協議会全体研修会 | 2026. 2 |
| 15 | 浜地域研究所 | 吉川 学 | 福島県におけるナガエツルノゲイトウ防除に関する病害虫特殊報発出までの経過と今後の防除対応 | 日本植物調節剤研究協会関東支部難防除雑草対策研究会 | 2025. 6 |

※　斜体字は当機関外所属

（３）　学会誌等投稿

| No | 所　属 | 著　者 | 題　　名 | 発表誌名 | 巻(号)頁 | 年 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 安全農業推進部 | 藤田剛輝 | ナシ黒星病の「幸水」果実感染に対するQoI剤の防除効果と梅雨期の強化防除体系の検証 | 北日本病害虫研究会報 | 75 : 67-71. | 2025.12 |
| 2 | 企画経営部 | 鈴木正春 | GAP 認証取得が経営に与える改善効果 | 東北農業研究 | 第78号 P75-76 | 2025.12 |
| 3 | 生産環境部 | 矢吹隆文<br>安達祐介<br>中山秀貴<br>*永井華澄* | クエン酸抽出法による農地土壌の非交換性カリウム含量の評価方法 | 日本土壌肥料学雑誌 | 96（6）P496-502 | 2025.12 |
| 4 | | 前原 瞳<br>山田真孝 | 福島県におけるBLASTAMによる葉いもち感染好適条件出現時期及び出現回数の年次変化 | 北日本病害虫研究会報 | 76 : 41-46. | 2025.12 |
| 5 | | *松木伸浩*<br>前原 瞳 | 福島県県中地方におけるクモヘリカメムシの発生地域拡大 | 北日本病害虫研究会報 | 76 : 99-102. | 2025.12 |
| 6 | | *吉村英翔*<br>*田渕 研*<br>*對馬佑介*<br>*中島具子*<br>*山本優里*<br>吉田昂樹 | 福島県浜通りにおける斑点米カメムシ類の水田内すくい取り捕獲数と斑点米被害の関係 | 北日本病害虫研究会報 | 76:103-108. | 2025.12 |
| 7 | | 宍戸邦明<br>*羽根坂 駿*<br>*戸田 武*<br>*畑 有季*<br>*奈良知春*<br>*古屋廣光* | シンテッポウユリにおける *Fusarium oxysporum* による乾腐病の発生とクロルピクリンくん蒸剤による防除効果 | 北日本病害虫研究会報 | 76 : 32-40. | 2025.12 |

| No | 所　属 | 著　者 | 題　　名 | 発表誌名 | 巻(号)頁 | 年 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | 作物園芸部 | *松波麻耶*<br>*熊地智也*<br>*岡部幸喜*<br>*坂田 敦*<br>*及川聡子*<br>*多田周平*<br>*八重樫耕一*<br>*尾形 茂*<br>*佐々木周平*<br>*小野寺博稔*<br>渡邉洋一<br>金澤優紀<br>新妻和敏<br>*今須宏美*<br>*篠遠善哉*<br>*屋比久貴之*<br>*松波寿典* | 東北地域における水稲疎播苗の苗質と温度応答 | 日本作物学会紀事 | 94(3):<br>271-278 | 2025. 7 |
| 9 | | *舛谷悠祐*<br>*吉田宏*<br>*永富巨人*<br>*伊藤信二*<br>新妻和敏<br>斎藤正頼<br>佐藤弘一<br>*長谷川利拡*<br>*井上 聡* | 移植栽培と直播栽培を統一的に取り扱う水稲発育予測モデル | 生物と気象 | 25:<br>47-56 | 2025. 7 |
| 10 | | 松崎拓真<br>*高橋秀和* | 福島県育成水稲品種「天のつぶ」の短稈遺伝子の由来 | 東北作物研究 | 68:<br>13-14 | 2025.12 |
| 11 | | 鈴木寛人<br>齋藤正頼<br>新妻和敏 | ザルビオフィールドマネージャーによる生育診断技術の福島県育成水稲品種への適応性 | 東北農業研究 | 第78号<br>9-10 | 2025.12 |
| 12 | | Takako Suzuki,<br>*Yoshinori Kanayama* | Effects of *in vitro* culture conditions on growth and overwintering bud formation in gentian leaf culture | The Horticulture Journal | 94(3)<br>P393-400 | 2025. 5 |
| 13 | 果樹研究所 | *中村 傑*<br>*馬目理沙*<br>*大森千明*<br>阿部初紀<br>髙橋佳大<br>*中村 淳* | 福島県県北地域および相双地域のナシ園におけるチャノキイロアザミウマの発生消長 | 北日本病害虫研究会報 | 76:<br>140-145. | 2025.12 |
| 14 | 浜地域農業再生研究センター | *Hiroki Naito,*<br>Kota Kobayashi,<br>*Osamu Inaba,*<br>*Fumiki Hosoi,*<br>*Norihiro Hoshi,*<br>*Yoshimichi, Yamashita* | Hybrid Zero-Shot Node-Count Estimation and Growth-Information Sharing for Lisianthus (Eustoma grandi-florum) Cultivation in Fukushima's Floricultural Revitalization | Agriculture | 16(3),<br>296 | 2026. 1 |
| 15 | | 小倉智文<br>小林航太 | ピーマン露地栽培における小規模生産者向けの簡易かん水システム | 東北農業研究 | 68:<br>45-46 | 2025.12 |

※　斜体字は当機関外所属

（４）　雑誌等投稿

| No | 所　属 | 著　者 | 題　　名 | 発表誌名 | 巻(号)頁 | 年 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | － | 小久保仁子 | 相双地方における農林業の現状・課題と新しい産地形成に向けて | 日本農学アカデミー会報 | 第 41 号<br>P1-6 | 2024. 6 |
| 2 | 企画経営部 | 宮川貴光 | 南相馬市の水稲大規模経営におけるスマート農業の取り組みと課題 | 農業 | No.1730：<br>P49-54 | 2025. 5 |
| 3 | 生産環境部 | 南　春菜 | 日本なしのジョイント栽培への肥効調節型肥料の活用 | グリーンレポート | No.670<br>8-9 | 2025. 4 |
| 4 | | 尾形亜希子 | 日本ナシ「あきづき」ジョイント栽培における肥効調節型肥料を利用した施肥量削減と作業性の向上 | 果実日本 | vol.81<br>50-54 | 2026. 1 |
| 5 | | 中山秀貴<br>*西田瑞彦* | 地域の動き：東北 | 日本土壌肥料学雑誌 | 97 (2)<br>P110 | 2026. 4 |
| 6 | 作物園芸部 | 鈴木寛人 | 「ひとめぼれ」における高温登熟条件下の出穂期追肥の効果と適切な幼穂形成始期生育の目安 | グリーンレポート | No.677<br>P4-5 | 2025.11 |
| 7 | | 宗像祐太朗 | きゅうりの夏秋雨よけ栽培におけるミストと日射制御型遮光を併用した高温対策 | グリーンレポート | №680<br>P4-5 | 2026. 2 |
| 8 | 果樹研究所 | 志村浩雄 | 凍霜害危険期におけるモモの生育ステージ予測システムの開発 | 果実日本 | 2025 年<br>11 月号<br>P51-54 | 2025.11 |
| 9 | | 秋山祐輝 | 「果樹園管理のポイント」モモ | 果実日本 | 2026 年<br>1 月号<br>P96-98 | 2026. 1 |
| 10 | | 秋山祐輝 | 「果樹園管理のポイント」モモ | 果実日本 | 2026 年<br>3 月号<br>P84-86 | 2026. 3 |
| 11 | | 阿部初紀 | 福島県におけるモモ害虫の発生動向と防除対策 | 果実日本 | Vol.80<br>P14-17 | 2025. 8 |
| 12 | | 日下部翔平 | 福島県におけるモモ胴枯細菌病の発生生態と発生軽減対策 | 植物防疫 | Vol.79<br>P21-25 | 2025.11 |
| 13 | 畜産研究所 | 佐藤亮一 | 就任のごあいさつ | 畜産福島 | 第 651 号 | 2025. 4 |
| 14 | | 菅野那奈 | 福島県の新しい奨励品種「アキアオバ 3」と「なつひかり」 | 畜産福島 | 第 652 号 | 2025. 7 |
| 15 | | 中村フチ子 | 放牧はもちろん、採草にもトールフェスク～放牧界の名バイ・プレーヤー～ | 畜産福島 | 第 653 号 | 2025. 9 |
| 16 | | 吉田朋恵 | 農業総合センター畜産研究所の新たな乳牛飼養施設について | 畜産福島 | 第 654 号 | 2025.11 |
| 17 | | 齋藤美緒 | 発酵飼料を活用した黒毛和種短期肥育技術について | 畜産福島 | 第 655 号 | 2026. 1 |
| 18 | | 瀧脇広子 | 福島県農業総合センター畜産研究所の研究成果発表会を開催しました | 畜産福島 | 第 656 号 | 2026. 3 |
| 19 | | 堀江太樹 | 福島県における肉用牛の AI 超音波肉質診断システムの普及の取り組み | JATAFF ジャーナル | Vol.14<br>No.2<br>P38 | 2026. 2 |
| 20 | 会津地域研究所 | 髙畑有佳子 | シュッコンカスミソウ栽培における高温対策への取り組み | 施設と園芸 | No.212 | 2026. 1 |

| No | 所　属 | 著　者 | 題　　名 | 発表誌名 | 巻(号)頁 | 年 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 21 | 浜地域農業再生研究センター | 小林航太 | 【ミニ情報】花き栽培における通い農業支援システムの実証 | 施設と園芸 | No.210（2025夏）50 | 2025. 7 |
| 22 | | 佐藤越萌<br>三本菅猛<br>*木幡裕介*<br>*浅井元朗* | 双葉町特定復興再生拠点区域の保全管理農地における多年生雑草イヌスギナの推移 | 東北雑草研究会会報誌「東北の雑草」 | 第24号 P15-21 | 2025.12 |
| 23 | | *佐藤 孝*<br>*久保堅司*<br>*藤村恵人*<br>*山本修平*<br>*齊藤孝太朗*<br>吉岡尚<br>松岡宏明<br>*菅野拓朗*<br>*畦元裕也*<br>*萩原麻里*<br>*芳山三喜雄*<br>*八戸真弓* | 福島県除染後農地における緑肥作物の植栽による地力回復と蜜源利用 | JATAFF ジャーナル | Vol.14 No.2 | 2026. 2 |

※　斜体字は当機関外所属

※　畜産福島、植調、作物生産と土づくりは著者名を所属として投稿

## 5　刊行物

| 刊　行　物　名 | 発行年月 | 発行部数 |
|---|---|---|
| 令和6年度農業総合センター業務年報 | 2025. 6 | ※ |
| 令和7年度福島県農業総合センター研究成果概要集 | 2026. 3 | ※ |
| 令和7年度福島県農業総合センター研究成果ポスター集 | 2026. 3 | ※ |
| ラウンド農ふくしまWeb | 2025. 4 - 2026. 3 | ※ |
| ふくしまオーガニック通信 | 2025. 7<br>2025.11<br>2026. 3 | ※ |
| 福島県農業総合センター研究報告第15号 | 2025.11 | ※ |
| 福島県農業総合センター研究報告第16号 | 2026. 3 | ※ |

※　農業総合センターホームページに掲載

## 6　主要作物の生育情報の提供

| 内　容 | | 提供回数 | 月　日 |
|---|---|---|---|
| 作況情報※ | 水稲生育状況 | 14 | 6/3、6/10、6/17、6/24、7/1、7/8、7/15、7/22、7/29<br>8/5、8/12、8/26、9/19、3/24 |
| | 大豆生育状況 | 1 | 1/9 |
| | 麦類生育状況 | 7 | R7年産　4/4、5/7、9/8<br>R8年産　12/16、2/10　3/2、3/19 |
| 果樹の生育概況 | | 20 | R7　4/1、4/11、4/21、5/1、5/16、6/2、6/16、7/1、7/16、8/1、8/16、9/1、9/16、10/1、10/16、11/4、12/1、<br>R8　3/3、3/11、3/21 |

※　農業総合センターホームページに掲載

## 7　インターネットによる情報提供

（１）農業総合センターホームページにおいて、各種技術情報、交流事業の情報等の提供を行った。

ホームページアクセス数(トップページアクセス数)

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1,627 | 1,653 | 2,076 | 2,442 | 1,902 | 2,813 | 1,507 | 1,180 | 1,152 | 1,172 | 1,364 | 1,568 | 20,456 |

※1　GoogleAnalyticsによるアクセス集計

## 8　マスメディアによる報道

※　媒体　新：新聞 、 雑：雑誌 、 テ：テレビ 、 イ：インターネット 、 他：その他

| No | 媒体 | 掲載・放送月日 | 掲載紙・報道局 | 報道内容 | 取材対応等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 新 | 4/ 1 | 日本農業新聞 | ナガエツルノゲイトウ 正しく見分け防除 福島県まとめ 初動が重要 | 浜地域研究所 |
| 2 | 新 | 4/ 6 | 日本農業新聞 | STOP!桃・梅・スモモ・桜加害 クビアカツヤカミキリ 福島県が早期防除計画 特定外来生物未侵入では異例 | 安全農業推進部 |
| 3 | 新 | 4/ 8 | 日本農業新聞 | 福島独自で大吟醸を 県が有望2系統試飲会 | 作物園芸部<br>会津地域研究所 |
| 4 | 新 | 4/ 8 | 日本農業新聞 | オタネニンジン供給拡大めざす 福島県が組織培養 | 会津地域研究所 |
| 5 | 新 | 4/11 | 福島民報 | 農業担い手57人入校 アグリカレッジ福島 | 農業短期大学校 |
| 6 | 新 | 4/12 | 日本農業新聞 | 福島県農短大校 県内外の57人入校 新施設で学習、生活 | 農業短期大学校 |
| 7 | 新 | 4/12 | 福島民友新聞 | 農業の発展貢献決意 アグリカレッジ福島入校式 | 農業短期大学校 |
| 8 | 新 | 4/23 | 日本農業新聞 | 地域産業支える人に 福島県果樹研究所 | 果樹研究所 |
| 9 | テ | 4/25 | 福島中央テレビ | おしえてキビタン！「農作物を病害虫から守ろう」 | 安全農業推進部 |
| 10 | 新 | 4/30 | 日本農業新聞 | 成田さん足利さんに知事賞 福島県酪農青年研究連ショー | 畜産研究所 |
| 11 | 新 | 5/13 | 日本農業新聞 | 桃の予備摘果を実演 収穫イメージして実施促す JAふくしま未来福島地区 | 果樹研究所 |
| 12 | 新 | 5/17 | 朝日新聞 | 1900種類の苗、手作業で 福島県農業総合センターで「大田植え」 | 作物園芸部 |
| 13 | 新 | 5/18 | 福島民友新聞 | 県独自米開発目指し田植え | 作物園芸部 |
| 14 | テ | 5/19 | 福島放送 | 苗を1本ずつ…小学生が昔ながらのコメづくりに挑戦 | 企画経営部 |
| 15 | テ | 5/19 | 福島放送 | 水稲の斑点米カメムシ類について | 安全農業推進部 |
| 16 | テ | 5/20 | 福島テレビ | 「田植えは大変」児童たちが手植えに挑戦 米作りを通して食の大切さを学 今後は手入れや稲刈りも | 企画経営部 |
| 17 | テ | 5/20 | 福島放送 | 暑さに強いコメを！ 約40品種を手植え | 会津地域研究所 |
| 18 | 新 | 5/21 | 日本農業新聞 | 試験調査用の水稲 規定に従い手植え 福島県農業センター | 作物園芸部 |
| 19 | 新 | 5/24 | 日本農業新聞 | コナガ、トマトキバガ 福島で成虫・食害確認 | 安全農業推進部 |
| 20 | 新 | 5/24 | 福島民報新聞 | 優秀水稲選定へ手植え　県農業総合センター　会津地域研究所 | 会津地域研究所 |
| 21 | 新 | 5/25 | 福島民友新聞 | 「福、笑い」の苗　手植え | 企画経営部 |
| 22 | 新 | 5/25 | 福島民友新聞 | 環境適したコメ調査 坂下の県農業総合センター研究所　40品種・系統田植え | 会津地域研究所 |
| 23 | 新 | 5/25 | 朝日新聞 | 新施設供用開始～次世代の農業を担う人材育成と地域農業の発展に寄与 福島県農業総合センター農業短期大学校(アグリカレッジ福島) | 農業短期大学校 |
| 24 | 新 | 6/ 5 | 福島民友新聞 | 外来カミキリ注意を　西郷で街頭活動展開 | 安全農業推進部 |
| 25 | 新 | 6/ 5 | 日本農業新聞 | クビアカツヤカミキリ 侵入阻止へ調査 | 安全農業推進部 |

| No | 媒体 | 掲載・放送月日 | 掲載紙・報道局 | 報道内容 | 取材対応等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 26 | 新 | 6/10 | 福島民友新聞 | 果樹カメムシ 県内農家警戒 不作サクランボに追い打ち | 安全農業推進部 |
| 27 | イ | 6/12 | 福島NEWS WEB | 福島県果樹カメムシ飛来多く確認地域も“速やかに防除を” | 安全農業推進部 |
| 28 | 新 | 6/24 | 日本農業新聞 | 東北で多発 果樹カメムシ 青森・津軽にチャバネ 福島6月でも被害 | 安全農業推進部 |
| 29 | 新 | 6/26 | 福島民友新聞 | 高温に強い水稲 試験栽培を拡大 県、来年度以降 | 作物園芸部 |
| 30 | 新 | 7/ 8 | 日本農業新聞 | 高温に強い稲 1系統試験 福島県 本年度、品種登録申請へ | 作物園芸部 |
| 31 | 新 | 7/10 | 福島民友新聞 | 果樹カメムシ類注意報 県全域 飯坂で平年の19.7倍飛来 | 安全農業推進部 |
| 32 | 新 | 7/11 | 福島民報新聞 | 県内に果樹カメムシ注意報 | 安全農業推進部 |
| 33 | 新 | 7/11 | 福島民報新聞 | みんなでサクラを守れ<br>クビアカツヤカミキリ調査報告を | 安全農業推進部 |
| 34 | 新 | 7/11 | 日本農業新聞 | 果樹カメムシ類注意 福島 | 安全農業推進部 |
| 35 | 新 | 7/17 | 日本農業新聞 | 斑点米カメムシ注意 福島 | 安全農業推進部 |
| 36 | 新 | 7/17 | 福島民友新聞 | 「斑点米カメムシ」注意報 県内全域 コメ等級に影響 | 安全農業推進部 |
| 37 | 新 | 7/17 | 福島民報新聞 | 斑点米カメムシ類県全域に注意法発令 水稲被害警戒 | 安全農業推進部 |
| 38 | イ | 7/17 | 福島NEWS WEB | コメ品質に影響「斑点米カメムシ類」発生で県が注意報発表 | 安全農業推進部 |
| 39 | 新 | 7/23 | 日本農業新聞 | クビアカ 県民で監視 福島 警戒キャンペーン | 安全農業推進部 |
| 40 | 新 | 7/24 | 福島民報新聞 | 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」 食害防止協力呼びかけ 果樹やサクラ 県がキャンペーン | 安全農業推進部 |
| 41 | 新 | 7/27 | 福島民報新聞 | 佐久間さん(JA夢みなみ)最高賞 本宮でＪＡ福島肉用牛共進会 | 畜産研究所 |
| 42 | 新 | 8/ 1 | 福島民報新聞 | 県農業総合センター技術移転セミナー | 企画経営部 |
| 43 | 新 | 8/ 2 | 読売新聞 | サクラ虫から守れ! 「クビアカツヤカミキリ」調査協力県民に呼びかけ | 安全農業推進部 |
| 44 | 新 | 8/ 5 | 福島民友新聞 | 水稲の高温対策学ぶ　郡山で野菜、花卉も | 企画経営部 |
| 45 | 新 | 8/ 5 | 日本農業新聞 | 水稲の水管理や追肥を呼びかけ 福島・技術セミナー | 企画経営部 |
| 46 | 新 | 8/14 | 日本農業新聞 | 中山間地向き農機 新技術の作業実演 福島県セミナー | 会津地域研究所 |
| 47 | 新 | 8/14 | 福島民友新聞 | 作業時間の短縮を研究　野菜経営学科2年松本輝さん | 農業短期大学校 |
| 48 | 新 | 8/20 | 福島民友新聞 | 坂下でスマート農機セミナー | 会津地域研究所 |
| 49 | 新 | 8/29 | 福島民報新聞 | 野菜収穫体験楽しもう 郡山 5､6日に「まつり」 農産物販売やバスツアー | 企画経営部 |
| 50 | 新 | 8/29 | 福島民報新聞 | スイカ黒点根腐病、県内初 県北で確認 キュウリにも感染恐れ<br>野菜や花卉の害虫ハスモンヨトウ増加 | 安全農業推進部 |
| 51 | 新 | 8/29 | 福島民友新聞 | スイカ黒点根腐病 初確認 県内 ハスモンヨトウ注意法も | 安全農業推進部 |
| 52 | 新 | 8/30 | 福島民友新聞 | 県農業総合センター 5､6日に「まつり」 | 企画経営部 |
| 53 | テ | 9/ 5 | 福島中央テレビ | ゴジてれChu!　ゴジてれ中継　「入場無料!新鮮野菜が並ぶ農業祭りの会場から生中継」 | 企画経営部 |
| 54 | 新 | 9/ 6 | 福島民友新聞 | 野菜販売やツアー　きょうまでまつり　県農業総合センター | 企画経営部 |
| 55 | 新 | 9/ 6 | 福島民報新聞 | 第18回農業総合センターまつり | 企画経営部 |
| 56 | 新 | 9/12 | 福島民友新聞 | 第18回農業総合センターまつり果樹研究所参観デー | 果樹研究所 |
| 57 | 新 | 9/12 | 日本農業新聞 | 農業センター祭り 最新の技術を紹介 福島県 | 企画経営部 |

| No | 媒体 | 掲載・放送月日 | 掲載紙・報道局 | 報道内容 | 取材対応等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 58 | 新 | 9/17 | 福島民友新聞 | 最新の栽培技術や病害虫対策を紹介　果樹研究所参観デー | 果樹研究所 |
| 59 | 新 | 9/17 | 福島民友新聞 | 最新の栽培技術や病害虫対策を紹介 果樹研究所参観デー | 果樹研究所 |
| 60 | 新 | 9/24 | 日本農業新聞 | 農業短期大学校の学生と交流 福島・JA夢みなみ | 農業短期大学校 |
| 61 | テ | 9/25 | 福島テレビ | キビタンGO! 「農業総合センターまつり開催!」 | 企画経営部 |
| 62 | 新 | 10/ 2 | 福島民報新聞 | 本県を柑橘類産地に 県、温暖化で主力品維持に危機感 福島県でミカン栽培検証 | 果樹研究所 |
| 63 | 新 | 10/ 5 | 福島民友新聞 | 梨の選果体験 農業短期大学校生 | 農業短期大学校 |
| 64 | 新 | 10/ 5 | 福島民報新聞 | 相双への就農考える　矢吹のアグリカレッジ1年生 | 農業短期大学校 |
| 65 | テ | 10/ 8 | 福島放送 | 相双地域視察 | 農業短期大学校 |
| 66 | 新 | 10/10 | 日本農業新聞 | 生産現場の努力学ぶ 福島県農短大校生 相双地域で相談会 | 農業短期大学校 |
| 67 | 新 | 10/17 | 読売新聞 | 児童が稲刈り | 企画経営部 |
| 68 | 新 | 10/24 | 福島民友新聞 | 26日にアグリカレッジ文化祭 | 農業短期大学校 |
| 69 | 新 | 11/ 1 | 福島民報新聞 | 木津さん 総理大臣賞 二本松 県菊花品評大会 | 作物園芸部 |
| 70 | 新 | 11/ 2 | 福島民友新聞 | 木津さん厚物の部最高賞 県菊花品評大会 管物の部は紺野さん | 作物園芸部 |
| 71 | 新 | 11/ 6 | 福島民報新聞 | 県内の園芸作物 猛暑で出荷量減深刻 モモ主力品種リンドウ、トマト 着色不良や落果多発 | 作物園芸部 |
| 72 | 新 | 11/12 | 日本農業新聞 | 試験研究の方向性 有識者と意見交換 福島県農業総合センター | 企画経営部 |
| 73 | 新 | 11/20 | 日本農業新聞 | 果樹病害虫防除 農家ら90人学ぶ　福島県 | 果樹研究所 |
| 74 | 新 | 11/20 | 福島民友新聞 | 根本さん最高賞に輝く 県鉢花品評会、シクラメン | 作物園芸部 |
| 75 | 新 | 11/22 | 毎日新聞 | 毎日農業記録賞優秀賞　県農業短大1年髙橋紗良さん | 農業短期大学校 |
| 76 | 新 | 11/25 | 福島民報新聞 | 八重桜「はるか」を植樹　新施設完成記念に | 農業短期大学校 |
| 77 | 新 | 12/ 5 | 福島民報新聞 | 環境にやさしい農業学ぼう きょう郡山でセミナー土づくりの秘訣講演 | 有機農業推進室 |
| 78 | 新 | 12/ 7 | 日本農業新聞 | 根本さん(南相馬市)2年連続で知事賞 福島県鉢花品評会 | 作物園芸部 |
| 79 | 新 | 12/13 | 日本農業新聞 | 水稲有機栽培の土づくりを学ぶ 郡山市で講演 | 有機農業推進室 |
| 80 | 新 | 12/17 | 日本農業新聞 | 県農業短大に独自銘柄米100㌔ JA東西しらかわ | 農業短期大学校 |
| 81 | 新 | 1/15 | 福島民報新聞 | スマート農業関連施設は4月供用開始 アグリカレッジ福島 | 農業短期大学校 |
| 82 | 新 | 1/20 | 日本農業新聞 | 秋まきタマネギ雑草防除 薬剤処理時期が要 | 作物園芸部 |
| 83 | 新 | 1/25 | 福島民報新聞 | トマト黄化葉巻病の現状と対策 | 生産環境部 |
| 84 | ネ | 1/29 | 農業協同組合新聞 | 【特殊報】ブドウリーフロール病（ブドウ葉巻病）県内で初めて発生を確認　福島県 | 安全農業推進部 |
| 85 | テ | 1/29 | 福島テレビ | 福島県内でブドウの“リーフロール病”初確認 | 安全農業推進部 |
| 86 | 新 | 1/30 | 福島民報新聞 | ブドウ葉巻病　浜通りで確認 | 安全農業推進部 |
| 87 | 新 | 1/30 | 福島民友新聞 | 県内初ブドウ葉巻病　浜通りで確認 | 安全農業推進部 |
| 88 | 新 | 1/31 | 日本農業新聞 | ブドウ葉巻病初確認　福島 | 安全農業推進部 |
| 89 | 新 | 2/20 | 福島民友新聞 | 3日から研究成果発表会 県農業総合センター、県内6会場 | 企画経営部 |

| No | 媒体 | 掲載・放送月日 | 掲載紙・報道局 | 報道内容 | 取材対応等 |
|---|---|---|---|---|---|
| 90 | 新 | 2/22 | 福島民報新聞 | 農業の研究成果共有 県センター来月3日から　6カ所で発表会 | 企画経営部 |
| 91 | 新 | 2/27 | 福島民報新聞 | 病害虫防除員公開セミナー | 安全農業推進部 |
| 92 | 新 | 3/ 1 | 福島民友新聞 | 農作物の防除対策紹介 | 安全農業推進部 |
| 93 | 新 | 3/ 3 | 日本農業新聞 | 水稲など研究成果 3～12日に発表会 福島県農業総合センター | 企画経営部 |
| 94 | 新 | 3/ 4 | 日本農業新聞 | 斑点米カメムシ類対策の要点を解説　福島県防除所 | 安全農業推進部 |
| 95 | テ | 3/ 6 | 福島放送 | 卒業式 | 農業短期大学校 |
| 96 | 新 | 3/ 7 | 福島民報新聞 | 農業へ志高く41人が巣立つ　アグリカレッジ福島 | 農業短期大学校 |
| 97 | 新 | 3/ 7 | 福島民友新聞 | 農業の担い手へ一歩　県農業短期大学校の41人 | 農業短期大学校 |
| 98 | 新 | 3/10 | 福島民友新聞 | 最新の研究成果発表 県農業総合センター | 果樹研究所 |
| 99 | 新 | 3/10 | 日本農業新聞 | 桃「あかつき」リレー品種へ　福島県、２系統を育成 | 果樹研究所 |
| 100 | 新 | 3/10 | 日本農業新聞 | 農業現場へ志高く出発　アグリカレッジ福島卒業式 | 農業短期大学校 |
| 101 | 新 | 3/11 | 福島民友新聞 | コメのカメムシ被害予測 県、ハザードマップ2種作成 | 生産環境部 |
| 102 | 新 | 3/18 | 日本農業新聞 | 県農業センター果樹研修生修了 | 果樹研究所 |
| 103 | 新 | 3/19 | 日本農業新聞 | 水稲「福島59号」報告 福島県農業センター 高温耐性新品種 | 企画経営部 |
| 104 | 新 | 3/30 | 福島民報新聞 | 県農業総合センターが研究発表 若松 | 会津地域研究所 |

## ９　福島県インターンシップの受入れ

インターンシップを開催し、７名の学生の受入れを行った。

| 形式 | 受入部所 | 受入月日 | 大学名 |
|---|---|---|---|
| インターンシップ | 果樹研究所 | 8/ 4- 8/ 8 | 岩手大学 |
| | 生産環境部 | 8/18- 8/29 | 福島大学 |
| | 果樹研究所 | 8/25- 8/29 | 岩手大学 |
| | 生産環境部 | 9/ 1- 9/12 | 秋田県立大学 |
| | 畜産研究所 | 9/ 1- 9/ 5 | 秋田県立大学 |
| | 浜地域研究所 | 9/ 1- 9/12 | 秋田県立大学 |
| | 作物園芸部 | 9/ 9- 9/11 | 福島大学 |

# Ⅶ　職員・財産

## 1 職員数

（令和７年４月１日現在）

| 職　種 | 本　部 | 果　樹<br>研究所 | 畜　産<br>研究所 | 沼尻<br>分場 | 会津地域<br>研究所 | 浜地域<br>研究所 | 浜地域農業<br>再生研究センター | 農業短期<br>大学校 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 行政職 | 40(30) | 2 | 3 | 1 | 1 | 1 | 1 | 35(30) | 84(60) |
| 研究職 | 76 | 16 | 17 | 3 | 11 | 5 | 9 | 0 | 137 |
| 技能労務職 | 17 | 8 | 14 | 4 | 6 | 3 | 0 | 7 | 59 |
| 計 | 133(30) | 26 | 34 | 8 | 18 | 9 | 10 | 42(30) | 280(60) |

（ ）は技術職員の内数

## 2 施設・ほ場の面積及び飼養家畜数

（１）施設・ほ場の面積

| 区　　分 | 建物 | | 宅 地 | 田 | 畑 | 山 林 | 原 野 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 棟数 | 面積(㎡) | (ha) | (ha) | (ha) | (ha) | (ha) | (ha) |
| 農業総合センター | 67 | 28,886.54 | 12.1 | 12.5 | 19.2 | 3.2 | 0.3 | 5.2 |
| (内訳) | | | | | | | | |
| 交流棟 | 1 | 2,594.49 | | | | | | |
| 管理研究棟・実験棟 | 1 | 7,039.93 | | | | | | |
| 付属施設(建物) | 65 | 19,252.12 | | | | | | |
| 果樹研究所 | 28 | 4,749.41 | 1.9 | | 8.1 | | | |
| (内訳) | | | | | | | | |
| 庁舎 | 1 | 1,680.86 | | | | | | |
| 付属施設(建物) | 27 | 3,068.55 | | | | | | |
| 畜産研究所 | 78 | 20,406.18 | 19.1 | | 40.4 | 2.7 | | |
| (内訳) | | | | | | | | |
| 庁舎 | 1 | 1,166.48 | | | | | | |
| 付属施設(建物) | 73 | 16,876.04 | | | | | | |
| 沼尻分場 | 26 | 6,548.72 | 8.6 | | 114.9 | 121.6 | | 3.3 |
| (内訳) | | | | | | | | |
| 庁舎 | 1 | 132.68 | | | | | | |
| 付属施設(建物) | 25 | 6,416.04 | | | | | | |
| 会津地域研究所 | 18 | 6,828.75 | 4.6 | 9.7 | 5.5 | | | 1.3 |
| (内訳) | | | | | | | | |
| 庁舎 | 1 | 2,442.59 | | | | | | |
| 付属施設(建物) | 17 | 4,386.16 | | | | | | |
| 浜地域研究所 | 15 | 1,508.52 | 0.6 | 2.4 | 1.0 | | | |
| (内訳) | | | | | | | | |
| 庁舎 | 1 | 472.50 | | | | | | |
| 付属施設(建物) | 14 | 1,036.02 | | | | | | |
| 浜地域農業再生研究センター | 2 | 692.51 | 0.3 | | | | | |
| (内訳) | | | | | | | | |
| 庁舎 | 1 | 478.01 | | | | | | |
| 作業所棟 | 1 | 214.50 | | | | | | |
| 農業短期大学校 | 55 | 21,262.31 | 5.7 | 5.1 | 23.3 | 9.8 | 3.0 | 5.0 |
| (内訳) | | | | | | | | |
| 校舎 | 1 | 2,002.36 | | | | | | |
| 附属施設(建物) | 54 | 19,259.95 | | | | | | |

（２）飼養家畜数

ア 牛、豚及び鶏の飼養頭（羽）数

| 区　分 | 乳用牛 | | | 肉用牛 | | | | | | | | 豚 | | | | 鶏 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 経産牛 | 育成牛 | 子牛 | 種雄牛 | 雌牛 | 育成牛 | 子牛 | 直検牛 | 待機牛 | 供卵牛 | 肥育牛 | 種雄豚 | 種雌豚 | 子豚 | 肥育豚 | 保存鶏 | 育種鶏 | 種鶏 |
| 畜産研究所 | 39 | 17 | 14 | 2 | 0 | － | 5 | 5 | 14 | 8 | 27 | 15 | 44 | 250 | 249 | 633 | 1,446 | 801 |
| 畜産研究所沼尻分場 | － | － | － | － | 58 | － | 39 | － | － | － | 20 | － | － | － | － | － | － | － |
| 農業短期大学校 | 9 | 4 | 1 | － | 13 | 3 | 8 | － | － | | 6 | － | － | － | － | － | － | － |

※　令和８年３月31日現在

# Ⅷ　資料

## 1 開発品種一覧

(1) 作物

| No. | | 品種名 | 父 | 母 | 登録年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | うるち米 | 福笑い | 郡系 627 | 新潟 88 号 | 2025 年 |
| 2 | うるち米 | 天のつぶ | 越南 159 号 | 奥羽 357 号 | 2012 年 |
| 3 | うるち米 | 里山のつぶ | 福島 14 号 | 新潟 71 号 | 2017 年 |
| 4 | うるち米 | ふくみらい | チヨニシキ | 中部 82 号 | 2004 年 |
| 5 | もち米 | あぶくまもち | 奥羽糯 347 号 | ふ系 172 号 | 2011 年 |
| 6 | 酒米 | 福乃香(ふくのか) | 山形酒 86 号 | 静系(酒)88 号 | 2025 年 |
| 7 | 酒米 | 夢の香(ゆめのかおり) | 山形酒 49 号 | 八反錦 1 号 | 2003 年 |
| 8 | そば | 会津のかおり | － | － | 2009 年 |
| 9 | ｵﾀﾈﾆﾝｼﾞﾝ | かいしゅうさん | － | － | 2002 年 |
| 10 | 桑 | きぬゆたか | はやてさかり | 剣持 | 2001 年 |

※そば、オタネニンジンは在来種からの選抜

(2) 野菜

| No. | | 品種名 | 父 | 母 | 登録年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | いちご | 福島 ST14 号<br>(商標　ゆうやけベリー) | とちおとめ | かおり野 | 出願中 |
| 2 | いちご | ふくはる香 | さちのか | 章姫 | 2006 年 |
| 3 | いちご | ふくあや香 | 福島 1 号 | 福島 2 号 | 2006 年 |
| 4 | ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ | ふくきたる | 福島県農業総合センター選抜系統 | メリーワシントン 500W 選抜系統 | 2021 年 |
| 5 | ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ | ハルキタル | メリーワシントン 500W×Gijnlim 後代選抜系統 | メリーワシントン 500W 選抜系統 | 2007 年 |
| 6 | ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ | 春まちグリーン | Gijnlim 選抜系統 | 信濃ヨーデル選抜系統 | 2007 年 |
| 7 | ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ | はるむらさきエフ | 福島県農業総合センター選抜系統 | 福島県農業総合センター選抜系統 | 2009 年 |

(3) 花き

| No. | | 品種名 | 父 | 母 | 登録年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | りんどう | 福島 GE24 号 | 福島交 20 号 | ササリンドウ系選抜系統 | 出願中 |
| 2 | りんどう | 天の川 | 福島交 20 号 | ササリンドウ系選抜系統 | 2024 年 |
| 3 | りんどう | ふくしま凜夏 | エゾリンドウ系選抜系統 | エゾリンドウ系選抜系統 | 2015 年 |
| 4 | りんどう | ふくしまさやか | エゾオヤマリンドウ系選抜系統 | エゾオヤマリンドウ系選抜系統 | 2004 年 |
| 5 | りんどう | ふくしまみやび | エゾオヤマリンドウ系選抜系統 | エゾオヤマリンドウ系選抜系統 | 2004 年 |
| 6 | りんどう | ふくしましおん | エゾオヤマリンドウ系選抜系統 | エゾリンドウ系選抜系統 | 2009 年 |
| 7 | りんどう | ふくしまほのか | 尾瀬の愛選抜系統 | エゾリンドウ系選抜系統 | 2010 年 |
| 8 | りんどう | ふくしまかれん | エゾリンドウ系選抜系統 | ササリンドウ系選抜系統 | 2003 年 |
| 9 | カラー | はにかみ | ホワイトゼム | レーマニーカーミネア | 2025 年 |
| 10 | カラー | ミルキームーン | ベストゴールド | ホワイトゼム | 2025 年 |
| 11 | カラー | キビタンイエロー | ベストゴールド | ブラックマジック | 2025 年 |

(4) 果樹

| No. | | 品種名 | 父 | 母 | 登録年月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 桃 | はつおとめ | 倉方早生 | ちよひめ | 2003 年 |
| 2 | 桃 | ふくおとめ | 倉方早生 | ちよひめ | 2003 年 |
| 3 | 桃 | はつひめ | あかつき | はつおとめ | 2009 年 |
| 4 | 桃 | ふくえくぼ | | あかつき※ | 1996 年 |
| 5 | 桃 | ふくあかり | 川中島白桃 | モモ福島８号 | 2016 年 |
| 6 | 桃 | ふくあかね | モモ福島１号 | まさひめ | 2006 年 |
| 7 | ぶどう | あづましずく | ブラックオリンピア | ４倍体ヒムロッド | 2004 年 |
| 8 | ぶどう | ふくしずく | ブラックオリンピア | ４倍体ヒムロッド | 2008 年 |
| 9 | 梨 | 涼豊 | 新高 | 豊水 | 2006 年 |

| No. | | 品種名 | 父 | 母 | 登録年月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 10 | りんご | 緋のあづま | 千秋 | ひめかみ | 2006 年 |
| 11 | りんご | 会津のほっぺ | 紅玉 | ふじ | 2016 年 |
| 12 | りんご | ほおずり | 紅玉 | ふじ | 1996 年 |
| 13 | りんご | べにこはく | ほおずり | 陽光 | 2018 年 |

※あかつきから茎頂培養と放射線育種技術を駆使して育成した。

令和７年度　福島県農業総合センター業務年報

令和８年６月

福 島 県 農 業 総 合 セ ン タ ー

〒963-0531　福島県郡山市日和田町高倉字下中道116番地

電話　024-958-1700

FAX　024-958-1726

https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/fukunou-cente/